

大学間連携共同教育推進事業
(平成 24 年度採択)

海事分野における高専・産業界連携による
人材育成システムの開発

「新たな海事技術者に必要な資質の涵養」

最終報告書

平成 29 年 1 月

富山高等専門学校

鳥羽商船高等専門学校

広島商船高等専門学校

大島商船高等専門学校

弓削商船高等専門学校

日本船主協会

全日本船舶職員協会

全日本海員組合

国際船員労務協会

大学間連携共同教育推進事業
(平成 24 年度採択)

海事分野における高専・産業界連携による
人材育成システムの開発

「新たな海事技術者に必要な資質の涵養」

最終報告書

平成 29 年 1 月

富山高等専門学校
鳥羽商船高等専門学校
広島商船高等専門学校
大島商船高等専門学校
弓削商船高等専門学校

日本船主協会
全日本船舶職員協会
全日本海員組合
国際船員労務協会

目 次

1. 本報告書の概要	1-1
1-1 英語力向上プログラムの開発 - 5 年間の活動実績 -	1-3
1-1-1 商船学科・教育補助員（特命助教等）による英語教育	1-3
1-1-2 商船学科におけるグローバル教育拠点の整備	1-4
1-1-3 英語表記の商船学科・専門教材・教科書の開発	1-5
1-1-4 商船学科専門教員の英語外地研修	1-6
1-2 グローバル人材（外地駐在意欲）育成のための国際インターンシップの展開 - 4 年間の活動実績 -	1-8
2. グローバル教育拠点を利用した教育補助教員による英語教育	2-1
2-1 目的	2-1
2-2 概要	2-1
2-3 グローバル教育拠点を利用した英語教育の実施概要	2-1
2-3-1 平成 24 年度	2-1
2-3-2 平成 25 年度	2-3
2-3-3 平成 26 年度	2-11
2-3-4 平成 27 年度	2-20
2-3-5 平成 28 年度	2-44
2-4 英語教育プログラムの成果	2-53
2-4-1 富山高等専門学校	2-53
2-4-2 広島商船高等専門学校	2-53
2-4-3 弓削商船高等専門学校	2-53
2-4-4 大島商船高等専門学校	2-54
2-4-5 鳥羽商船高等専門学校	2-55
2-5 総論	2-55
3. 商船学科専門教員による英語外地研修	3-1
3-1 目的	3-1
3-2 概要	3-1
3-3 研修の実施概要	3-1
3-4 研修の成果	3-3
3-5 各年度の成果	3-4
3-5-1 平成 25 年度	3-4
3-5-2 平成 26 年度	3-4
3-5-3 平成 27 年度	3-5
3-5-4 平成 28 年度	3-6
3-6 総括	3-7

4. 国際インターンシップ	4-1
4-1 目的	4-1
4-2 概要	4-1
4-3 国際インターンシップの実施概要	4-2
4-3-1 富山高等専門学校からの報告	4-2
4-3-2 鳥羽商船高等専門学校からの報告	4-8
4-3-3 広島商船高等専門学校からの報告	4-14
4-3-4 大島商船高等専門学校からの報告	4-24
4-3-5 弓削商船高等専門学校からの報告	4-28
4-4 国際インターンシップによる結果の検証	4-37
4-5 総括	4-40
5. 海事人材育成プロジェクトの概要と本報告執筆者一覧	5-1
6. 報告集・事例集及び資料	
6-1 グローバル教育拠点を利用した教育補助教員による英語教育プログラム事例集	6-1
6-2 グローバル教育拠点を利用した教育補助教員による英語教育推薦教材集	6-37
6-3 平成 25 年度教員英語外地研修報告集	6-79
6-4 平成 26 年度教員英語外地研修報告集	6-111
6-5 平成 27 年度教員英語外地研修報告集	6-143
6-6 英語外地研修に参加した商船学科教員による英語教育事例集	6-185
6-7 航空機の搭乗・乗り継ぎについて（日本～カウアイ島を例に）	6-211
6-8 研修参加教員からの情報	6-217
6-9 カウアイ島での生活情報	6-221
6-10 ハワイ語の挨拶など	6-223

1. 本報告書の概要

1. 本報告書の概要

◆はじめに

四面を海で囲まれた日本にとって、海運は重要な輸送手段であり、海上輸送は産業の生命線とも言われている。平成19年の海洋基本法の公布を受け、平成20年には海洋基本計画も政府から提言され、安全で安定した海上輸送の確保には海運を担う人材が不足している現況を打破することが急務であり、質の高い海事技術者（船員）の効率的育成の重要性が強く指摘されている。また、近年の海上輸送における技術的変革により、海事技術者の資格に直接影響を及ぼす国際条約であるSTCW条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）が改正され、ECDIS（電子海図表示情報装置）やヒューマン・リソース・マネージメント（Bridge Resource Management：船橋におけるチームワーク）の導入等も含むものとなり、海上輸送のグローバル化と技術革新の進展が海事技術者として具備すべき能力を大きく変貌させている。

重要であるが対応できないでいる人材育成課題を抱えている海運界において、国土交通省、海運会社、海事関連団体及び海事教育機関などの海事分野における産官学が「社会ニーズに応えうる優秀な海事技術者の育成のあり方」について検討を行ない、平成24年3月に、「船員(海技者)の確保・育成に関する検討会報告」をまとめた。そして、新たな海事技術者に必要な資質と知識・技能に基づく海事教育内容の見直し、並びに、海運業界と連携した海事教育の推進等が提言された。

さらに、この検討会報告では海運業界が求める海事技術者の要件として、グローバル化に対応した資質と技術革新に対応した知識・技能が求められるとともに、海事分野のステークホルダーとの人材育成上の連携強化が指摘されている。

こうした社会的背景を受けて、海事技術者を育成する高等専門学校・商船学科などの海事教育機関は、質の高い人材を育成し得る教育システムの構築が求められるとともに、改正された国際条約への対応が喫緊の課題となった。

◆本サブプロジェクトの概要

本報告書は、「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発(通称：海事人材育成プロジェクト)」のサブプロジェクトの1つである“新たな海事技術者に必要な資質の涵養”の成果を纏めたものである。

「海事人材育成プロジェクト」は、平成24年度に、文部科学省の大学間連携共同教育推進事業として採択され、3つのサブプロジェクトから構成されている（詳細は5章に記載）。グローバル化に対応した“1. 新たな海事技術者に必要な資質の涵養”と、技術革新に対応すべく“2. 新たな海事技術者に不可欠な知識・技術の育成”、更に海事教育機関である高専・商船学科として海運業が求める事態に対応できる「柔軟で高度な海事技術者」の継続的かつ確実な育成を目指す“3. 新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る質の高い海事教育システム”である。

本事業は、平成24～28年度の5年間に、商船学科を有する5つの高等専門学校と海事分野のステークホルダーである海事関連団体の日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会がひとつのチームを構成し、各サブプロジェクトの実現を試みたものである。

本サブプロジェクトは、プロジェクトの1つである“新たな海事技術者に必要な資質の涵養”を目指し、学生が「基本的なコミュニケーション能力」、「基礎的な英語力」、「外地駐在への意欲」の資質を身に付け、更に英語をツールとしてグローバルに活躍できる高専・商船学科生を育成する、これまでになかった教育システムの構築を模索・試行したもので、次のサブプロジェクトより構成されている。

1-1 英語力(コミュニケーション力)向上プログラムの開発（担当：鳥羽）

本サブプロジェクトは、新たな海事技術者としての資質に求められているグローバルな活躍を可能にするための、基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力の育成を試みるものである。このため、15才から20才の高専・商船学科生に対して、TOEICスコア：500程度をゴールとする英語教育プログラム開発を試みる。本サブプロジェクトでは、連携機関と協働して、学生のみならず教員も対象とした新

たな英語力向上プログラムを開発し、その構築と展開を目指すもので、下記 3 項目を柱とした。

- ①グローバル教育拠点を利用した教育補助員による英語教育
- ②英語表記教材・教科書の開発
- ③教員の英語外地研修

1-2 グローバル人材(外地駐在意欲)育成のための国際インターンシップの展開（担当：広島）

新たな海事技術者の資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成を目指し、学生にとって有益な国際インターンシップを開拓し、その有効性や改善点を検証し、実施するとともに、本プロジェクト終了後においても継続実施出来るプログラムを見つけることを目指した。

1-1 英語力向上プログラムの開発 - 5 年間の活動実績 -

◆目 的

本サブプロジェクトは、新たな海事技術者としての資質に求められているグローバルな活躍を可能にするため、基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力の育成を試みるものである。

このため、15 才から 20 才の高専・商船学科生に対して、卒業時における TOEIC スコア 500 以上を目指し、連携機関と協働して新たな英語教育プログラムを開発し、その構築と展開を目指す。

◆概 要

本サブプロジェクトは、学生の英語力向上が目的であり、英語によるコミュニケーション力向上は当然であるが、定量的評価としての TOEIC スコア向上も目指す。

そこで、これらを実現するために、以下の 4 項目を実施した。

- ①商船学科・教育補助員(特命助教等)による英語教育
- ②商船学科におけるグローバル教育拠点の整備
- ③英語表記の商船学科・専門教材・教科書の開発
- ④商船学科専門教員の英語外地研修



英語力向上プログラムの概念

1-1-1 商船学科・教育補助員(特命助教等)による英語教育

特命助教等の英語教育補助員を配置し、英語教員と連携して、多読・多聴教材の整備や課外英語講座などを開設するなど、新たな英語教育プログラムを検討、開発した。

平成 24 年度

各校の地理的な事情により、補助教員を探すのに苦労したが、概ね英語教育プログラムの検討、および、開発体制準備を整えた。

平成 25 年度

年間を通して常勤に近い状況で教員を配置できないという問題を抱えた学校について、これをカバーする方策として、MAAP から教員を招聘し、短期集中型の英語講座を開講する等の試行を開始した。

平成 26 年度

各校において補助教員の配置に応じた週間プログラムを作成し、初心者(中学校入門)から上級者(TOEIC 対策)までの各種プログラムを設定するとともに、学生ができるだけ補助教員を活用できる仕組みを模索した。



英語補助教員によるゼミの様子



外国人講師による英会話教室

平成 27 年度

各校における補助教員が指導するプログラムについて 5 校で展開できるプログラムを検証し、学生にとって学習効果の高い教材を選定した。TOEIC 対策講座は各校で開講しており、より効果的なプログラム、かつ、持続可能なプログラムにする方策を検討した。

平成 28 年度

最終年度として、各校における英語補助教員の教育プログラム事例集を作成した。各校とも、TOEIC 対策に重点を置き、外国人教員による英会話力強化を図ってきた。その結果、学生から英語が聞き取りやすくなったという声が上がリ、学生からの評価が良くなるとともに、TOEIC の点数にも現れ、上昇傾向に繋がっている。

現在までに、特命助教等の英語教育補助員は、富山 2 名、鳥羽 1 名、広島 4 名、大島 1 名、弓削 2 名を配置し、英語力向上のための様々なプログラムを展開してきた。

大型練習船による乗船実習時期変更の移行期もあり、TOEIC 受験時期が異なることはあったが、各校 4 年次に受験する体制が整った。学生の TOEIC スコアの推移については、その平均点を右表に示す。この表から、学年進行に伴いスコアが上昇していることが分かり、プログラムの効果が現れ始めたことが示される。

TOEIC スコアの推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
富山	4年生(2014.1) 365			
		4年生(2014.5) 257	5年生(2015.5) 372	
		3年生(2014.5) 271	4年生(2015.5) 301	5年生(2016.) 333
			3年生(2015.5) 311	4年生(2016.) 357
広島	4年生(2014.1) 242			
		4年生(2014.7) 239		
			4年生(2015.6) 268	
				4年生(2016.8) 278
大島		4年生(2015.1) 282		
			4年生(2015.8) 344	5年生(2016.4.) 327
				4年生(2016.4) 315
弓削	4年生(2014.2) 266			
	3年生(2014.2) 258	4年生(2014.10) 276	5年生(2015.5) 588	
		3年生(2014.10) 276	4年生(2015.5) 303	
			3年生(2015.5) 296	4年生(2016.5) 339
鳥羽	4年生(2013.12) 279	5年生(2014.6) 280		
		4年生(2014.12) 273	5年生(2015.6) 320	
			4年生(2015.6) 272	5年生(2016.5) 296
				4年生(2016.6) 328

1-1-2 商船学科におけるグローバル教育拠点の整備

商船学科のために英語教育プログラムを展開するための拠点教室を整備し、英語教育を含むグローバル教育を積極的に進めた。

平成 24 年度

拠点とする部屋（教室）を確保し、拠点の有効活用及びプログラムの展開に必要な教材の整備に向けて準備を進めた。

平成 25 年度

各校を視察し、拠点とする部屋（教室）・補助教員が整備されたことを確認した。その結果、拠点の利用率をいかに向上させるか、また、各校のカリキュラム上の英語教育との連携を図る必要性があることが分かった。

平成 26 年度

補助教員から学生個々にあった指導を受けることができる拠点として機能させるとともに、補助教員が不在でも自学自習できる英語学習環境と整えた。



グローバル教育拠点の利用風景

平成 27 年度

グローバル教育拠点の英語学習環境、プログラムが整い、利用者数は増加してきた。また、英語の必要性を感じる学生が増えつつある。そこで、グローバル教育拠点利用による学生の満足度について検証した。

平成 28 年度

グローバル教育拠点については、学生からの認知度も上昇しており、その利用者数は増加傾向にある。この 5 年間で、英語教材も充実し、学習環境が整った。各校で試行・実施してきた拠点プログラムにおいて、より効果的なプログラムを 5 校で検証し、持続可能な共有プログラムについて検討した。その結果、グローバル教育拠点として推薦する教材やプログラム事例集を作成することができ、学生へ提示できた。

1-1-3 英語表記の商船学科・専門教材・教科書の開発

商船学科の専門科目における英語力育成の支援を目指して、英和併記の専門教材を連携機関と協働で開発してきた。

平成 24 年度

マリタイムカレッジシリーズを中心に、業者委託での翻訳を進めることとした。その第 1 段は、専門教材として刊行された「船舶の管理と運用」を選定した。また、同シリーズから、「Surfing English」も刊行した。

平成 25 年度

マリタイムカレッジシリーズの「船舶の管理と運用」について英語翻訳が完了し、「教科教材の開発、電子書籍化の推進」サブプロジェクトに引き継いだ。また、同シリーズから刊行予定の「船の電機システム」について英語翻訳を開始した。

「Surfing English」については、「Surfing English II」の開発に着手した。



開発英語教材

平成 26 年度

「Surfing English」を 2013 年 2 月に刊行したが、この本では、内容のコンセプトが十分に伝わらなかったこともあり、その解決策を検討した。その結果、以下のコンセプトを十分に考慮し、「Navigating English (Surfing English II に相当)」の刊行を企画した。

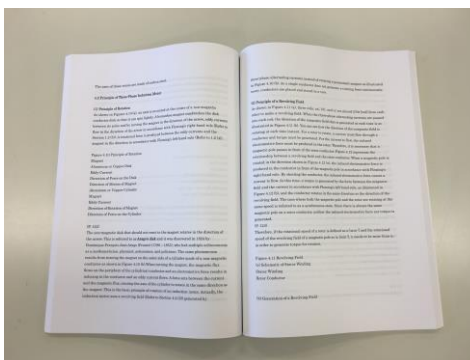
- ・ 現場で必要とされる英語でのコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・ 必要とされる英語でのコミュニケーションのための学習の「コツ」や勉強法を紹介する。
- ・ 学生の進路／仕事／キャリアと英語コミュニケーションをつなぐことを第一の役割と位置づける。

平成 27 年度

マリタイムカレッジシリーズとして刊行された「船舶の電機システム」およびその「ワークブック」について、英語翻訳を完了した。

平成 28 年度

英訳を完了した英訳教科書を、サブプロジェクト「教科教材の開発、電子書籍化の推進」に引き継ぎ、電子教科書として刊行した。



英訳例

現在までに開発した英語表記の専門教材、教科書については、すべて電子教科書として刊行してきた。その結果として、英語が分からずとも、図から内容を想像し、理解できるようになったなどの意見が得られ、英語に対する壁が低くなりつつある。このように、学生が日本語で内容を理解した後に、英語表記を見ることで、英語をコミュニケーションツールとして認識するようになり、嫌悪感を払拭し、英語に慣れる環境が整ったと考えられる。

1-1-4 商船学科専門教員の英語外地研修

商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指して、商船学科・専門教員の英語外地研修を実施した。

平成 24 年度

ハワイの KCC(Kauai Community College)での夏季休暇中（9 月）における 3 週間程度の研修を次年度から開始するプログラムを企画し、年度末までに KCC と協議した。

平成 25 年度

本年度は、9 月 4 日～9 月 21 日に 3 週間にわたって、KCC で実施した。5 校からの参加教員は 8 名で、英語研修だけでなく現地の人々との交流機会も多く設定され、異文化交流も考慮された充実した内容の研修となった。

平成 26 年度

前年の実績を踏まえて 5 月に事前準備会議を実施し、9 月に 14 日間の英語研修を実施した。5 校で参加教員は 8 名で、前年度よりも英語学習を強化した研修となった。

平成 27 年度

本年度は、各校 1 名計 5 名の教員を KCC に派遣した。研修日程は 8 月 29 日～9 月 17 日であった。また、派遣にあたっては、平成 26 年度実施総括を踏まえ、事前準備会議を GI-net を使って 6 月 30 日に実施し、出発前にも、準備確認ミーティングを持った。また、以下を作成し、参加者に配布した。

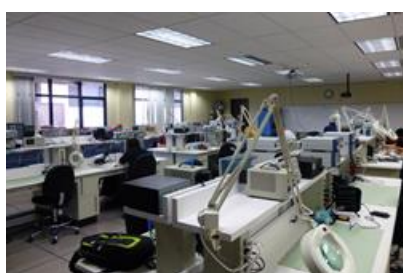
- ・ 飛行機での移動について
- ・ カウアイ生活情報
- ・ 昨年度の参加者情報
- ・ ハワイ語の挨拶など

平成 28 年度

本年度は、予算の関係上、教員を KCC へ派遣することができなかった。そこで、現在までに研修を経験した教員による教育事例集を作成した。



KCC(Kauai Community College)



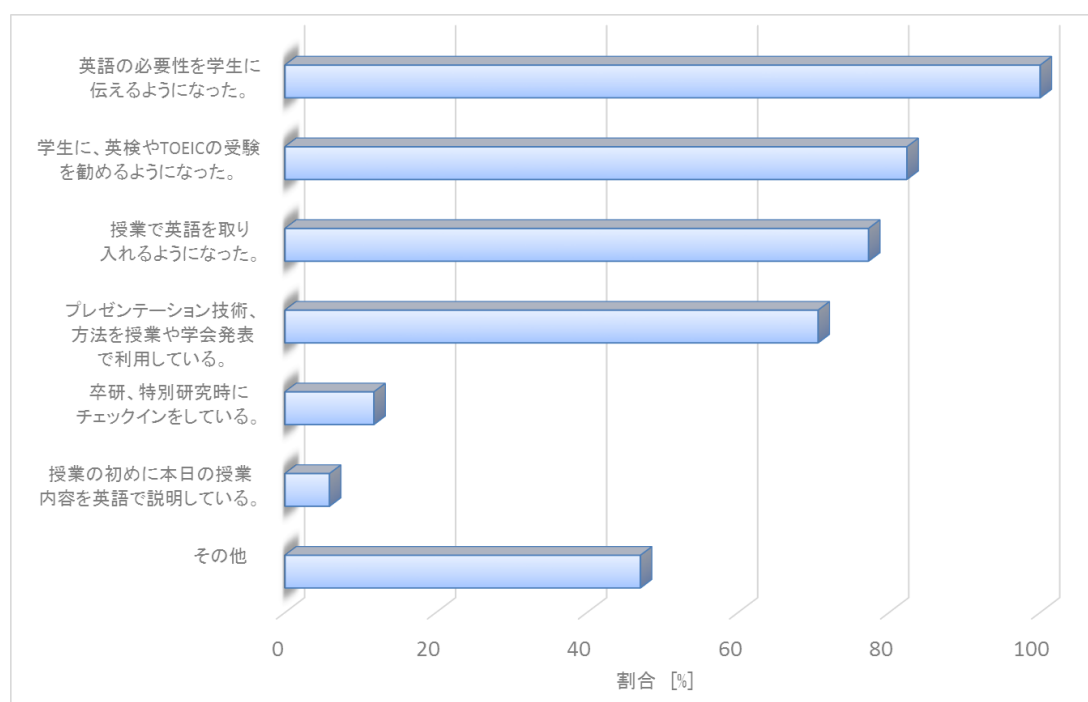
授業見学



発表風景

プログラムの一例

Week 2	Aug 31 (Mon)	Sep 1(Tue)	Sep 2 (Wed)	Sep 3 (Thu)	Sep 4 (Fri)	Sep 5 (Sat)	Sep 6 (Sun)
Morning	9:30 – 11:00 Check-in Program Orientation 11:15 – 12:00 Campus Orientation	9:30 – 12:00 Film and Discussion “Great Grandfather’s Drum”	[Field Study] 10:00 – 12:00 Grove Farm Plantation Museum	Class Observation (please select from the list)	9:30 – 10:30 Pronunciation Clinic 10:45 – 12:00 Intro to History of Hawaii	[Field Study] National Tropical Botanical Garden (NTBG)	FREE
Lunch	Lunch at KCC	Networking Meeting	@ Tip Top Cafe	Lunch at KCC	Lunch at KCC		
Afternoon	1:00 – 3:00 English (A) J. Mexia	1:30 – 3:30 English (B) B. Cronwall	[Field Study] 1:00 – 6:00 Heritage Tour of Plantation History G. Hirata	1:00 – 3:00 English (B) B. Cronwall	1:00 – 3:00 English (A) J. Mexia	National Tropical Botanical Garden (NTBG)	FREE



Q 帰国後、外地での研修や経験をどのように反映していますか？（教員アンケート）

平成 25 年度～平成 27 年度の 3 年間で商船学科教員 21 名を KCC に派遣し、2 週間程度の英語による発信力強化を中心とした研修を実施してきた。参加教員にとって非常に有効であり、その成果は以下の通りである。

- ・ KCC での研修は高専にはない教育環境を体感するとともに、アクティブラーニングの概念が自然と授業に導入されていることを知った。
- ・ 参加教員個々が自己の英語能力を把握でき、日常英会話についてスキルアップできた。
- ・ 専門分野での英語によるプレゼンテーション能力（発表・質疑応答）がある程度身についた。

また、研修参加者へアンケートした結果、研修意義については、100%の参加者が良かったと回答している。さらに、帰国後はこの研修成果を、実際に授業で活用するなど、学生へ還元していることが検証された。

1-2 グローバル人材（外地駐在意欲）育成のための国際インターンシップの展開 － 4 年間の活動実績 －

◆ 目 的

“新たな海事技術者に必要な資質の涵養”の一環として、資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成を目指し、18 才の高専・商船学科・4 年生に対して有効で適切な国際インターンシップの展開を試みるものである。5 高専では国際インターンシップを実施・企画しており、商船学科・学生に適したプログラムへの改善、単位化などを行い、参加者の向上につなげ、定着させることを目指す。

◆ 概 要

前述の目的を達成するために次記する具体的な 2 項目の事業を実施した。

(1) 国際インターンシップ

Kauai Community College（ハワイ）、Singapore Maritime Academy（シンガポール）、
AMA Computer University（フィリピン）における国際インターンシップ

(2) MAAP 教員による海事英語教育研修

平成 24 年度

(1) 国際インターンシップ

場 所 : KCC、ハワイ島コナ航海カヌー施設

日 程 : 2013 年 3 月 9 日～3 月 28 日（帰国日）

参加者 : (4 年生：1 名、3 年生：10 名、引率教員：7 名（10 日程度ずつ分担）)

(富山高専：5 名、鳥羽商船高専：3 名、広島商船高専：1 名、弓削商船高専：2 名)

ポリネシアの伝統的航海術を中心に、プログラムを編成した。新たな取り組みとして、ハワイ文化の学習のため、ハワイ語のみで教育を行っている小学校を見学した。クルートレーニングは、ハワイ島西岸の航海カヌー施設を用いて行われた。事前研修は、1 月から 2 月にかけて 5 回実施し、事後研修として報告会が実施された。

場 所 : SMA

日 程 1 : 2012 年 7 月 6 日～7 月 12 日（7 日間）

参加者 : (3 年生：5 名、4 年生：1 名、引率教員：2 名)（鳥羽商船高専：6 名）

日 程 2 : 2012 年 10 月 5 日～10 月 11 日（7 日間）

参加者 : (3 年生：4 名、4 年生：2 名、引率教員：2 名)（鳥羽商船高専：6 名）

日 程 3 : 2013 年 3 月 8 日～3 月 14 日（7 日間）

参加者 : (4 年生：5 名、引率教員：2 名)（鳥羽商船高専：5 名）

SMA の学生と共にスタークルーズ社のスーパースターヴァーゴという客船に乗船し、3 泊 4 日の日程で行われる船内研修に参加した。乗船の前日には、SMA の教室においてオリエンテーションが開催され、その段階から学生も合流した。事前研修（授業以外の補習）として、現地でのコミュニケーション能力を高めるために、リスニングに重点をおいて指導を行った。また、研修後には、体験報告をポスターとして作成させ、学内に掲示した。さらに国際交流報告会を開催し、プレゼンテーションによる成果報告を行った。

平成 25 年度

(1) 国際インターンシップ

場 所 : KCC、ホノルルコミュニティカレッジ (海洋トレーニング施設)
日 程 : 2014 年 3 月 8 日～3 月 27 日 (帰国日)
参加者 : (4 年生 : 2 名、3 年生 : 6 名、引率教員 : 7 名 (10 日程度ずつ分担))
(富山高専 : 3 名、鳥羽商船高専 : 3 名、弓削商船高専 : 2 名)

ポリネシアの伝統的航海術を中心に、プログラムを編成した。クルートレーニングは、オアフ島のホノルルコミュニティカレッジの海洋トレーニング施設を用いて行われた。世界 1 周航海を目前に控えた「ホクレア」号を生きた教材とし、また、これまで伝統的航海術に関係してこられた主要な方々が一堂に会して講師を勤めるというトレーニングとなった。事前研修は、1 月から 2 月にかけて 4 回実施した。今回は、外部講師を招いて、国際インターンシップに参加する意義等を考える機会を設けた。事後研修として報告会が実施された。

場 所 : SMA
日 程 1 : 2013 年 7 月 4 日～11 日 (8 日間)
参加者 : (3 年生 : 3 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 3 名)
日 程 2 : 2013 年 9 月 26 日～10 月 3 日 (8 日間)
参加者 : (3 年生 : 5 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 5 名)
日 程 3 : 2014 年 3 月 13 日～3 月 20 日 (8 日間)
参加者 : (5 年 : 3 名、4 年生 : 4 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 7 名)

前年度からのプログラムの変更はないが、滞在日数を 1 日追加した。これまでは、入国翌日には乗船前のオリエンテーションが始まり、シンガポール特有の英語に馴染む余裕もなく、研修が始まってしまい、市内見学もほとんどできずに帰国しなければならない日程であったことを改善し、日程を 8 日間に変更した。これにより、SMA の学生との交流時間も増え、より充実した研修となった。

(2) MAAP 教員による海事英語教育研修

「平成 25 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」(弓削商船開催分)

場 所 : 弓削商船高等専門学校
日 程 : 2013 年 11 月 5 日～11 月 15 日
参加者 : (1 年生 : 120 名、2 年生 : 120 名、3 年生 : 38 名、4 年生 : 28 名)

フィリピン Maritime Academy of Asia and the Pacific (MAAP) から、Jane D Magallon 海事英語講師と Ma. Celeste A Orbe 海事英語講師を迎え、2013 年 11 月 5 日 (火)～11 月 15 日 (金) の 11 日間、弓削商船高専で教員向け海事英語指導法セミナー、学生向け海事英語セミナー、弓削丸航海実習 (1 泊 2 日、弓削・松山)、低学年全学科向け MAAP 紹介講演、留学生実地見学旅行 (宮島) を実施した。

「平成 25 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」(大島商船開催分)

場 所 : 大島商船高等専門学校
日 程 : 2014 年 2 月 24 日～2 月 28 日
参加者 : (1 年生 : 126 名、2 年生 : 41 名、3 年生 : 44 名、4 年生 : 38 名、
専攻科生 1 名、教職員 : 約 5 名)

通常の講義のほか、校内練習船における操練(防火部署訓練等)を全て英語で行った。ただし校内練習船での操練は授業時間割等の調整が困難であったため、専攻科生及び教職員のみによる実施となった。

平成 26 年度

(1) 国際インターンシップ

場 所 : KCC、カウアイ島ナウィリウィリ港内
日 程 : 2015 年 3 月 7 日～3 月 26 日 (帰国日)
参加者 : (3 年生 : 11 名、引率教員 : 7 名 (10 日程度ずつ分担))
(富山高専 : 4 名、弓削商船高専 : 6 名)

ポリネシアの伝統的航海術を中心に、プログラムを編成した。クルートレーニングは、進水間近のナマホエ（カウアイ島で建造中のカヌー）の建造サイトで行われた。これまでとは異なり、学生もホストの一員として、ハワイ諸島からの参加者をおもてなしするという経験ができた。事前研修は、1月から2月にかけて4回実施した。事後研修として報告会が実施された。

場 所 : SMA

日 程 1 : 2014年6月26日～7月3日（8日間）

参加者 : （3年生：5名、引率教員：2名）（鳥羽商船高専：5名）

日 程 2 : 2014年9月16日～9月25日（10日間）

参加者 : （4年生：3名、3年生：1名、引率教員：2名）（鳥羽商船高専：4名）

日 程 3 : 2015年3月3日～3月12日（10日間）

参加者 : （4年生：5名、3年生：2名、引率教員：2名）（鳥羽商船高専：7名）

6月の研修までは、2013年度までと同様のプログラム内容であったが、より有益な海外インターシップとなるよう、Singapore Polytechnic（SP）での語学研修を追加し、9月の研修から期間を10日間に延長した。実際にシンガポールの教員によるコミュニケーションのレッスンを受講することで、船内での講義やワークショップの理解度が増すことを目的としたものである。9月の研修では参加学生が少なく、経費の問題から実施できなかったが、3月の研修では英語のレッスンを組み込むことができた。

場 所 : AMA コンピュータ大学

日 程 : 2015年3月8日～3月21日

参加者 : （3年生：8名、引率教員：1名）（広島商船高専：8名）

AMA コンピュータ大学において、英語研修を実施した。午前9時から午後1時までは語学専門の講師による授業が行われた。最初の数日はアメリカ発音の練習が主で、その後は、発音練習に加え、学生による暗唱、それぞれ数種類のプレゼンテーションを練習し、随時講師による発音や内容の訂正が行われた。プレゼンテーションの中から出来の良いものを選んで練習をし、最終日にはAMAの教員や学生の前で、暗唱及び、それぞれ7分のプレゼンテーションを行った。またAMAの学生と英語の歌の交換も行った。また午後2時から6時までは、AMAの学生と1対1の会話や大学の紹介等が行われた。AMAには様々なカリキュラムがあり、その中にはホテルビジネスに関連した授業もあり、ベッドメイクやカジノの運営などに関する施設を見学した。休日には、フィリピンのコンピュータソフトウェアの会社見学や博物館、史跡等を見学した。

（2）MAAP 教員による海事英語教育研修

場 所 : 広島・大島・弓削商船高等専門学校

日 程 : 2014年11月10日～11月28日

本年度は、弓削、大島、広島商船高専3校でMaritime Academy of Asia and the Pacific (MAAP)から、Jane D Magallon 海事英語講師を迎え、教員向け海事英語指導法セミナー、学生向け海事英語セミナー、低学年全学科向けMAAP紹介講演を実施した。

「平成26年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」（弓削商船開催分）

場 所 : 弓削商船高等専門学校

日 程 : 2014年11月10日～11月14日

参加者 : 1年生：135名、2年生：120名、3年生：38名、4年生：39名

「平成26年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」（大島商船開催分）

場 所 : 大島商船高等専門学校

日 程 : 2014年11月17日～11月21日

参加者 : 1年生：43名、2年生：42名、3年生：43名、4年生：43名、教職員：4名

「平成26年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」（広島商船開催分）

場 所 : 広島商船高等専門学校

日 程 : 2014年11月25日～11月27日

参加者 : 1年生138名、2年生132名、3年生51名、教職員16名

平成 27 年度

(1) 国際インターンシップ

場 所 : KCC、カウアイ島ナウウィリウィリ港内

日 程 : 2016 年 3 月 5 日～3 月 25 日 (帰国日)

参加者 : (3 年生 : 14 名、4 年生 : 2 名、引率教員 : 6 名 (10 日程度ずつ分担))
(富山高専 : 2 名、鳥羽商船高専 : 7 名、弓削商船高専 : 5 名、広島商船高専 : 2 名)

場 所 : SMA

日 程 1 : 2015 年 9 月 1 日 (火) ～9 月 10 日 (木)

参加者 : 3 年生 : 6 名、引率教員 : 2 名 (教員は全行程 2 名で対応)
(鳥羽商船学生 : 6 名、鳥羽商船教員 : 2 名)

場 所 : SMA

日 程 2 : 2016 年 3 月 7 日 (月) ～3 月 17 日 (木)

参加者 : 2 年生 : 3 名、3 年生 : 4 名、引率教員 : 2 名 (教員は全行程 2 名で対応)
(鳥羽商船学生 : 6 名、広島商船学生 : 1 名、鳥羽商船教員 : 2 名)

(2) MAAP 教員による海事英語教育研修

「平成 27 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」 (弓削商船開催分)

場 所 : 弓削商船高等専門学校

日 程 : 2015 年 11 月 30 日～12 月 4 日

参加者 : 1 年生 : 47 名、2 年生 : 43 名、3 年生 : 37 名、4 年生 : 35 名、教員 : 8 名

「平成 27 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」 (広島商船開催分)

場 所 : 広島商船高等専門学校

日 程 : 2015 年 12 月 7 日～12 月 11 日

参加者 : 1 年生 : 141 名、2 年生 : 136 名、3 年生 : 46 名、5 年生 : 50 名、教員 : 13 名

「平成 27 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」 (大島商船開催分)

場 所 : 大島商船高等専門学校

日 程 : 2015 年 12 月 14 日～12 月 18 日

参加者 : 1 年生～3 年生 : 123 名、教員 : 6 名

◆国際インターンシップの結果の検証

以下は国際インターンシップ参加者の TOEIC スコア、海技試験合格状況、進路の一覧表である。この表からわかるようにほとんどの学生に TOEIC スコアの向上が見られる。参加前の TOEIC スコアが 200 点台であった学生が 300 点台に上昇し、参加前 300 点以上であった学生は 500 点程度あるいはそれ以上の高い点数になる傾向が見られる。もちろん国際インターンシップ参加のみで成績が向上したわけではないが、国際インターンシップの目的である“新たな海事技術者の資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成”に貢献していると言える。また海技士試験においても良好な成績であり学生の海事技術者としての意欲向上及び能力向上に大いに貢献していると言える。

	学生	参加時 学年	TOEICスコア						海技士合格状況 (卒業年)	進路
			参加前		参加後					
2013年3月実施 (平成24年度)	A	4	2012年4月9日	275						専攻科進学
	B	3	2013年2月	375	2013年7月	385	2014年1月26日	570	一級海技士筆記合格	外航船社
	C		2013年2月	260	2013年7月	250	2014年1月26日	375	二級海技士筆記合格	専攻科進学
	D		2013年2月	385	2014年1月26日	530			一級海技士筆記合格	外航船社
	E		2013年2月	345	2013年7月	330	2014年1月26日	375		陸上
	F		受験せず	2013年7月	545	2014年7月	690	二級海技士筆記合格	外航船社	
	G		受験せず	2013年4月	420	2014年4月	540	一級海技士筆記合格	専攻科進学	
	H			170	受験せず					外航内航船社
	I					345			二級海技士筆記合格	内航船社
	J				2014年2月1日	445			二級海技士筆記合格	外航船社
	K				2014年2月1日	365			内航船社	

	学生	参加時 学年	TOEICスコア						海技士合格状況 (卒業年)	進路
			参加前		参加後					
2014年3月実施 (平成25年度)	A	3	2013年12月	385	2014年5月21日	370	2015年5月	480	一級海技士一科目合格	
	B				2014年5月21日	375	2014年9月	345		高専専攻科進学内定
	C				2014年5月21日	355	2014年9月	400		大学進学内定
	D	4	受験せず		2013年4月	420	2014年4月	540	一級海技士筆記合格	高専専攻科進学内定
	E							二級海技士筆記合格	大学進学内定	
	F	3	2014年1月	285	2015年6月	510			一級海技士筆記合格	外航船社内定
	G		2014年2月1日	480	2015年3月	640			一級海技士筆記合格	外航船社内定
	H		2014年2月1日	215	2014年	280				外航船社内定

	学生	参加時 学年	TOEICスコア				海技士合格状況 (卒業年)	進路先
			参加前		参加後			
2015年3月実施 (平成26年度)	A	3	2015年2月19日	370	2015年5月	330	二級海技士筆記試験合格	
	B		2015年2月19日	295	2015年5月	325		
	C		2015年2月19日	285	2015年5月	285		
	D		2015年2月19日	345	2015年5月	355		
	E		2015年2月19日	285	2015年5月	355		
	F		2015年1月31日	320	2015年5月30日	370		
	G		2015年1月31日	245	2015年5月30日	320		
	H		2015年1月31日	270	2015年5月30日	300		
	I		2015年1月31日	240	2015年5月30日	295		
	J		2015年1月31日	205	2015年5月30日	280		
	K				2015年7月1日	310		
	L				2015年7月1日	510	二級海技士筆記試験合格	
	M				2015年7月1日	285	二級海技士筆記試験合格	
	N				2015年7月1日	265		
	O				2015年7月1日	300		
	P				2015年7月1日	685		
	Q				2015年7月1日	180		
	R				2015年7月1日	280		

	学生	参加時 学年	TOEICスコア					海技士合格状況 (卒業年)	進路先
			参加前		参加後				
2016年3月実施 (平成27年度)	A	3	2016年2月	335	2016年4月	365			
	B		2016年2月	570	2016年4月	580		二級海技士筆記合格	
	C				2016年6月27日	350			
	D				2016年6月27日	410			
	F				2016年6月27日	315			
	G				2016年6月27日	285			
	H				2016年6月27日	210			
	I			2016年6月27日	215		二級海技士筆記合格		
	J	4	2015年6月29日	195					内航船社内定
	K		2015年6月29日	180					内航船社内定
	L		2016年8月8日	300				二級海技士筆記合格	
	M		2016年1月9日	325	2016年5月21日	455		一級海技士筆記合格	
	N	3	2016年1月9日	305	2016年5月21日	330		二級海技士筆記合格	
	O		2016年1月9日	320	2016年5月21日	320	2016年9月25日	400	一級海技士筆記合格
	P		2016年1月9日	190	2016年5月21日	255			
	Q		2016年1月9日	320	2016年5月21日	325			

◆今後について

現在までの国際インターンシップから、学生の意識が国際インターンシップは優秀な学生のためであるものであるという考えから、多くの学生に開かれたものであるという意識に変わりつつある。そのため一時的に参加者の成績低下も表れてくると考えられるが、本来の目的である、“新たな海事技術者の資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成”を考えると、これは喜ばしい事であると考えており、できるだけ学生に国際インターンシップの機会を設ける必要があると考えている。参加学生の経済的負担の問題、引率教員の日程的な問題等もあるが、今後は本プロジェクトによって作りあげた国際インターンシップをより発展させ、各高専が持っている他の語学留学等ともより連携を強め、内容やプログラムを精査し、内容的にも費用的にもより幅のある語学留学の機会を作っていくことが望ましいと考えている。

2. グローバル教育拠点を利用した 教育補助教員による英語教育

2. グローバル教育拠点を利用した教育補助教員による英語教育

2-1 目 的

海事人材育成プロジェクトにおける、「1. 1 英語力向上プログラムの開発」は、新たな海事技術者の資質として求められる基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力の育成を試みる。そして、15 才から 20 才の高専・商船学科生に対して、TOEIC スコア：500 程度をゴールとする英語教育プログラムの構築を目指すものである。

グローバル教育拠点は、学生が身近に英語と接し学べる機会を増やすことで、英語力の向上が図れる場とする。英語教育を行うための拠点となるべく、部屋の確保及び補助教員の配置、教材の選定設置を行う。また、海事技術者として活躍できる英語力を育むための教育プログラムを開発するとともに、作成した教材・プログラムをまとめ共有化することで、海事英語教育の基盤を構築する。

2-2 概 要

本サブプロジェクトは、商船学科・教育補助教員（特命助教等）としての英語教員を各校に配置し、英語教育を含むグローバル教育を積極的に進めるものである。このために、商船学科における英語教育プログラムを展開するための拠点教室を整備した。

教育補助教員は英語教員と連携して、多読・多聴教材の整備や課外英語講座等を開設する等、新たな英語教育プログラムを検討、開発してきた。

2-3 グローバル教育拠点を利用した英語教育の実施概要

2-3-1 平成 24 年度

初年度は、各校にて事業を開始・展開する上で必要となるプログラムについて検討を行った。12 月中旬には第 1 回「英語力育成サブプロジェクト」企画会議を開催し、本プロジェクトの遂行に向けた趣旨の再確認及び、平成 24 年度における各校の現状・実施概要の確認を行った。これより英語教育補助教員とグローバル教育拠点の整備状況、教科書の整備・計画・選定状況等について情報の共有化を図り、英語教育補助教員の配置、グローバル教育拠点の整備を進めた。結果、次年度から本格的なプログラム展開ができる体制がほぼ整った。

◆英語教育補助教員の配置

英語補助教員の採用にあたっては地理的問題等があり、採用教員はネイティブ、日本人等さまざまであった。初年度の配置状況を表 1 に示す。各校とも 1 名以上の配置がなされ、多いところでは 4 名の補助教員が確保された。

英語教育補助教員の配置状況

	特命教授	特命助教	特任助教
富山	1 名	1 名	
広島			4 名
弓削		1 名	
大島			1 名
鳥羽		1 名	

英語教育補助教員の主な職務内容は、①課外講義等の対応と②学生の質問や相談の対応である。学校によりいずれか一方もしくは両方の対応を行い、英語力向上を目指した様々な取り組みについて検討が行われた。

富山では、低学年から教科書「Surfing English」を使った授業や、専門英語の支援を検討した。時間割に週 50 分の授業を設定し、教材の選択も行った。広島では週 2、3 時間程度、希望者を対象に授業を行い、専門英語を教えることで英語力育成を図った。弓削では集中講義に加え、対応内容を依頼し、その実施を週 10 時間の中で行うこととした。一方、大島では ESS の延長としてプレゼンテーションの作成を課題とする対応を検討した。鳥羽では学生の英語能力の実態把握により教材選定を行い、訪ねてくる学生の質問や相談の対応を始めた。

	拠点教室	教材
富山		
広島		
弓削		
大島		
鳥羽		

グローバル教育拠点の整備状況

◆グローバル教育拠点の整備

初年度の整備は、年度後半からの実施となり、グローバル教育拠点として使用する部屋の検討・調整が必要となった。しかし、各校現状に即した確保がなされ、平成 25 年度からは部屋の利用開始ができる準備が整った。

富山では、旧操船シミュレータ室を使用する予定とし、パソコンや図書の配置の検討をした。

大島では、コンピュータ部の部屋にある商船学科のパソコンの共用化を検討した。

広島は、商船学科のフロアにある部屋の確保ができた。確保された部屋にはパソコンも 12～13 台あり TV 会議もできる。

弓削では、空き部屋を利用し、拠点としての使用が始まった。

鳥羽では、会議室として使用していた部屋を利用することで、学生が集まれる環境を整えた。電話、パソコン、本棚等を配置した。

具体的な運用内容は、5 高専で差異が大きくないことが確認された。

2-3-2 平成 25 年度

平成 24 年の準備期間を経て、平成 25 年度からグローバル教育拠点を確保できた。拠点の有効活用及びプログラムの展開に必要な教材の整備に向けて準備を進め、各校独自のプログラム展開が見られた。

7 月には第 2 回企画会議を開催し、グローバル教育拠点の利用状況を確認した。また英語力向上の確認指標の 1 つとして TOEIC スコアの利用を検討すべく、各校の受験状況や受験対策、スコアについて情報交換を行った。

TOEIC の受験状況は、各校とも学生は任意で受けており、学校ごとの受験者数にばらつきがあることが確認された。早い学年から TOEIC 対策に取り組んでいけば、スコアアップが期待されていることも話題にあがった。これよりグローバル教育拠点の効果検証としても、各学年における TOEIC スコアの状況を見る必要性が示唆された。全体的な平均スコアが 300 であると考ええると、プロジェクト最終年度における目標スコア 500 を達成させるためには、各年の上昇スコアが 50 となる。英語科教員との連携が必須となることや、学生本人が英語の実力を認識し、社会に出るまでにすべきことを自覚して、拠点利用の有用性を認識できるプログラム展開が必要になることが確認された。

◆各校のグローバル教育拠点利用状況

■富山高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

4 月より、特別教育活動の時間を使い、グローバル教育拠点教室を利用した活動を実施してきた。教室環境は現在整備されており、商船学科 2 年生～商船学科 5 年生（前期のみ）週 1 回（45 分）、学年・コース別で主に「特別教育活動」の時間に利用している（時間割に「特別教育活動」を組み入れ、英語授業を実施）。また、商船学科 5 年生の機関英語、航海英語の授業（前期のみ）でも利用した。

年度	平成 25 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	542	724	503	481	0	131	450	364	224	356	0	0
累計人数	542	1266	1769	2250	2250	2381	2831	3195	3419	3775	3775	3775

2. TOEIC

商船学科 4 年生は、3 年生の後期（2013 年 2 月）に学校で全員 TOEIC を受験した。その後は希望者のみの受験としたが、カレッジ TOEIC を学校で受験している。必要に応じて公開オフィシャル TOEIC テストも受験している。

また、一般科目の技能審査単位として単位認定がされている。

TOEIC・TOEICIP	400～499 点	一般科目 1 単位
	500～599 点	一般科目 2 単位
	600 点以上	一般科目 3 単位

現在の商船学科 4 年生のスコア実績

スコア	2013 年 2 月	2013 年 7 月	2013 年 10 月
600 点以上			
550 点～599 点			
500 点～549 点	1 名		
450 点～499 点			3 名
400 点～449 点	3 名	2 名	3 名
	37 名受験	18 名受験	18 名受験

2013 年 10 月 4 年生 18 人受験、最高点 470 点、最低点 245 点、平均点 365 点。

2014 年 1 月には商船学科 4 年生全員がカレッジ TOEIC を受験する予定である。

3. 展開プログラム

（1）商船学科 4 年生希望者対象の TOEIC 対策講座

① TOEIC 集中講座実施

（ア）3 日間（8 名が 3 日間出席）

（イ）3 日間（5 名が 3 日間出席）

② TOEIC 対策講座実施

9 月 30 日より、週 4 回、放課後（16 時 10 分～17 時 20 分）に、商船学科 4 年生の希望者を対象とした TOEIC 対策講座を実施した。これまで 23 回実施し、延べ参加人数は、87 名である（平均参加者 3.8 人）。12 月以降も継続実施する。

（2）留学生との交流学习（後期実施）

① ねらい

- ・ 学生が英語を使わざるを得ない場面を設定し、英語学習の必要性を経験させる。これにより英語学習に対するモチベーションを高める。
- ・ 外国に関する情報を得て、将来的なビジョンを持たせ、学生のキャリア選択に役立たせる。

② 内 容

- ・ 特別教育活動の時間を利用して、本校で 3 か月の短期留学をしている留学生らとの交流学习を実施する。

対象学年	3 年生	2 年生	1 年生
参加人数	42 名	37 名	37 名
後期における交流活動の回数	2 回 (前期は 1 回実施)	1 回 (前期は 1 回実施)	1 回 (前期は実施なし)
交流活動の内容	シンガポールから 3 か月間研修にきている留学生 4 名に授業へ参加してもらい、学生による質疑応答を通して、シンガポールに関しての関心を学生に持たせる。学生各自は、事前に教員から与えられた質問文、あるいは自分が聞いてみたい質問を留学生にする。留学生との交流活動では、1 人 1 人の学生が留学生に英語で質問し、参加学生は、その答えを簡単な英語で書きとる活動をする。		
交流活動の形態	航海・機関のコース別に分かれる。3 年生は要望が強かったため、交流活動を 2 回実施する。航海と機関では、特別教育活動の実施曜日が異なっている。各コースともに 4 つの小グループを作り、留学生が加わる。後期第 1 回目の交流活動では、学生らは、教員から与えられた質問を留学生にして、回答を用紙に記入した。10 分ごとに、留学生らが交替する。学生らは同じ質問を 4 回することになる。第 1 回交流活動終了後、学生にアンケートを取り自分が聞いてみたい質問を英語と日本語で書かせ、添削した。 後期第 2 回目の交流活動では、学生らが聞いてみたい質問（航海コース・機関コースともに 11 個）を一覧表にし、事前に質問内容を開示する。質問する時には、自分の紹介をしてから質問するように事前指導する。例えば、“I like math at school. What subject do you like? ”。自らの紹介をし、相手の情報を得るという活動を行う。発話時間が増える工夫をする。	航海・機関のコース別に 2 クラスに分かれる。学生はコース別に分かれた後、さらに航海コースは 9 名のグループと 8 名のグループに分かれる。機関コースは 10 名ずつのグループに分かれる。留学生はグループ毎に、1 名ずつ加わる。学生がより身近に自主的に留学生と交流できるように学生が進行を行う。学生の要望があれば、教員が助言する。質問する内容は事前に学生に開示されている。自分がしてみたい質問があれば、日本語、英語併記で記入し、教員の添削を受けることができる。交流活動では、15 分ごとに、留学生がグループを替わり、学生らが再び同じ質問を順番にする。学生らは 45 分の活動の間に同じ質問を 2 回することになる。	航海・機関のコース別に分かれる。レクチャースタイルで学生は着席する。留学生 2 名は、着席している 19 名あるいは 18 名の前に立ち、学生の質問に答える。日本人学生は、質問する前に “Hello. Nice to meet you. Where did you visit in Japan?” 等と質問し、答えてもらったら、“Thank you.” と挨拶するよう、事前指導しておく。進行は教員により管理される。学生には事前に質問する内容が開示されている。自分がしてみたい質問があれば、日本語、英語併記で記入し、教員の添削を受けることができる。

(3) 音読指導（後期実施）

商船学科の学生の英語学習に対するモチベーションを維持させ、声に出して英語を読む力を付けることを目標とする。昼食時間帯の 15 分間を利用し学生 2 名ずつを呼び出し、個人指導をしている。前期は、商船学科 1 年 37 名、商船学科 2 年 37 名、商船学科 3 年 42 名を 1 回ずつ、指導した。後期も引き続き実施している。商船学科 1 年は 37 名の音読指導を終了し、商船学科 3 年生 42 名の音読指導も実施している。音読する英文は、その時期に学んでいる「Surfing English」の中の教材の一節とした。学生は 1 回声に出して読み、単語の意味の確認や発音できない単語の確認をする。

(4) 教員向け英語講座

富山高専教員を対象に、毎週 月、火、金曜日に【ヤングクラス】【シニアクラス】に分けて、教員向け英語力向上講座を実施している。主な内容は

- ・スピーチ（当番制）
- ・視聴覚教材を用いたスピーチ・プレゼン講座
- ・図書教材を用いた英語講座

である。

実施内容や、講師の所見について、「英語力向上プログラム 研修通信」にまとめられている。（毎回 富山高専 海事人材育成プロジェクト実行委員に配布している）

教員向け英語力向上講座のまとめ

	実施時間	実施内容	実施場所
月曜日	11 : 00～12 : 00	【ヤングクラス】 毎回 1 名～6 名程度参加 上述した内容を実施	第 3 会議室
火曜日	12 : 00～13 : 00	【シニアクラス】 毎回 1 名～3 名程度参加 上述した内容を実施	第 3 会議室
金曜日	11 : 00～12 : 00	【ヤングクラス】 毎回 1 名～6 名程度参加 上述した内容を実施	第 3 会議室 (地域人材開発本部室)
	12 : 00～13 : 00	【シニアクラス】 毎回 1 名～3 名程度参加 上述した内容を実施	

4. 教材

海事人材育成プロジェクトにより購入した教材はグローバル教育拠点教室に保管し、貸し出しを行っている。貸し出し対象は教職員、学生であり利用状況を下に示す。貸出期間は特に定めていない。貸出簿に記入して自由に借りることができる。

2013 年 4 月～2013 年 11 月 貸出延べ人数

貸出延べ人数	TOEIC 教材	英会話教材	電子辞書
教職員	0 人	9 人	
学生	46 人	22 人	2 人
貸出延べ人数	46 人	31 人	2 人

■広島商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

英語担当教員として特任助教を 4 名配置した。それぞれの勤務体制は次のとおりである。各課外授業において適時学生の使用がなされているが、自習時間での使用もある。

特任助教（上級航海英語）

6 時間/週 25 年度：240 時間

特任助教（上級航海英語）

6 時間/週 25 年度：240 時間

特任助教（機関英語、上級航海英語）

6 時間/週 25 年度：240 時間

特任助教（機関英語、上級航海英語）

6 時間/週 25 年度：240 時間

年度	平成 25 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	195	136	118	65	6	1	46	58	24	31	26	0
累計人数	195	331	449	514	520	521	567	625	649	680	706	706

2. TOEIC

平成 26 年 1 月 14 日に本科 4 年生を対象とした IP テストを予定している。

参考：平成 24 年度商船学科 TOEIC 受験者数：35 人 TOEIC スコアの平均 258.4 点

TOEIC スコア分布

スコア範囲	人数
600<=	0
500<= <600	0
450<= <500	0
400<= <450	0
350<= <400	3
300<= <350	7
250<= <300	6
<250	19

3. 展開プログラム

英語教材は、効果を顕著にとらえる目的で、英語漬けシリーズ 1 本に特化した。1 年生から 4 年生まですべての商船学科で英語教育の充実ができた。

4. 教材

プラト株式会社 英語漬けシリーズ

中島真勝利著 英語リピートプリント中 1～中 3

国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC テスト公式問題集 Vol.2、Vol.3

Surfing English

■弓削商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

英語担当教員として特命助教を配置した。それぞれの勤務体制は次のとおりである。主に、放課後の英会話教室、英会話や TOEIC の集中セミナーを行っている。学生の利用状況は 1 日平均 4.2 人であり、別に設けた集中セミナーへの参加も見られる。教材の貸し出しも行っており利用者は 40 名程度であった。

特命助教（職歴：約 11 年、弓削商船で 2 年間非常勤の経験あり）

週 6 時間 年間 200 時間

特命助教（職歴：約 27 年、弓削商船で 4 年間非常勤の経験あり）

週 2～3 時間 年間 80 時間

年度	平成 25 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	36	49	41	21	0	0	26	44	33	42	22	0
累計人数	36	85	126	147	147	147	173	217	250	292	314	314

2. TOEIC

TOEIC 対策として集中セミナーを行った。適宜参加学生がみられた。

3. 展開プログラム

TOEIC スコア向上をめざし、長期休暇中に TOEIC 集中セミナーを行った。また、MAAP 英語教員による海事英語セミナーを合わせて開催し、約 2 週間にわたり、教員及び学生に Maritime English を教授した。

4. 教材

- ・ 本校英語担当教員と協力して、英語教材をそろえた。
- ・ 学生からの要望をもとに、ほしい教材（人気の教材）をそろえた。
- ・ 貸出しの規則を作り、貸出し簿もつけている。

■大島商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

本年度より本プロジェクトで採用された特命助教 1 名が、平日毎日 15:00～18:00、グローバル教育拠点教室に常駐し、対応した。主な対応内容は TOEIC 受験対策で、そのほか英語書籍の貸し出し等を行った。また平成 25 年度前期には、商船学科 5 年 航海コースの授業「外国語演習」において、毎週約 20 名の学生が当該拠点教室を活用した。

受講目的で来室する学生は専攻科生及び本科・商船学科 4 年～5 年生で占めるが、英語書籍等の借用目的での利用者は、低学年から最高学年と幅広くみられた。

年度	平成 25 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	80	80	80	80	2	0	10	10	10	10	10	8
累計人数	80	160	240	320	322	322	332	342	352	362	372	380

2. TOEIC

個人での受験・IP 受験を問わず、学生からの要望や個人能力に応じて講座を開講した。TOEIC IP テストにおいてスコア 400 点以上を取ることを目標としている。

受験者：2 名（11 月（5 月）、12 月）

スコア：510 点 11 月（390 点 5 月）、未通知 12 月

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
11、5、12 月	2 名	450	510	390	1 名未通知
1 月 12 日	6 名	297.5	355	220	本科 3 名、専攻科 3 名

3. 展開プログラム

現在、実施している時間割を以下の図に示す。

時間割

	月	火	水	木	金
16:00～18:00	英文法	長文読解	長文読解	TOEIC 対策	英語耳 (ヒアリング)
参加学生	海事系専攻科 3 名	海事系専攻科 3 名		商船学科 4 名	

その他、海技試験対策等、学生の要望によって実施している。

海技試験対策では二級海技士（航海）及び一級海技士（航海）における英語科目対策、その他海事英語関係の対応を行った。

学生の要望には、第三級海上無線通信士における英語の科目対策や、英訳、英語メールの添削等がある。

4. 教材

テキスト教材（約 100 冊）と電子辞書教材（約 30 点）を取り揃え、講義時に活用している。テキスト教材については学生への貸し出しも行い貸出率は約 20%であった。

■鳥羽商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

特命助教を平日の 6 時間、配置しており、学生対応、教材検討等を行っている。主に、TOEIC 対策、英会話を中心に自学自習もできるように、時間割を決め、希望時間にきた学生の対応を行った。時間割以外の内容も随時対応した。学生利用は、1 日平均 2 人弱であるが、グループで利用することもあり、5～6 人となることもある。毎日通う学生は少数である。

年度	平成 25 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	9	39	15	16	8	2	20	23	30	25	7	2
累計人数	9	48	63	79	87	89	109	132	162	187	194	196

2. TOEIC

TOEIC 対策として、次のプログラムを実施した。

- ・リーディング
教科書を使い、文法と読み、CD を聴き発音を行う。
- ・Scanning
150words×5 つの文章を 5 分程度、100words の短文を 1 分程度で読み、その中から該当箇所を見つけ出す練習を行う。たとえば、番組表から提示ジャンルが放送される局と時間を見つける。
- ・GIST
短文をゆっくり読んで、要約をさせる。
- ・リスニング
TOEIC 用の教材を使い CD を聴かせ、問題を解かせる。
- ・ボキャブラリ
例文が併記されている単語帳を使い、30words/1 日×週 3 回繰り返し覚える。
字が大きく、写真や例題がある単語帳を使い、単語を発音し、例文を読み、意味を確認した後、CD を聴き実際に発音してみる。
- ・ウォーミングアップテスト
リスニング 2 ページ、リーディング 2 ページ程度のテストを 25 分行う。

TOEIC のスコアは、グローバル教育拠点の利用者が非利用者より高く、特に Listening のスコアが高い傾向が見られた。

		Listening	Reading	Total
全体	平均	178.9091	113.0909	292
	最高	360	185	545
	最低	85	65	170
利用者	平均	208.9286	132.8571	341.7857
	最高	360	185	545
	最低	115	75	205
利用者以外	平均	168.6585	106.3415	275
	最高	270	160	420
	最低	85	65	170

3. 展開プログラム

これまでの利用実態を調査し、利用学生の状況等を整理した。また英語に違和感や苦手意識を持つ学生を対象にした、初歩的会話を中心とする英会話導入時間を設定し、教材の選定やボキャブラリ用の教材を準備し始めた。例えば、曜日毎に、テスト、単語、聞き取り、読み取りを教える時間を設けて、参加に当たり、目標を立てやすくした。リスニング練習はレベルに合わせて速度を変え、目標スコアごとの教材を用意することで、ネイティブの先生に質問しながら自習できる環境を作った。また英語表記の教材を使い、少人数授業形態で教えることができるようにした。教材選定は、本校専門科目の教員と英語科教員に加え、大学、英会話教室の先生からも情報をいただき、有用性が高いと考えられるものをそろえた。さらに紹介用のポスター作成し、利用率向上に努めた。

- ・カンバセーション

英語に慣れ親しむことを目的とし、放課後や休み時間に、日本語も交えながら英語で会話を行う。複数の表現方法を学ぶ等、状況に合わせて親しみやすい雰囲気英会話を行った。

- ・授業の質問

専門科目の英語や工具等の名称や説明の仕方について質疑形式で対応した。

- ・英語の授業参加

教室で英単語の発音練習等を行った。

- ・教員対応

英語で書く論文や申請書について対応した。

4. 教材

- ・前年度の整備により、利用率の高い教材の補充をした。
- ・DVD・CD等ソフトの見直し、導入をした。
- ・Scanning 用教材をそろえた。
- ・カードや絵本といった副教材を検討した。
- ・単語暗記用フラッシュ表示プログラムを導入した。

2-3-3 平成 26 年度

本年度は、これまで配置した英語教育補助教員と英語教員が連携し、新たな英語教育プログラムの検討を行った。各校において英語教育補助教員の配置に応じたプログラムを作成し、初心者（中学校入門）から上級者（TOEIC 対策）まで、各種プログラムを設定した。さらに学生ができるだけ補助教員を活用できる仕組みを模索した。あわせて拠点教室の整備を継続し、英語教育を含むグローバル教育を積極的に進めた。これより、個々の学生にあった指導を補助教員から受けることができる仕組みを作るとともに、補助教員が不在時でも自学自習できる英語学習環境を整えた。

特に各校とも TOEIC 対策として、継続的な講座や短期集中講座等を実施し、受験のフォローアップ体制を整えた。TOEIC スコアの推移については、順調に向上した学校もあれば停滞している学校もある。本年度は大型練習船の実習時期変更の移行期のため、鳥羽は 4 年生の前期に、富山・広島は 4 年生の後期に 6 ケ月の実習が組まれ、利用率の増減も見られた。

◆各校のグローバル教育拠点利用状況

■富山高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

平成 26 年度前期は、商船学科 1 年生を対象に金曜日の 7、8 限に「Surfing English」を用いた英語授業を行い、後半は音読指導を行った。商船学科 2 年生には、木曜日の 7、8 限前半に「Surfing English」を用いた英語授業、後半には音読指導を行った。さらに商船学科 3 年生には、火曜日の 7 限に「Surfing English」を用いた英語授業を行った。また、商船学科 4、5 年生にはそれぞれ、金曜日 5 限、月曜日 7 限に TOEIC 対策講座を行うと共に、特に商船学科 5 年生については補助教員による「機関英語」「航海英語」の授業支援を実施した。

平成 26 年度後期には、商船学科 1 年生を対象に金曜日の 7、8 限前半に「Surfing English」を用いた英語授業、後半には英検指導・個別指導を行った。さらに木曜日 8 限には英検指導・個別指導を行った。商船学科 2 年生には木曜日 7 限に Bridge TOEIC 教材を用いた英語授業、木曜日 8 限に航海コース資格試験指導、水曜日 8 限に機関コース資格試験指導を行った。商船学科 3 年生には月曜日 5 限に TOEIC 教材を用いた英語授業、火曜日は 7 限に機関コース資格試験指導、8 限に航海コース資格試験指導を行った。資格試験指導・TOEIC 指導希望者には、火曜日 9 限に対応を行った。なお、後期は商船学科 4、5 年生共に、大型練習船実習のためプログラムに参加できなかった。

また、上記、特別授業とは別に下記を実施した。

- ・ 放課後の TOEIC 指導（希望者対象、毎日 1～5 名程度参加）
- ・ 留学生との交流学習（次ページ）

利用人数

年度	平成 26 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	239	284	262	261	0	67	357	186	175	314	0	0
累計人数	4014	4298	4560	4821	4821	4888	5245	5431	5606	5920	5920	5920

2. TOEIC

平成 26 年度 3 月・10 月における商船学科 3 年生、4 年生の TOEIC スコアを以下に示す。

	平成26年度6月結果		平成26年度10月結果
	3年生	4年生	4年生
600点以上			
550点～599点			
500点～549点		1	1
450点～499点	1	1	1
400点～449点	0	0	2
350点～400点	2	3	5
300点～349点	5	4	6
299点以下	28	32	11
最高点	495	525	545
平均	271	257	320
受験学生数	36人	41人	26人

3. 展開プログラム

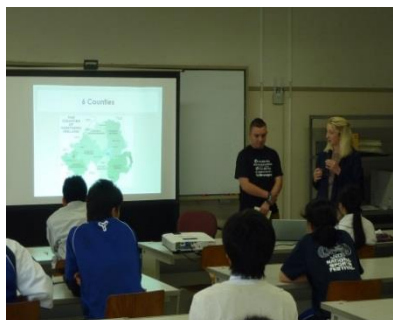
特別教育活動における留学生と商船学科学生との交流学习として、複数プログラムを実施すると共に、教員向け英語講座を行った。

(1) 特別教育活動における留学生と商船学科学生との交流学习

① シンガポール学生とタイ学生と商船学科学生との交流学习

Grade & Class	Date for exchange activities 交流学习実施日	交流の様子
5th year 4th floor of the main building Global room	May 7th (Wed.) Engineering course ・ 3rd period 10 : 40～11 : 25 Singapore students May 7th (Wed.) Navigation course ・ 4th period 11 : 25～12 : 10	
2th year 4th floor of the main building Global room 4th floor of the main building Big room	May 8th (Thurs.) Engineering course ・ 7th period 14 : 35～15 : 25 with Thai students Singapore students May 8th (Thurs.) Navigation course ・ 7th period 14 : 35～15 : 25 with Thai students Singapore students	
4th year 4th floor of the main building Global room	May 9th (Fri.) Engineering course ・ 5rd period 12 : 55～13 : 35 with Thai students Singapore students May 9th (Fri.) Navigation course ・ 5th period 12 : 55～13 : 35 with Thai students Singapore students	
1st year Classroom	May 9th (Fri.) Presentation ・ 7th period 14 : 35～15 : 25 Nagayama, Gomi sennsei with Thai students Singapore students	
3rd year 4th floor of the main building Global room	May 13th (Tues.) Engineering course ・ 7th period 14 : 35～15 : 25 with Thai students Singapore students May 13th (Tues.) Navigation course ・ 7th period 14 : 35～15 : 25 with Thai students Singapore students	

② 英国・北アイルランド学生との交流学习 2014年7月



2014年7月3日(木)、商船学科2年生の特別教育活動の時間に、英国北アイルランドからインターンシップ研修に来ている学生2名との交流学习が行われた。商船学科の4年生、3年生の特別教育活動の授業にも参加してもらい、学生らと交流学习を行った。なお、この交流学习には、同時期にインターンシップ研修に来ていた米国ハワイ州出身の学生1名も参加し、カウアイ島の生活と文化についてプレゼンテーションをしてもらった。

③ 米国・ハワイ州カウアイ学生との交流学习 2014年7月



2014年7月9日(水)、商船学科1年生のクラスで、インターンシップ研修に来ていた米国ハワイ州出身の学生との交流学习が、HRの時間に行われた。カウアイ島についてのプレゼンテーションを聞いた。商船学科1年の学生は、特別教育活動の時間に、留学生への質問を各自で作成し、交流学习の準備をした。

④ シンガポール学生との交流学习 2014年10月

下記の日程で、インターンシップ研修に来ているシンガポール学生4名との交流学习を行った。事前学習として、学生らは質問を各自作成した。交流学习では、質問シートを使い、学生らは10分間ずつ、4名と質問タイムを楽しんだ。タブレットやスマートホンで画像を見せてもらったり、スペルを教えてもらったり、学生らは、交流学习を行った。

1) 10月27日(月曜日)7限目 S2年



- ・商船学科2年航海コース(9人で1グループ)
場所：航海学演習室(4階)
- ・商船学科2年機関コース(9人で1グループ)
場所：グローバル教室(4階)

2) 10月28日(火曜日)7・8限目 S3年



- ・7限目(14:35-15:25)
3年機関コース 5人で1グループ
場所：グローバル教室(4階)
- ・8限目(15:25-16:05)
3年航海コース 4人(5人)で1グループ
場所：航海学演習室(4階)

3) 10月31日（金曜日）7限目 S1年

- ・ 商船学科 1年航海コース（11人で1グループ） 場所：航海学演習室（4階）
- ・ 商船学科 1年機関コース（10人で1グループ） 場所：グローバル教室（4階）



1年機関コース



1年航海コース

4) シンガポール学生との交流学习を終えた学生の感想

ほぼ全員、参加学生らは「楽しかった」という感想を述べている。高学年になるにつれて、「聞き取れなかった」という学生がいるが、「以前よりも聞き取れた」「質問シートにない質問をすることができた」と意欲的な学生もいる。

⑤ 教員向け英語講座

昨年度に引き続き、富山高専教職員を対象に、毎週 月、火、金曜日に【ヤングクラス】【シニアクラス】に分けて、教員向け英語力向上講座を実施した。主な内容は

- ・ スピーチ（当番制）
- ・ 視聴覚教材を用いたスピーチ・プレゼン講座
- ・ 図書教材を用いた英語講座
- ・ 英語論文作成支援
- ・ プレゼンテーション準備（スライド作成、原稿作成）支援

である。

実施内容や、講師の所見について、富山高専 海事人材育成プロジェクト実行委員に配布している「英語力向上プログラム 研修通信」にまとめられている。

教員向け英語力向上講座のまとめ

	実施時間	実施内容	実施場所
月曜日	11:00～12:00	【ヤングクラス】 毎回 1名～6名程度参加 上述した内容を実施	第3会議室
火曜日	12:00～13:00	【シニアクラス】 毎回 1名～3名程度参加 上述した内容を実施	第3会議室
金曜日	11:00～12:00	【ヤングクラス】 毎回 1名～6名程度参加 上述した内容を実施	第3会議室 （地域人材開発本部室）
	12:00～13:00	【シニアクラス】 毎回 1名～3名程度参加 上述した内容を実施	

4. 教材

海事人材育成プロジェクトにより購入した教材はグローバル教育拠点教室に保管してある。教職員、学生が貸出対象である。貸出期間は特に決めてないが、貸出簿に記入して自由に借りることができる。

TOEIC 教材、英会話教材、電子辞書等を揃えており、これからも随時、教材を揃えて行く予定である。

■広島商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

グローバル教育拠点の活用により、TOEIC の対策を行なっている。英語学習用教材を備えたグローバル教育拠点を学生に対して常時開放している。またグローバル教育拠点を使用して、外国人講師による英会話を希望者に対して実施している。

年度	平成 26 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	87	44	25	60	0	20	106	113	76	88	72	0
累計人数	793	837	862	922	922	942	1048	1161	1237	1325	1397	1397

2. TOEIC

毎年 1 月に全学科の 4 年生を対象に TOEIC IP テストを実施している。今年度は、後期に商船学科 4 年生が乗船実習に参加するため、商船学科のみ 7 月に実施した。過去 5 年間の受験結果は次のとおりである。

TOEIC IP テスト 受験結果

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
平均点	244	242	272	242	239
最高点	410	505	-	490	605

3. 展開プログラム

グローバル教育拠点は学生に対して常時開放しており、毎日の昼休みや放課後等に自由に活用している。外国人講師による英会話は毎週火曜日の昼休みに実施しており、商船学科の学生を中心に毎回 20 名程度が参加している。その他、フィリピン MAAP 教員招聘による英語研修を実施した。また、学生への英語授業、教員への英会話及び英語での授業法について研修を開いた。



グローバル教育拠点での外国人講師による英会話の様子

4. 教材

グローバル教育拠点において、用意されている英語教材は次のとおりである。学生による自主学习や英会話の際、必要に応じて使用している。

- ・ TOEIC テスト新公式問題集
- ・ やさしく学ぶ英語リピートプリント（中 1～中 3）
- ・ 英語力トレーニングソフト「えいご漬け」をインストールした PC

■弓削商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

英語担当教員は、特任助教であり以下に概説を行う。加えて MAAP 教員によるプログラムの展開も行った。グローバル教育拠点として、商船学科棟 2 階（西奥）商船学科教員研究室の並びの 1 部屋をプロジェクト用に準備した。

（1）特命助教

- ・ 教員のキャリア：約 12 年（弓削商船で 3 年間非常勤の経験あり）
- ・ 勤務時数：週 6 時間 200 年間

（2）特命助教

- ・ 教員のキャリア：約 27 年（弓削商船で 4 年間非常勤の経験あり）
- ・ 勤務時数：週 2 時間 80 年間
- ・ 勤務内容（学生対応プログラム等）春休み集中セミナー（英会話・TOEIC セミナー）
- ・ 学生の利用状況（概要）3～6 人/日（2 年生から 5 年生まで幅広い）

（3）フィリピン MAAP 教員

- ・ 勤務時数：1 週間 27 時間
- ・ 教員のキャリア：約 14 年（弓削商船で 1 回 MAAP 海事英語セミナー実施の経験あり）
- ・ 学生への提供プログラム：MAAP 海事英語セミナー、11 月 10 日～11 月 14 日

年度	平成 26 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	41	51	23	28	0	0	35	39	35	55	17	0
累計人数	355	406	429	457	457	457	492	531	566	621	638	638

グローバル教員による教室での英語授業

年度	平成 26 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	345	384	345	384	0	0	573	284	337	443	260	0
累計人数	345	729	1074	1458	1458	1458	2031	2315	2652	3095	3355	3355

2. TOEIC

TOEIC 集中セミナーを夏休み及び春休みに行った。

受験者は 65 名であり、平均点スコアは 275.6 であった。卒業年度が同じ学年にて、昨年度とのスコア比較を行ったところ、スコアの上昇が見られた。

3. 展開プログラム

学生対応プログラムの他、TOEIC セミナーや英会話セミナーを実施した。

4. 教材

- ・ 本校英語担当教員と協力して、英語教材をそろえた。
- ・ 学生からアンケートをとり、ほしい教材（人気の教材）をそろえた。
- ・ 学生からは圧倒的にスピードラーニングをやりたいという要望であった。そのため 1 巻から 32 巻まで 10 セットそろえた。
- ・ 貸出しの規則を作り、貸出し簿もつけている。

■大島商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

前年度に引き続き、本プロジェクトで採用された特命助教 1 名が毎日 3 時間、グローバル教育拠点教室に常駐し、各種試験対策（就職・進学・TOEIC 等）、英会話のための英語講座等を行った。また平成 26 年度前期には、前年度同様、商船学科 5 年 航海コースの授業「外国語演習」において毎週約 10 名（※）の学生が本拠点教室を活用した。ただし当該授業においては、丁寧な指導を目的とし少人数での受け入れとした。

曜日	月	火（※）	水	木	金
時間	15:00～18:00	09:30～12:30	15:00～18:00	15:00～18:00	15:00～18:00

（※）火曜日：外国語演習(商船学科 5 年)の授業において活用

年度	平成 26 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	50	50	50	55	15	5	15	15	8	8	4	2
累計人数	430	480	530	585	600	605	620	635	643	651	655	657

※授業による利用者数（毎月約 45 名）

2. TOEIC

個人での受験・IP 受験を問わず、学生からの要望や個人能力に応じて講座を開講した。また、TOEIC IP テストにおいてスコア 400 点以上を取ることを目標とした。

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
2014 年 7 月 3 日	8 名	306.9	410	235	専攻科生

TOEIC ハーフテストの受験状況 < 本科生（商船学科）>

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
2014 年 4 月 3 日	43 名	26.6	44	17	本科 4 年生

（ハーフテスト：100 問、1 時間で実施される試験）

3. 展開プログラム

- ・ 英語講座を実施した。
- ・ 就職各種試験対策や進学試験対策を実施した。
- ・ TOEIC 対策を実施した。

4. 教材

テキスト教材（約 100 冊）と電子辞書教材（約 30 点）を取り揃え、講義時に活用する。テキスト教材については、常時、学生への貸し出しを行っている。（貸出率約 30%）

■鳥羽商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

TOEIC 対策、英会話を中心に自学自習もできるよう、時間割を決め、来た学生の対応を行った。時間割以外でも随時対応した。利用者数は 4 月より半年、4 年生が乗船実習に行ったため前期は少ないが、年間を通して、増加傾向が見られた。

年度	平成 26 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	8	19	13	17	4	7	20	29	33	30	17	0
累計人数	204	223	236	253	257	264	284	313	346	376	393	393

2. TOEIC

TOEIC 対策は曜日ごとに講座内容を提示したが、学生毎に曜日と時間を決めて参加し、個別の内容で進められることが多かった。これより、学生に合わせた進度調整ができた。

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
6 月	32	280	595	170	
9 月	2	423	440	405	
12 月	38	369	465	170	

3. 展開プログラム

曜日ごとに講義内容を設定し、興味のある学生が参加できる体制をとった。

- ・ 月曜日：復習（中学レベル）、TOEIC 対策
- ・ 火曜日：復習（中学レベル）、TOEIC 対策
- ・ 水曜日：TOEIC 対策
- ・ 木曜日：TOEIC 対策、試験対策・自学自習の質問対応
復習（リスニング、ライティング） 英会話
- ・ 金曜日：復習（中学レベル）、英検対策

また、利用学生数を増やすために次のプログラムを計画した。

- ・ ベーシック

ショートタームプログラムとして、昼休みの 15 分をあてる。

少人数制のグループアクティビティにてテキストを用いず、イラストカード等を利用して、自分で考え想像したことを相手に伝えるコミュニケーション能力を養う。英語に抵抗をもたず、興味を持たせることも目的の 1 つとした。

- ・ ハイレベル

ビジネス英語ライクなプログラム。

自己紹介から始まり、身近なテーマについてプレゼンテーションやアピールが行えるように取り組む。

本校国際交流プログラムでは、現地で発表を行うこともある。しかし、はじめにプレッシャーの少ないグローバル教育拠点にて、発表まで行えるようにする。

自己アピールや卒業研究の本校以外での発表や国際交流プログラム参加者の事前研修なども視野に入れている。

- ・ TOEIC 特別対策講座

毎週火曜日の放課後 1 時間程度、ヒアリングの小テストとその確認を行う。また次回テストのための単語の暗記等自習も助ける指導を行っている。

- ・ 自学自習

スペースを開放し、気軽に質問ができる区画を作成する。ポスターやパンフレット等を作成し、入室しやすい雰囲気を浸透させる。

- ・スピーチコンテスト参加者の利用

高専機構主催、東海北陸地区で開催された THE 8th ANNUAL ENGLISH SPEECH CONTEST FOR STUDENTS OF COLLEGE OF TECHNOLOGY に参加
第 30 回高等学校英語弁論大会、審査通過、発表

4. 教材

テキスト教材と電子教材を取り揃え、講義時に活用している。テキストは、本校教員のみならず塾や大学で英語を教えている先生に聞き取り調査を行い選定した。DVD 等の電子教材より、テキストや CD がよく利用されている。また、基本から取り組みやすいように配慮し、入門用教材等を取りそろえた。

2-3-4 平成 27 年度

平成 25 年度からの大型練習船の実習時期変更により、これまで英語力向上の指標として TOEIC スコアをみてきた 4 年生が、平成 26 年度から半年間乗船するようになった。このため、英語力向上プログラムが十分に機能せず、スコアにも向上が見られなかった。本プログラムの数値的目標は卒業時におけるスコア 500 のため、本年度からは 5 年生にも引き続き英語力向上プログラムを実施し、5 年生終了時におけるスコアでの検証を行った。また各校、これまでの英語力向上プログラムを継続または発展させるべく、5 校のプログラムを検証した。また、英語教育補助教員による各種実施プログラムを整理し、今後の英語教育への反映を視野に入れた、グローバル教育拠点及び英語教育補助教員設置による成果の評価・検証を行った。

◆各校のグローバル教育拠点利用状況

■富山高専

1. グローバル教育拠点概要

グローバル教育拠点は平成 26 年度までに概ね整備された。平成 27 年度は特別教育活動としての学習活動を基盤に学生の英語力向上を目指した取り組みを行った。その概要を以下にまとめる。

(1) 特別教育活動としての教育活動 2017 年 4 月～2018 年 3 月

特別教育活動スケジュール

学年	前期	後期
1 年	・火曜日 5, 6 限： Surfing English をテキストにした授業 英検指導（4 時間）	・火曜日 5, 6 限： Surfing English をテキストにした授業 英検指導（2 時間） ・放課後：希望者対象英検個別指導
2 年	・金曜日 7 限： Surfing English をテキストにした 英語の授業 ・4 月と 5 月のみ： 「航海英語 I」授業支援	・金曜日 7 限： Navigating English, Bridge TOEIC 用 プリント教材を使った授業 ・放課後：希望者対象英語個別指導 航海コース：第一級海上特殊無線技士 資格試験
3 年	・火曜日 7 限： TOEIC 用プリント教材を使った授業 ・放課後：希望者対象英語個別指導 航海コース：2 級海技士資格試験指導	・火曜日 7 限： TOEIC 用プリント教材を使った授業 ・放課後：希望者対象英語個別指導 機関コース：2 級海技士資格試験 航海コース：1 級・2 級海技士資格試験指導 第一級海上特殊無線技士資格試験 第三級海上無線通信士資格試験

4 年	・金曜日 5 限： TOEIC 用プリント教材を使った授業 ・放課後：希望者対象英語個別指導 2 級海技士資格試験、 第三級海上無線通信士資格試験	乗船実習
5 年	・月曜日 7 限： TOEIC 教材を使った授業 ・水曜日 4 限： 「航海英語Ⅱ」授業支援 ・放課後：希望者対象英語個別指導 TOEIC 指導、大学編入試験の英語指導 2 級海技士資格試験指導	・月曜日 7 限： TOEIC 教材を使った授業 ・月曜日 3・4 限： 「機関英語Ⅱ」授業支援 ・放課後：希望者対象英語個別指導 2 級海技士資格試験指導

(2)「特別教育活動」の時間を使った留学生との交流学习（前期 1～2 回）

① 活動方法と活動回数

質問シートを使った小グループのコミュニケーション活動である。1 時間の活動時間内に、学生は同じ質問シートを使い、留学生を交えて、10 分間ずつの小グループ活動を 3～4 回繰り返した。1 年～4 年は、前期 6 月に 1 回実施し、5 年生は、前期 4 月と 6 月の 2 回実施した。

② 5 年生の感想（4 月 27 日月曜日採取）から読み取れる効果

5 年生の学生は、過去 3 年間に 4 回、質問シートを使い、留学生を交えた小グループ交流学习を体験してきた。英語学習への動機付けになっていることが、下記の感想文例より読み取ることができる。商船学科の先生方の協力のおかげで成立する交流学习である。

感想文例：

- ・シンガポールで不便なことを聞き取れたので良かった。
- ・少しだけ聞き取れて楽しかった！もう少しゆっくりしゃべってくれたらもっと分かったかもしれない。
- ・もっと話せるようになりたい。
- ・ほとんど聞き取れず、悔しい。
- ・英語が早くて難しかった（9 名）。
- ・英単語をもっと覚える必要があると思った。もっと正確に聞き取れるようになりたい。
- ・聞き取れるけれども、意味がわからないものが多かった。
- ・シンガポールと日本の国としての仕組みの違いを感じました。
- ・シンガポールは学問が盛んで、日本はおいていかれると感じた。
- ・日本と比べてシンガポールの方が勉強や働き方に対してストイックだと思った。
- ・2 年間の兵役義務があると分かり驚いた（2 名）。

年度	平成 27 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	240	299	300	224	0	32	162	105	103	121	0	0
累計人数	6160	6459	6759	6983	6983	7015	7177	7282	7385	7506	7506	7506

シンガポール学生とタイ学生と商船学科学生との交流学习スケジュール

Exchange activities with students in the Department of Navigation & Engineering

対象学年	交流学习実施日	活動の様子
5th year	June 22th (Mon.) Engineering course ・ 7th period 14 : 35～15 : 20 2 Singapore students & 3 Thai students June 22th (Mon.) Navigation course ・ 7th period 14 : 35～15 : 20 2 Singapore students & 3 Thai students	
1st year	June 23rd (Tues.) Engineering course ・ 5 & 6th period 12 : 55～14 : 20 2 Singapore students & 3 Thai students June 23rd (Tues.) Navigation course ・ 5 & 6th period 12 : 55～14 : 20 2 Singapore students & 3 Thai students	
3rd year	June 23rd (Tues.) Engineering course ・ 7th period 14 : 35～15 : 20 2 Singapore students & 3 Thai students June 23rd (Tues.) Navigation course ・ 7th period 14 : 35～15 : 20 2 Singapore students & 3 Thai students	
4th year	June 26th (Fri.) Engineering course ・ 5th period 12 : 55～13 : 35 2 Singapore students & 3 Thai students June 26th (Fri.) Navigation course ・ 5th period 12 : 55～13 : 35 2 Singapore students & 3 Thai students	
2nd year	June 26th (Fri.) Engineering course ・ 7th period 14 : 35～15 : 25 2 Singapore students & 3 Thai students June 26th (Fri.) Navigation course ・ 7th period 14 : 35～15 : 25 2 Singapore students & 3 Thai students	

2. TOEIC

商船学科学生の TOEIC スコアの推移を下表に示す。本プロジェクトが開始されたのが平成 24 年 9 月であり、そのときに席上過程修了した平成 25 年度卒業生が本プロジェクトの恩恵を授かっていない。TOEIC の平均点の向上および最高点の向上は明らかであり、これら成果は本プロジェクトによる教員とグローバル教育拠点の整備の効果であると考えている。

商船学科学生の TOEIC スコア分布と平均値の推移，平成 26 年度 3 月時点

	5年生9月(席上課程修了)時点での最高点			5年生12月時点での最高点	4年生5月時点での最高点	3年生5月のスコア
	平成25年度 卒業生	平成26年度 卒業生	平成27年度 卒業生	平成28年度 卒業生(現S5)	平成29年度 卒業生(現S4)	平成30年度 卒業生(現S3)
600点以上		1(690点)		2(760, 650)	1(615)	1(660)
550点～599点			4	0	0	1
500点～549点		2	3	1	1	0
450点～499点	1	3	3	2	0	0
400点～449点	1	3	8	3	2	1
350点～399点	7	7	2	7	9	6
300点～349点	12	7	4	5	10	6
300点以下	17	6	14	22	13	21
最高点	490	690	575	760	585	660
平均	306	365	360	323	333	311
受験学生数	38人	29人	38人	36人	36人	36人

※4 年生は 9 月から航海訓練所での実習となり記載されているスコアは 5 月までとなっている

3. 展開プログラム

- ・ 長山特命教授担当
 1. 特別教育活動における英語授業
 2. 留学生と商船学科生との交流学习
 3. 放課後に、希望する学生への英語個別指導
(例えば TOEIC スコア向上、海技士・無線技士・通信士など資格取得を目指した英語指導、英検指導、大学編入試験対策指導)
 4. 航海英語と機関英語の授業支援
- ・ 海木特命助教担当 【教員向け英語講座】
昨年度に引き続き、富山高専教職員を対象に、毎週火・水・金曜日に【ヤングクラス】
【シニアクラス】に分けて、教員向け英語力向上講座を実施した。

主な内容は、

- ・ 英字新聞 (Student Times) からの記事を使って書くこと、話すこと、読むことなど、英語の総合的スキル・アップを図る。
- ・ 「クール・ジャパン」「ニュースで英会話」「スーパープレゼンテーション (TED)」など TV の語学番組を教材に、聞くこと、話すことなど、総合的英語力のスキル・アップを図る。
- ・ 雑誌記事 (インタビューなど) や書籍を用いた英語講座。
- ・ 県立高校や高専の入試問題、大学入試 (センター試験など) 入試問題、あるいは TOEIC の問題など。
- ・ 外国からの留学生や訪問者との自由英会話教室。
- ・ 英語論文作成支援。

教員向け英語力向上講座のまとめ

	実施時間	実施内容	実施場所
月曜日	11:00～12:00	【ヤングクラス】 毎回 1 名～6 名程度参加 上述した内容を実施	第 3 会議室
火曜日	12:00～13:00	【シニアクラス】 毎回 1 名～3 名程度参加 上述した内容を実施	第 3 会議室
金曜日	11:00～12:00	【ヤングクラス】 毎回 1 名～6 名程度参加 上述した内容を実施	第 3 会議室 (地域人材開発本部室)
	12:00～13:00	【シニアクラス】 毎回 1 名～3 名程度参加 上述した内容を実施	

4. 教材

海事人材育成プロジェクトにより購入した教材はグローバル教育拠点教室に保管し、貸出簿に記入して自由に借りることができる。TOEIC 教材、英会話教材、電子辞書等を揃えている。その他、教員向け英語講座教材として、

- ・ 英字新聞 (Student Times) の記事各種
- ・ NHK の語学番組 (ニュースで英会話 / クール・ジャパン / スーパー・プレゼンテーション (TED) など)
- ・ TOEIC 問題集
- ・ 各種入試問題
- ・ 「英語落語」「ずるい英語」など、各種雑誌、英字新聞、TV 番組、図書・書籍などからの抜粋

■ 広島商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

グローバル教育拠点は学生に対して常時開放しており、毎日の昼休みや放課後などに自由に活用している。グローバル教育拠点では、PC を利用したリスニングソフトや TOEIC 対策の参考書などの英語教材を常時利用することができる。また特任助教による専門英語の授業にも活用されている。外国人講師による英会話は毎週火曜日の昼休みに実施しており、商船学科の学生を中心に毎回 20 名程度が参加している。また本年度より TOEIC リスニングのための授業が本校教員により実施されている。平成 27 年度におけるグローバル教育拠点の利用者数は延べ 1,686 人であった。

年度	平成 27 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	232	136	269	104	0	52	156	104	133	439	61	0
累計人数	1629	1765	2034	2138	2138	2190	2346	2450	2583	3022	3083	3083

2. TOEIC

毎年1月、4年生全員に対してTOEIC IP テストを実施している。平成26年度以降は、後期に商船学科4年生が乗船実習となるため、毎年7月頃に実施している。また、平成27年度より商船学科5年生についてもTOEICを受験予定である。受験の時期は1月を予定している。過去5年間のTOEIC受験状況を以下に示す。

TOEIC 受験状況

受験年	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
受験月日	不明	1月10日	1月14日	7月28日	6月29日
受験学年	4年生	4年生	4年生	4年生	4年生
受験人数	37	35	45	38	48
平均点	242	272	242	239	268
最高点	505	385	490	605	685

3. 展開プログラム

グローバル教育拠点の活用により、TOEIC の対策を行なっている。また、外国人講師による英会話や、商船学科教員によるリスニング対策などを行なっている。

■弓削商船高専

1. グローバル教育拠点概要

年度	平成27年度											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	30	30	38	24	0	16	63	30	37	26	5	0
累計人数	668	698	736	760	760	776	839	869	906	932	937	937

グローバル教材貸出数

年度	平成27年度											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
貸出数	8	3	12	8	0	0	3	0	13	8	6	0
累計数	8	11	23	31	31	31	34	34	47	55	61	61

グローバル教員による教室での英語授業

年度	平成27年度											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	437	389	354	430	0	116	458	230	345	417	80	0
累計人数	3792	4181	4535	4965	4965	5081	5539	5769	6114	6531	6611	6611

2. TOEIC

TOEIC 受験者数

年度	学年	受験者数 /クラス	受験率	平均点	学年	受験者数 /クラス	受験率	平均点	全受験者数
24	3	0/28	0%	-	4	6/22	26%	257.5	6
25	3	22/38	57.9%	257.5	4	23/28	82.1%	266	45
26	3	26/38	68.4%	275.5	4	39/39	100%	275.7	65
27	3	37/37	100%	296.3	4	38/38	100%	302.9	73

3. 展開プログラム

・ 27 年度英語向上プログラム

26 年度と同様に 2 年生以上のクラスに週 1 時間時間割に組み込む。

- ・ 2 年生：TOEIC 向上 1（水曜日 4 限）Gary
- ・ 3 年生：TOEIC 向上 2（木曜日 4 限）Gary
- ・ 4 年生：TOEIC 向上 3（金曜日 4 限）Gary

定期試験及び単位認定はないが、時間割に組み込まれているため全員出席している。

・ グローバル教室における英会話教室

火・水・木・金曜日の放課後 15：00-18：00 の 3 時間行っている。毎回出席者名簿を付けている。

火・水・木曜日は、Matt 特命助教担当で、この日は Ark 外語学園の協力により、他のネイティブ教員も手伝いに来る。金曜日は、Gary 特命助教の担当である。

学生への周知として、グローバル教室前及び各教室にポスターを掲示している。



英会話教室案内



教材利用方法

・ グローバル教室における教材貸出

月一金曜日の毎日 12：40-13：00 に教材の貸し出しを行なっている。

本プロジェクトの担当事務員が業務を行なっている。



グローバル教室英会話



教材の貸し出し

・ MAAP 教員による海事英語セミナー

25・26 年度に続き 3 回目の MAAP 教員による海事英語セミナーを 11 月 30 日から 12 月 4 日までの 1 週間行った。学生向けは、1 年生は他学科を含めたフィリピンの紹介などで、2 年生には海事英語入門、3・4 年生は、航海コース・機関コース別れて、各コースそれぞれ 3 年生は 4 時間、4 年生は 9 時間行った。

また、教員向けセミナーでは、富山高専と鳥羽商船高専から合計 3 名の先生方も参加していただき弓削の教員とともに海事英語のセミナーを受講した。



MAAP 教員による海事英語

■大島商船高専

1. グローバル教育拠点概要

前年度に引き続き、本プロジェクトで採用された特命助教 1 名が毎日 3 時間、グローバル教育拠点教室に常駐し、各種試験対策（就職・進学・TOEIC 等）、英会話のための英語講座等を行った。平成 27 年度前期には、前年度同様、商船学科 5 年 航海コースの授業「外国語演習」において毎週約 10 名の学生が本拠点教室を活用した。

曜日	月	火 (※)	水	木	金
時間	15:00～18:00	09:30～12:30	15:00～18:00	15:00～18:00	15:00～18:00

(※) 火曜日：外国語演習(商船学科 5 年)の授業において活用

年度	平成 27 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	44	48	48	48	4	0	10	10	10	7	7	0
累計人数	701	749	797	845	849	849	859	869	879	886	893	893

2. TOEIC

個人での受験・IP 受験を問わず、学生からの要望や個人能力に応じて講座を開講した。低学年の受講者に対しては、単語力と基礎文法に重点をおいて実施した。

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
2015 年 8 月 7 日	23 名	343.9	(注 1)935 (注 2)660	115	商船学科 4 年生 最高スコアについて (注 1)外国人留学生 (注 2)日本人学生

3. 展開プログラム

国家試験（海技従事者）や進学（大学編入学受験）、就職試験等において実施される英語科目への対策として実施。学生からの要望によっては個別にも対応した。

また、各種試験の実施日程を掲示することで、拠点利用者に対して、具体的な目標と目標達成までの段取りについてのアドバイス、確認を適宜実施した。

4. 教材

テキスト教材（約 100 冊）と電子辞書教材（約 30 点）を取り揃え、講義時に活用している。

■鳥羽商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

これまで実施してきたプログラムを継続するとともに、グローバル教育拠点の利用率を上げるため、国際交流事業参加者の利用や授業の復習を含む英語の授業との連携を図った。また一度来室した学生の再利用を促進するため、質問のみならず、フリートークなど幅広く学生の対応を行うようにした。

年度	平成 27 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	44	52	62	47	13	7	59	48	40	30	28	0
累計人数	437	489	551	598	611	618	677	725	765	795	823	823

2. TOEIC

TOEIC 対策は学生毎に曜日と時間を決めて内容を決定し、個別の技量に合わせた内容で実施した。諸外国の観光案内や文化の紹介など海外への興味をもてるような話題も盛り込み、リスニングや単語力の向上を図った。

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
6 月	82	328	590	130	
11 月	39	418	635	175	

3. 展開プログラム

曜日ごとに講義内容を設定し、興味のある学生が参加できる体制をとった。

- ・ 月曜日：基礎英語、TOEIC
- ・ 火曜日：基礎英語、リスニング、英会話
- ・ 水曜日：リスニング、英会話
- ・ 木曜日：基礎英語、リスニング、英会話
- ・ 金曜日：基礎英語、英会話、TOEIC

また、利用学生数を増やすために次のプログラムを実施した。

- ・ ベーシック
ショートタームプログラムとして、昼休みの 15 分をあてる。
短時間でも拠点に来室する学生があった。また、1 日の内昼休みと放課後の両方利用する学生もいた。放課後に来るきっかけにもなると考えられる。
- ・ ハイレベル
英会話の実践として、フリートークを行った。
会話用の教材を用いて、内容に関する質問や、意見の発言方法などを行った。さらに、独自にミニ会話用資料を作成し、パーティーの場面、自己紹介、買い物などで使う日常英会話を行った。
論文のアブストラクトやフルペーパーの指導も行った。
- ・ TOEIC 特別対策講座
毎週 1 時間程度、ヒアリングの小テストとその確認を行う。また次回テストのための単語の暗記等自習も助ける指導を行っている。
- ・ 自学自習
スペースを開放し、気軽に質問ができる区画を作成する。ポスターやパンフレット等を作成し、入室しやすい雰囲気を浸透させる。
- ・ スピーチコンテスト参加者の利用
トビタテ JAPAN のスピーチ及び課題の確認。

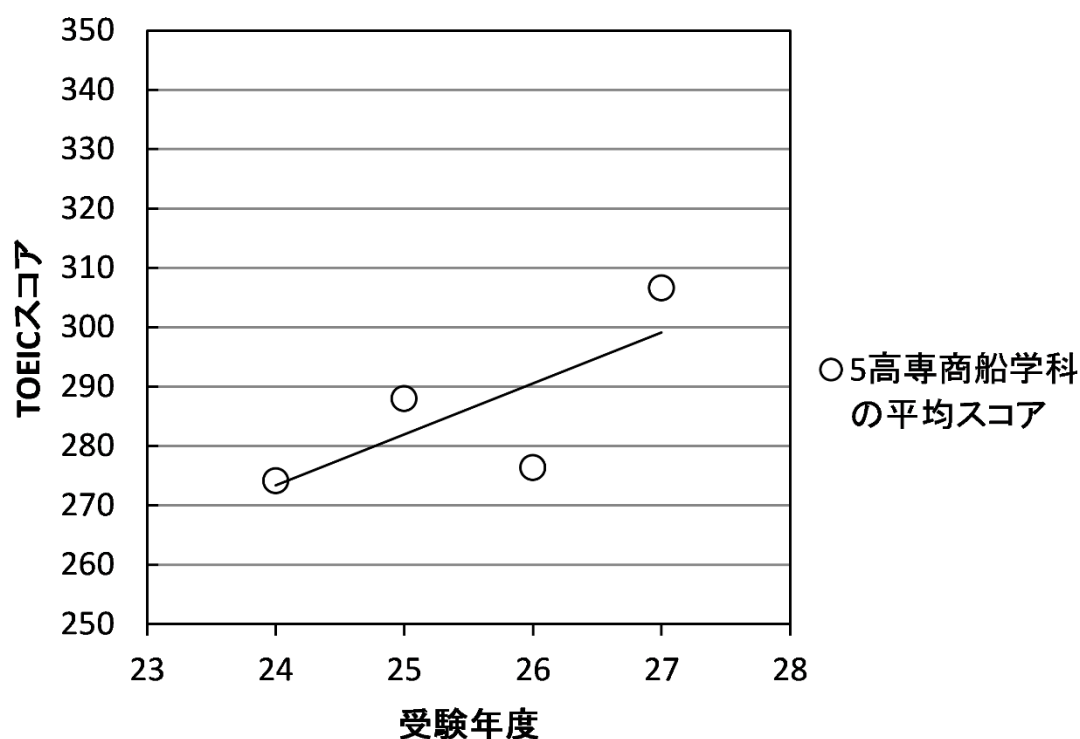
4. 教材

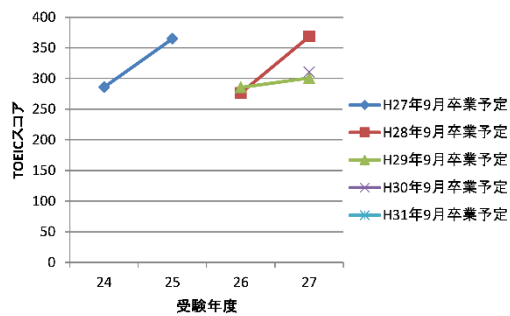
TOEIC 対策だけでなく、会話の場面紹介や聞き取りにおいて CD の利用を増やした。ネイティブの先生が英語と日本語を使い分けて説明することで、CD と合わせて内容を想像させ関連単語を連想させることで、リスニングと語彙選択力の向上を行った。

◆TOEIC スコアの変位

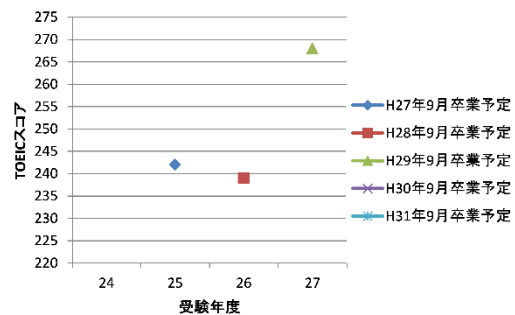
拠点利用と非利用学生の TOEIC スコア比較として、利用学生の平均と最高がそれぞれ 342、545、非利用学生の平均と最高がそれぞれ 275、420 という結果があった。これより平均で 70 程度、最高で 120 程度の向上が見られることから、拠点利用の効果が見て取れる。図に 5 高専商船学科の TOEIC スコアについて、受験年度ごとに平均を取ったスコアの変位を示す。合わせて、各校の TOEIC スコアの変位を示す。本年度検討した 5 年生の TOEIC スコア平均は学校により上下が見られたが、これは就職活動や卒業研究、その他卒業に向けて取り組む課題が多い 5 年生の拠点利用頻度が影響したためと考えられる。しかし、全体的には上昇傾向の成果が表れ、低学年からの継続的な利用が、スコア向上につながると考えられる。

5 高専商船学科すべての TOEIC スコアの推移

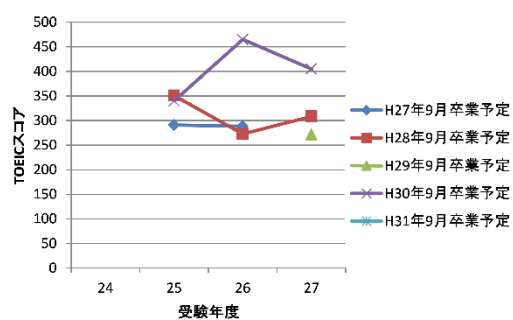




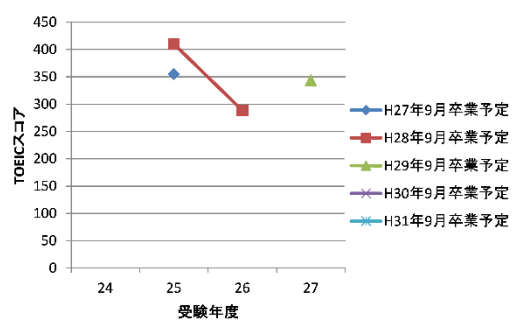
富山



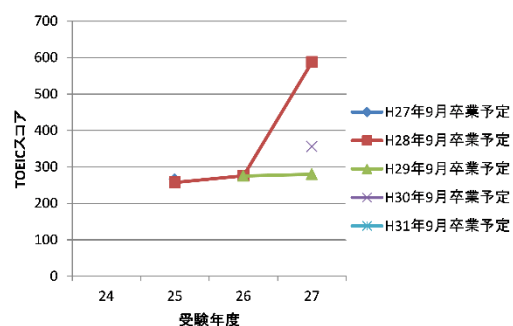
広島



鳥羽



大島



弓削

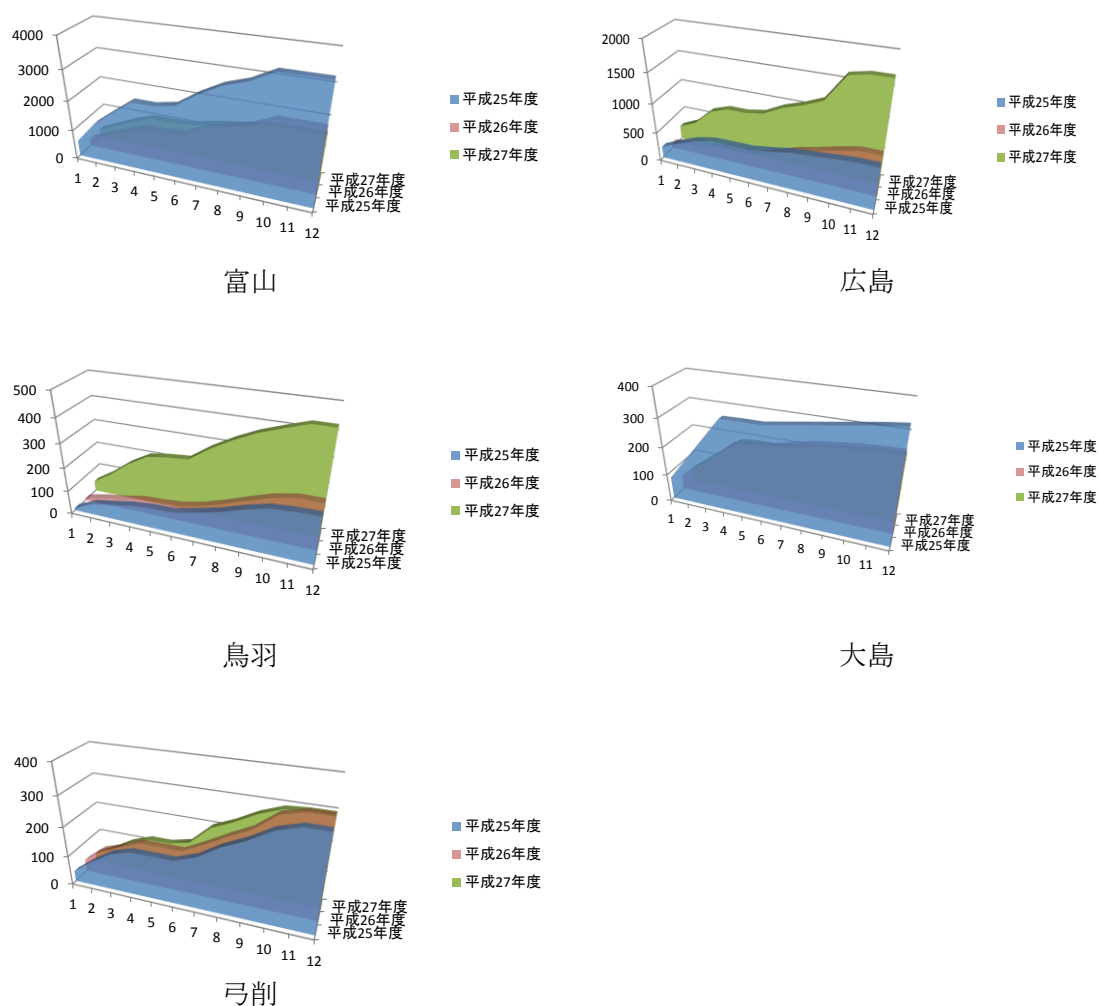
学校別 TOEIC スコアの推移

◆グローバル教育拠点利用率向上の検討

本年度はプロジェクト最終年度を迎える前年であり、プロジェクト終了後も効果的な英語力向上プロジェクトが継続できるよう、課題抽出を行った。また、グローバル教育拠点を利用した英語教育補助教員による英語教育を確立するため、これまでのグローバル教育拠点利用状況の推移について検討した。また補助教員を含めた利用率向上に関するアンケートを実施した。

図に各校のグローバル教育拠点利用について、年度毎にみた積算利用人数の推移を示す。授業で利用した学校では利用者数が大きくなっているが、いずれの学校も、夏季休業や春季休業を除き、一定の利用率があることが分かる。また年度を増すごとに利用者数の増加が見て取れる。これは、教材の充実化やポスターや声掛けによる認知度の上昇が大きな要因と考えられる。一度利用した学生の繰り返し参加や、他の学生を誘い共に利用するグループでの参加も見られた。これより、開発し実施してきたプログラムが、英語を学ぶ意識の向上につながり利用率向上につながったともみられる。

また、各校で購入した教材の検討及び展開したプログラムの検証、及び英語力向上に寄与する項目の共有化を図るため、教材リストの整理を行うと共に利用率の高い教材や効果的な教材について情報をまとめた。



各学校のグローバル教育拠点、積算利用人数の推移

グローバル教育拠点整備用品 教科書・教材 内訳一覧(平成24年度購入)				
書籍・ソフト名	冊数	① よく利用されているもの	② 特に英語力向上に効果があると期待しているもの	③ 5商船系高专で共有したほうがよいと考えるもの
はじめての新TOEICテスト本番模試	5			
TOEIC (R) テスト本番模試	5			
TOEICテスト新公式問題集	5	○	○	○
TOEICテスト新公式問題集	5	○	○	○
TOEICテスト新公式問題集 Vol.2	10	○	○	○
TOEICテスト新公式問題集 Vol.3	5	○	○	○
TOEICテスト新公式問題集 Vol.4	5	○	○	○
TOEICテスト新公式問題集 Vol.5	10	○	○	○
エブリディイングリッシュ(1セット)	2			
TOEIC (R) テスト650点突破マラソン(1セット)	1			
英書郎 第六版	2			
ビジネス技術 実用英語大辞典	2			
The New Dictionary of English Composition for Science	2			
新世代ディクショナリーE-DIC	2			
英語ロジカル・ライティング講座	1			
毎日の英文法 頭の中に「英語のパターン」をつくる	1			
敬語の英語	1			
マスターしておきたい技術英語の基本	1			
日本人がかならず間違える英語	1			
英会話・ぜったい・音読	1			
ネイティブはたった100語で話している！	1			
日本人が知らないネイティブがよく使う英会話フレーズ400	1			
日本人が知らないネイティブシャドウイングであなたの英語が変わる	1			
ゼロからスタートシャドーイング	1			
ゼロからスタートディクテーション	1			
絶対『英語の耳』になる！ビジネス英語リスニング難関トレーニング50	1			
シャドーイングで学ぶTOEIC TEST 860突破ボキャブラリー	1			
新TOEICテスト900点突破20日間特訓プログラム	1			
新TOEIC R TEST出る順で学ぶボキャブラリー990	1			
たったの87パターンでこんなに「聞こえる」英語リスニング	1			
たったの72パターンでこんなに話せる英会話	1			
72パターンに+αで何でも話せる英会話	1			
質問にパッと答える英会話一問一答トレーニング	1			
授業が変わる！最強の英語ペアワーク&グループワーク25	1			
スピードラーニング 英語1～16巻	2	○		
A Communicative Grammar of English Geoffrey Leech and Jan Svartvik	1			
The Communicative Grammar of English Workbook	1			
はじめての船上英会話	10			
Surfing English	10			
艦長ホレーシオン DVD	1			
ホップ・ロー海の勇者 DVDBOX Vol.1～8	1			
白い嵐 アト・バンスト・コレクターズ・エディション DVD	1			
英語学習ソフト 超字幕/インピクx負けざる者たち	1			
英語学習ソフト 超字幕/しあわせの隠れ場所	1			
賢い人の英語コミュニケーション法	1			
英文テクニカルライティング70の鉄則	1			
書く技術・伝える技術	1			
BASIC800で書ける！理系英文	1			
BASIC800クイズで学ぶ！理系英文	1			
Heads Up Level4 Student Book with MultiROM	12		○	
Heads Up Level4 Teacher's Edition	1		○	
Heads Up Level4 Class CD	1		○	
Speak Now Level4 Student Book with Online Practice	10			
Speak Now Level4 Teacher's Book with Testing CD-ROM and Online Practice	1			
Speak Now Level4 Class Audio CD	1			

Speak Now All levels DVD	1			
Passport to Work Student Book with Full Audio CD	10			
Passport to Work Workbook	10			
Passport to Work Teacher's Book	1			
Tactics for TOEIC Listening and Reading Test Pack	10		○	
Tactics for Listening: 3rd Edition(Expanding) Student Book	10		○	○
Tactics for Listening: 3rd Edition(Expanding) Teacher's Resource Pack	1		○	○
Tactics for Listening: 3rd Edition(Expanding) Class Audio CDs(4)	1		○	○
Longman Preparation Series for the TOEIC Test: Listening and Reading, Introductory Course, 5th Edition	10			
Longman Preparation Series for the TOEIC Test: Advanced Course 5th Edition	10			
Successful Key to the TOEIC Test 1(2nd Edition)	10	○	○	○
Sounds Good: On track to listening success, Student Book 2 Student Book	10	○	○	○
Sounds Good: On track to listening success, Student Book 2 CD	1	○	○	○
Sounds Good: On track to listening success, Student Book 2 Teacher's Book	1	○	○	○
Sounds Good: On track to listening success, Student Book 3 Student Book	10		○	○
Sounds Good: On track to listening success, Student Book 3 CD	1		○	○
Sounds Good: On track to listening success, Student Book 3 Teacher's Book	1		○	○
TOEIC®テスト新・必修単語（徹底分析シリーズ）	5	○	○	○
速読英単語 入門編 [改訂第2版]	5	○	○	○
速読英単語 入門編 [改訂第2版] 対応CD	5	○	○	○
英語教材「聞き流すだけで英語をマスター」ピーターラビット (CD)	5		○	○
ベッキー・グルーエルde英語耳 友達との会話編	5	○	○	○
ベッキー・グルーエルde英語耳 仕事での会話編	5	○	○	○
DUO 3.0/CD基礎用	5	○	○	○
DUO 3.0	5	○	○	○
新TOEICテスト はじめてでも600点が取れる！	5	○	○	○
超整理!TOEICテスト ビジュアル英単語	10			
TOEIC®TEST英単語スマート600	5	○	○	○
TOEIC®TEST英単語スマート800	5	○	○	○
TOEIC®TEST英単語スマート990	5	○	○	○
中学3年間の英語で身につける英会話	5	○	○	○
中学3年間の英語を10時間で復習する本	5	○	○	○
高校3年間の英語を10日間で復習する本	5	○	○	○
魔法のリスニング	5		○	
ネイティブ厳選 日常生活英会話 まる覚え	5		○	
ネイティブ厳選 街の英会話 まる覚え	5		○	
ネイティブ厳選 ゼットイ伝わる英会話まる覚え	5		○	
魔法のコロケーション 英会話表現1000	5		○	○
魔法の英会話 フレーズ500—中学英語で世界中どこでも通じる	6		○	
99パターンでわかる中学英語文型の総整理	5	○	○	○
長文が読めるようになる中学英単語必修1200	5	○	○	○
Mr. Evineの中学英文法を修了するドリル	5	○	○	○
Mr.Evineの中学英文法+αで話せるドリル	5	○	○	○
Mr.Evineの英文法ブリッジコース[中学修了→高校基礎]	5	○	○	○
123英会話—1日10分、1カ月で英語を話せるようになる!	5		○	○
PCで徹底演習 TOEIC TESTリーディング	5		○	
PCで徹底演習TOEIC TESTリスニング	5		○	
TOEIC TEST新公式問題集	10		○	
TOEIC TEST新公式問題集Vol.2	10	○	○	○
TOEIC TEST新公式問題集Vol.3	10		○	○
TOEIC TEST新公式問題集Vol.4	10		○	○

TOEIC TEST新公式問題集Vol.5	10		○	○
新TOEICテストリスニング問題を鬼のように特訓するソフト!	5		○	
English Factory しごとの英語	5			
速読速聴・英単語TOEIC TEST STANDARD 1800	5	○	○	○
TOEICテストはじめて覚える英単語と英熟語	5	○	○	○
TOEIC TEST文法完全攻略	5	○	○	○
速読速聴・英単語TOEIC TEST GLOBAL 900	5	○	○	○
Surfing English	10		○	
グローバル教育拠点整備用品 教科書・教材 内訳一覧(平成25年度購入)				
書籍・ソフト名	冊数	① よく利用されているもの	② 特に英語力向上に効果があると期待しているもの	③ 5商船系高専で共有したほうがよいと考えるもの
はじめての新TOEICテスト本番模試	5			
TOEICテスト新公式問題集	5	○	○	○
TOEICテスト新公式問題集Vol.2	5	○	○	○
TOEICテスト新公式問題集Vol.5	5	○	○	○
ホーンブローワー海の勇者 DVD Vol.1～8	1			
艦長ホレーショ DVD	1			
白い嵐アドバンス・コレクターズ・エディション DVD	1			
海技士1N徹底攻略問題集	4	○	○	○
海技士2N徹底攻略問題集	4	○	○	○
海技士1E徹底攻略問題集	4	○	○	○
海技士2E徹底攻略問題集	4	○	○	○
英語学習ソフト 超字幕/しあわせの隠れ場所	1			
マスター・アンド・コマンダー DVD	1			
英和 海洋航海用語辞典	1	○	○	○
英和 船舶用機関用語辞典	1	○	○	○
和英・英和 総合海事用語辞典	1	○	○	○
スティーブ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン	1			
自分の気持ちを1分間英語つぶやいてみる	1		○	○
本当に「英語を話したい」君へ	1			
うまい、と言われる1分間スピーチ	1		○	○
絶対発音力	1			
話したい人のための丸ごと覚える厳選英文100	1			
Surfing English	5			
Developing Tactics for Listening(3rd ed) Student book	5		○	○
Developing Tactics for Listening(3rd ed) Teacher's Resource pack	1		○	○
Elementary Select Readings(2nd ed) Student book	5		○	○
Elementary Select Readings(2nd ed) Class Audio CD	1		○	○
Tetics for the TOEIC Test (Introductory Course)	5	○	○	○
Practical English Usage (3rd ed)	1	○	○	○
American Headway Level2 Student Book with Multi-Rom	5		○	○
American Headway Level2 Teacher's Book	1		○	○
American Headway Level2 Class Audio CDs	1		○	○
American Headway Starter Student Book with Multi-Rom	5	○	○	○
American Headway Starter Teacher's Book	1	○	○	○
American Headway Starter Class Audio CDs	1	○	○	○
Building Skills for the New TOEIC Test (2nd ed)	5	○	○	○
Reading Power 2(4th ed) Student Book	5		○	○
Reading Power 2(4th ed) Teacher's Guide with Answer Key	1		○	○
Perfect Practice for the TOEIC Test	5		○	○
Listening Promoter for the TOEIC Test	5		○	○
Basic Reading for the TOEIC Test	5	○	○	○
Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary	5		○	○
The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	5		○	○
AFP Science Report	5		○	○
Talk a Lot Book One Student book	5	○	○	○
Talk a Lot Book One Audio CD	1		○	○

Topic Talk Issues Student book	5			
Topic Talk Issues Audio CD	1			
PCで徹底演習TOEIC TEST模擬試験3回分	5		○	○
英検4級総合対策教本	5			
2013年度版英検4級過去6回全問題集	5			
英検5級総合対策教本	5			
小学生のためのよくわかる英検合格ドリル5級	5			
2013年度版英検5級過去6回全問題集	5			
児童英検きつずイングリッシュ	5			
児童英検全グレード対応ドリル	5			
最新版 留学&ホームステイのための英会話	5	○	○	○
漢字カード第1集	1	○	○	○
漢字カード第2集	1	○	○	○
(拠点整備用品) 漢字カード第3集 1冊	1	○	○	○
生活図鑑カード のりものカード	1	○	○	○
生活図鑑カード お店カード	1	○	○	○
生活図鑑カード 生活道具カード	1	○	○	○
英語教材DVD 旅行・飛行機 (英語)	5			
CD付き日常生活を英語でドンドン説明してみよう	5		○	○
Surfing English	4		○	

グローバル教育拠点整備用品 教科書・教材 内訳一覧(平成26年度購入)				
書籍・ソフト名	冊数	① よく利用されているもの	② 特に英語力向上に効果があると期待しているもの	③ 5商船系高専で共有したほうがよいと考えるもの
Hornblower and the Hotspur	1			
Hornblower During the Crisis and Two Stories Hornblowers Temptation and the Last	1			
Hornblower and the Atropos	1			
Beat to Quarters	1			
Ship of the Line	1			
Flying Colours	1			
Commodore Hornblower	1			
Lord Hornblower	1			
Admiral Hornblower in the West Indies	1			
英会話3行革命	1		○	○
TOEIC新公式問題集Vol.5	15	○	○	○
無線通信士用英会話CD	2	○	○	○
新TOEIC TEST 正攻法で攻める パート7 読解問題	1			
新TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ	1		○	
新TOEIC TEST 書き込みドリル (文法編)	1			
10分×10回×10日間 TOEIC TEST リーディング Part 7 トリプル10	2			
英語耳 発音ができるとリスニングができる	1			
瞬時にわかる英語リスニング大特訓	1			
一億人の英文法	1			
キクブン 270	1			
キクジュー Basic 1800	1			
留学のほえづら もう笑うしかない! 海外留学生22人の泣きつら体験	1			
ネイティブ500人に聞いた! 日本人が知らない、はずむ英会話術	1			
単語耳 英単語八千を一生忘れない「完全な英語耳」実践編Lv.2	1			
英語耳ドリル 発音&リスニングは歌でマスター	1			
海外経験ゼロでも仕事が忙しくても「英語は1年」でマスターできる	1			
CD2枚付 英語で楽しく雑談できる本	1			
CD3枚付 絶対『英語の口』になる! リアルな日常英会話で鍛えるシャドーイング大特訓50	2			
CD3枚付 絶対『英語の耳』になる! クールなネイティブ英語で鍛える! 口語表現&スラング・リスニング200	2			

CD怖いくらい通じるカタカナ英語の法則-ネイティブも驚いた画期的発音術（ブルーボックス）	1			
CD付 英語の発音 直前6時間の技術（しごとのミニマム英語）	1			
CD付 英語のプレゼン 直前5日間の技術（しごとのミニマム英語）	2			
突然聞きたれる！たちまち話せる！英語は「耳読」にかぎる！（CD付）	1			
英語口 英文法ができると英会話ができる 初級編 1	1			
英語口 英文法ができると英会話ができる 中級編 1	1			
英語で授業を受けてみる【中学校編】	1			
奇跡の音(ミラクルリスニング)8000ヘルツ英語聴覚セラピー	2			
日常英会話表現 4 0 0 0・The simplest is the best	1			
T O E I Cテスト 新公式問題集 V o l . 6	5			
聞いて覚える英単語キクタンTOEIC Test Score990	2			
エディ・ウッド・ゴー!! ハワイの海に消えた永遠の英雄伝説「エディ・アイカウ物語」	2			
Eddie Would Go *洋書 ハードカバー	3			
Eddie Would Go *洋書 ペーパーバック	2			

グローバル教育拠点整備用品 教科書・教材 内訳一覧(平成27年度購入)				
書籍・ソフト名	冊数	① よく利用されているもの	② 特に英語力向上に効果があると期待しているもの	③ 5商船系高専で共有したほうがよいと考えるもの
英語スピード・ライティング教本	1		○	○
Navigating English	3			
1・2級海技士 はじめての英語指南書	3			

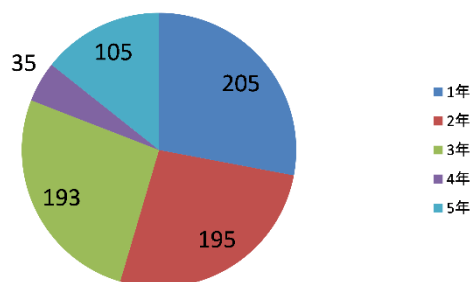
グローバル教育拠点整備用品 教科書・教材 内訳一覧(平成28年度購入)				
書籍・ソフト名	冊数	① よく利用されているもの	② 特に英語力向上に効果があると期待しているもの	③ 5商船系高専で共有したほうがよいと考えるもの
Let's Enjoy Maritime English				○

グローバル教育拠点整備用品 教科書・教材 内訳一覧（期間内）				
書籍・ソフト名	冊数	① よく利用されているもの	② 特に英語力向上に効果があると期待しているもの	③ 5商船系高専で共有したほうがよいと考えるもの
やさしく学ぶ英語リピートプリント中 1	10			
やさしく学ぶ英語リピートプリント中 2	10			
やさしく学ぶ英語リピートプリント中 3	10			
TOEICテスト新公式問題集 Vol.2	10	○		
TOEICテスト新公式問題集 Vol.3	10	○		
Surfing English	15			
えいご漬けバイリンガルシステム	20	○		
えいご漬け改訂版	20	○		
えいご漬けルールとしくみ	20	○		
えいご漬け2回戦	20	○		
えいご漬け＋対話	20	○		
TOEICテスト新公式問題集Vol.2	10	○		
TOEICテスト新公式問題集 Vol.3	10	○		
新TOEIC TEST 全力特急 絶対ハイスコア	20			
新TOEIC TEST 正解特急 ルール55	20			
新TOEIC TEST 模試特急 200問1本勝負	20			
新TOEIC TEST 時短特急 ミニ模試×5回	20			
1駅1題 新TOEIC TEST 文法特急	20			
新TOEIC TEST 文法特急2 急所アタック編	20			
新TOEIC TEST 900点特急 パート5&6	20			
TOEICテスト 新公式問題集 Vol.4	20	○		

TOEICテスト 新公式問題集 Vol.5	20	○		
DUO 3.0	20		○	
DUO 3.0/CD基礎用	20		○	
DUO 3.0/CD復習用	20		○	
やさしく学ぶ英語リピートプリント 中1	10			
やさしく学ぶ英語リピートプリント 中2	10			
やさしく学ぶ英語リピートプリント 中3	10			
1 駅 1 台 新TOEIC TEST 読解特急	20			
新TOEIC TEST 読解特急2	20			
新TOEIC TEST 読解特急3	20			
新TOEIC TEST 読解特急4 ビジネス文書編	20			
新TOEIC TEST パート1・2 特急難化対策ドリル	20			
新TOEIC TEST パート1・2特急II 出る問 難問200	20			
新TOEIC TEST パート3&4 特急実力養成ドリル	20			
新TOEIC TEST パート3&4特急II 出る問 総仕上げ	20			
新TOEIC TEST 読解特急5 ダブルパッケージ編	20			
新TOEIC TEST 正解特急2 実戦模試編	20			
新TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ	20			
1駅1題 新TOEIC TEST 単語特急	20			
新TOEIC TEST 単語特急2 語彙力倍増編	20			
新TOEIC TEST 単語特急3 頻出語言い換え集	20			
新TOEIC TEST 熟語特急 全パート攻略	20			
新TOEIC TEST 入門特急 とれる600点	20			
ECDIS Procedure guide 1st 2012 Edition/WITHERBY Seamanship	3			
The ECDIS Manual 1st 2012 Edition Publisher:WITHERBY Seamanship	3			
From Paper chart to ECDIS a Practical Voyage Plan 1st 2009 Edition	3			
Integrated Bridge System Vol.1 & 2 Radar & AIS/ECDIS and positioning 2010 Edition	3			
[Operational use of ECDIS(Model course 1.27)2000 Edition]	3			
英和海洋航海用語辞典	20			
無線通信士用 英会話CD	20			
Step-by-Step Prep for TOEIC TEST ステップ式徹底演 習<基礎>編	22			
Step-by-Step Prep for TOEIC TEST ステップ式徹底演 習<中級>編	22			
Step-by-Step Prep for TOEIC TEST ステップ式徹底演 習<上級>編	22			
TOEICテストへのニューアプローチ-Essential Approach for the TOEIC Test	22			
TOEICテストトータル演習-Total Strategy for the TOEIC Test	22			

さらに、学生に対して「グローバル教育拠点利用に関するアンケート」を行った結果を示す。このアンケートは、学生から見たグローバル教育拠点の利用状況と利用目的、その効果を見るもので、最終年度に向けて課題を抽出することが目的である。アンケートは乗船実習中の学生を除く 5 高専商船学科全員を対象とした。以下、設問ごとの設問と集計結果を示す。

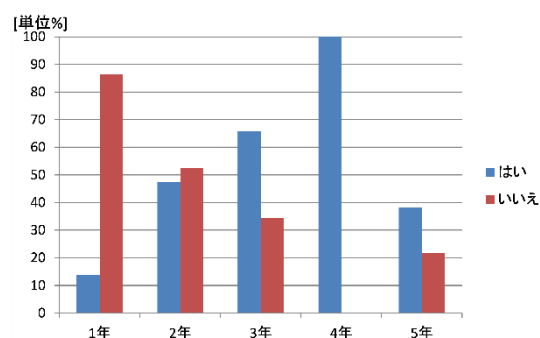
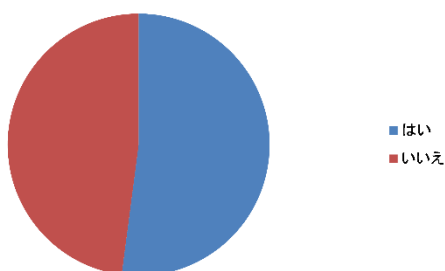
問1 学年と所属コースを教えてください。
 _____年 航海 ・ 機関 ・ 共通クラス (○で囲んでください)



回答者学年別人数

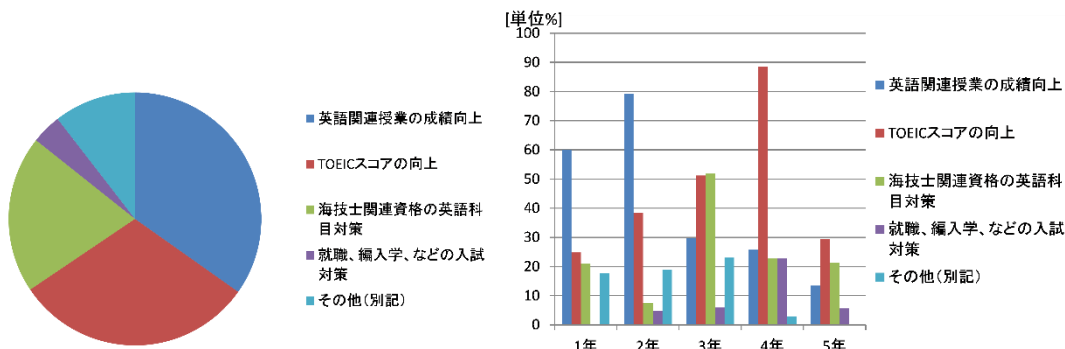
問2 グローバル教育拠点（英語補助教員や特別教員のいる部屋）を使ったことがありますか？

☐ はい ☐ いいえ → 問15に進んでください。該当する項目に☑してください。



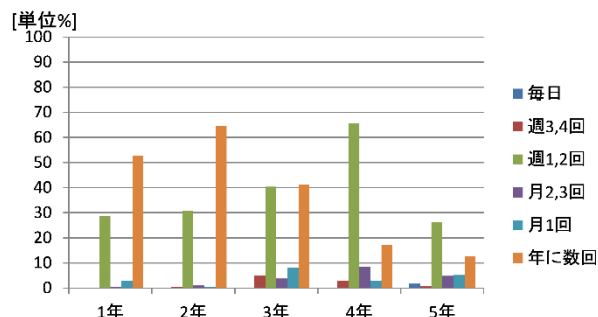
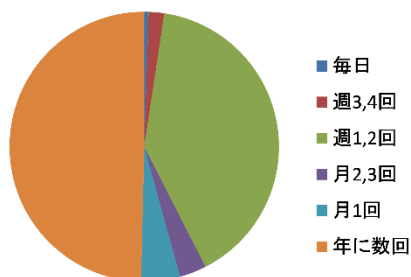
問3 主な利用目的を教えてください。該当する項目に☑してください。（複数選択可）

- ☐ 英語関連授業の成績向上
☐ TOEIC スコアの向上
☐ 海技士関連資格の英語科目対策
☐ 就職、編入学、などの入試対策
☐ インターンシップや留学の事前学習
☐ その他 ()



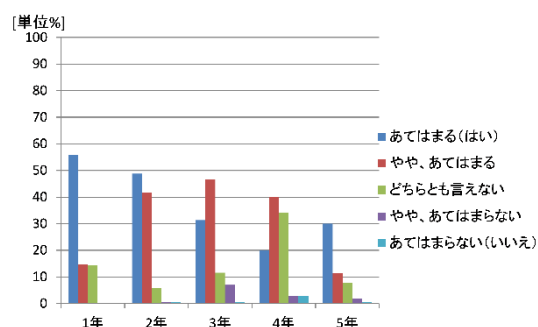
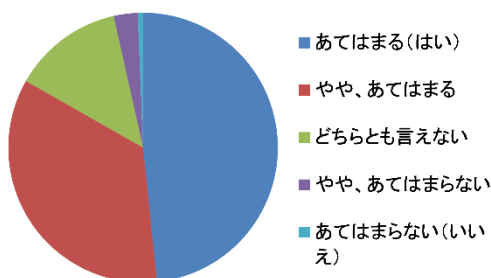
問4 平均してどのくらい使ったか教えてください。

□毎日 □週3,4回 □週1,2回 □月2,3回 □月1回 □年に数回



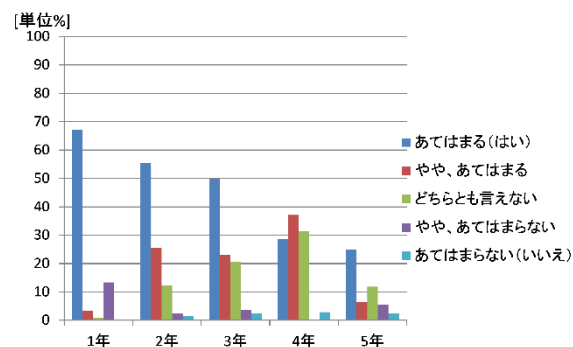
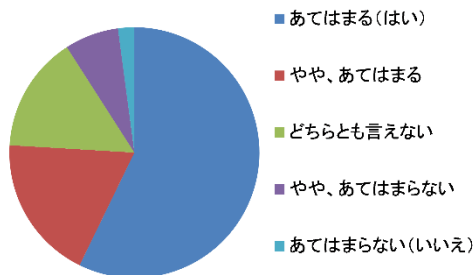
問5 英語の先生（英語補助教員や特別教員）の説明はわかりやすかったですか？

5. あてはまる（はい）（該当番号を、○で囲んでください）
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない（いいえ）



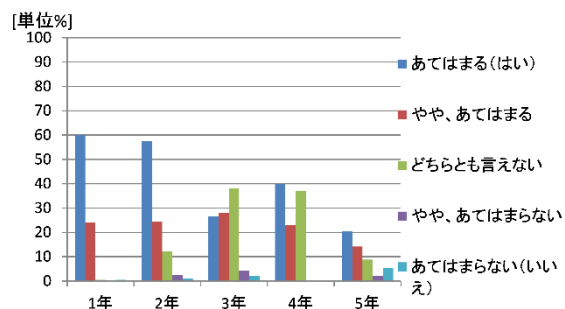
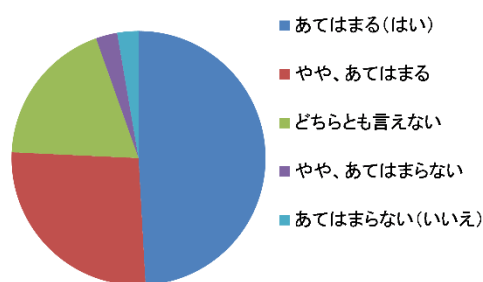
問6 外国人と英語で会話をしたい、と思うようになりましたか？

5. あてはまる（はい）
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない（いいえ）



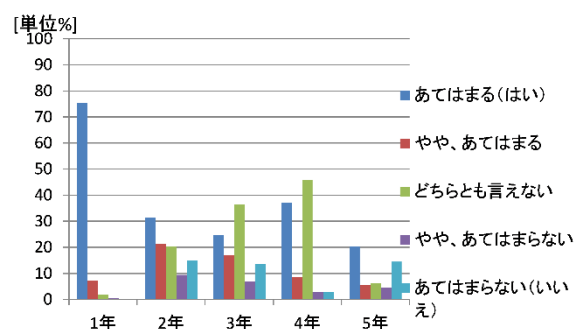
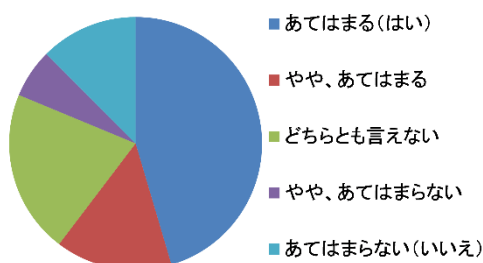
問7 英語をもっと勉強したいと思うようになりましたか？

5. あてはまる (はい)
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない (いいえ)



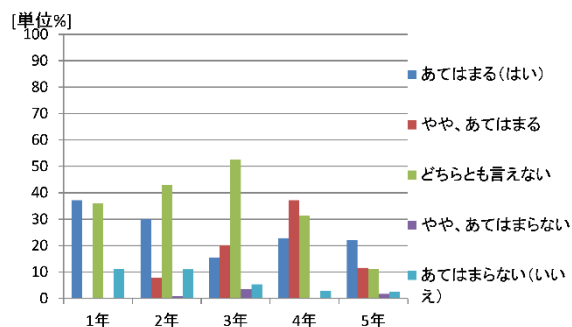
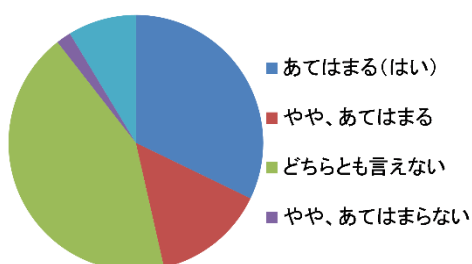
問8 外航船舶に乗りたいと思うようになりましたか？

5. あてはまる (はい)
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない (いいえ)



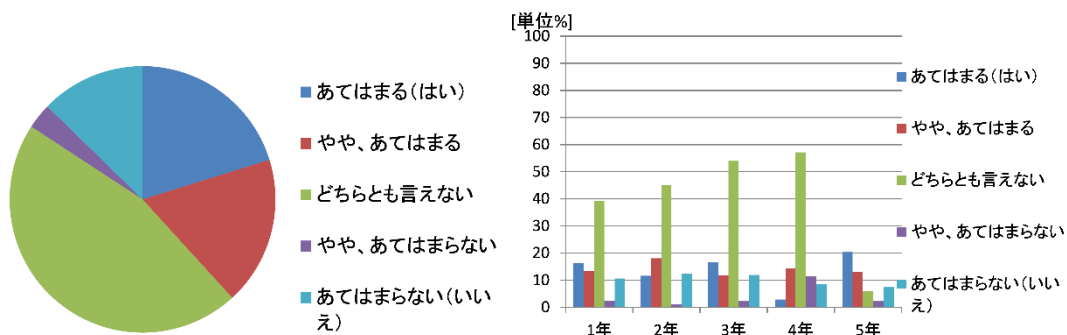
問9 TOEIC の試験対策に役立ちましたか？

5. あてはまる (はい)
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない (いいえ)



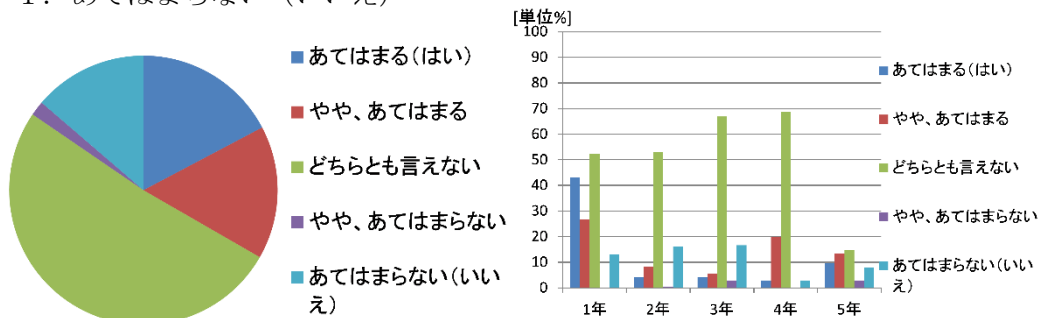
問 1 0 海技士国家試験（英語）の試験対策に役立ちましたか？

5. あてはまる（はい）
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない（いいえ）



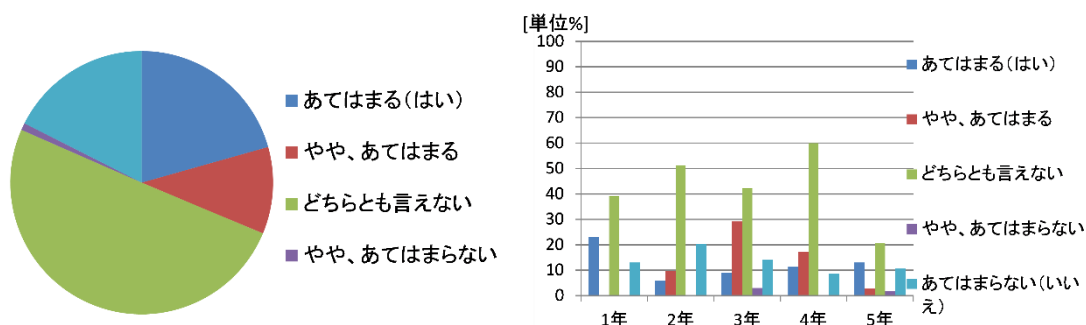
問 1 1 就職採用試験や編入学試験に役立ちましたか？

5. あてはまる（はい）
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない（いいえ）



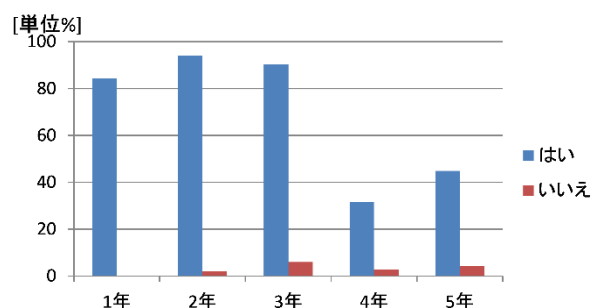
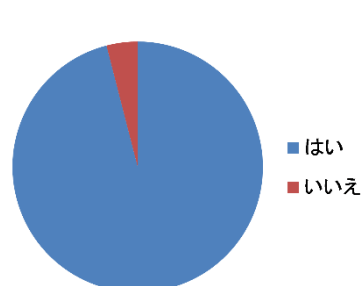
問 1 2 インターンシップや留学などで役に立ちましたか？

5. あてはまる（はい）
4. やや、あてはまる
3. どちらとも言えない
2. やや、あてはまらない
1. あてはまらない（いいえ）



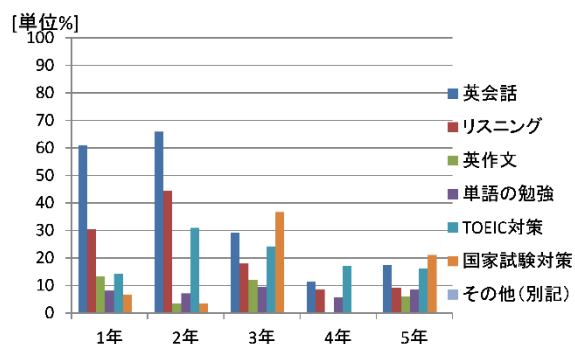
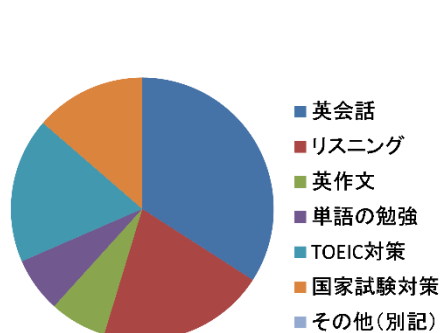
問 1 3 グローバル教育拠点（英語補助教員や特別教員のいる部屋）を利用して良かった
 ですか？

☐ はい ☐ いいえ



問 1 4 特に良かった内容を教えてください。

☐ 英会話
☐ リスニング
☐ 英作文
☐ 単語の勉強
☐ TOEIC 対策
☐ 国家試験対策
☐ その他 ()



問15 問2で、「いいえ」に回答した方にお聞きします。

グローバル教育拠点（英語補助教員のいる部屋）を使わなかった理由を教えてください。

例）あることを知らなかった。利用できる時間を知らなかった。など

- ・ 存在、あること、場所、何をしているかを知らなかった。
- ・ 催しているものが、グローバル教育拠点に関したものとは知らなかった。
- ・ 時間がなかった。（部活や昼食の時間、他の勉強など）
- ・ 参加したいと思っているが、参加しにくい。
- ・ レベルが低い。
- ・ まだ利用しなくてもよいと思った。必要性を感じない。
- ・ 内航船を希望している。
- ・ 基礎力がないので行きにくい、勇気がなかった。

等

問16 ぜひ利用したくなる企画やイベント、アイデア、英語に関して欲しいと思う教材など、ありましたら教えてください。

- ・ 強制参加
- ・ 映画を見る
- ・ 季節のイベント
- ・ 教科書にない実用英語
- ・ TOEIC 模擬テスト
- ・ 多読の本を増やしてほしい
- ・ 国家試験対策
- ・ 英語の授業での紹介
- ・ パーティー形式
- ・ 個別対応
- ・ 体を動かすもの、ゲーム形式
- ・ 長文読解
- ・ 長期休暇での合宿
- ・ 寮の歓迎会
- ・ 中学生程度の教材
- ・ 勉強の仕方を知りたい
- ・ 放課後に時間を作してほしい
- ・ 船員と英語で話す機会がほしい
- ・ もっと情報がほしい

等

2-3-5 平成 28 年度

プロジェクト最終年度として、グローバル教育拠点利用率の向上及び継続性を考慮したプログラムの実施を行った。また、これまで各校で行ってきたプログラムの共有化として、従来の使用教材の情報交換に加え、推薦教材の具体的な紹介を行うことで、教材利用の有効化及び教材選定の効率化を行った。さらに各個別プログラムの実施状況を事例集としてまとめることで、5 高専で学生のレベルや目的に合わせてプログラムを選択し、実施できる体制を整えた。

◆各校のグローバル教育拠点利用状況

■富山高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

例年に引き続き、長山特任教授による商船学科学生向けの特別教育活動を実施した。

年度	平成 28 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	420	491	424	399	37	75	408	159				
累計人数	7926	8417	8841	9240	9277	9352	9760	9919				

(1) 学年毎の「特別教育活動」での英語指導および放課後英語個別指導

1 年生：前期は **Navigating English** を用いて英語力アップに努めた。後期も同様である。10 月は英検準 2 級リスニング指導を 2 回行った。11 月からは、放課後 2 名～4 名の希望者対象に第一級海上特殊無線技士試験に向けた学習支援を行った。

2 年生：前期、後期は **Navigating English** を用いた英語力アップおよび職業意識向上に努めた。放課後は、前期の 7 月から資格試験に向けた英語個別指導を行った。例えば機関コースの希望学生 5 名には、2 級機関海技士資格取得に向けたグループ学習指導を行った。航海コースの希望者 3 名～5 名に、夏休みから引き続き後期にも第一級海上特殊無線技士資格取得支援を行い、成果が上がった。

3 年生：前期特別教育活動は、航海・機関コース別に分けて「1・2 級海技士はじめての英語指南書」を用いて海技士資格取得に向けて、学習支援を行った。後期は、コース別にしないで、語彙取得を中心に **TOEIC** プリント教材を用いて英語力アップを目標に学習支援をした。放課後の希望者対象英語個別指導は、前期・夏休み・後期を通して、2～3 名対象に「1・2 級海技士はじめての英語指南書」を用いて海技士資格取得、および第三級海上無線通信士の資格取得支援を行い、成果が上がった。

4 年生：前期のみ特別教育活動を行った。**TOEIC** テストに向けて、**TOEIC** 教材プリントを用いて、リスニングを中心に英語力アップを図った。前期の放課後の希望者対象英語個別指導では、第一級海上特殊無線技士資格取得に向けて学習支援を行った。夏休みには引き続き、海技士や通信士資格取得に向けた学習支援を行った。

5 年生：前期・後期の英語特別教育活動では、**TOEIC** テストに向けて、文法、リーディングを中心に英語力アップを図った。放課後は大学編入試験の英語対策を必要とした学生には学習指導を行った。

(2) 留学生との交流学习

留学生との交流学习を実施する目的は、英語でのコミュニケーション能力を高めるために、どのようなスキルが適切かを学生に気付かせることである。質問シートを事前に作成し、タイとシンガポールから本校に 3 ヶ月間留学に来た学生 8 名と小グループで交流活動を実施した。実施日は、6 月 28 日（火）と 7 月 1 日（金）の 2 日間で、参加学生は 1 年生から 4 年生までの 110 名である。



メモを取りながら談笑する 3 年生 (6/28 実施)



集中しながら質問する 1 年生(6/28 実施)



質問シートを活用する 2 年生 (7/1 実施)



余裕を持って会話を楽しむ 4 年生 (7/1 実施)

(3) 放課後の補講 (学習支援) : 英語個別学習のまとめ

最近、学生らはグループで切磋琢磨しながら学習するよりは、個別指導を好む傾向にある。また、TOEIC テストや海技士資格試験のみならず、通信士・無線士資格試験、英検、大学編入試験対策など、学生が希望する個別指導内容が多様化してきている。そこに配慮して、チューター的な個別学習を希望する学生には、時間と曜日の希望に添えるように対応している。また、小グループでの学習活動を厭わない学生に対しては、時間と曜日を固定化し小グループでの来室を促し、グループ間での学生同士のコミュニケーションに配慮しながら、学習指導を行っている。

これまでに、特別教育活動、放課後補講とあわせて引き続き TOEIC スコアの向上を目指してきた。具体的な目標は平均点の向上および最高点の向上である。最高点の観点からは本プロジェクト実施前のクラス最高点 400 点台という状況からプロジェクト開始後、500 点以上のスコアを持つ学生が複数人いる。TOEIC スコアの高い学生はクラス全体、後輩へのスコア向上に意識を向ける波及効果につながると期待している。そのため最終年度は、最高点の向上を具体的な目標として取り組んだ。

(4) 「航海英語」と「機関英語」の授業支援

2 年生航海英語Ⅰと 5 年生の航海英語Ⅱと機関英語Ⅱの授業支援を通して、学生の英語学習の動機づけを図ってきた。特に、機関英語Ⅱにおいては、「はじめての英語指南書」をテキストに用いて、英語教員と専門教員との Team-teaching 方式で指導を行った。専門教員による講義は、英語で書かれている専門知識と英文内容を繋ぐ働きをした。学生の理解を確かめ、専門用語の語彙習得を強化するために設問方式によるプリント副教材を作成した。Team-teaching 指導は、学生の専門知識を深め、英語学習への集中を高めることができ、学習効果が認められた。

2. TOEIC

商船学科学生の TOEIC スコアの推移を以下に示す。本プロジェクト開始年度（平成 24 年度）に席上過程修了した平成 25 年度卒業生スコアに対し、平成 26 年度、27 年度卒業生スコアは高い。360 点程度を維持している。平成 28 年度卒業生のスコアの低下を分析すると、富山高専商船学科学生として初めて 4 年生後期に長期乗船実習（5 ヶ月）が導入された学年であった。例年、就職活動準備としての取り組みとしてスコアを伸ばす 4 年後期に乗船実習となり、下船後就職活動が始まったため、平成 28 年度卒業生は TOEIC スコアが低い結果となった。平成 29 年度卒業生（現 5 年生）も同様の理由から高スコアではないものの、平成 30 年卒業生（現 4 年生）は実習前の重点的指導に切り替えて比較的高い平均点（357）となった。平成 31 年度卒業生（現 3 年）は今後のスコアの向上に期待している。

商船学科学生の TOEIC スコア分布と平均値の推移、平成 28 年度 12 月時点

	5年生9月(席上課程修了)時点での最高点				在学中学生のスコア		
	平成25年度 卒業生	平成26年度 卒業生	平成27年度 卒業生	平成28年度 卒業生	平成29年度 卒業生 (現5年)	平成30年度 卒業生 (現4年)	平成31年度 卒業生 (現3年)
600点以上		1(690点)		2(760, 650)	1(615)	1(660)	
550点~ 599点			4	0	0	1	
500点~ 549点		2	3	1	1	0	
450点~ 499点	1	3	3	2	0	1	
400点~ 449点	1	3	8	3	4	3	2
350点~ 399点	7	7	2	7	9	15	3
300点~ 349点	12	7	4	5	9	8	7
300点以下	17	6	14	22	13	7	25
最高点	490	690	575	760	615	660	410
平均	306	365	360	323	333	357	270
受験学生数	38人	29人	38人	36人	36人	36人	37人

※4年生は9月から航海訓練所での実習となり記載されているスコアは5月までとなっている。

3. 展開プログラム

(1) 長山特命教授 担当

- ・ 特別教育活動における英語授業
- ・ 留学生と商船学科学生との交流学習
- ・ 放課後の個別指導（TOEIC スコア向上、資格取得を目指した学生英語指導）
- ・ 航海英語と機関英語の授業支援

(2) 海木特命助教 担当

富山高専教職員を対象に毎週 木、金曜日に【ヤングクラス】【シニアクラス】に分けて、教員向け英語力向上講座を実施した。また、火曜日に英語相談日を設定した。

【前期／後期】

火曜日 英語相談日

木曜日 11:00-12:00【ヤングクラス】／13:00-14:00【シニアクラス】

金曜日 12:00-13:00【シニアクラス】／13:00-14:00【ヤングクラス】

主な内容は、

- ・ 英字新聞（Student Times）からの記事を使って書くこと、話すこと、読むことなど、英語の総合的スキル・アップを図る。
- ・ 「クール・ジャパン」「ニュースで英会話」「スーパープレゼンテーション（TED）」などTVの語学番組を教材に、聞くこと、話すことなど、総合的英語力のスキル・アップを図る。

- ・ 雑誌記事（インタビューなど）や書籍を用いた英語講座。
- ・ 県立高校や高専の入試問題、大学入試（センター試験など）入試問題、あるいは TOEIC の問題など。
- ・ 外国からの留学生や訪問者との自由英会話教室。
- ・ 英語論文作成支援。

教材については、平成 27 年度のものを引き続き利用した。

■ 広島商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

グローバル教育拠点は学生に対して常時開放しており、毎日の昼休みや放課後などに自由に活用している。また特任助教による専門英語の授業にも活用されている。外国人講師による英会話は毎週火曜日の昼休みに実施しており、商船学科の学生を中心に毎回 10 名程度が参加している。また商船学科教員による TOEIC リスニング対策の授業を実施している。平成 28 年度におけるグローバル教育拠点の利用者数は 11 月末時点で延べ 2,000 人程度である。

年度	平成 28 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	214	200	224	252	44	146	584	292				
累計人数	1900	2100	2324	2576	2620	2766	3350	3642				

2. TOEIC

TOEIC IP テストについては、商船学科 4 年生に対しては毎年 7 月頃に実施している。また平成 27 年度より商船学科 5 年生についても 1 月に TOEIC を受験している。受験状況については次の表のとおりである。

TOEIC 受験状況（商船学科 4 年生）

受験年	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
受験月日	1 月 10 日	1 月 14 日	7 月 28 日	6 月 29 日	8 月 8 日
受験学年	4 年生	4 年生	4 年生	4 年生	4 年生
受験人数	35	45	38	48	42
平均点	272	242	239	268	278
最高点	385	490	605	685	595

TOEIC 受験状況（商船学科 5 年生）

受験年	平成 27 年度	平成 28 年度
受験月日	1 月 10 日	1 月 12 日予定
受験学年	5 年生	5 年生
受験人数	40	未実施
平均点	226	未実施
最高点	395	未実施

3. 展開プログラム

グローバル教育拠点の活用により、TOEIC の対策を行なっている。グローバル教育拠点は、学生が自主的に利用するほか、特任助教による専門英語の授業や外国人講師による英会話、商船学科教員によるリスニング対策などで活用している。

■弓削商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

年度	平成 28 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	24	55	52	12	0	6	53	27	6			
累計人数	961	1016	1068	1080	1080	1086	1139	1166	1172			

グローバル教材貸出数

年度	平成 28 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
貸出数	24	33	25	16	0	6	2	4	2			
累計数	85	118	143	159	159	165	167	171	173			

グローバル教員による教室での英語授業

年度	平成 28 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	280	140	210	276	0	82	120	120	80			
累計人数	6891	7031	7241	7517	7517	7599	7719	7839	7919			

2. TOEIC

TOEIC 受験者数

年度	学年	受験者数/ クラス	受験率	平均点	学年	受験者数/ クラス	受験率	平均点	全受験者数
24	3	0/28	0%	-	4	6/22	26%	257.5	6
25	3	22/38	57.9%	257.5	4	23/28	82.1%	266	45
26	3	26/38	68.4%	275.5	4	39/39	100%	275.7	65
27	3	37/37	100%	296.3	4	38/38	100%	302.9	73
28	3	21/42	50%	287.8	4	38/38	100%	338.7	59

ただし 3 年生で受験していない学生は、29 年 1 月 14 日（土）に実施予定。

3. 展開プログラム

(1) 28 年度英語向上プログラム

これまで 2～4 年生を対象としてきたが、2 年生にはまだ難しく、効果が薄いと考え、28 年度は 3～5 年生のクラス対象として、週 1 コマ（90 分）時間割に組み込んだ。なお、学校の授業体系が 50 分授業から 90 分 1 コマへ変更されたため、昨年と記載方法が異なる。

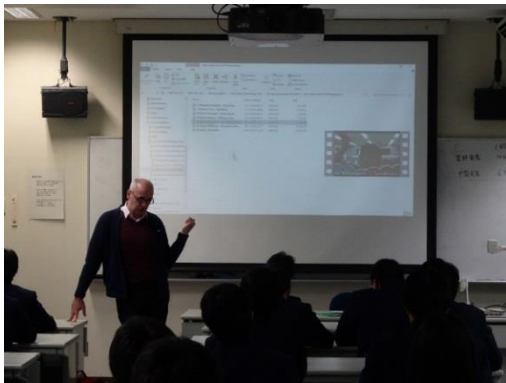
- ・ 3 年生：TOEIC 向上 1（後期金曜日 2 コマ）Gary
- ・ 4 年生：TOEIC 向上 2（前期金曜日 3 コマ）Gary
- ・ 5 年生：TOEIC 向上 3（前期金曜日 2 コマ）Gary

定期試験及び単位認定はないが、時間割に組み込まれているため全員出席している。

(2) TOEIC 対策

3 年生以上が TOEIC を全員が受験するという意識は、浸透してきた。受験率は、ほぼ 100%となっている。

平均点が向上してきているとはいいいがたいが、全員が英語の必要性を感じてきたので、TOEIC 向上授業がやりやすくなってきたと Gary 特命助教も話している。



Gary 先生による TOEIC 授業



Gary 先生による TOEIC 授業

(3) グローバル教室における英会話教室

火・水・木・金曜日の放課後 15:00-18:00 の 3 時間行っている。毎回出席者名簿を付けている。

火・水・木曜日は、Matt 特命助教担当で、この日は Ark 外語学園の協力により、他のネイティブ教員も手伝いに来る。金曜日は、Gary 特命助教の担当である。学生への周知として、グローバル教室前及び各教室にポスターを掲示している。

Good! 大学附属国際教育事業 「海事人材育成プロジェクト」

英会話教室 ENG LISH

場所：グローバル教育センター（商船学科棟2F）

日時：火曜日 15:00~18:00 (Matt etc.)
水曜日 15:00~18:00 (Matt etc.)
木曜日 15:00~18:00 (Matt etc.)
金曜日 15:00~18:00 (Gary)

対象：商船学科 1 年~5 年

講師 (Instructors):

Matthew Winfield

Gary Craig Baird

Todd Westcott

Isadora Allen

Daniel Briden

問い合わせ：商船学科 村上知弘 もしくは 学生課教務係

英会話教室案内

大学附属国際教育事業 「海事人材育成プロジェクト」

グローバル教育センター 利用案内

貸出について

1. あもしくは ① 合計 3 冊まで。
2. ② ウォークマンは、一人一台に限る。
3. ③ ウォークマンのみの貸し出しは、行いません。
4. また貸しは、絶対にしないこと。
5. 無断で複製を行わないこと。

貸出期間

2 週間。

延長したい場合も、一度返却して、再び借りてください。

貸出及び返却

毎日昼休み 13:00~13:20

受付場所

グローバル人材教育センター 1 階（商船学科棟 2 階一階）

参考：商船学科（学校）の貴重な財産です。汚損・破損がないように大切に取り扱いましょう。ご利用にあたっては本館利用のマナーをお守りいただくようお願いいたします。

弁償金

紛失又は汚損若しくは破損された図書及び印に
関して、弁償金を徴収します。もしくは、返物を
買って返却してもらいます。

教材利用方法



グローバル教室英会話



教材の貸し出し

(4) グローバル教室における教材貸出

学校の授業時間が 50 分 8 時間から 90 分 4 コマへと変更した関係上、昼休みの時間も変更された。それに伴い、貸出時間も変更した。月一金曜日の毎日 12:40-13:00 に教材の貸し出しを行なっている。

貸出業務は本プロジェクトの担当事務員が行なっている。

グローバル教室教材

種類	内訳	所有数
テキスト	TOEIC 関連書籍	137 冊
	英語関連書籍	129 冊
	海事関連書籍	15 冊
CD	英会話 CD	51 種類
DVD	海事関連 DVD	50 本
	英語関連 DVD	26 セット
電気機器	CD プレーヤー	40 台
	電子辞書	5 台

■大島商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

前年度に引き続き、本プロジェクトで採用された特命助教 1 名が月曜日のみ 3 時間、火曜日～金曜日は 4 時間、グローバル教育拠点教室に常駐し、各種試験対策（就職・進学・TOEIC 等）、英会話のための英語講座等を行っている。

曜日	月	火	水	木	金
時間	15:00～18:00	14:00～18:00	14:00～18:00	14:00～18:00	14:00～18:00

※月曜日：3 時間、火曜日～金曜日：4 時間常駐

年度	平成 28 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	5	8	30	32	5	2	9	10	9			
累計人数	898	906	936	968	973	975	984	994	1003			

2. TOEIC

個人での受験・IP 受験を問わず、学生からの要望や個人能力に応じて講座を開講した。低学年の受講者に対しては、単語力と基礎文法に重点をおいて実施した。

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
2016 年 4 月 18 日	12 名	326.3	415	250	商船学科 4 年生 1 名(315 点) 商船学科 5 年生 11 名

3. 展開プログラム

国家試験（海技従事者）や進学（大学編入学受験）、就職試験等において実施される英語科目への対策として実施。学生からの要望によっては個別にも対応した。

また、各種試験の実施日程を掲示することで、拠点利用者に対して、具体的な目標と目標達成までの段取りについてのアドバイス、確認を適宜実施した。

4. 教材

テキスト教材（約 100 冊）と電子辞書教材（約 30 点）を取り揃え、講義時に活用している。テキスト教材については学生への貸し出しも行っている。（貸出率約 30%）

■鳥羽商船高等専門学校

1. グローバル教育拠点概要

これまで実施してきた体制を継続し、グローバル教育拠点利用における英語力向上プログラムの維持と向上に必要な事項を精査した。また、上級生を対象に TOEIC 直前対策を行った。

年度	平成 28 年度											
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用人数	82	20	66	40	18	14	48	51	20			
累計人数	905	925	991	1031	1049	1063	1111	1162	1182			

2. TOEIC

TOEIC 対策は学生毎に曜日と時間を決めて内容を決定し、個別の技量に合わせた内容で実施した。特に本年度は試験前の 5 年生を対象にボキャブラリとリスニングテストを実施する週間を定め、希望時間に参加できる講座を設けた。積極的に参加した学生より「TOEIC スコアが上がった。」「受検のコツを毎回聞けてためになった。」といった声があった。

さらに新学期初めに学年毎に、TOEIC 及びグローバル拠点の案内を行った。利用者数の増加が若干あったため広報活動としても有意義であったと考える。

受験日	受験者数	スコア			備考
		平均	最高	最低	
5 月	27	296	555	190	5 年生
6 月	10	328	515	220	4 年生
7 月	2	265	330	200	3 年生

3. 展開プログラム

曜日ごとに講義内容を設定し、興味のある学生が参加できる体制をとった。

- ・ 月曜日：英会話
- ・ 火曜日：英会話、TOEIC
- ・ 水曜日：基礎英語、英会話、TOEIC
- ・ 木曜日：英会話、リスニング
- ・ 金曜日：リスニング、英会話、基礎英語

また、利用学生数を増やすために次のプログラムを実施した。

- ・ ベーシック

ショートタームプログラムとして、昼休みの 15 分をあてる。

短時間でも拠点に来室する学生が見受けられ、午後の授業前に参加する学生があった。

- ・ ハイレベル

ビジネス英語ライクなプログラム。

自己紹介から始まり、身近なテーマについてプレゼンテーションやアピールが行えるように取り組む。

自己アピールや卒業研究の本校以外での発表や国際交流プログラム参加者の事前研修なども行った。

論文のアブストラクトやフルペーパーの指導も行った。

- ・ TOEIC 特別対策講座

毎週 1 時間程度、ヒアリングの小テストとその確認を行う。また次回テストのための単語の暗記等自習も助ける指導を行っている。

- ・ 自学自習

スペースを開放し、気軽に質問ができる区画を作成する。ポスターやパンフレット等を作成し、入室しやすい雰囲気を浸透させる。

- ・スピーチコンテスト参加者の利用

U. L. JAPAN

第10回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト

- ・海外留学のための英語指導、論文、ポスター添削

ISTS (International Symposium on Technology for Sustainability)

JSTS (Japan International Symposium on Technology for Sustainability)

Most outstanding poster award 受賞

4. 教材

ボキャブラリとリスニングの上達のため、取り揃えた教材の中から特に、TOEIC 対策用のテスト形式のものや、写真があるものを中心に使用した。また、ストーリー性のある短文集を使い、文脈から全体をイメージすることで英語の理解が促進するように心がけた。

2-4 英語教育プログラムの成果

2-4-1 富山高等専門学校

平成 24 年度後期の準備期間から開始した本プロジェクトも今年度をもって終了となる。プロジェクト準備から尽力頂いた長山先生、上坂先生、平成 25 年度から教員向け英語講座を企画し、進行して頂いた海木先生のおかげで富山高専では十分な成果が得られた。本サブプロジェクトで養うべき海事技術者に必要な資質として、(1)基本的なコミュニケーション能力、(2)基礎的な英語力、(3)外地駐在への意欲を挙げている。長山先生には特別教育活動を時間割に組み込んだ英語授業をうまく活用し、英語の基礎力はもとより、コミュニケーション能力、外地駐在への意欲の向上に資する授業を展開された。具体的には、本プロジェクトで刊行した *Surfing English* や *Navigating English*、TOEIC 問題集を教材とする授業を通して英語の基礎力を向上させた。かつ短期留学生（フィリピンやシンガポール、タイ、北アイルランドの学生）を特別教育活動に参加させた交流学习を実施することで英語でのコミュニケーションに関する素養を身に付けさせた。また、長山先生自身がイギリスに駐在する日本人にインタビューを行い、その内容もまた特別教育活動教材として活かすことで外地駐在員について現場の声を学生に伝えた。さらに、長山先生を含む 5 つの商船学科を有する高専の英語教員と商船学科専門教員が共同で仕上げた“1・2 級海技士 はじめての英語指南書”が刊行され、実際に学生がその本をもとに勉強していることも成果の一つである。

学生の教育に直結する長山先生の取り組みと平行して実施された海木先生による教員向け英語講座と英語コンテンツ作成の指導、英語論文や文書作成に向けたアドバイスで商船学科教員の英語力とコミュニケーション能力が磨かれた。私自身も海木先生のおかげで、英語の基礎力が伸び、英語を話せないことが恥ずかしくないこと、それでもコミュニケーションをとることができることを体感できた。それらを商船学科学生に伝えることで彼らの素質を向上させる一助として貢献できたことは自分にとっても大きな喜びであった。教員向け英語講座に参加している各教員もそれぞれの視点で学生の英語力向上につながる素質を身につけた。以上の観点から、サブプロジェクトの目的を概ね達成できた取り組みが行えた。

2-4-2 広島商船高等専門学校

グローバル教育拠点については、当初は学生の自学自習の場として設定していたが、特任助教による英語の授業や外国人講師による英会話教室の開講などにより、活用の幅を広げた結果、多くの学生が利用できるようになった。平成 25 年度の延べ利用者数は 700 人程度であったのに対し、平成 28 年度は 11 月時点で約 2,000 人が利用している。

TOEIC 試験については、プロジェクト開始前の平成 23 年度の平均スコアは 242 点であったのに対し、平成 28 年度の平均スコアは 278 点であり、30 点ほど向上している。平成 27 年度からは、学習効果を確認するために、5 年生についても TOEIC 試験を受験するようになったが、受験時期が学年末であるため、スコアはあまり良くない。

総合的な評価として、グローバル教育拠点を設置することで、学生が英語を学習する機会を増やすことができた。結果的に TOEIC スコアにも向上が見られ、一定の成果を得ることができたと言える。その一方でグローバル教育拠点の設置だけでは、学生がもともと持っていた英語に対する苦手意識の克服や、英語に対する学習意欲の向上には、直接的には寄与できていないようにも思われるため、今後に向けて検討が必要である。

2-4-3 弓削商船高等専門学校

本プロジェクトによって、商船学科の英語教育は劇的に変わったと思われる。その一つは、TOEIC の受験率である。本プロジェクトが始まる前は、商船学科の 4 年生で受験をしていたのは 5~6 名であった。それが現在では、4 年生以上では 100%であり、3 年生でもほとんどの学生が年度末までに 1 回は受験している。複数回受験生もかなりおり、海技士受験とともに学生が受験しなければならない雰囲気となっている。次にほぼ毎日 Matt 先生や Gary

先生がおり、さらに Ark 外語学園との提携で数多くの外国人講師もグローバル教育センターに来校した。学生にとっては、学校の英語の先生とは別に英語に触れる機会が多くでき、とても効果的であった。Matt 先生が連れてくる様々な国（アメリカ・カナダ・オーストラリア・イギリスなど）の講師達が、様々な英語を話し、英語の違いも感じられた。一方、Gary 先生が TOEIC 向上の授業を時間割の一つとして行うことによって TOEIC 独特の技法も習得できた。これらによりクラス平均が 4 年生だけで見ても当初 250 点ぐらいだったものが 340 点ぐらいまで上がっている。大きな成果だと思われる。加えて、MAAP 教員の海事英語も SMCP という国際基準に触れて、勉強できたことは効果的であった。また、本プロジェクトで揃えた教材は、多くの教材を揃えたことで、学生がやりたくなったらすぐに始められるという、後押しになったと思われる。

教員に関しても英語研修などがあり、本プロジェクト以前とは英語への取り組み方が大きく異なった。学生に英語を推奨している手前、自分たちもやらなければという意識が常にあるようになった。これらの観点から、本プロジェクトの目標は大いに達成されたと思われる。そして今後も継続していかなければいけない事業であると思われる。

2-4-4 大島商船高等専門学校

平成 24 年 10 月、本校におけるグローバル教育拠点における開講の準備を開始し、その後約 4 か月間かけて拠点となる教室及び教材の検討と準備ならびに講師の手配を行い、平成 25 年 2 月～3 月にかけて商船学科各学年のホームルーム等においてグローバル教育拠点の開設について説明等を行った。その際、当校では同拠点のことを「英語プレゼンス・放課後英語教室」との愛称をつけ、学生の利用を呼び掛けた。

平成 25 年度は、グローバル教育拠点での受講希望者の受け入れを開始するとともに、商船学科 5 年生航海コースの必修授業「外国語演習」においても、同拠点の活用を開始した。授業「外国語演習」における利用は平成 27 年度まで実施した。また、同年 6 月には同拠点の英語関連教材のさらなる充実と学生の拠点への関心と利用促進を図る目的で、「ブックハンティング」と称して英語関連教材（主に英語関連書籍）の収集及び購入イベントを実施した。同イベントには、商船学科本科生及び専攻科生が参加し、約 90 冊の書籍やワークブック等の選別と購入をした。

平成 26 年度は、グローバル教育拠点は開設当初より学生の利便性を鑑み、商船学科の教室がある同一校舎内に設置していたが、学生が気軽に立ち寄れるようさらなる利便性を目指すため、商船学科 3 年生から同学科 5 年生の教室がある同一フロア内で、かつ廊下を挟んで各教室の向かい側になるよう、拠点を移して開講した。当該年度以降、移設先での実施を継続している。

平成 27 年度は、TOEIC スコアの具体的目標や各種国家資格における英語科目についての合格点獲得、短期の国際留学を目的とする学生への個別対応を強化するため、講師の在室時間の変更等を行った。また従前は、4～5 年生の利用が主であったが、当該年度後期から、商船学科 1 年生の定期利用者も見られるようになった。

平成 28 年度は、大型練習船による乗船実習時期の変更やカリキュラムの関係上、例年実施してきた商船学科 5 年生における必修授業「外国語演習」でのグローバル教育拠点の定期的活用を見合わせたが、前年より受講している商船学科 2 年生をはじめ、低学年である同学科 1～3 年生の利用者の割合が増加傾向にある。

本校のグローバル教育拠点の利用者の傾向としては、5 年生や専攻科生においては就職試験・進学受験を主目的とし、3～4 年生は短期の国際留学・研修、TOEIC 等のスコア向上や各種資格試験の英語科目の対策を目的とし、1～2 年生は 3～4 年生と同一の目的のほか純粋に英語力の向上といった目的での参加が見受けられた。また、元々、授業等において英語科目を得意とする学生は参考書のアドバイスや貸し出し目的での利用に対して、英語について苦手意識のある学生は、自己のレベルにあったワークブックや課題の用意を期待しての来室が多く見受けられた。

また、今後、当該拠点の利用を一層効果的なものとする活用法のひとつとして、低学年からの利用促進が挙げられるものと思われる。1～3年生といった低学年層は、クラブ部活動や学校行事のため放課後の定期的な来室が難しく、1週間当たりの受講頻度は必ずしも高くないため、早急な目標達成、例えば2～3か月以内でのTOEICスコアの大幅な向上は望めないが、2～3年後といった長期スパンであれば、その間に各種資格試験や短期留学等も視野に入れることが可能なことから、段階的な目標の設定による継続的な利用により、効果的な拠点活用につながるものと考えられる。

この5年間における当校の商船学科学生の利用者数は必ずしも多いとは言えないが、本プロジェクトにより短期間で目標を達成した学生他に、授業以外の場における英語力向上のための道標的事業としてグローバル教育拠点を認識し、必要とする学生が増加しつつあるため、今後、より充実させていくためにも継続させる必要があるものと思われる。

2-4-5 鳥羽商船高等専門学校

英語力の向上、定着のためには上級生からだけでなく、低学年の内から基礎力をつけ継続的に英語に関わる必要があると考える。グローバル教育拠点利用者を増やすためには、商船学科のみならず他学科学生の利用促進を図ることで、相乗的に商船学科の利用率を上げることができた。また、昼休みを使用した短時間講座を開設することで参加しやすさが増し、放課後に予定のある学生や、グローバル教育拠点に足が向きにくい学生の利用数もあがった。国際インターンシップ参加者に対する事前研修をグローバル教育拠点で行うことで、出国前に英会話の関心が高まり、帰国後においても利用を継続する学生が増えた。

グローバル教育拠点を利用する学生の中には、中学校で習う基礎的な英語力が身につけていない者も多かったが、繰り返し来ることで理解できる単語数が徐々に増え、TOEICのスコアアップにもつながったと考える。しかし、TOEICスコアの伸びが少ない学生はグローバル教育拠点以外で英語に取り組む姿勢が見受けられず、継続的に短い文章の書き方や、TOEICテストの練習などを、学校以外でも勉強させる意識づけが必要であろう。TOEICスコアの伸び率には個人差はあるものの本プログラムを長期間利用することで英語力が上達するものとする。

2-5 総論

プロジェクト開始から本年度まで、英語教育補助教員の配置、グローバル教育拠点の整備を行いながら各校プログラムを検討し実施してきた。更に情報共有を行いながら、プログラムの展開、確立を実施してきた。これより、学生の利用率が上昇し、TOEICのスコアアップ等の結果が確認できた。

関係教員以外にも学生アンケートによる効果を検証したところ、利用または非利用の結果から、全高専では約52%の学生が「利用したことがある」との結果になった。現在すべての学生の利用までは至っていないが、高学年になるに従い利用者数が増加する結果となった。利用目的は、低学年が授業の成績向上、上級生ほどTOEICスコアや海技士試験、就職のための英語が多くなった。低学年ほど補助教員による授業や説明のわかりやすさに好印象を持っており、外航船社への就職意識も高いことが確認された。グローバル教育拠点の利用が就職やインターンシップによって効果があったかどうかは、「どちらとも言えない」という結果が多かったため、特に5年生におけるグローバル教育拠点の利用効果に対する考えが減少傾向にあるように見える。しかしながら、英語力の向上は結果が見えるまで時間がかかる学習でもあり、低学年からの継続的利用が望まれる。

一方で、「グローバル教育拠点をよく知らない」、または「行きづらい」という声も聞こえた。プログラムの向上はもとより、学生への情報提供に関する課題が明らかになった。

グローバル教育拠点を利用したことに対する学生満足度は高く、プロジェクト終了後においても本プログラムを継続可能とする体制を構築するため、教育・学習効果の高いプログラムの共有化を行った。また、教材においてもこれまでの利用経験をまとめ各校より推薦教材を選出し、とりまとめることで、学生の自学自習にもつながる成果を残した。

3. 商船学科専門教員による英語外地研修

3. 商船学科専門教員による英語外地研修

3-1 目 的

商船学科の専門教員による英語外地研修プログラムは、サブプロジェクトである「1-1 英語力向上プログラムの開発」の一つのプログラムとして企画された事業である。

従来から、外航船舶職員という職業は国際性豊かな感性やコミュニケーション能力が求められる職業であり、外航海運会社におけるコミュニケーションツールとしての英語の重要性は、加速している。そのために学生が求められる英語力や国際性は益々重要になってきた。しかしながら、学生を教育する立場にある教員が相応の英語力や国際性を身に付けているかという、はなはだ疑問であり、本研修は、そうした現状を鑑み企画されたものである。

本研修は、商船学科・専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指して、商船学科・専門教員を対象に実施する。この英語外地研修は、商船高専における専門科目の教員向けに特別にデザインされた研修である。参加教員は、本研修を通じて専門科目における英語の利用と、英語による授業展開という目的に応える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

3-2 概 要

- (1) 研修期間
毎年 9 月に 2 週間～3 週間で設定
- (2) 研修場所
ハワイの KCC(Kauai Community College)
- (3) 参加者
各校から 1 名ないし 2 名
- (4) 研修プログラム
主なプログラムは以下の通りである。
 - ・ コミュニケーション能力の向上
 - ・ 英語によるプレゼンテーション技法
 - ・ ハワイ文化の理解また、研修の成果発表として、英語によるプレゼンテーションが課せられている。

3-3 研修の実施概要

平成 24 年度

ハワイの KCC(Kauai Community College)での夏季休暇中（9 月）における 3 週間程度の研修を次年度から開始するプログラムを企画し、年度末までに KCC と協議した。

平成 25 年度

本年度は、9 月 4 日～9 月 21 日に 3 週間にわたって、KCC で実施した。5 校からの参加教員は 8 名で、英語研修だけでなく現地の人々との交流機会も多く設定され、異文化交流も考慮された充実した内容の研修となった。

平成 26 年度

前年の実績を踏まえて 5 月に事前準備会議を実施し、9 月に 14 日間の英語研修を実施した。5 校で参加教員は 8 名で、前年度よりも英語学習を強化した研修となった。

平成 27 年度

本年度は、各校 1 名計 5 名の教員を KCC に派遣した。研修日程は 8 月 29 日～9 月 17 日であった。また、平成 26 年度実施総括を踏まえ、事前準備会議を GI-net を使って 6 月 30 日に実施し、出発前にも、準備確認ミーティングを持った。また、以下を作成し、参加者に配布した。

- ・ 飛行機での移動について
- ・ カウアイ生活情報
- ・ 昨年度の参加者情報
- ・ ハワイ語の挨拶など

平成 28 年度

本年度は、予算の関係上、教員を KCC へ派遣することができなかった。そこで、現在までに研修を経験した教員による教育事例集を作成した。



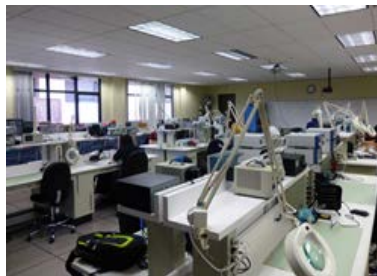
ホノルル空港 国内線乗り換え



KCC(Kauai Community College)



フィールドワーク



授業見学



発表風景

3-4 研修の成果

平成 25～27 年度までの 3 年間、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指して、商船学科・専門教員の英語外地研修を実施してきた。

当研修に参加した商船学科の専門教員は 3 年間で 21 名になった。5 高専・商船学科の専門教員数は 95 名であり、その割合は 22%になる。本プロジェクトの当初の計画では、毎年 10 名ずつ参加し、プロジェクト期間内で約 40%に達することで、これからの商船教育を担う世代の教員を育てたいと計画していたが、平成 28 年度は実施できなかったこともあり、目標に達しなかったことは残念である。

しかしながら、研修に参加した教員は、全員が向上心を持ち、研修で用意されたプログラム等に積極的に参加し、大きな収穫を得た。研修の最後には、英語によるプレゼンテーションを実施し、研修の成果を披露すると共に、研修後の TOEIC スコアは、平成 27 年度までの参加者平均で 65 点上昇するなど、目に見える成果も大きい。

特に、以下の点について、大いなる成果があったと言える。

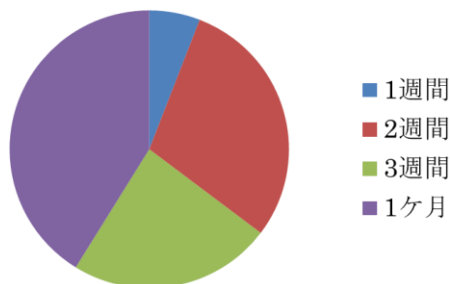
- ・ KCC での研修は高専にはない教育環境を体感するとともに、アクティブラーニングの概念が自然と授業に導入されていることを知った。
- ・ 参加教員個々が自己の英語能力を把握でき、日常英会話についてはスキルアップできた。
- ・ 専門分野での英語によるプレゼンテーション能力（発表・質疑応答）がある程度身についた。

また、研修参加者へアンケートした結果、研修意義については、100%の参加者が良かったと回答している。なお、研修期間については、1 か月程度が妥当であるという意見が多かった。

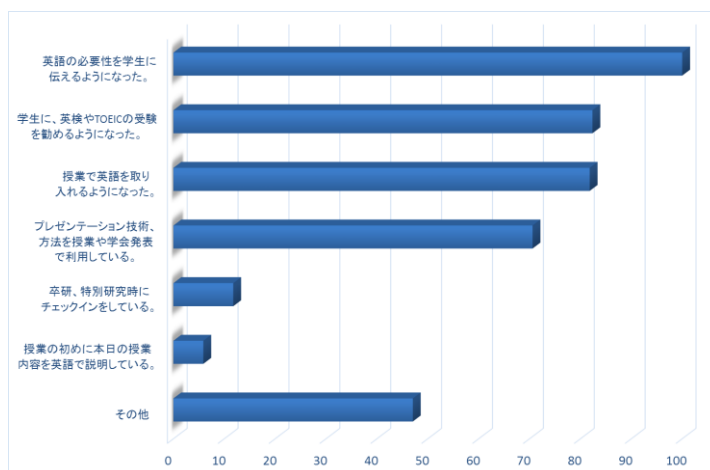
帰国後は、参加者自身の授業において英語を取り入れるなど、学生へ還元していることも確認できた。特に、参加者全員が、英語の必要性を学生に伝えており、外地研修を通じて、英語の重要性を認識したことが示される。さらに、TOEIC を受験するよう勧めるなど、コミュニケーションツールとしての英語、コミュニケーション能力の重要性を強く認識したと考える。

以下に研修成果を学生へ還元している例を示す。

- ・ 授業中に、簡単なコミュニケーションを英語でしようと考えている。
- ・ 自分の経験を学生に伝えることにより、やれば英会話ができるという意識が学生に伝わり始めた。
- ・ 異文化コミュニケーションについて、学生に伝えるようになった。ハワイの日系移民について考えるきっかけとなり、英語を学習することも必要であるが、一番大事なことは、お互いの文化や歴史に興味を持ち、理解を示すことだと学生に伝えている。



Q 研修期間は、どの程度が妥当と思いますか。



Q 帰国後、外地での研修や経験をどのように反映していますか？

- ・新しい環境に身を置くこと、新しい世界を観ることの大切さ、大変だけれどもチャレンジすることが大事であることを伝えるよう意識している。
- ・自身の経験をもとに、学生に海外研修プログラムへの参加を積極的に勧めるようになった。
- ・研修の成果として、研修参加者による学生への英語力向上への教育事例集を作成した。
- ・参加者全員が英語の重要性を再認識しており、その経験、体験を学生へ教授し、学生にとって英語の敷居がなるべく低くなるように心がけている。

当研修は非常に有用であり、継続が必要であることを連携機関に理解していただき、今後も経費支援を受けられるよう努めたい。

3-5 各年度の成果

以下に、各年度における研修の成果と教育研究への活用について、参加教員の報告書から主なものを抜粋しておく。

3-5-1 平成 25 年度

(1) 研修の成果

- ・日常的な英会話に慣れた。
- ・英語を勉強していこうという、モチベーションを持つきっかけになった。
- ・英語を身近に捉えられるようになり大変有意義であった。
- ・英語によるプレゼンテーション能力が向上した。
- ・教員と学生がディスカッションしながら行う授業を体験できた。
- ・ハワイ文化、特にカウアイ島と日系移民による文化の関係を理解できた。
- ・KCC は国際インターンシップの場として、多いに有効である。
- ・本研修に参加した他高専教員や KCC スタッフとの交流は、研修の域を越えて活発であった。これらも本研修における無形の成果である。

(2) 研修成果の教育研究への活用に向けて

- ・学生に対して異文化体験と英会話の重要性を、身をもって伝えたい。
- ・ディスカッションを取り入れた授業をこころがけたい。
- ・日本とハワイとの特別な関係（日系移民の歴史など）について、教える。
- ・復習を英語で行ったり、英語の資料を使用したりするなど、うまく英語を絡めていきたいと考えている。
- ・高度な教材の自主開発に取り組んでいきたいという意欲を改めて強めることができた。
- ・専門科目の配布物などに、今後は英語の専門用語や解説を多く取り入れていき、学生たちの英語への抵抗感の低減を図っていきたい。
- ・開発中の教材を、グローバル化にも対応できるポテンシャルを有する教育訓練システムへと発展させていきたい。
- ・本研修から得られた異なる文化や慣習に触れることからの示唆は、授業において大いに活用したい。

3-5-2 平成 26 年度

(1) 研修の成果

- ・英語に対するハードルが下がり、英語で話す努力をすることができた。
- ・英語での質疑応答ができるようになった。
- ・自分自身の英語能力を知ることができた。
- ・ディスカッション等を用いた双方向授業の手法を学ぶことができた。
- ・英語を学んでいくことの楽しさをおぼえた。

- ・ 英語の理解というよりは、コミュニケーション（話し手目線ではなく聞き手目線で、惹きつけるような手法）のノウハウを多く学ぶことが出来た。
- ・ 学生に考えさせる機会を多く与える授業方法、学生の想像を促進させる道具に違いが見られたことが、今回の成果であった。
- ・ 研修を通じ何度も自己紹介をし、話を傾聴し、つたないながら会話を繰り返した結果、英会話能力が向上したと思われる。
- ・ KCCのような活発な質疑応答を講義の中に取り入れることができれば、学生の理解度のさらなる向上を図れる可能性があると思われる。

(2) 研修成果の教育研究への活用に向けて

- ・ 専攻科の授業において一部英語を取り入れてみることをトライする。
- ・ 帰国後、研修最終日のプレゼンテーションを授業で行い、英語を勉強することは手段であって、最終的な目標ではないことを学生に理解させることができた。
- ・ 外国研修行事への学生引率のノウハウ、また、今後、参加する教員に助言するために必要な情報を得ることができた。
- ・ 英語の勉強のみならず、英語を使った外地での生活全般における研修、かつ、教員としてどのようにスキルアップできるかという点を問われた研修であった。
- ・ ディスカッション等を用いた双方向授業により学生の積極的な授業参加を促した。
- ・ 教員の使命として『学生が英語を身近に感じる工夫』が必要であると感じた。
- ・ 今後は、コミュニケーション表現の英会話を中心とした授業展開ができることを目指していきたい。
- ・ 授業導入部分（質問形式）が肝心で、早速、授業の導入部分で試してみたが、結果として授業の本題に身が入った気がする。
- ・ 学生に考えさせるだけの時間猶予と課題（材料）を与えるような授業構成にしたと考えている。
- ・ 専門用語は英語で授業する必要があると感じた。
- ・ 今後は、シミュレーションなどを使用した学生の理解を手助けする方法を積極的に取り入れ、かつ、学生が自ら考える機会を多く与えていきたいと思う。
- ・ 手始めとして本科の卒業研究と専攻科の特別研究の文献調査において学生の負担増にならない範囲で英語資料の読み合わせを行い、技術英語に接する機会を増やすことから手を付けていきたいと考えている。

3-5-3 平成 27 年度

(1) 研修の成果

- ・ 米国のプレゼンテーションの流儀を知ることができた。
- ・ 自分の思いを、相手にいかにして伝えるかを考え、時には単語だけでも良いから意思を伝える必要があると感じた。
- ・ 必要に迫られると必然的に勉強するものだと、身をもって感じる事ができた。この体験は非常に貴重であり、学生にも当てはまることと考える。
- ・ 到着した日から英語漬けの毎日であり成果は大きいように思う。
- ・ 英語だけの環境に加え、授業で真剣かつ集中して聞き取ろうとする事で、ヒアリング力が向上したと考える。
- ・ 日系の移民の苦勞と活躍に触れる事ができ、現在に至るハワイの歴史を学ぶ事ができた。

(2) 研修成果の教育研究への活用に向けて

- ・ 本研修を通じて、英語によるプレゼンテーションの基礎的な構成や留意点のある程度習得することができたため、今後、この知見を活かし、英語による授業展開につなげていきたい。

- ・ 専門用語の英語による表記などから、徐々に英語に慣れていく授業を展開したいと考える。
- ・ 英語によるプレゼン方法、プレゼン技術について学んだので、国際会議などで研究発表する際に活かしたいと考える。
- ・ 今回の研修で得た成果は、学生の会話力、リスニング力の向上は直接役立てることができる。
- ・ 今回の英語圏での研修成果を、校内練習船での実習時に英語を使用した作業指示、並びに、英語を利用した船内コミュニケーションに発揮させたい。
- ・ この経験を活かして、自己の講義に少しずつ英語を取り入れ、また、英会話の必要性を説き、学生の英語力向上に貢献したいと考える。

3-5-4 平成 28 年度

最終年度においても、商船学科・専門教員の英語外地研修を実施する予定であったが、予算等の関係から、実現できなかった。そこで、本年度は、最終年度として研修の成果を学生の英語力向上に還元する方法について検討した。その結果として、研修参加者による英語活用法や英語授業法に関する事例集を作成した。事例集の一部を抜粋して以下に紹介する。

(1) 授業科目での英語活用

- ・ 学生が英語の授業というよりは専門の授業として違和感なく英語に触れられるようにする。
- ・ 語彙の確認時に、一般的な英和辞書では、海事上で相当する和訳が見当たらない場合、その語彙が使用されるシチュエーション等を想像させたうえで、専門用語集等から索引させるようにしている。
- ・ 単に英語と日本語を対応付けるだけの知識に限らず、多面的な知識の教授に取り組んでいる。
- ・ 授業において和訳本の輪読を行う際に、図表が英語表記になっている訳本を選び、本文を読み込む前に図表のみからその内容を考えるようにし、英語表記の図表のみを用いた内容理解を試みた。
- ・ 学生とのやり取りが多い講義であるため、なるべく専門用語を日本語と英語で説明していくようにしている。
- ・ 英語で作成したパワーポイント資料で講義をする時間を設けている。
- ・ 授業の息抜きで外地研修での体験を話すと学生は興味を持って話を聞き、英語研修に興味を持ってくれているようである。
- ・ 海外や国際交流への興味を持たせるきっかけを作ることが大切だと考え、現地で学んだハワイ文化や生活、日系移民の歴史などについて、英語と日本語での説明を行い、語学研修の楽しさについて伝えている。
- ・ BRM 訓練内の VHF による他船とのコミュニケーションに英会話を取り入れている。
- ・ 英語で専門科目の授業を受ける経験は、学生にとって、ある程度のハードルとなると思われる。このため、通常通り日本語で授業を行い、試験を受けた後の復習の授業で試行した。
- ・ 専門用語については、黒板に専門用語を書く際に日本語と英語を併記するようにした。
- ・ 低学年の英語力向上及びリスニングに対する拒否反応をなくするために商船学科 2 年生全員に TOEIC リスニングの授業を実施した。
- ・ 簡単な単語を使用した英文（物語）を読ませ物語を演技させる。

(2) その他

- ・ 教員外地研修中に学んだ英語でのプレゼンテーションの方法や、言い回し、フレーズなどを学生たちに指導している。
- ・ 英語を話す人々の文化や歴史に目を向け理解しようとすることも英語の勉強に加えて重要であるということを、機会を設けて学生に講話をしている。
- ・ ハワイへの移民について簡単に触れている。

3-6 総括

これまでの取り組みから、研修の成果を如何にして学生の英語力向上に反映していくか、以下に示す3つの観点から検討してきた。

- ① 如何にして学生の英語に対する抵抗感をなくすか。
- ② 英語の大切さや必要性をどのようにして理解させるか。
- ③ 専門科目の授業の中で、どのように英語を取り入れていくか。

その結果、まず、学生にとっての英語の抵抗感については、研修参加者の事例集にもあるとおり、専門科目の授業において、コミュニケーションツールとしての英語を増やし、専門用語の英語併記、あるいは、単語のみ英語表記するなど工夫し、解決を図っている。学問としての英語ではなく、コミュニケーションツールとしての英語として認識してもらうようにし、英語への抵抗感を低減させている。また、TOEIC対策などを気軽に、しかも、気が向いたときにはいつでも英語学習できる環境としてのグローバル教育拠点の存在は大きい。これは、英語に触れる機会を増やし、英語への抵抗感を減らし、親しみやすくする方法の一つである。

次に、英語の大切さについては、研修参加者のアンケートからも示されるように、全員が自身の経験を学生に伝えており、研修の経験を学生と共有するために国際インターンシップを紹介するなど、教員の意識改革が進んだと考えられる。複数の教員によって英語の必要性を説くことで、学生にもその必要性、重要性が浸透しつつあり、グローバル教育拠点の利用者数の増加にも現れていると考える。

最後に、専門科目の授業における英語の取り組みについては、研修参加者の事例集にもあるとおり、英語の授業ではなく専門科目の授業として違和感なく英語に触れる工夫をしている。たとえば、専門用語を日本語と英語で併記する、あるいは、英語資料を用いて日本語で専門科目の授業を行うなど、研修参加者が工夫して英語を授業に取り込んでいることから、専門科目において英語が活用されていることが示された。

以上、本プロジェクトを実施する前には、英語力向上に商船学科教員が取り組む機会は少なかったが、商船学科教員による英語外地研修の実施により、積極的に英語教員以外の専門科目の教員が、学生の英語力向上に携わるようになった。その成果として、英語をはじめとした各授業における学生の受講姿勢も変化しつつあると考える。これらを踏まえて、今後も連携機関と協働した学生用英語力向上プログラム開発し、継続していきたいと考えている。

4. 国際インターンシップ

4. 国際インターンシップ

4-1 目 的

新たな海事技術者に必要な資質として基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力、外地駐在への意欲等が求められている。鳥羽商船高専と広島商船高専が担当校となって、5 高専・商船学科が船主協会、全船協、全日海、国船協と協働して、これらの資質を身に付け、グローバルな活躍が期待される英語のできる高専・商船学科生の育成法の確立を目指す。この事業は、新たな海事技術者の資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成を目指し、18 才の高専・商船学科・4 年生に対して有効で適切な国際インターンシップの展開を試みるものである。5 高専では国際インターンシップを実施・企画してきており、商船学科・学生に適したプログラムへの改善、単位化等を行ない、参加者の向上につなげ、定着させることを目指す。

4-2 概 要

グローバル人材(外地駐在意欲)育成のための国際インターンシップの展開として、下記の2 項目の事業を実施している。

(1) 国際インターンシップ

Kauai Community College (ハワイ)、Singapore Maritime Academy (シンガポール)、AMA Computer University (フィリピン)における国際インターンシップ

(2) MAAP 教員による海事英語教育研修

4-3 国際インターンシップの実施概要

4-3-1 富山高等専門学校からの報告

4-3-1-1 全体概要

(1) 目的

本インターンシップは、米国ハワイ州カウアイ島にあるハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(University of Hawaii, Kauai Community College 以下 KCC)において、ポリネシアの伝統航海術を主なテーマとし、毎年 1 回、3 月に 20 日間程度の期間、実施している。

ポリネシアの伝統航海術そのものを学ぶことはもとより、これに関わる方々の生き方、価値観に触れ、多様な文化の有様を経験的に学ぶ。また、現地の授業や実習はすべて英語で行われるため、英語学習の動機づけとなる。

(2) 概要

本インターンシップは、富山高専が単独で 2010 年 3 月に第 1 回を実施した。第 1 回目の実施結果として、高い教育的効果が認められたため、2010 年秋に全国に 5 校の商船学科を持つ高専と KCC の間で包括的な交流協定が締結された。この協定を基礎として、2011 年 3 月からは、5 校の高専から参加学生を募る形に拡充され、以降、毎年 3 月に実施されている。2013 年 3 月実施分からは、海事人材育成プロジェクトの「1.新たな海事技術者に必要な資質の涵養」のうち「1.2 国際インターンシップの展開」の一部と位置づけして実施されており、例年、5 校の商船学科の 3 年生、4 年生、合計 10 名程度が参加している。

ポリネシアの伝統航海術は、かつてのポリネシア人（ハワイ人を含む）が、近代航海計器を使用せずに大型の航海カヌーを縦横無尽に操り、太平洋を航海していた際の航海術である。太陽や星の動き、風や波の方向、鳥の飛ぶ方向など周囲の自然の情報からナビゲーターが自船の位置を把握し、針路を指示して航海する。1970 年代のハワイアン・ルネッサンスの高まりとともにこの航海術が再興され、その象徴である「ホクレア号」は、1976 年にハワイ・タヒチ間の航海を伝統的な航海術を用いて成功させている。

このインターンシッププログラムでは、このハワイの風土・歴史と共にある航海カヌーの伝統航海術を KCC の現地の学生と共に学ぶことで、いわゆる異文化、それを大切にしている人々の価値観に触れる。この経験を通じて、現代航海技術への理解を深め、自然を感じ取る力を身につけることを目的としている。また、プログラムは主に英語で実施されることから、英語によるコミュニケーション能力の重要性を認識し、学習の動機づけとする。本プログラムでの経験が、将来、参加学生の異文化、外国語に対する抵抗感のハードルを下げ、外航船員、海外勤務に果敢に挑戦する人材となる下地となることを期待してプログラムを企画している。

参加が決定した学生に対して、事前研修を実施している。はじめに、なぜ参加しようと思ったか、また、現地で学びたいことに関する作文を課題として提出させる。また、例年 12 月から 2 月にかけて 5 回程度、ネット会議システム（昨年度からは GI-net）を利用して、参加学生全員が同じ話を聞くことができるようにしたうえで、事前研修を実施している。内容としては、現地事情の説明、研修内容の説明、伝統的航海術の理論的な背景（天文、ポリネシア文化、歴史など）、現地で行う 1 回目の英語プレゼンテーション（後述）の準備などである。近年では、スカイプ等のネット会議システムを活用し、KCC の教員や現地の学生と自己紹介を行いあったり、現地の教員に英語プレゼンテーションの指導を受けたりもしている。

インターンシップに出発後、はじめの2週間は、KCCに通学する。午前中は、主に教室での授業や実習を行う。伝統航海術の授業に現地の学生とともに参加する。現地の学生を交えた小グループに分かれ、基礎を学ぶとともに、海図を用いた航海計画の策定を行う。ここでは、教えあいを大切にしている。英語が得意な参加学生は、わからない学生に教える、海図の取扱が得意な学生は、そうでない学生に教える、など、KCCの学生を交えた学生間での教えあいを大切にしている。また、日本人学生向けの伝統航海術に関する補習授業や英語の授業も行われる。この他、フラやタロイモなど、ハワイの伝統文化に関する実習を行ったり、現地学生向けの日本語クラスに参加して交流を深めたりする。



ハワイの伝統的な料理、ラウラウの調理法の実習風景



フラダンスの実習風景

午後は、野外での実習も行う。カウアイ島で建造している伝統的航海カヌー「ナマホエ」の建造作業へ参加する。地元の方がボランティアとして建造を続けてこられ、建造を始めてから15年以上にもなるとのことである。ハワイでは、カヌーの建造に、より多くの人が作業すると、その人びとの心が船に宿ると言われているようで、私たちもその一員となる責任を感じて作業をしている。

基本的には、伝統的な建造方法に従い、木とロープで組み上げていく作業であるが、複数の作業員（＝参加学生）の息が合わないと作業が進まない。簡単ではない作業であるが、担当した箇所がうまく組み上がると、他では得がたい達成感があるようで、学生には好評の実習である。



ナマホエの建造作業の実習、ニス塗り、磨くことを繰り返す



ナマホエの建造作業全景

オーシャントレーニングも行う。航海中にトラブルに巻き込まれ、海に漂流せざるを得なくなった場合を想定し、速く泳ぐのではなく、長い間浮いている方法を実習する。ライフガードの専門家から、全員が助かるためのチームワーク、合図の仕方や心構えについても学ぶ。

週末は、1回、2泊3日で現地の一般のご家庭でホームステイをする。島内各所に連れて行っていただいたり、各ご家庭の暖かい雰囲気です食事をしたりする楽しい時間のようである。カウアイ島の現代の文化に触れる時間でもある。

現地では、各学生が2回ずつ英語でプレゼンテーションを行う機会があり、1回目は、到着後、比較的早い時期に、KCCの学生を主な対象として行う。プレゼンテーションについては、前述の事前研修において、日本で用意している。内容は、自校（商船高専）の紹介、自分の出身地、ないしは高専所在地の文化（食べ物、祭り、気候等）の紹介などである。2回目は、KCCでのプログラムが終了する際の修了式において、現地で学んだことなどをプレゼンテーションする。こちらは、現地でKCCの教員の指導を受けながらの準備となる。

この間の宿泊は、男女別2・3人の相部屋で団体生活を行う。夕食は、食事当番を決め、自炊する。学生はもとより、引率教員や場合によってはKCCの関係教職員も含め、皆で揃っていただくことにしている。その日の経験や学び、出会いを振り返る時間にもなっている。

3週間は、ハワイ諸島の高等教育機関の学生を対象とした伝統航海術のクルートレーニングに参加する。はじめの2週間で学んだことを実践する場となっている。毎年、ハワイ諸島の各島持ち回りで実施場所が変わるが、約100人の現地の伝統航海術に関心がある若者とともに、合宿形式で3泊ないし4泊のトレーニングを行う。ワッチと呼ばれるグループごとに別れ、実習や当番などを行う。内容は、プロトコルと呼ばれる祈りや歌の習得、スターラインと呼ばれる星の並びの覚え方の練習（夜間航海に必要）、小型の帆走カヌーを用いた実習、カヌーのメンテナンス作業など多岐に渡る。これまでの伝統航海術の再興に尽力された、いわゆる長老の方々のお話を聞く機会も多く設けられている。体力的、精神的に大変ではあるが、ハワイの志ある若者とともに活動する時間は、参加学生にとっては、大変貴重な経験となっている。



カウアイコミュニティカレッジの学生と記念撮影

帰国後、インターンシップで学んだことに関する作文を課している。

また、各高専にて事後研修を実施している。内容は、各校によって若干異なるが、現地で学んだことを日本の商船学科在籍学生の前で、英語を用いて報告することが主である。これは、参加学生が学んだ内容を帰国後に改めて振り返る機会となるとともに、次年度以降に参加する学生への意欲喚起ともなっている。

（3）得られた成果

インターンシッププログラムに参加した学生は、視野が広がった、外国（英語・異文化）に対する抵抗感が薄まった、もっと勉強しようと思った、伝統航海術に関係する方々の情熱を感じることができた、などの感想が寄せられている。参加する学生のこれからの人生の1つのきっかけとなることを願っている。

(4) 意見、問題点、学生からの意見

現時点での問題点としては、参加に必要な費用が高額（約 40 万円）であることがあげられる。毎年、日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）に申請したり、官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～に応募するよう指導したり、各校独自の助成を行ったりしているが、依然として、費用が問題となる場合が少なくない。

また、実施時期について、航海系学生には必須となりつつある無線の国家試験（第三級海上無線通信士）の試験日程が毎年、本プログラム実施時期と重なること、大型練習船での実習期間が 4 年生の後期となったことから、こちらとの兼ね合いも出てきていること等の問題があるが、受け入れ側（KCC）の都合もあり、全員が満足する実施時期の設定ができていないとは言いがたい。

4-3-1-2 各プログラム

平成 24 年度

(1) 概要

場 所： KCC、ハワイ島コナ航海カヌー施設

日 程： 2013 年 3 月 9 日～3 月 28 日（帰国日）

参加者： (4 年生：1 名、3 年生：10 名、引率教員：7 名（10 日程度ずつ分担）)

(富山高専：5 名、鳥羽商船高専：3 名、広島商船高専：1 名、弓削商船高専：2 名)

ポリネシアの伝統的航海術を中心に、プログラムを編成した。新たな取り組みとして、ハワイ文化の学習のため、ハワイ語のみで教育を行っている小学校の見学を行った。

クルートレーニングは、ハワイ島西岸の航海カヌー施設を用いて行われた。

1 月から 2 月にかけて 5 回の事前研修を行った。事後研修として、各校で報告会が行われた。富山では、4 月 17 日の商船学科集会（商船学科の全学生、教職員が集会を行う）において、英語にて報告を行った。

(2) 成果と問題点

順調にプログラムを実施し、当初の目的を達成し、成果を得ることができた。

募集後に急激に円安が進んだため、外国送金による支払いが完了するまで、絶えずレートが気になる日々となった。結果的には、公営のバスを利用するなど、コストカットを進めることで、追加の徴収は行わずにすんだが、現地での移動に前年度までより時間がかかり、生活の余裕がなくなるなどの問題点があることがわかった。

前年度、ハワイ島でのクルートレーニング最終日に徹夜に近い状態となったため、安全上の理由から、帰国前にオアフ島で 1 泊することとした。

(3) 結果

	学生	参加時 学年	TOEICスコア				海技士合格状況 (卒業年)	進路	
			参加前		参加後				
2013年3月実施 (平成24年度)	A	4	2012年4月9日	275				専攻科進学→内航船社	
	B		2013年2月	375	2013年7月	385	2014年1月26日	570	一級海技士筆記合格 外航船社
	C		2013年2月	280	2013年7月	250	2014年1月26日	375	二級海技士筆記合格 専攻科進学→外航船社内定
	D		2013年2月	385	2014年1月26日	530			一級海技士筆記合格 外航船社
	E		2013年2月	345	2013年7月	330	2014年1月26日	375	陸上
	F	3	受験せず		2013年7月	545	2014年7月	890	二級海技士筆記合格 外航船社
	G		受験せず		2013年4月	420	2014年4月	540	一級海技士筆記合格 専攻科進学
	H			170	受験せず				二級海技士筆記合格 外航内航船社
	I					345			二級海技士筆記合格 内航船社
	J				2014年2月1日	445			二級海技士筆記合格 外航船社
	K				2014年2月1日	365			二級海技士筆記合格 内航船社

平成 25 年度

(1) 概要

場 所 : KCC、ホノルルコミュニティカレッジ (海洋トレーニング施設)
 日 程 : 2014 年 3 月 8 日～3 月 27 日 (帰国日)
 参加者 : (4 年生 : 2 名、3 年生 : 6 名、引率教員 : 7 名 (10 日程度ずつ分担))
 (富山高専 : 3 名、鳥羽商船高専 : 3 名、弓削商船高専 : 2 名)

ポリネシアの伝統的航海術を中心に、プログラムを編成した。

クルートレーニングは、オアフ島のホノルルコミュニティカレッジの海洋トレーニング施設を用いて行われた。世界 1 周航海を目前に控えた「ホクレア」号を生きた教材としてのトレーニングとなり、また、これまで伝統的航海術に関係してこられた主要な方々が一堂に会して講師を勤められるというトレーニングとなった。

事前研修は、1 月から 2 月にかけて 4 回実施した。今回は、外部講師を招いて、国際インターンシップに参加する意義等を考える機会を設けた。事後研修として、各校で報告会が行われた。富山では、4 月 9 日の商船学科集会において、英語にて報告を行った。

(2) 成果と問題点

順調にプログラムを実施し、当初の目的を達成し、成果を得ることができた。

こちらで決められることではないが、オアフ島でクルートレーニングが実施されると、参加費用が抑えられることがわかった。

(3) 結果

	学生	参加時 学年	TOEICスコア				海技士合格状況 (卒業年)	進路			
			参加前		参加後						
2014年3月実施 (平成25年度)	A	3	2013年12月	385	2014年5月21日	370	2015年5月	480	二級海技士筆記試験合格 一級海技士筆記試験1科目合格	外航船社	
	B				2014年5月21日	375	2014年9月	345		高専専攻科進学	
	C				2014年5月21日	355	2014年9月	400	二級海技士筆記試験合格	大学進学	
	D	4	受験せず			2013年4月	420	2014年4月	540	一級海技士筆記試験合格	高専専攻科進学
	E								二級海技士筆記試験合格	大学進学	
	F		2014年1月	285	2015年6月	510			一級海技士筆記試験合格	外航船社	
	G	3	2014年2月1日	480	2015年3月	640			一級海技士筆記試験合格	外航船社	
	H		2014年2月1日	215	2014年	280				外航船社	

平成 26 年度

(1) 概要

場 所 : KCC、カウアイ島ナウィリウィリ港内
 日 程 : 2015 年 3 月 7 日～3 月 26 日 (帰国日)
 参加者 : (3 年生 : 11 名、引率教員 : 7 名 (10 日程度ずつ分担))
 (富山高専 : 4 名、弓削商船高専 : 6 名)

ポリネシアの伝統的航海術を中心に、プログラムを編成した。

クルートレーニングは、進水間近のナマホエ (カウアイ島で建造中のカヌー) の建造サイトで行われた。これまでとは異なり、学生もホストの一員として、ハワイ諸島からの参加者をおもてなしするという経験ができた。

事前研修は、1 月から 2 月にかけて 4 回実施した。事後研修として、各校で報告会が行われた。富山では、6 月 17 日の商船学科集会において、英語にて報告を行った。

(2) 成果と問題点

今回のインターンシップでは、現地到着後に体調を崩した学生がいた。完全に防ぐことは難しいと思われるが、募集時点での既往症等の確認、アレルギー等の確認が必要であると再認識した。また、海外旅行保険は、治療費用が 3000 万円以上 (可能な限り無制限) とすべきであることがわかり、今後も保険の加入についてしっかり指導していくことが必要であると思われる。

上記のこともあり、現地に入ってからプログラムは一部変更したものの、おおむね当初の目的を達成し、成果を得ることができた。

(3) 結果

	学生	参加時 学年	TOEICスコア				海技士合格状況 (卒業年)	進路先
			参加前	参加後				
2015年3月実施 (平成26年度)	A	3	2015年2月19日	370	2015年5月	330	二級海技士筆記試験合格	高専専攻科進学内定
	B		2015年2月19日	295	2015年5月	325		大学進学内定
	C		2015年2月19日	285	2015年5月	285		高専専攻科進学内定
	D		2015年2月19日	345	2015年5月	355		外航内航船社内定
	E		2015年2月19日	285	2015年5月	355		大学進学内定
	F		2015年1月31日	320	2015年5月30日	370	2016年1月31日 505	二級海技士筆記試験合格
	G		2015年1月31日	245	2015年5月30日	320	2016年1月9日 340	二級海技士筆記試験合格
	H		2015年1月31日	270	2015年5月30日	300		一級海技士筆記試験合格
	I		2015年1月31日	240	2015年5月30日	295		二級海技士筆記試験2科目合格
	J		2015年1月31日	205	2015年5月30日	280	2016年1月9日 305	二級海技士筆記試験3科目合格

平成 27 年度

(1) 概要

場 所 : KCC、カウアイ島ナウィリウィリ港内

日 程 : 2016年3月5日～3月24日(帰国日)

参加者 : (3年生:16名、引率教員:7名(10日程度ずつ分担))

(富山高専:2名、鳥羽商船高専:7名、広島商船高専:2名、弓削商船高専:5名)

これまでと同様、ポリネシアの伝統的航海術を中心に、プログラムを編成した。

クルートレーニングは、昨年に引き続き、進水間近のナマホエの建造サイトで行われた。学生もホストの一員として、ハワイ諸島からの参加者をおもてなしするという経験ができた。

事前研修は、1月から2月にかけて4回実施した。事後研修として、各校で報告会が行われた。富山では、9月28日の商船学科集会において、英語にて報告を行った。

(2) 成果と問題点

下記の点以外は、おおむね順調にプログラムを実施し、当初の目的を達成し、成果を得ることができた。

今回のインターンシップでは、集団食中毒が発生した。自炊したものを翌日の昼食に持参したものを食べたところ、腹痛、嘔吐等の症状が発生した。引率教員が対応に当たり、KCC教職員の協力を得て、病院へ行くなどの対応がとられた。事後の衛生指導を徹底した。これまでの経験に基づく緊急連絡網整備等により、現地と各校、保護者の間の連絡はスムーズに行えた。

(3) 結果

	学生	参加時 学年	TOEICスコア				海技士合格状況 (卒業年)	進路先
			参加前	参加後				
2016年3月実施 (平成27年度)	A	3	2016年2月	335	2016年4月	365	二級海技士筆記試験1科目合格	
	B		2016年2月	570	2016年4月	580	二級海技士筆記試験合格	
	C		受験せず		2016年6月27日	350	二級海技士筆記試験1科目合格	
	D		受験せず		2016年6月27日	410		
	F		受験せず		2016年6月27日	315		
	G		受験せず		2016年6月27日	285		
	H		受験せず		2016年6月27日	210		
	I		受験せず		2016年6月27日	215	二級海技士筆記試験合格	
	J	4	2015年8月29日	195			二級海技士筆記試験1科目合格	内航船社内定
	K		2015年8月29日	180			二級海技士筆記試験2科目合格	内航船社内定
	L		2016年3月8日	300			二級海技士筆記試験合格	
	M		2016年3月8日	325	2016年5月21日	455	二級海技士筆記試験合格	
	N	3	2016年1月9日	305	2016年5月21日	330	二級海技士筆記試験合格	
	O		2016年1月9日	320	2016年5月21日	320	2016年9月25日 400	二級海技士筆記試験合格
	P		2016年1月9日	190	2016年5月21日	255	二級海技士筆記試験3科目合格	
	Q		2016年1月9日	320	2016年5月21日	325	二級海技士筆記試験3科目合格	

4-3-1-3 まとめ

本インターンシップは、7回の実施を数え、各校各位のご指導、ご協力により、数々の問題点を解決しながら着実に成果を上げてきている。今後とも、学生のためにより教育的効果の高いプログラムとすべく、改善を進めたい。

長期的には、参加費用、引率費用の問題を解決できると、さらに継続することができると思われる。

4-3-2 鳥羽商船高等専門学校からの報告

4-3-2-1 全体概要

(1) 目的

本国際インターンシップは、鳥羽商船高等専門学校と学術交流協定を締結している SMA(Singapore Maritime Academy)の主催する MEL(Maritime Experiential Learning) キャンプに参加し、シンガポールを発着する客船に乗船して英語漬けによる研修を行う。本インターンシップの大きな目的は、学生の将来において異文化理解と英語によるコミュニケーション能力が必要であることを実感させる機会を与えることである。また、本インターンシップは、SMA の学生やスタッフとの交流を通して、有機的な相互関係の発展も目指している。

(2) 概要

MEL キャンプは、海外渡航の経験がない、もしくは、海外旅行はあっても英語によるコミュニケーションを必要とする体験がない学生を対象としている。そのため、引率教員も2名を配置し、学生の安全管理体制を確保している。SMA は、国立高等専門学校機構が包括協定を締結している SP(Singapore Polytechnic)の学部であり、意思の疎通も比較的容易にできるため、安心して学生を派遣できる教育機関であると捉えている。

MEL キャンプの実施に際しては、先ず、プログラムの日程が確定し次第、参加者募集要項を学内に掲示する。それと同時に、海事人材育成プロジェクトの連携校に参加者募集の周知を行う。参加希望者は、日本語（本プログラムに参加する動機）と英語（自己アピール）による作文を期限までに提出する。それをもとにして、日本語と英語による面談を行い、参加者の優先順位を決定する。

事前研修としては、本校の練習船を活用し、客船の基本的な構造について練習船との比較をしながら説明を受ける。また、ネイティブスピーカーの講師による英会話のレッスンを受講し、現地でのコミュニケーションに備える。さらに、ミーティングを複数回実施し、本プログラムに関する内容の理解を深める。これらに加えて、SNS を通じて、必要な情報の共有を行い、渡航のための準備を行う。

現地では、MEL キャンプに参加する前に、シンガポールのことを理解するために、SMA の学生や教員の協力を得て、市内見学や学校見学などのオリエンテーションを行う。また、短期語学集中講座を導入することで、シンガポールで話されている英語に慣れ親しむ機会を提供している。さらに、現地にある日系企業の訪問を取り入れることでインターンシップの効果を高める工夫をし、充実した研修内容を確保するため、全行程を 11 日間に設定している。

乗船研修は、3泊4日の行程で、各国から参加している全ての学生が同じプログラムで講義等を受講し、ワークショップにも参加する。日本人学生は、なるべく別々のグループに配属し、英語によるコミュニケーションに集中する。

ただし、日本からの参加学生は、引率教員の指導で毎日ミーティングを行い、体調管理や理解度の確認を行う。また、個々の記録をログブックに残し、引率教員が点検を行う。

帰国後は、ポスター作成を行い学内に掲示する。また、学内での国際交流報告会において、他の学生や教職員に対してプログラムの内容やその成果についての発表を行う。

(3) 得られた成果

MEL キャンプは、本校にとって初めての国際交流であり、学生だけでなく、教職員間での交流も念頭に置いて派遣を行っている。これまでに本校から派遣した学生に関しては、行動の迅速さや規律正しい行動について、SMA のスタッフから高い評価を得ている。このため、毎回ある程度決まった数の参加枠を確保できている。

参加学生については、当初は申し込みできる学年を本科3年生以上と設定していたが、現在では本科、専攻科ともに全学年としている。外航海運会社に就職する場合、東南アジアの人々とのコミュニケーションは不可欠であり、シンガポールは、その重要性を比較的容易に認識できる国である。また、比較的治安がよく、安心して学生を派遣することができる。これまでの実績から、学生や保護者には、引率教員や現地スタッフの対応にも信頼があり、参加しやすいプログラムになっている。

参加学生のほとんどは、普段英語を使う環境にないため、参加した後、英語によるコミュニケーションの必要性を痛感することになる。このプログラムの参加対象学生を海外渡航の経験のない者とする目的の一つは、そうした認識を持たせるためでもある。その意味では、目的を達成していると考えている。

また、このプログラムに参加した後、他の海外研修プログラムに参加する学生もいる。これは、海外に目を向ける意識が醸成されてきた表れであると受け止めることができる。参加した学生の中には、本校で実施する SMA 学生の研修にも参加し、相互の国での交流を深める学生もいる。このように、本インターンシップは、着実に有効な成果をあげている。

(4) これまでの改善点と課題

MEL キャンプを、継続可能な国際インターンシップとして確立させるためには、これからも改善していかなければならないが、これまでの主な改善点について記しておく。

まずは、費用の支払い方法についてである。当初は、現地に到着してから現金による支払いを行っていた。しかし、多額の現金を扱うことは、非常に危険であることから、手数料や事前作業が増えたものの、日本の旅行業者を利用する方法に変更した。

平成 25 年度には、本プロジェクトの視察団から、数多くの有益な意見をいただいた。その中で痛感した意見が、「この MEL キャンプは、商船学科の学生にとって有効な内容にはなっていない」というものであった。これについては、少しでも有効性を高めるような改善策を検討しながら、以下のように徐々にではあるが新たな研修内容を導入してきた。

最初に導入したのは、参加学生の英語によるコミュニケーション力の向上である。これについては、出発前に事前研修を行っているが、シンガポールで使われる英語には独特なものもあり、それに少しでも慣れさせるために、SP での語学研修を利用することにした。参加学生たちのレベルを考慮したレッスンを導入してもらえたこともあり、学生たちの評判もよい。

また、商船学科の学生たちには、将来、就職した際に海外への派遣意欲を高めるため、日本企業の現地法人への訪問を取り入れた。

参加学生たちの報告では、海外渡航を初めて経験する学生がほとんどであるにもかかわらず、楽しく過ごすことができたという感想が多い。これは、SMA のスタッフや学生の親切的な支援によるところが大きい。しかしながら、旅行ではなく、あくまでも研修であるという意識を更に付けさせる仕掛け作りが今後の課題である。



SMA でのオリエンテーション



船内での授業風景

4-3-2-2 各プログラム

平成 24 年度

(1) 概要

場 所 : SMA

日 程 1 : 2012 年 7 月 6 日～7 月 12 日 (7 日間)

参加者 : (3 年生 : 5 名、4 年生 : 1 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 6 名)

日 程 2 : 2012 年 10 月 5 日～10 月 11 日 (7 日間)

参加者 : (3 年生 : 4 名、4 年生 : 2 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 6 名)

日 程 3 : 2013 年 3 月 8 日～3 月 14 日 (7 日間)

参加者 : (4 年生 : 5 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 5 名)

SMA の学生と共にスタークルーズ社のスーパースターヴァーゴという客船に乗船し、3 泊 4 日の日程で行われる船内研修に参加した。乗船の前日には、SMA の教室においてオリエンテーションが開催され、その段階から本校の学生も合流した。

本校での事前研修としては、授業以外の補習として、現地でのコミュニケーション能力を高めるために、リスニングに重点をおいて指導を行った。また、MEL キャンプ参加後には、体験報告をポスターとして作成させ、学内に掲示した。さらに国際交流報告会を開催し、プレゼンテーションによる成果報告も行った。

(2) 成果

7 月の派遣では、SMA からの提案もあり、入国後から乗船までの間、現地の学生宅にホームステイさせた。十分な事前研修ができず、コミュニケーションに不安があったが、全員無事にこなせたことは評価できる。

10 月の派遣では、体調を崩す学生が出て、現地の救急病院にて手当てを受けた。保険の加入などは事前に行っていたが、出発前からの体調管理についても徹底しておく必要があるということを確認した。

(3) 効果

本年度の参加学生 17 名中、専攻科進学が 3 名、その他は就職した。海技試験においては、1 級取得者が 2 名、2 級試験で英語を科目合格する学生も数名いた。TOEIC についても、企業が求める点数に達する学生も出て、この研修に参加したことが外航海運会社に就職するきっかけになった学生もいたのではないかと推察できる。



乗船時のセイルドリル



ワークショップの様子

平成 25 年度

(1) 概要

場 所 : SMA

日 程 1 : 2013 年 7 月 4 日～11 日 (8 日間)

参加者 : (3 年生 : 3 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 3 名)

日 程 2 : 2013 年 9 月 26 日～10 月 3 日 (8 日間)

参加者 : (3 年生 : 5 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 5 名)

日 程 3 : 2014 年 3 月 13 日～3 月 20 日 (8 日間)

参加者 : (5 年 : 3 名、4 年生 : 4 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 7 名)

前年度からのプログラムの変更はないが、滞在日数を 1 日増やして 8 日間とした。前年度までは、入国翌日には乗船前のオリエンテーションが始まり、シンガポール特有の英語に馴染む余裕もなく乗船研修が始まり、下船後は、その夜にはシンガポールを出国するプログラムであった。これでは、市内見学もほとんどできず、シンガポールの風土に触れる機会も乏しいことから、改善したものである。

これにより、SMA の学生との交流時間も増え、より充実したプログラムとなった。

(2) 成果

研修期間を 1 日伸ばしたことによって、SMA 内の施設見学を行うことが可能になり、学生にとっては新鮮で貴重な体験となった。

例えば、SMA は練習船を所有しない代わりに、実習設備は常に最新のものを導入している。機関室をそっくりそのまま再現した施設や、操船シミュレーターも 3 つ備え、そのうちの 1 つは 360 度のスクリーンを持ち、バーチャルな空間を作り出している。

(3) 効果

参加した学年は、海技試験 1 級の合格率が高く、大手企業への就職も確定した。そのため、英語の授業では TOEIC 対策に早々と切り替えることができた。

平成 26 年度

(1) 概要

場 所 : SMA

日 程 1 : 2014 年 6 月 26 日～7 月 3 日 (8 日間)

参加者 : (3 年生 : 5 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 5 名)

日 程 2 : 2014 年 9 月 16 日～9 月 25 日 (10 日間)

参加者 : (4 年生 : 3 名、3 年生 : 1 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 4 名)

日 程 3 : 2015 年 3 月 3 日～3 月 12 日 (10 日間)

参加者 : (4 年生 : 5 名、3 年生 : 2 名、引率教員 : 2 名) (鳥羽商船高専 : 7 名)

6 月の研修までは、前年度までと同様のプログラム内容であったが、より有益な海外インターンシップとなるよう、SP での語学研修を追加し、9 月の研修から期間を 10 日間に延長した。実際にシンガポールの教員によるコミュニケーションのレッスンを受講することで、船内での講義やワークショップの理解度が増すことを目的としたものである。9 月の研修では参加学生が少なく、経費的問題から実施できなかったが、3 月の研修では英語のレッスンを組み込むことができた。

（２）成果

９月の研修では、英語レッスンを取り止めた代わりに、シンガポールの街中の施設を活用して、オリエンテーリングに似た活動を導入した。自分たちの英語力を駆使し、現地の人々に質問を行いながら、指定した場所にたどり着くことができるかどうか挑戦させた。SMAの学生の支援もあり、全ての学生が指示を達成することができた。フィールドワークとしては十分に効果があった。

また、３月の研修で導入した英語レッスンは、日本の高専生向けに開設してもらったもので、日常会話と船内のワークショップに役立つプレゼンテーションの演習を取り入れてもらった。ただし、費用がかなりかかるようになった。費用削減のために、今後、参加する学生数をどのように確保するかが大きな課題である。

（３）効果

このプログラムに参加した学生はすでに就職が決定している。また、下級生も、上級生の活躍を見て、このプログラムに参加したいという意思を表明している者も増えてきている。

平成 27 年度

（１）概要

場 所 : SMA

日 程 1 : 2015 年 9 月 1 日～9 月 10 日（10 日間）

参加者 : （3 年生：6 名、引率教員：2 名）（鳥羽商船高専：6 名）

日 程 2 : 2016 年 3 月 7 日～3 月 17 日（10 日間）

参加者 : （2 年生：3 名、3 年生：4 名、引率教員：2 名）
（鳥羽商船高専：6 名）（広島商船高専：1 名）

（２）成果

今年度の成果として、先ず、９月の研修において、日系企業の現地法人である NYKSM への訪問を導入できたことが挙げられる。海外で勤務するということを見ることができ、外航海運会社に就職するということについて、少しは現実味が帯びてきたのではないだろうか。

また、３月の研修では、広島商船高専の学生が、他校の学生として初めて参加したことが挙げられる。他校生としては 1 名でありながら、意欲を持って参加してくれたことは評価に値する。事前研修にもインターネットを介してリアルタイムで参加し、引率教員の指導にも十分に応えてくれた。

（３）効果

本年度より、MEL キャンプの実施時期がこれまでと異なり、９月、10 月、3 月となった。日本での授業への影響を考慮し、参加する研修を 3 月と 9 月に限定した。また、参加可能な学年を 3 年生以上から本科 1 年生以上に広げ、全学年が本研修に参加可能となった。さらに、新たに企業訪問を導入したことにより、このプログラム内容も商船系を意識した研修として充実して来ていることをアピールできるようになった。

4-3-2-3 まとめ

本プログラムは、当初、鳥羽商船高等専門学校と SMA の学術交流協定から始まったものであるが、海事人材育成プログラムの一環として取り上げられて以来徐々にではあるが充実してきている。本プロジェクトのタスクフォースからは、本インターンシップに対して、毎年、貴重なご意見やご提案を頂いており、それらも踏まえて、平成 26 年度には英語プログラムを導入し、船内での研修に耐えうるコミュニケーション力を少しでも育成できるようになった。さらに、平成 27 年度から導入した日系企業の現地法人訪問は、海外駐在に対する意欲を醸成するための貴重な機会を提供できるものと考えている。

ME L キャンプの研修内容（2016 年現在の内容）	
第 1 日	日本出国、シンガポール入国、現地学生・スタッフとの対面
第 2 日	S P にて集中語学研修
第 3 日	S P にて集中語学研修
第 4 日	S P にて集中語学研修
第 5 日	日系企業の現地法人訪問
第 6 日	SMA にてオリエンテーション
第 7 日	ME L キャンプ、乗船、船内研修
第 8 日	ME L キャンプ、船内研修
第 9 日	ME L キャンプ、船内研修
第 10 日	ME L キャンプ、船内研修、下船
第 11 日	シンガポール出国、日本帰国

今後の取り組みとしては、最大の課題であるところの、他校からいかにして参加してもらえるようにするか、その方策を連携校で協力して検討していくことである。現在、研修期間を約 10 日間に設定し、語学研修、企業訪問、船内研修の 3 本柱でプログラムを組んでいるが、さらに充実させて、2 週間のプログラムとして確立することも可能になった。これにより、海事人材育成に十分に効果を発揮できるものになると確信している。今後も、タスクフォース等からの意見に真摯に耳を傾け、更なる改善を進めながら、本研修への取組みを継続していきたい。

4-3-3 広島商船高等専門学校からの報告

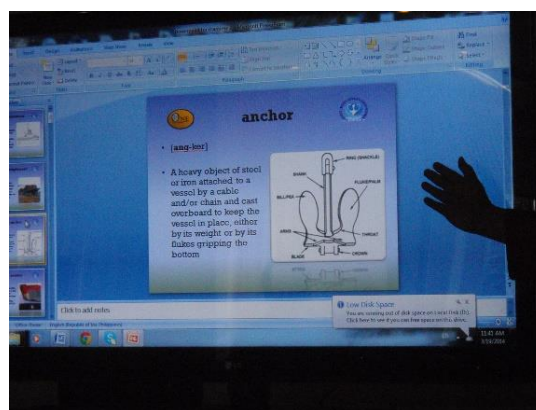
4-3-3-1 全体概要

(1) 目的

フィリピンアマコンピュータ大学（AMA）において海事英語中心の語学研修を実施することを目的とした。AMA では語学研修の受け入れを進めており、同大学でアメリカ英語の発音の教育を行っていることから英会話力、聞き取り能力を身に付け、また、同大学の学生との交流を通じてフィリピン人の考え方、風土を知ることにより、フィリピン人船員とのコミュニケーション能力を身に付けることも目的とした。往復旅費、滞在費、授業料が他の国に比べ極めて安価であることもフィリピンでの語学研修の優位性である。



AMA コンピュータ大学



模擬授業（視察）

(2) 概要

当初提示されていた教育計画（1 週目）は、次表のとおりであり、前年度の視察段階で海事英語を取り入れた教育であるとの説明があった。午前 9 時から午後 1 時までには語学専門の講師による授業が行われた。また午後 2 時から 6 時までは、AMA の学生と 1 対 1 の会話や大学の紹介などが行われた。

最初の数日はアメリカ発音の練習が主として行われた。その後は、発音練習に加え、学生による暗唱、それぞれ数種類のプレゼンテーション練習が行われ、随時講師による発音や内容の訂正が行われた。プレゼンテーションの中から出来の良いものを選んで練習を行い、最終日には AMA の大学教員や AMA の学生の前で、暗唱及び、それぞれ 7 分のプレゼンテーションを行った。また AMA の学生と英語の歌の交換を行った。

FIRST WEEK: English For Specific Purpose for Japanese Maritime Students (AMA)

MONDAY (March 9, 2015)	TUESDAY (March 10, 2015)	WEDNESDAY (March 11, 2015)	THURSDAY (March 12, 2015)	FRIDAY (March 13, 2015)	SATURDAY/SUNDAY (March 14&15, 2015)
9:00-9:30 – REGISTRATION	9:00-9:30 – VOCALIZATION	9:00-9:30 VOCALIZATION	9:00-9:30 – VOCALIZATION	9:00-9:30 VOCALIZATION	1-HOTSPRINGS/ SCUBA DIVING if weather permits
9:30-10:00- VOCALIZATION	9:30-10:00- AMERICAN ACCENT 2 (AC2)	9:30-10:00- AMERICAN ACCENT 3 (AC3)	9:30-10:00- AMERICAN ACCENT (MINIMAL PAIRS 1)	9:30-10:00- AMERICAN ACCENT (MINIMAL PAIRS 2)	
10:00-10:30- AMERICAN ACCENT 1 (AC1)	10:00-10:30- APPLICATION OF (AC2)	10:00-10:30- APPLICATION OF (AC3)	10:00-10:30- APPLICATION OF (MP1)	10:00-10:30- APPLICATION OF (MP2)	
10:30-11:00- APPLICATION OF (AC1)	10:30-11:00- APPLICATION OF (AC2)	10:30-11:00- APPLICATION OF (AC3)	10:30-11:00- APPLICATION OF (MP1)	10:30-11:00- APPLICATION OF (MP2)	
11:00-11:30- VISUAL VOCABULARY 1(VV1)	11:00-11:30- VISUAL VOCABULARY 2 (VV2)	11:00-11:30- VISUAL VOCABULARY 3 (VV3)	11:00-11:30- VISUAL VOCABULARY 4 (ESP)	11:00-11:30- VISUAL VOCABULARY 5 (ESP)	REHEARSAL FOR CULMINATION
11:30- 12:00- SPEECH CHORUS (VOCALIZATION)	11:30- 12:00- SPEECH CHORUS (VOCALIZATION)	11:30- 12:00- SPEECH CHORUS (VOCALIZATION)	11:30- 12:00- SPEECH CHORUS (VOCALIZATION)	11:30- 12:00- SPEECH CHORUS (VOCALIZATION)	
STUDENT TUTORIAL (1:1)	STUDENT TUTORIAL (1:1)	STUDENT TUTORIAL (1:1)	STUDENT TUTORIAL (1:1)	STUDENT TUTORIAL (1:1)	
1:00-3:00 – BASIC CONVERSATION (GENERAL)	1:00-3:00 –BASIC CONVERSATION (GENERAL)	1:00-3:00 BASIC CONVERSATION (ESP)	1:00-3:00 – BASIC CONVERSATION (ESP)	1:00-3:00 – BASIC CONVERSATION	
3:00-3:15- RECESS 3:15-4:30- ENGLISH FOR VERBS 1	3:00-3:15- RECESS 3:15-4:30-ENGLISH FOR VERBS 1	3:00-3:15- RECESS 3:15-4:30-ENGLISH FOR VERBS 3	3:00-3:15- RECESS 3:15-4:30- ENGLISH FOR ADJECTIVES	3:00-3:15- RECESS 3:15-4:30- ENGLISH FOR ADJECTIVES	
4:30-5:00- INDOOR ACTIVITY	4:30-5:00- ZUMBA ACTIVITY	4:30-5:00- SPORTS ACTIVITY	4:30-5:00- INDOOR ACTIVITY	4:30-5:00-INDOOR ACTIVITY	
5:30-6:00- CULTURAL IMMERSION W/ STUDENTS	5:30-6:00- CULTURAL IMMERSION W/ STUDENTS	5:30-6:00- CULTURAL IMMERSIONW/ STUDENTS	5:30-6:00- CULTURAL IMMERSION W/ STUDENTS	5:30-6:00- CULTURAL IMMERSION W/STUDENTS	

(3) 得られた成果

英語教育として大変満足の行くものであった。外国人向けの英語教育内容は完成されており、また、日本人の苦手な L と R の発音練習や聞き比べ練習も組まれていた。カタカナの影響であることについての説明もあり、日本人を理解した上での授業が行われた。フィリピンに行く前に懸念された治安の問題は全くない安全な地域であった。

夜に一人で歩いている女性もたくさんおり（学生には一人で歩かないように言っていたが）危険を感じる事はなかった。アメリカで暗くなると人気なくなる地域がたくさんあるのとは全く違っていた。また、フィリピンで英語を学ぶことに対する疑問もあったが、フィリピンではどこにいても英語が通じ、逆に全く日本語の通じない環境であることに大変効果があった。習った後に学生だけで買い物や食事を行うことが出来、英語を聞かざるを得ない、また自分で伝えなければならない環境が学生の英語能力の向上に役立った。

引率者はできるだけ手伝わず遠くから見守るように努めた。用意された環境の中で英語を学ぶだけではなく、全く予測のできない状況の中、コミュニケーションを自ら積極的に行うことで、学生は英語に自信をつけてゆくことができた。また AMA の学生との交流も持つことができ、一緒にショッピングモールに行くなど、教室では得られない効果を得ることができた。加えて、SNS による学生間の交流が始まり、帰国時マニラ空港から AMA の学生と SNS によるやり取りが行われていた。英語を避ける傾向にあった学生に、相手の言葉を聞きたい、読みたい、こちらから伝えたいという意欲が生まれ、単なる語学力以上の成果があった。

学生がホテルの鍵を部屋に閉じ込めてしまった時も、自分で交渉するように言うと、学生はフロントに行き部屋の鍵をもらうことが出来た。その後自信を付けた学生は、トイレが詰まった、紙がなくなったなど色々なことをフロントに言うことができた。また食中毒などもなく学生はのびのびと過ごし、最終日には全員が約 7 分のプレゼンテーションをこなすことができた。

(4) 意見、問題点、学生からの意見

○実施時期についての問題点

今回のインターンシップは3月に実施された。本来富山高専や鳥羽商船でも3月に同様のインターンシップが行われており避けるべきであった。しかし、商船学科における練習船実習計画の大幅変更が進んでおり、過渡期に当たる平成26年度は、広島商船の3年生が8月から9月に乗船、4、5年生が10月乗船となり、8月及び9月のインターンシップ実施が困難となったため、3月の実施となった。

今後は8月、9月への時期の変更を考えなければならないが、広島商船には同時期に行われているフィリピンでの語学研修が既にあり、この研修との大きな差別化が実現しない場合、商船学科単独での継続は困難となる。しかし、今回の成果を考えると英語研修を継続することには効果があり、従来広島商船で行われてきた、語学研修と同行するなどの方法を考え、継続性を重視した変更が必要になるかもしれない。

また、現在フィリピンでの研修について関連外部団体とも継続について協議が始まっており、形を変えてのフィリピンでのインターンシップも考え、できるだけ安定的に学生に学習環境を提供していきたい。

○交通について

心配されていた治安についての問題は全くなかったが、マニラは渋滞がひどく、交通状況と排気ガスは大変ひどいものであった。また道路の横断は日本の常識とは全く違っており、慣れるまでは習熟した引率者の手引きが必要であった。

4-3-3-2 各プログラム

平成26年度

(1) 概要

場 所 : AMA コンピュータ大学

日 程 : 2015年 3月8日～3月21日

参加者 : (3年生 8名、引率教員 1名)(広島商船高専 8名)

AMA コンピュータ大学において、英語研修を実施した。午前9時から午後1時までは語学専門の講師による授業が行われた。



10-Mar				
TIME	OBJECTIVE	TITLE MODULE	MATERIALS	DURATION
9:00 - 9:30	1. Review and identify lessons they've learned from previous day by sharing them in class.	Recap Activity: The Learning Tree	1. Powerpoint 2. Laptop 3. Projector 4. Manila paper 5. Paper leaves cut-outs 6. Masking tapes 7. Ballpens	30 mins
9:30 - 10:30	1. Recognize and properly pronounce the English alphabet sounds.	The Sounds of the English Alphabet	1. Powerpoint 2. Laptop 3. Projector	60 mins
10:30 - 10:45	Break		N/A	15 mins
10:45 - 11:45	1. Improve their basic English conversation skills through role-playing.	Basic English Conversation (Everyday m	1. Dialogue handouts	60 mins
11:45 - 12:00	1. Facilitate a visual activity that will help students improve their vocabulary.	Ice Breaker: Visual Vocabulary	1. Powerpoint 2. Laptop 3. Projector	15 mins
12:00 - 1:00	1. Review a range of important English verbs through an interactive classroom activity where they attempt to guess the actions performed by their classmates. 2. Create their own sentences using the verbs they have learned.	Lesson on Verbs: Guess the Action	1. Small piece of paper with secret verb words written on them	60 mins

最初の数日はアメリカ発音の練習が主として行われた。その後は、発音練習に加え、学生による暗唱、それぞれ数種類のプレゼンテーション練習が行われ、随時講師による発音や内容の訂正が行われた。プレゼンテーションの中から出来の良いものを選んで練習を行い、最終日には AMA の教員や学生の前で、暗唱及び、それぞれ 7 分のプレゼンテーションを行った。また AMA の学生と英語の歌の交換を行った。

また午後 2 時から 6 時までは、AMA の学生と 1 対 1 の会話や大学の紹介などが行われた。



AMA には様々なカリキュラムがあり、特にホテルビジネスに関連した授業もあり、ベッドメイクやカジノの運営などに関する施設の見学も行った。



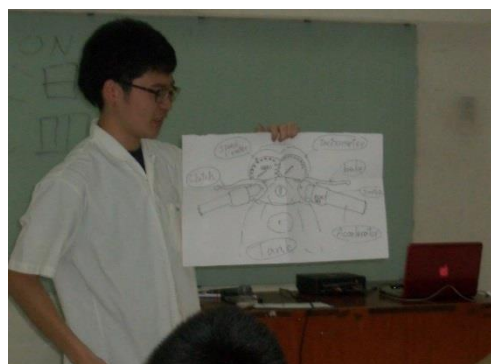
休日には、フィリピンのコンピュータソフトウェアの会社見学や博物館、史跡の見学などを行った。



(2) 成果

本プログラムの実施前には事前研修を4回実施した。内容は、語学研修の概要や、海外に行く準備、心構えに加え、小論文「この国際インターンシップで学びたいこと」を書かせた。内容としては国際インターンシップで学びたいこと、経験したいこと。そのための自分なりの準備、心構え、決意、意気込み、学校で学習している専門科目の内容にどのように取り組んでいるか、今回のインターンシップとの関連をどのように考えているか。就職・進学後インターンシップでの経験はどのように生かしていくつもりか等であり、学生により深くインターンシップについて考えるように心がけさせた。

最終日には全員が約7分のプレゼンテーションをこなすことができた。



(3) 問題点

学生の英語力向上という点では期待以上の高い効果を得られたが、幾つかの問題点が見られた。授業内容が当初お願いしていた内容とは大幅に異なっていた。初日に午前 9 時から午後 1 時まで授業を実施したあと、午後の授業は行わないと AMA 側が言い出したため、午後からも授業をおこなうように交渉し、3 日目から午後も授業を行ってもらえるようになった。

また、授業が昨年視察の際に行われた模擬授業の内容とは大幅に異なったものであった。昨年見たものは海事英語を用いた発音練習や、簡単な会話のものであったが、実際に行われた授業は海事英語ではなく通常の英語のものであった。学生の英語力向上という意味では遜色なく、また、街に出てすぐに使える英語であるため、結果的には良い結果を得ることができたが、広島商船では、他の海外語学研修も実施されており、海事人材育成に適したものとして差別化を図りたかったが、この点では失敗に終わった。

今後もこの海外インターンシップを継続させるかどうかについては、疑問を持つ内容であった。混乱の原因としては、途中 AMA の担当者が交代し、出発直前に 2 種類の予定表が送られてくる事など、AMA 側の問題があった。もちろんそういう問題が起きないように担当者が交渉すべきであったが、メールでの交渉にも問題があった。また、交代した新しい交渉担当者も、初日の午前中しか現れず、その後は別の英語担当教員と交渉を行った。

2 週目水曜日になってやっと責任者と話ができて、担当者が急に変更になった事や、今後も改善していくなどの説明をうけた。また急遽学生を用意したなどの努力の跡も説明してもらった。講義内容の変更については、海事英語担当講師が実施前になって 1 日一人当たり 1200 ペソの約束だった授業料を 2000 ペソ必要だと言い出したとのことであった。また午前中の講師しか用意していなかったが、急遽、責任者のチームの教員を 3 名用意し、また、学生も参加させてくれたとのことであった。これは事実であり、講師や学生は大変親切に対応してくれ、学生も楽しみながら、英語力を向上させることが出来た。

結果として英語教育に支障はなかったが、海外とのプログラム作成の難しさを露呈してしまった。これは日本側教員の未熟さもあるが、海外との折衝能力以上に、契約関係の構築の専門的知識も国際教育プログラム作成には必要となってくることを感じた。

4-3-3-3 まとめ

今回のフィリピンでの国際インターンシップは、語学研修としては大いに成功であった。しかし前述の契約の不備から海事教育については不満足な結果となってしまった。また、今回のインターンシップは 3 月に実施されたが、富山高専や鳥羽商船でも同時期に同様のインターンシップが行われており、3 月は避けるべきであった。

今後は 8 月、9 月への時期の変更を考えなければならないが、担当校である広島商船高専には同時期に行われているフィリピンでの語学研修が既にあり、この研修との大きな差別化が実現しない場合、商船学科単独での継続は困難となる。

また平成 27 年 8 月には大手船会社による商船系高専生向けのフィリピンでの研修が行われ、多くの学生が参加した。このような状況下で、形を変えてのフィリピンでのインターンシップも考え、出来るだけ安定的に学生に学習環境を提供していきたい。

「平成 26 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」(広島商船開催分)

(1) 概要

場 所 : 広島商船高等専門学校

日 程 : 2014 年 11 月 25 日～11 月 27 日

参加者 : 1 年生 : 138 名、2 年生 : 132 名、3 年生 : 51 名、教員 : 16 名

1、2 年生は混合学級のため他の 2 学科の学生を含め全学生に授業を実施していただいた。
また商船学科 2 年生及び 3 年生には専門科目としての英語授業を実施していただいた (商船学科 4、5 年生は航海実習中の為不在であった)。

また教員向けセミナーも実施した。



(2) 成果

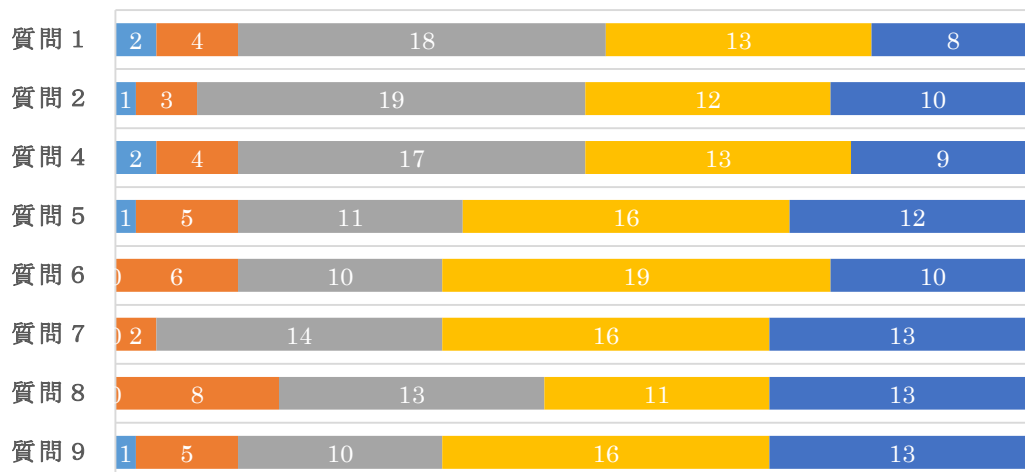
初めての試みであったが、学生が英語を楽しむことができた。校長をはじめ多数の教員がセミナーに参加し、成功であったと言える。

授業評価アンケート

- 質問 1 先生の英語による説明は良く理解できましたか？
- 質問 2 本セミナーの授業スタイルは良かったですか？
- 質問 3 どの課題が良かったですか？
- 質問 4 主体的に授業に参加することが出来ましたか？
- 質問 5 外国人とのコミュニケーションへの動機が向上しましたか？
- 質問 6 海事英語の学習意欲が向上しましたか？
- 質問 7 海事従事者としてどのような海事英語が必要か理解できましたか？
- 質問 8 海技師試験（英語）の合格に役にたつと思いますか？
- 質問 9 外航の船社・船舶管理会社への就職志望動機が向上しましたか？

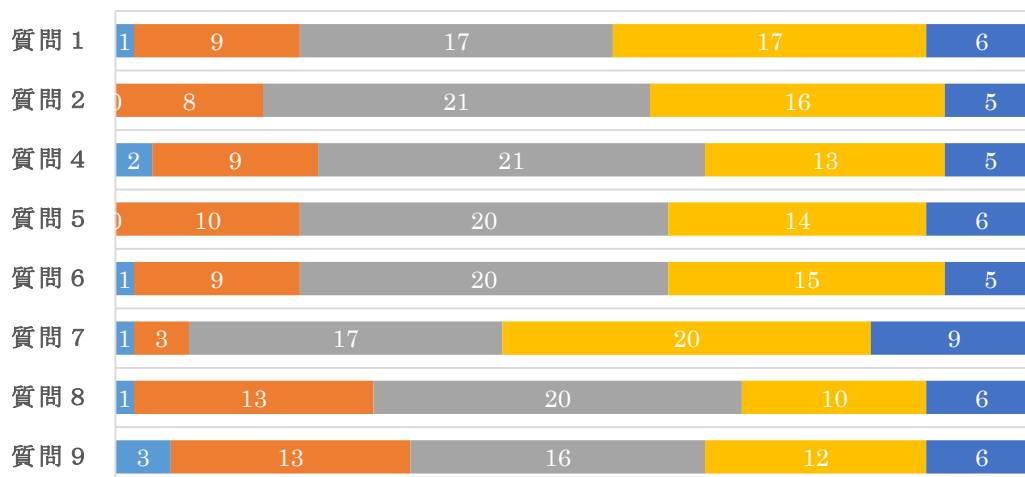
広島2年生

■ 全くできない ■ できない ■ どちらでもない ■ できる ■ よくできる



広島3年生

■ 全くできない ■ できない ■ どちらでもない ■ できる ■ よくできる



「平成 27 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」(広島商船開催分)

(3) 概要

場 所 : 広島商船高等専門学校

日 程 : 2015 年 12 月 7 日～12 月 11 日

参加者 : 1 年生 : 141 名、2 年生 : 136 名、3 年生 : 46 名、5 年生 : 40 名

教職員 : 13 名

商船学科 2 年生、3 年生及び 5 年生には専門科目としての英語授業を実施していただいた(商船学科 4 年生は航海実習中の為不在であった)。また 1、2 年生は混合学級のため他の 2 学科の学生を含め全学生に授業を実施していただいた。



また、教員向けセミナーも実施していただき、多くの教員の英語力向上に貢献していただいた。



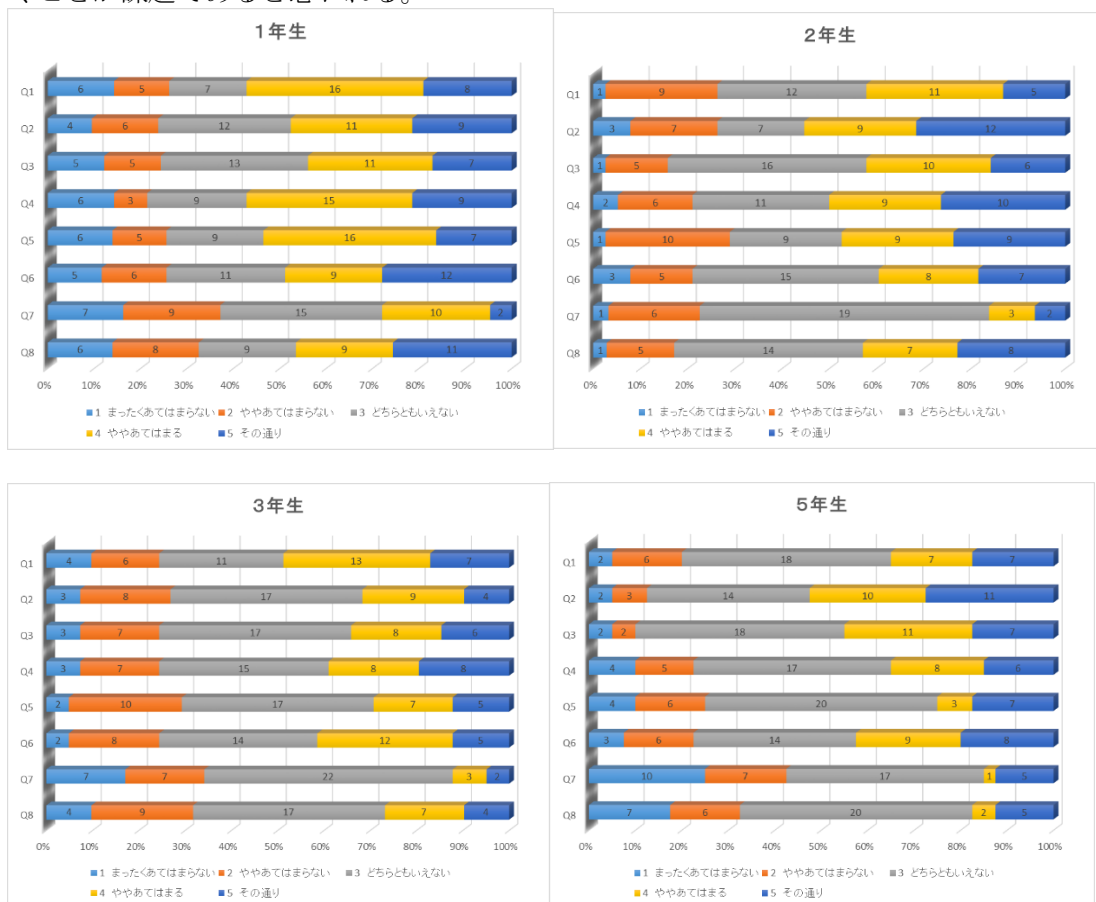
(4) 成果

海事英語セミナー終了後以下のアンケートを実施した。

- Q 1 先生の英語による説明はよく理解できましたか？
- Q 2 従来の集団授業よりも本セミナーの授業スタイル（プレゼンテーション、ロールプレイ、ワークショップ等）は良かったですか？
- Q 3 主体的に授業に参加することが出来ましたか？
- Q 4 外国人とのコミュニケーションへの動機が向上に役立ちましたか？
- Q 5 海事英語の学習意欲が向上に役立ちましたか？
- Q 6 海事従事者としてどのような海事英語が必要か理解できましたか？
- Q 7 海技士試験（英語）の合格に役立ちましたか？
- Q 8 外航の船社・船舶管理会社への就職志望動機が向上に役立ちましたか？

アンケート結果は以下であり学生の意欲向上に貢献していることがわかる。

一方で時間的には限られており、実力をつけるためにはこのような場を今後も設けていくことが課題であると思われる。



4-3-4 大島商船高等専門学校からの報告

4-3-4-1 全体概要 「MAAP 英語教員による海事英語セミナー」

(1) 目的

学生・教員の英語コミュニケーション能力向上

(2) 概要

平成 25 年（2013）年度より、毎年実施。

講師として、Maritime Academy of Asia and the Pacific（以下 MAAP）（フィリピン）より英語教員を招聘。

受講対象者は学生と教員とし、各種講座を開設。

MAAP 教員の招聘期間中（本校滞在期間は約 1 週間）に開設する講座は、商船学科学生は原則全学生が履修するものとし、通常の授業時間や放課後の補講時間を活用した時間組みを行ってきた。

(3) 得られた成果

学生の英語学習意欲の高まりが成果として考えられる。

ひとつは、本科生・専攻科生が、本セミナー開講準備の段階から関わるようになりつつあることと、もうひとつは、本校独自の海外英語研修プログラム「KCC(カウアイ コミュニティ カレッジ)英語研修」、「SMA(シンガポール マリタイム アカデミー)訪問」への参加意欲の向上のきっかけになっているのではないかと考えられる。特に後者は、参加希望者が年々増加しており、現状では希望者数が定員数を上回るケースが生じている。

また、セミナーに出席する本校教員も英語科や商船学科所属教員のみならず、商船学科の学生に授業を行う一般科目の教員や、商船学科で担任を務める教員も出席しており、本セミナーの話題を通して、学生・教員間で、英語についての多角的なコミュニケーションをとるきっかけになっているものとも考えられる。

(4) 意見、問題点、学生からの意見

本セミナーでは、教室内で行う際でも船上での実地を想定し、場合によっては全学生に立席させ、英語の号令とともに手信号（実際に使用する合図）等とあわせて実施する等の工夫がみられ、学生からは概ね好評の傾向にある。

また、本セミナーでは、参加者の発案により、校内練習船における操練(防火部署訓練等)を、全て英語での実施を試みたことがあり、実施に際して本科生は授業時間割により参加できなかったが、専攻科生及び本校教職員に MAAP 教員を交えて行うことで、法令上の号令のみならず、緊急時に使用される英会話等についても併せて学ぶ機会となった。



講義中の様子（号令と手信号の演習）



（プレゼンテーション）

(5) 実施実績

平成 25 年度 平成 26 年(2014) 2 月 24 日～28 日

平成 26 年度 平成 26 年(2014)11 月 17 日～21 日

平成 27 年度 平成 27 年(2015)12 月 14 日～18 日

4-3-4-2 各プログラム

平成 25 年度

「平成 25 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」(大島商船開催分)

(1) 概要

場 所 : 大島商船高等専門学校

日 程 : 2014 年 2 月 24 日～2 月 28 日

参加者 : 1 年生 : 126 名、2 年生 41 名、3 年生 44 名、4 年生 38 名、
専攻科生 1 名、教職員 約 5 名

通常の講義のほか、校内練習船における操練(防火部署訓練等)を全て英語で行った。ただし校内練習船での操練は授業時間割等の調整が困難であったため、専攻科生及び教職員のみによる実施となった。



校内練習における操練 (MAAP 教員による英語の確認)

(2) 成果

教員招聘時に滞在する宿泊施設について、本校には簡易的な施設しかなく、次年度以降の対策を求められた。

セミナーの内容については、本校学生及び教職員からの反応は概ね良好であった。

(3) 結果

本校独自の海外英語研修プログラム「KCC 英語研修」、「SMA 訪問」等への参加意欲の向上のきっかけになっているのではないかと考えられる。以降に実施された SMA 訪問には商船学科から 6 名、KCC 英語研修には 2 名の参加があった。

平成 26 年度

「平成 26 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」(大島商船開催分)

(1) 概要

場 所 : 大島商船高等専門学校

日 程 : 2014 年 11 月 17 日～11 月 21 日

参加者 : 1 年生 : 43 名、2 年生 : 42 名、3 年生 : 43 名、4 年生 : 43 名、
教職員 : 約 4 名

希望する教員に対しては指導法のセミナーも実施した。



教員向け指導方法のセミナー

(2) 成果

セミナーの内容については、本校学生及び教職員からの反応は概ね良好であった。

(3) 結果

前年同様、本校独自の海外英語研修プログラム「KCC 英語研修」、「SMA 訪問」等への参加意欲の向上のきっかけになっているのではないかと考えられる。以降に実施された SMA 訪問には商船学科から 7 名、KCC 英語研修には 2 名の参加があった。

平成 27 年度

「平成 27 年度 MAAP 英語教員による海事英語セミナー」(大島商船開催分)

(1) 概要

場 所 : 大島商船高等専門学校 0

日 程 : 2015 年 12 月 14 日～12 月 18 日

参加者 : 1 年生 : 40 名、2 年生 : 41 名、3 年生 : 42 名、
教職員 : 約 9 名

4、5 年生は航海訓練所の大型船実習で不在であったため、1 年生 6 時間、2 年生 6 時間、3 年生航海コースが 7 時間、機関コースは 6 時間の授業を実施し、低学年に比較的多くのセミナーを行うことができた。本年度は 3 年生に対して航海・機関コース合同の 2 時間を使い、練習船大島丸でのブリッジ、エンジンコントロールルーム、エンジンルーム間のコミュニケーションのロールプレイを行った。



大島丸でのセミナー
(船内教室でロールプレイ内容指示)



大島丸でのセミナー
(船橋でのロールプレイ)



一年生のクラスのセミナー
(グループ代表に課題の指示)

(2) 成果

セミナーの内容については、本校学生及び教職員からの反応は概ね良好であった。今回で3回目となり、2、3年生や教職員は過年度にセミナーを受講しており、講師の再会を喜ぶ声が多く聞かれた。どの学年でも授業後の質問や交流などが積極的に行われ、能動的な英語学習機会となっていることが見受けられた。

(3) 結果

前年同様、本校独自の海外英語研修プログラム「SMA 訪問」、「SMA 受入」、「高雄海洋科技大学 受入」等への参加意欲の向上のきっかけになっているのではないかと考えられる。以降に実施された SMA 訪問には商船学科から4名、SMA 受入には7名、高雄受入には8名の参加があり、どのプログラムにおいても英語コミュニケーションはセミナー実施以前より活性化され、頻度・密度・積極性いずれも向上した。

4-3-5 弓削商船高等専門学校からの報告

4-3-5-1 全体概要

(1) 目的

MAAP 海事英語セミナー：IMO に準拠した海事英語を専門の外国人講師より学ぶ

(2) 概要

MAAP 英語セミナー：25 年度弓削、大島で実施。26 年度、弓削、広島、大島で実施。
27 年度、弓削、広島、大島で実施。

(3) 得られた成果

MAAP 海事英語セミナー：英語への関心が高まり TOEIC 受験者が増大した。

(4) 意見、問題点、学生からの意見

MAAP 海事英語セミナー：学生より、「実際に船で使用している英語が聞けて楽しかった」等

4-3-5-2 各プログラム

平成 25 年度

(1) 概要

場 所： 弓削商船高等専門学校

日 程： 2013 年 11 月 5 日～11 月 15 日

参加者： (1 年生：120 名、2 年生：120 名、3 年生：38 名、4 年生：28 名)

フィリピン Maritime Academy of Asia and the Pacific (MAAP) から、Jane D Magallon 海事英語講師と Ma. Celeste A Orbe 海事英語講師を迎え、2013 年 11 月 5 日（火）～11 月 15 日（金）の 11 日間、弓削商船高専で教員向け海事英語指導法セミナー、学生向け海事英語セミナー、弓削丸航海実習（1 泊 2 日、弓削一松山）、低学年全学科向け MAAP 紹介講演、留学生実地見学旅行（宮島）を実施した。

海事英語指導法セミナー（教員向け）

英語コミュニケーション能力育成には、学生が実際に英語圏に行き、そこで学習することが一番効果的である。現実には費用対効果の観点から実現が極めて困難である。費用対効果を勘案した一番の方法は、本校教員が海事英語コミュニケーション能力育成を高め、学生を指導する方法である。そこで、本校商船学科と一般教育科英語科教員を対象に本セミナーを行った。商船学科教員に対して英語コミュニケーション能力を育成する能力を高める。一般教育科英語教員に対して商船学の理解を深める。この二つのアプローチで行った。

本セミナーは 1 日 7 時間（授業時間 50 分）×6 日間、語彙、標準表現、聞き取り・発音、読み書き、授業方法の 5 つのレッスンに分け、グループ・ディスカッション形式で行われた。



海事英語セミナー（学生向け）

商船学科 4 年航海コース 18 名では 7 時間、グループ・ディスカッション形式、商船学科 4 年機関コース 11 名では 6 時間、グループ・ディスカッション形式、商船学科 3 年航海・機関コース共通 40 名では 4 時間、グループ・ディスカッション形式では人数が多すぎて授業が困難なため、授業形式で海事英語セミナーを実施した。

- ・自己紹介 乗船して初めてする重要なコミュニケーションが自己紹介である。的確に英語で自分自身を相手に伝える事の出来るよう指導した。
 - ・伝言ゲーム 2 グループに分け語句を伝えるゲームを行った。伝言がいかにもノイズと固定概念で変容しやすいかを理解させるものである。
 - ・手順説明 作業手順を確実に英語で相手に伝えることを指導した。
- （例）カップラーメンの作り方、実家への帰り方、主機開始動等である。



弓削丸実習

商船学科 2 年生（航海・機関コース共通、20 名）の航海実習が本校校内練習船弓削丸を用いて 11 月 6 日～11 月 7 日の 1 泊 2 日、弓削～松山にて行われた。実習課題は出港・入港当直、来島海峡航路見学、気象観測、ディーゼル発電機始動停止、機関英語語彙であった。本船に Jane 先生と Ma.Celeste 先生が乗船し、英語で実習の指導を行った。

- ・出港入港当直 甲板、船橋、機関制御室、機関室の 4 部署の当直を英語で指導を行った。基本的に号令は STCW 条約に定められる単語を用いて行われるため、学生はスムーズに英語で当直を行うことが出来た。
- ・来島海峡航路見学 日本の代表的な狭水路である来島海峡にて、航路概要、航路標識を英語で説明した。学生は現物を前にし、英語での説明を良く理解出来た。フライング・デッキという騒音下の環境での英語の聞き取りの練習にもなった。Jane 先生と Ma.Celeste 先生においても、来島海峡に対する理解が深まり、MAAP における教育に一役買うことが出来た。

- ・ディーゼル発電機始動停止 発電機の各部名称、始動停止手順を英語にて説明、実際に騒音の激しい機関室にて、始動停止の現地訓練を行った。さらに、英語＋ハンドシグナルを交えてコミュニケーションの練習を行った。
- ・機関英語 制御室、機関室で使われている機関英語の説明と発音の指導を行った。ノギス、内パス、隙間ゲージ等の測定機器の説明も英語で行った。
- ・船内生活 起床点呼、ベットメイキング、体操（雨天の為中止）、食事の配膳・片付け、掃除、巡検等を英語で指導した。



MAAP 紹介講演

1 年生全学科約 120 名と 2 年生全学科 120 名向けに、2 回に分けて本校アッセンブリ・ホールにて Jane 先生と Ma.Celeste 先生が 1 時間の講演を行った。まず、先生個人の自己紹介、フィリピンの地理や文化の紹介、MAAP の紹介、フィリピン外航船員の紹介、最後に質疑・応答が英語で行われた。フィリピン外航船員の紹介は、商船学科学生のみならず、電子機械工学科と情報工学科の学生に対しても切磋琢磨の刺激を与えた。



(2) 成果

アンケート調査を行った結果次の様な事が分かった。フィリピンへの理解が高まった。外航海運と海外駐在への意欲が高まった。

(3) 結果

平成 27 年度「(3) 結果」にまとめた。

平成 26 年度

(1) 概要

場 所 : 広島・大島・弓削商船高等専門学校

日 程 : 2014 年 11 月 10 日～11 月 28 日

参加者 : (弓削: 1 年生: 135 名、2 年生: 120 名、3 年生: 38 名、4 年生: 39 名)

フィリピン Maritime Academy of Asia and the Pacific (MAAP) から、Jane D Magallon 海事英語講師を迎え、2014 年 11 月 10 日(月)～11 月 28 日(金)の正味 14 日間、弓削、大島、広島商船高専で教員向け海事英語指導法セミナー、学生向け海事英語セミナー、低学年全学科向け MAAP 紹介講演を実施した。

Leamer	Sessi on	Lessons
1st year	1	Philippines and MAAP Introduction
2nd year	1	MAAP Introduction
	2	VTS Communication
3rd year	1	Basic safety
	2	Deck hand-over of watch
	3	Deck hand-over of watch
	4	Engine hand-over of watch
	5	Engine hand-over of watch
	6	Hand signals
	7	Hand signals
4th year N	1	Colreg 10,13,14,15
	2	Chart symbol
	3	Buovage System
	4	Weather
	5	VTS communication
	6	Buovage System
	7	VTS communication
4th year E	1	Introduction
	2	Pump and Valve
	3	Boiler
	4	Diesel Engine
	5	M/E
	6	E/R familiarization
	7	F.O. System
Instructor	1	Conversational English
	2	Introduction to Maritime English
	3	Student-centered Teaching



(2) 成果

授業評価アンケート

- 質問 1 先生の英語による説明は良く理解できましたか？
 質問 2 従来の集団授業よりも本セミナーの授業スタイル（プレゼンテーション、ロールプレイ、ワークショップ等）は良かったですか？
 質問 3 どの課題が良かったですか？ 例：バナナ・ダンス、連想ゲーム、伝言ゲーム等
 質問 4 主体的に授業に参加することが出来ましたか？
 質問 5 外国人とのコミュニケーションへの動機が向上しましたか？
 質問 6 海事英語の学習意欲が向上しましたか？
 質問 7 海事従事者としてどのような海事英語が必要か理解できましたか？
 質問 8 海技師試験（英語）の合格に役にたつと思いますか？
 質問 9 外航の船社・船舶管理会社への就職志望動機が向上しましたか？

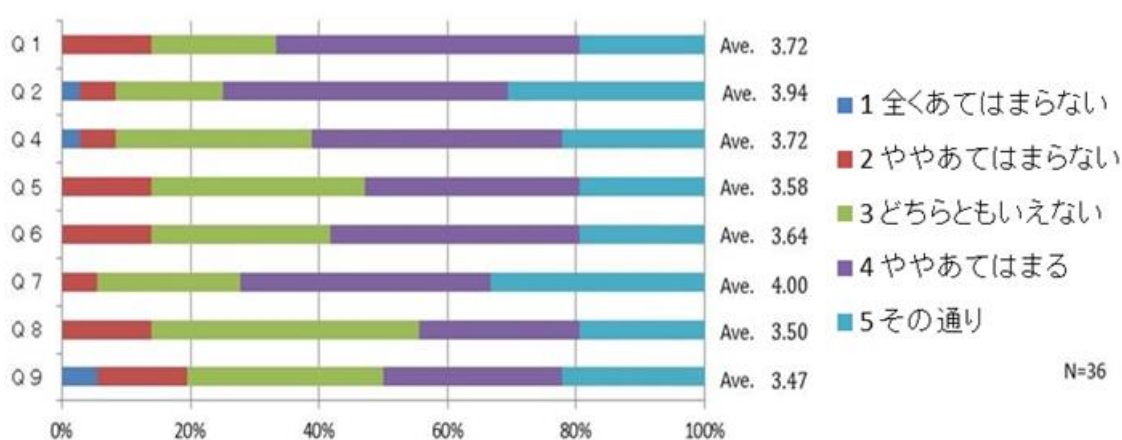


Fig.1 4年生回答

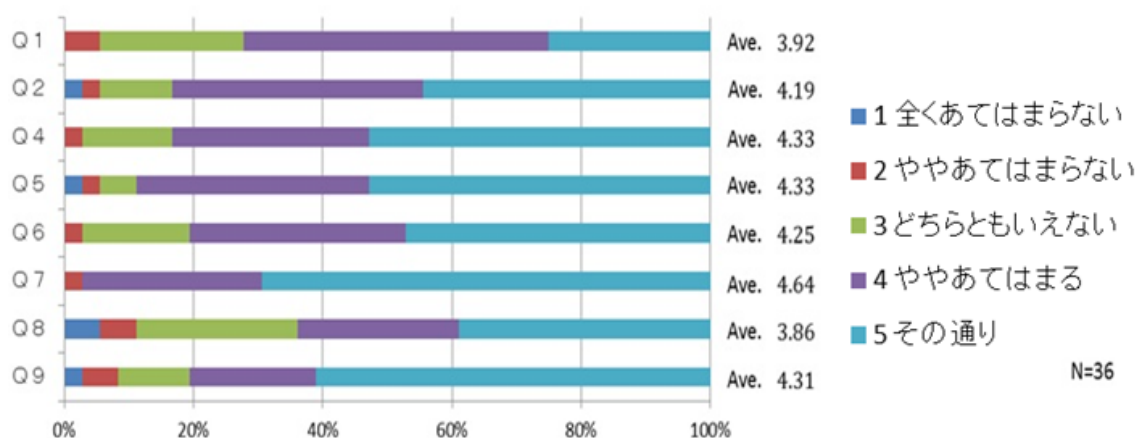


Fig.2 3年生回答

(3) 結果

平成 27 年度「(3) 結果」にまとめた。

平成 27 年度

(1) 概要

場 所 : 広島・大島・弓削商船高等専門学校

日 程 : 2015 年 11 月 30 日～12 月 18 日

参加者 : (弓削: 1 年生 138 名、2 年生 127 名、3 年生 37 名、4 年生 35 名)

フィリピン Maritime Academy of Asia and the Pacific (MAAP) から、Jane D Magallon 海事英語講師を迎え、2015 年 11 月 30 日(月)～12 月 18 日(金)の正味 21 日間、弓削、大島、広島商船高専で学生及び教員向け海事英語指導法セミナー、低学年全学科向け MAAP 紹介講演を実施した。

弓削では、今年度実施しなかった富山高専及び鳥羽商船高専から先生方 3 名も参加し、弓削の教員とともに教員向け海事英語指導法セミナーを受講した。

			時間数	授業内容
学生 ・海事英語 セミナー	全学科 1 年生		1	・ MAAP、フィリピンの紹介
	商船 2 年生		1	・ 海事英語語彙
	商船 3 年生	航海	4	・ IMO Standard Maritime Communication Phrases ・ 船内コミュニケーション ・ 無線機によるコミュニケーション
		機関	4	・ 当直交代（機関） ・ 船舶用油 ・ 機関室機器配置 ・ 2 サイクル機関
	商船 4 年生	航海	7	・ 校内練習船弓削丸を用いたロールプレイ（航海） ・ 海上衝突予防法 ・ 灯火 ・ 旗旒信号
		機関	8	・ 校内練習船弓削丸を用いたロールプレイ（機関） ・ ポンプ ・ 熱交換機 ・ 冷凍機 ・ 圧縮機 ・ 燃料清浄機 ・ 操舵機
教員 ・ 海事英語指導法セミナー				・ 海事英語教育法 ・ ディスカッションの方法（Lost at sea）

授業風景



海事英語文字並べ替えゲーム



海事単語連想ゲーム



弓削丸でのロールプレイ



教員向け海事英語指導法セミナー



教室での SMCP

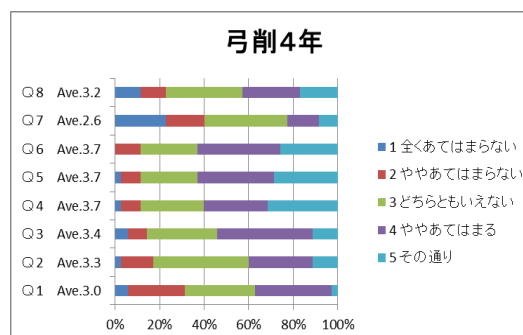
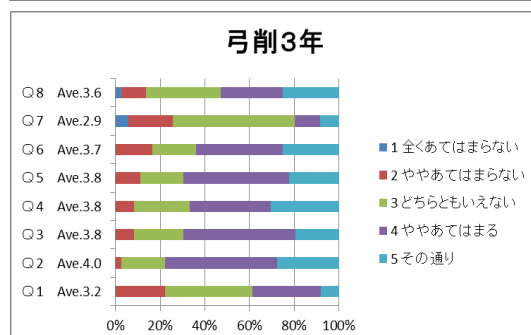
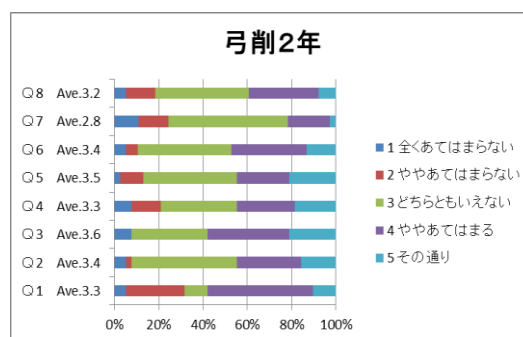
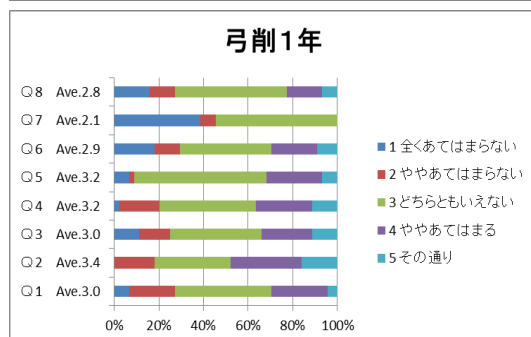
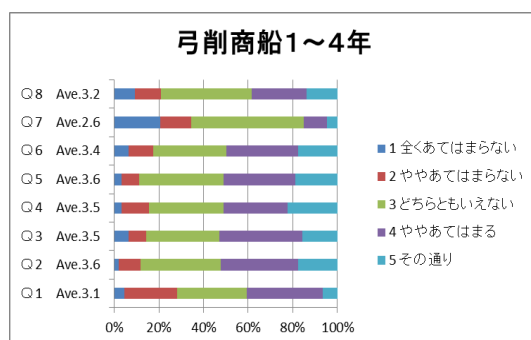


教室での SMCP

(2) 成果

授業評価アンケート

番号	質問文
Q 1	先生の英語による説明は良く理解できましたか？
Q 2	従来の集団授業よりも本セミナーの授業スタイル (プレゼンテーション、ロールプレイ、ワークショップ等) は良かったですか？
Q 3	主体的に授業に参加することが出来ましたか？
Q 4	外国人とのコミュニケーションへの動機が向上に役立ちましたか？
Q 5	海事英語の学習意欲が向上に役立ちましたか？
Q 6	海事従事者としてどの様な海事英語が必要か理解できましたか？
Q 7	海技師試験（英語）の合格に役立ちましたか？
Q 8	外航の船社・船舶管理会社への就職志望動機が向上に役立ちましたか？



(3) 結果

TOEIC 受験者数

年 度	学 年	受験者数 /クラス	受験率	平均点	学 年	受験者数 /クラス	受験率	平均点	全受験 者数
24	3	0/28	0%	-	4	6/22	26%	257.5	6
25	3	22/38	57.9%	257.5	4	23/28	82.1%	266	45
26	3	26/38	68.4%	275.5	4	39/39	100%	275.7	65
27	3	38/38	100%	296.3	4	35/35	100%	302.9	73

英語への関心が高まり、TOEIC 受験率が格段に上昇した。

フィリピンへの関心が高まり、27 年度商船 3 年学生 1 名がフィリピンへ短期留学した。

4-4 国際インターンシップによる結果の検証

以下に示す表は国際インターンシップ参加者の TOEIC スコア、海技試験合格状況、進路の一覧である。この表からわかるようにほとんどの学生に TOEIC スコアの向上が見られる。参加前の TOEIC スコアが 200 点台であった学生が 300 点台に上昇し、参加前 300 点以上であった学生は 500 点程度あるいはそれ以上の高い点数になる傾向が見られる。もちろん国際インターンシップ参加のみで成績が向上したわけではないが、国際インターンシップの目的である“新たな海事技術者の資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成”に貢献していると言える。また海技士試験においても良好な成績であり学生の海事技術者としての意欲向上及び能力向上に大いに貢献していると言える。

	学生	参加時 学年	TOEICスコア				海技士合格状況 (卒業年)	進路	
			参加前		参加後				
2013年3月実施 (平成24年度)	A	4	2012年4月9日	275				専攻科進学→内航船社	
	B		2013年2月	375	2013年7月	385	2014年1月26日	570	外航船社
	C		2013年2月	280	2013年7月	250	2014年1月26日	375	専攻科進学→外航船社内定
	D		2013年2月	385	2014年1月26日	530			外航船社
	E		2013年2月	345	2013年7月	330	2014年1月26日	375	陸上
	F	3			2013年7月	545	2014年7月	690	外航船社
	G				2013年4月	420	2014年4月	540	専攻科進学
	H			170					外航内航船社
	I					345			内航船社
	J				2014年2月1日	445			外航船社
	K				2014年2月1日	365			内航船社

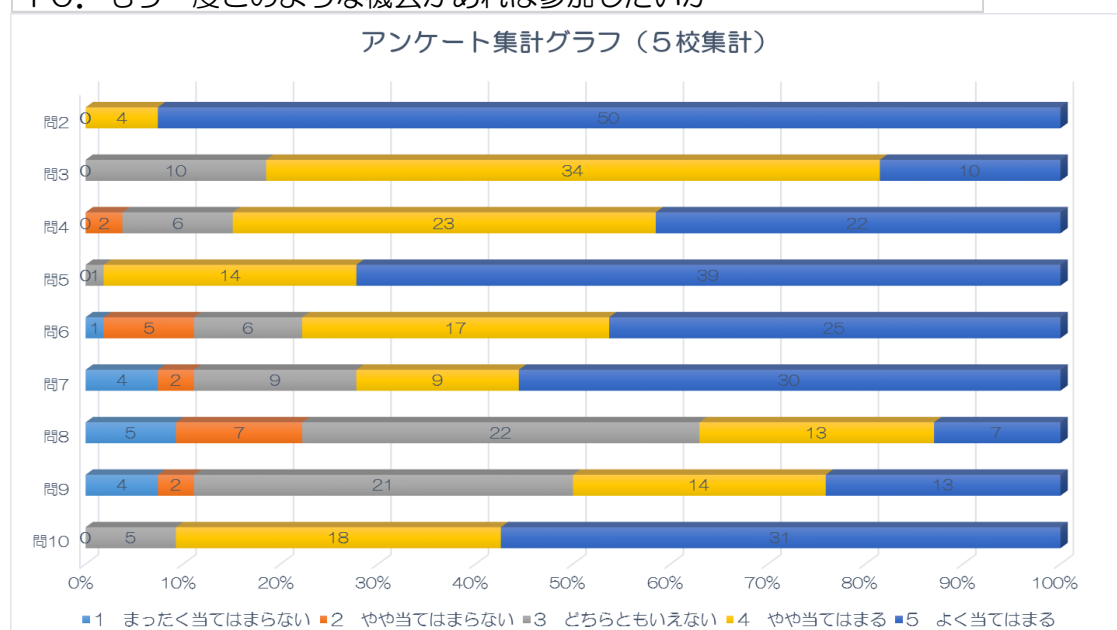
	学生	参加時 学年	TOEICスコア						海技士合格状況 (卒業年)	進路
			参加前		参加後					
2014年3月実施 (平成25年度)	A	3	2013年12月	385	2014年5月21日	370	2015年5月	480	二級海技士筆記合格	外航船社
	B				2014年5月21日	375	2014年9月	345		高専専攻科進学
	C				2014年5月21日	355	2014年9月	400	二級海技士筆記合格	大学進学
	D	4			2013年4月	420	2014年4月	540	一級海技士筆記合格	高専専攻科進学
	E								二級海技士試験合格	大学進学
	F			2014年1月	285	2015年6月	510			一級海技士筆記合格
	G	3	2014年2月1日	480	2015年3月	640			一級海技士筆記合格	外航船社
	H		2014年2月1日	215	2014年	280				外航船社

	学生	参加時 学年	TOEICスコア					海技士合格状況 (卒業年)	進路先	
			参加前		参加後					
2015年3月実施 (平成26年度)	A	3	2015年2月19日	370	2015年5月	330		二級海技士筆記合格	高専専攻科進学内定	
	B		2015年2月19日	295	2015年5月	325			大学進学内定	
	C		2015年2月19日	285	2015年5月	285			高専専攻科進学内定	
	D		2015年2月19日	345	2015年5月	355			外航内航船社内定	
	E		2015年2月19日	285	2015年5月	355			大学進学内定	
	F		2015年1月31日	320	2015年5月30日	370	2016年1月31日	505	二級海技士筆記合格	外航船社内定
	G		2015年1月31日	245	2015年5月30日	320	2016年1月9日	340		外航船社内定
	H		2015年1月31日	270	2015年5月30日	300				内航船社内定
	I		2015年1月31日	240	2015年5月30日	295				内航船社内定
	J		2015年1月31日	205	2015年5月30日	280	2016年1月9日	305	二級海技士筆記合格	高専専攻科進学内定
	K				2015年7月1日	310			二級海技士筆記合格	高専専攻科進学内定
	L				2015年7月1日	510			一級海技士筆記合格	大学進学内定
	M				2015年7月1日	285			一級海技士筆記合格	内航船社内定
	N				2015年7月1日	265				内航船社内定
	O				2015年7月1日	300				内航船社内定
	P				2015年7月1日	685				大学進学内定
	Q				2015年7月1日	180				高専専攻科進学内定
	R				2015年7月1日	280				内航船社内定

	学生	参加時 学年	TOEICスコア						海技士合格状況 (卒業年)	進路先
			参加前		参加後					
2016年3月実施 (平成27年度)	A	3	2016年2月	335	2016年4月	365				
	B		2016年2月	570	2016年4月	580			二級海技士筆記合格	
	C				2016年6月27日	350				
	D				2016年6月27日	410				
	F				2016年6月27日	315				
	G				2016年6月27日	285				
	H				2016年6月27日	210				
	I				2016年6月27日	215			二級海技士筆記合格	
	J	4	2015年6月29日	195						内航船社内定
	K		2015年6月29日	180					内航船社内定	
	L		2016年8月8日	300					二級海技士筆記合格	
	M		2016年1月9日	325	2016年5月21日	455			一級海技士筆記合格	
	N		2016年1月9日	305	2016年5月21日	330			二級海技士筆記合格	
	O		2016年1月9日	320	2016年5月21日	320	2016年9月25日	400	一級海技士筆記合格	
	P		2016年1月9日	190	2016年5月21日	255				
Q	2016年1月9日	320	2016年5月21日	325						

次に示すのは、参加学生への事後アンケートの結果である。

2. 国際インターンシップに参加して良かったか
3. 内容は理解出来たか
4. 主体的に参加することは出来たか
5. 外国人ともっとコミュニケーションを取りたいと思うようになったか
6. 将来外国で働きたいという気持ちが増えたか
7. 外航の船員への就職志望が向上したか
8. 海技試験(英語)の合格に役立ったか
9. TOEICの点数向上に役立ったか
10. もう一度このような機会があれば参加したいか



参加して良かった、外国人とコミュニケーション取りたくなった、もう一度参加したいといった項目に肯定的な答えが見られた。主体的に取り組めたか、将来外国で働きたいか、外航船員への就職志望は向上したかについての項目も比較的肯定的な回答を得た。これらのことから学生は国際インターンシップに意欲的に取り組み、その後の学習意欲向上に役立っていることが見られる。それに対し、内容の理解、海技試験（英語）合格、TOEIC 点数向上に関しては良い結果を得られなかった。これは二週間程度のインターンシップで急激に英語能力が向上するわけではないことを表しており、当然の結果とも言えるが、前述の TOEIC 試験結果表からも分かるように、インターンシップ参加後 TOEIC スコア向上が見られており、英語が理解できなかったことを含めてその後の学生の勉強の進め方や、英語力向上にも間接的に寄与していると考えられる。また項目の 1 番目は参加理由を聞くものであったが、英語力向上や異文化交流などの解答であった。

次に国際インターンシップに参加した学生の卒業後の状況を調べるために就職先にアンケート調査を依頼した。結果を以下に示す。

国際インターンシップに参加した学生のフォローアップ調査

	A	B	C	D	E
問1 仕事に対する、やる気が見られる。熱意が見られる	4	3			
問2 周囲の人と協調して仕事が出来ている。	5	2			
問3 積極的に物事に取り組んでいる。	4	3			
問4 外国語を使う仕事をしている。	4	1	2		
問5 日本人以外にも臆することなくコミュニケーションが取れている。	3	1	2		1
問6 語学力が身についている。	1	5			1
問7 常に努力する姿勢がみられる。	4	3			
問8 最後まであきらめずにやり通す姿勢が見られる。	3	4			
問9 自己管理を行うことが出来ているようだ。	5	2			
問10 自己分析が出来ているようだ。	1	6			
合 計	34	30	4	0	2

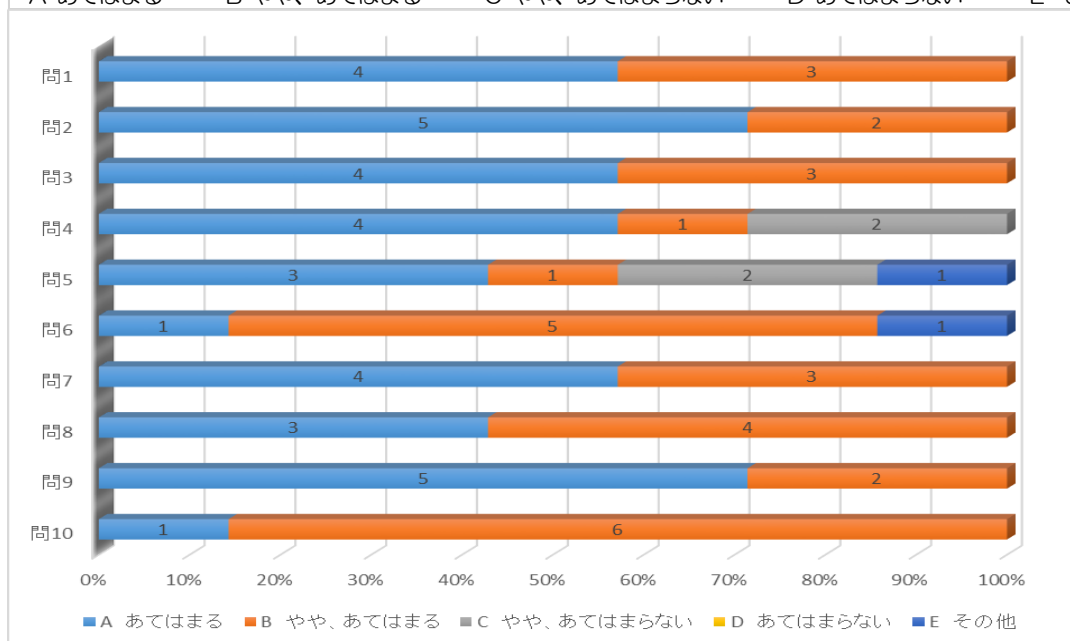
A=あてはまる

B=やや、あてはまる

C=やや、あてはまらない

D=あてはまらない

E=その他



アンケートを実施した2016年9月時点では、まだ国際インターンシップ参加後に働き出した学生が少なく、7名分の評価であるが、おおむね良い評価を得ている。しかし、問5、問6の評価からも分かるように、要求されている外国語のレベルに達するのはまだこれからのようである。また問10の自己管理に関する項目で比較的厳しい評価がみられるが、入社後の期間が短いためであると思われる。その他(E)の回答については、現在外国語を使用しない職務であるとの事である。

4-5 総括

現在 4 年間に渡り国際インターンシップが行われており、本年度末である 3 月にも多くの参加学生が見込まれている。また、学生の意識が国際インターンシップは優秀な学生のためにあるものであるという考えから、多くの学生に開かれたものであるという意識に変わりつつある。そのため一時的に参加者の TOEIC スコア低下も表れてくると考えられるが、本来の目的である、“新たな海事技術者の資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成”を考えるとこれは喜ばしい事であると考えており、できるだけ学生に国際インターンシップの機会を設ける必要があると考えている。参加学生の経済的負担の問題、引率教員の日程的な問題等もあるが、今後は本プロジェクトによって作りあげた国際インターンシップをより発展させ、各高専が持っている他の語学研修等とも連携を強め内容やプログラムを精査し、内容的にも費用的にもより幅のある語学研修の機会を作っていくことが望ましいと考えている。

5. 海事人材育成プロジェクトの概要と 本報告執筆者一覧

5. 海事人材育成プロジェクトの概要と本報告執筆者一覧

“新たな海事教育システム構築のための高専・商船学科教員研修事業”を含む「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発（通称：海事人材育成プロジェクト）」の概要を以下に紹介する。海事人材育成プロジェクトは文部科学省の大学間連携共同教育推進事業として平成24年度に採択された平成28年度迄の5年間の教育改善事業である。

◆背景

四面を海で囲まれた日本にとって、海運は重要な輸送手段であり、海上輸送は産業の生命線とも言われている。平成19年の海洋基本法の公布を受け、平成20年には海洋基本計画も政府から提言され、安全で安定した海上輸送の確保には海運を担う人材が不足している現況を打破することが急務であり、質の高い海事技術者（船員）の効率的育成の重要性が強く指摘されている。また、近年の海上輸送における技術的変革により、海事技術者の資格に直接影響を及ぼす国際条約であるSTCW条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）が改正され、ECDIS（電子海図表示情報装置）やヒューマン・リソース・マネージメント（Bridge Resource Management：船橋におけるチームワーク）の導入なども含むものとなり、海上輸送のグローバル化と技術革新の進展が海事技術者として具備すべき能力を大きく変貌させている。

重要であるが対応できないでいる人材育成課題を抱えている海運界において、国土交通省、海運会社、海事関連団体、海事教育機関などの海事分野における産官学が「社会ニーズに応えうる優秀な海事技術者の育成のあり方」について検討を行ない、平成24年3月に、「船員（海技者）の確保・育成に関する検討会報告」をまとめ、新たな海事技術者に必要な資質と知識・技能に基づく海事教育内容の見直し、並びに、海運業界と連携した海事教育の推進などが提言された。

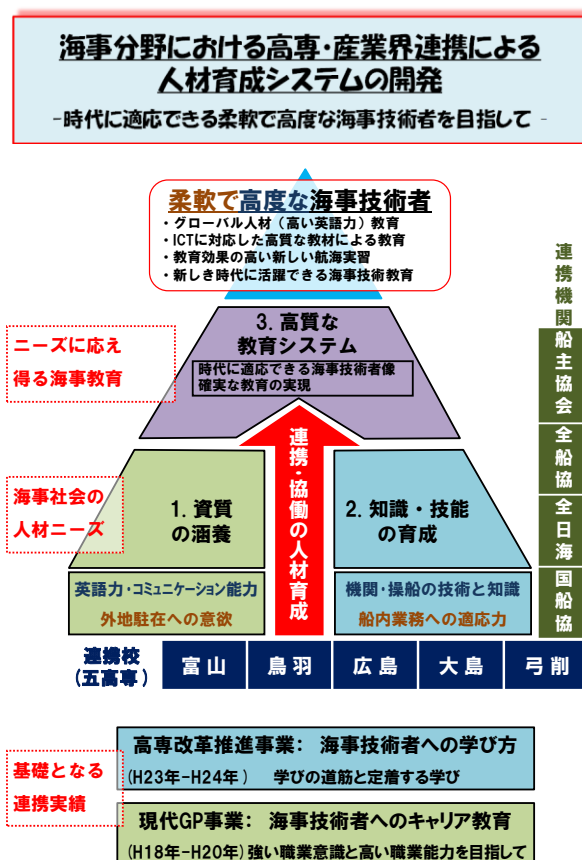
この報告では海運業界が求める海事技術者の要件としてグローバル化に対応した資質と技術革新に対応した知識・技能が求められるとともに、海事分野のステークホルダーとの人材育成上の連携強化が指摘されている。

◆概要

海事技術者を育成する高等専門学校・商船学科などの海事教育機関は、前述の政策と産業界から、質の高い人材を育成し得る教育システムに変革することが求められており、特に、改正された国際条約への対応は喫緊の課題となっている。

本事業は、右図に示すように、上述の報告にある海事分野の方針に従って、商船学科を有する五つの高等専門学校と海事分野のステークホルダーである海事関連団体の日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会がひとつのチームを構成し、グローバル化に対応した“1. 新たな海事技術者に必要な資質の涵養”と技術革新に対応した“2. 新たな海事技術者に不可欠な知識・技能の育成”に取組み、海運業界が求める時代に適應できる「柔軟で高度な海事技術者」の継続的かつ確実な育成を目指し、海事教育機関である高専・商船学科として必要となる“3. 新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る質の高い海事教育システム”の実現を試みるものである。

具体的には、平成24～28年度の5年間に於いて、次記する3種サブプロジェクトを企画・実施し、新たな海事人材を育成し得る質の高い教育システムの開発に取り組み、その成果を海運界、他海事教育機関や他高専に広く紹介するものである。



海事人材育成プロジェクトの概念図

◆プロジェクトを構成する 3 種サブプロジェクト

1. 新たな海事技術者に必要な資質の涵養（総括：鳥羽）

新たな海事技術者に必要な資質として基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力、外地駐在への意欲等が求められている。

鳥羽商船高専と広島商船高専が担当校となって、5 高専・商船学科が船主協会、全船協、全日海、国船協と協働して、これらの資質を身に付け、グローバルな活躍が期待される英語のできる高専・商船学科生の育成法の確立を目指す。

1.1 英語力向上プログラムの開発（担当：鳥羽）

新たな海事技術者の資質として求められる基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力の育成を試みるものであり、15 才から 20 才の高専・商船学科生に対して TOEIC スコア：500 程度をゴールとする英語教育プログラムの構築を目指す。

1.2 国際インターンシップの展開（担当：広島）

新たな海事技術者の資質として求められる基礎的な英語力、外地駐在への意欲の育成を目指し、18 才の高専・商船学科・4 年生に対して有効で適切な国際インターンシップの展開を試みるものである。5 高専では国際インターンシップを企画・実施しており、商船学科・学生に適したプログラムへの改善、単位化などを行ない、参加者の向上につなげ、定着させることを目指す。

2. 新たな海事技術者に不可欠な知識・技能の育成（総括：大島）

新たな海事技術者に不可欠な知識・技能として船舶の機関及び操船に関する基礎的な知識・技能、船舶の業務・生活への適応力が求められている。

大島商船高専と弓削商船高専が担当校となって、5 高専・商船学科が船主協会、全船協、全日海、国船協と協働して、これらの知識・技能を身に付けた、船舶の業務・生活に適応できる高度な知識・技能を有する海事技術者の育成への改善を目指す。

2.1 教科教材の開発、電子書籍化の推進（担当：大島）

15 才から 20 才の高専・商船学科学生に適合した教材の不足が指摘されている。新たな海事技術者に求められている船舶の機関及び操船に関する基礎的な知識・技能を、15 才から 20 才の高専・商船学科学生に確実に教授するために必要な教材の開発、教材の電子化などの海事教育の学習環境の改善を目指す。

2.2 新しい航海実習の提案（担当：弓削）

高専・商船学科では航海実習として校内練習船実習と 1 年間の大型練習船実習(独立行政法人・航海訓練所に委託)が実施されている。新たな海事技術者に不可欠な知識・技能として求められる船舶の業務・生活への適応力の育成システムの改善を目指し、これらの航海実習について高専・商船学科における教育の高度化、効率向上の視点から検討し、5 高専による大型練習船の共同利用を含む新しい航海実習の提案を試みる。

3. 新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る質の高い海事教育システム(総括：富山)

新たな海事技術者に必要な資質、不可欠な知識・技能として基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力と外地駐在への意欲、船舶の機関及び操船に関する基礎的な知識・技能と船舶の業務・生活への適応力が求められているが、15才で入学し、20才で卒業する高専・商船学科においてこれらの資質、知識・技能を確実に育成するカリキュラム等の新たな海事教育システムは検討、開発されていない。

富山高専が担当校となって、5高専・商船学科が船主協会、全船協、全日海、国船協と協働して、求められている人材である「柔軟で高度な海事技術者」を確実に継続的に育成し得る協働教育システムの確立を目指す。

3.1 海事技術者像と具備すべき知識・技能の提示(担当：富山)

求められている人材と具備すべき知識・技能、資質について、高専・商船学科の視点から、再度検討し、諸国及び日本の海事社会の人材現況について調査・解析し、海事社会の人材ニーズと高専・商船学科が育成すべき人材との整合を試みる。

3.2 確実な海事教育システムの提示(担当：富山)

高専・商船学科教員自らが海事社会における実学の現況を現地調査し、求められている人材と具備すべき知識・技能、資質を把握するとともに、前述の調査・解析に基づき、高専・商船学科が求められている人材を確実に育成し得る海事教育システム、商船学科コアカリキュラム等の開発を目指す。

本報告書執筆者一覧

本報告は、「新たな海事技術者に必要な資質の涵養」サブプロジェクトのメンバーが執筆したものである。サブプロジェクト・メンバーを以下に紹介する。

富山高等専門学校	商船学科	講師	経田 僚昭
鳥羽商船高等専門学校	商船学科	教授	石田 邦光
	商船学科	教授	窪田 祥朗
	専攻科	准教授	今井 康之
広島商船高等専門学校	商船学科	教授	大山 博史
	商船学科	助教	木下 恵介
大島商船高等専門学校	商船学科	助教	前畑 航平
弓削商船高等専門学校	商船学科	准教授	柳沢 修実

6. 報告集・事例集及び資料

6-1 グローバル教育拠点を利用した 教育補助教員による英語教育 プログラム事例集

英語補助教員によるプログラム事例集 - 1

プログラム名: 目からウロコの英文ライティング (週刊 Student Times より)		富山高専
対 象	商船学科教職員	
参加人数	1 人～4 人	
概要: ■ To enjoy discussing the topic for the day (speaking, discussion) ■ To put the Japanese sentence given for the day into English (writing) (one topic at one time) ■ To write your answers on the whiteboard and check them in class ■ To read the explanation about important grammatical points and improve the ability for better writing or translation		
周知・実施方法: mainly by e-mails		
到達目標: ■ To improve skills for writing based on daily topics and conversation (This course is not so-called academic writing) ■ To improve skills for speaking about usual daily topics (This writing course easily leads to speaking in daily English) ■ To get useful knowledge of grammar to write about daily topics		

授業例

使用教材: 「目からウロコの英文ライティング」 (「週刊 Student Times」 / Japan Times 社より)	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
15 分	To enjoy discussing the topic for the day
10 分	To put the given Japanese conversation or sentences into English (one topic at one time)
10 分	To write the answers on the whiteboard and check them in class
15 分	To read the explanation about important grammatical points and improve the ability for better writing
10 分	Questions and answers / additional discussion
自己評価や学生の感想: ■ The teachers taking this course often feel and are surprised that it is possible to express almost everything in easy English. ■ They also feel that learning grammar is important, very useful, and a lot of fun.	

英語補助教員によるプログラム事例集 - 2

プログラム名: 3-minute Speeches or Presentations		富山高専
対 象	商船学科教職員	
参加人数	2 人～7 人	
概要: ■ You make a 3-minute speech in rotation, and present it in class, sometimes using slides by Power Point, photos, color copies, and other times showing real things. ■ You have a question-answer session about the speech. ■ You enjoy discussing the topic freely in English. ■ You can check by reading what you have just heard.		
周知・実施方法: mainly by e-mails		
到達目標: ■ To get used to making speeches and presentations, and question-asking. ■ To learn how to make a structured speech paying attention to the flow, structure, and logic rather than enjoy free conversation. ■ To know each other better through his/her presentation.		

授業例

使用教材：各自が用意したそれぞれのスピーチ、プレゼン	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
15 分	To give a speech or presentation about a topic or subject you have chosen / it sometimes takes more than 10 minute if you show slides etc.
15 分	To ask questions and exchange your opinions, impressions, and comments.
10 分	
10 分	
10 分	
10 分	To read the script and check your understanding of the presentation
自己評価や学生の感想:	
■ It is fun to listen to others' speeches and presentation. ■ It sometimes takes time to prepare a speech and presentation, and it is sometimes difficult to write a script.	

プログラム名: Learning through TV Language Programs		富山高専
対 象	商船学科教職員	
参加人数	1 人～4 人	
概要: ■ To enjoy watching NHK TV programs and broaden your horizon your horizon ■ To pick up useful expressions, phrases, and words and have a discussion about them ■ To discuss the topic of the program for the day		
周知・実施方法: mainly by e-mails		
到達目標: ■ To enjoy watching NHK TV-programs and get a broad range of knowledge through useful, enlightening, and interesting topics, incidents, and issues. ■ To improve our listening skills and get a large English vocabulary		

授業例

使用教材 : ①ニュースで英会話 (NHK) ②Cool Japan (NHK) ③NHK Super-presentation (TED)	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
	To watch the TV program for the day ①current topics (Listening) ②to get used to world Englishes and know how foreigners view Japanese cultures (Listening and Speaking) ③to get knowledge about the latest trend, research, and learning by watching super presentations. To pick up some words, phrases, and expressions To enjoy discussing the topic for the day
自己評価や学生の感想: ■ Listening of authentic English is very difficult, but when the content is interesting enough, it stimulates us and awakens our interest.	

英語補助教員によるプログラム事例集 - 4

プログラム名: TOEIC 問題集		富山高専
対 象	商船学科教職員	
参加人数	1 人～2 人	
概要: <u>Sample Questions</u> ■ Part 1: Photographs ■ Part 2: Question-Response ■ Part 3: Conversations ■ Part 4: Talks ■ Part 5: Incomplete Sentences		■ Part 6: Text Completion ■ Part 7: Reading Comprehension <u>Practice (or Trial) Exams (1) (2)</u>
周知・実施方法: mainly by e-mails		
到達目標: ■ To prepare for TOEIC by solving the questions and problems of practice exams, aiming to get a higher score		

授業例

使用教材 : TOEIC テスト 新公式問題集	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
60 分	To answer the questions, listening to the CDs or reading the text. To check your own answers and correct them. To understand and repeat important points. Q-A session
自己評価や学生の感想: ■ Getting used to the same type of TOEIC sample questions and trial exams was good to prepare for the TOEIC tests.	

英語補助教員によるプログラム事例集 ― 5

プログラム名： 2014 年 4 月・7 月（前期）航海英語 I 授業支援実施							富山高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数		航海コース 22 名 延べ人数 242 人						
概要： 前期に、航海コース 19 名対象に、航海英語 I の授業支援を火曜日 6 限に実施した。 テキストに出てくる専門英語の語彙習得に特化した授業支援をした。単語プリントを作成して、それを元に単語テストを毎時間実施し、結果を評価の一部にした。								
周知・実施方法： ・シラバスを通して、授業内容や目標、授業展開の周知を図った。 ・前期に実施された講義の 11 回分を担当した。航海英語では、後半 45 分間を担当し、前半 45 分間を専門科目の先生が指導した。テキストに出てくる専門的な語彙を中心に音読活動を重視し、単語テストを 10 回実施した。単語テストの成績は、定期試験の評価に加えた。前期は、学生の延べ参加人数が 242 人だった。								
到達目標： ・専門科目の授業支援としての到達目標は、航海用英語として使われる語彙に慣れ親しみ、毎回単語テストを実施して、専門用語の定着に努めることである。テストの一部は、リスニング力がつくように、発音された音を聞いて語彙の意味を書かせる問題にした。								

授業例

使用教材： 「はじめての船上英会話」 （海文堂出版）	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
45 分 前期 11 回実施	・単元は Unit3 から Unit 14 まで担当した。単語プリントを作成し、意味やスペル練習を課題として出し、それらの単語テストを毎回授業開始時に実施した。声に出して英語読む活動を重視するために、毎回出題される 15 題のうち、発音された音声を聞いて、指定された意味を選ぶ問題を 10 題出題した。15 点満点で採点し、評価を定期テストに入れた。
自己評価や学生の感想： 船舶の現場では音声重視されるので、テキストの音読を中心に授業支援を行った。単語の意味やスペルを書かせる単語プリントを作成し、課題として提出させ、単語テストを実施し、専門的な単語の定着に努めた。専門科目の講義の事前活動としての授業支援が行えたので、専門科目の内容理解が深まった。	

英語補助教員によるプログラム事例集 ― 6

プログラム名： 平成 26 年度前期 航海英語授業支援実施 後期 機関英語授業試験実施							富山高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加 人数					42 名在籍 延べ人数 567 人			
概要： 前期に航海コース 19 名対象に航海英語Ⅱを、後期に機関コース 23 名対象に機関英語Ⅱの授業支援を行った。海技士 2 級試験レベルの問題に出てくる専門英語の語彙に特に特化し、単語プリントを作成した。一文のどこが主語と述語動詞なのか理解できるようにした。 周知・実施方法： ・シラバスを通して、授業内容や目標、授業展開の周知を図った。 ・航海英語Ⅱでは、授業の前半の 45 分間を担当し、後半の 45 分間を専門科目の先生が指導した。海技士 2 級レベルの英語の問題を教材に、専門英語の構文を中心に講義した。15 回の授業支援を実施し、延べ 267 人が受講した。 ・機関英語Ⅱでは、専門科目の先生と協働して Team Teaching 方式で講義をした。必要な専門知識との融合を図りながら、授業支援を行った。単語テストを 6 回実施し、各回 20 点満点の単語テスト結果を評価に入れた。15 回の授業支援を実施し、延べ 300 人が受講した。 到達目標： ・授業支援としての専門英語の到達目標は、船上生活に必要な英語を声に出して喋ることができる能力、つまりコミュニケーション能力の向上である。船員の任務として必要な専門知識や専門用語を英語で習得させ、英語で伝えることができる力の育成を目指す。								

授業例

使用教材 海技士（航海・機関）2 級レベルの英語の問題を抽出して作成したプリント教材	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
45 分 前期 15 回実施 後期 15 回実施	・海技士 2 級レベルの英語の問題を教材にして、英語の構文や語彙を習得させるプリントを、単元毎に作成した。特に、海技士 2 級レベルの英語は、一文がとりわけ長いので、接続詞や前置詞、主語や述語動詞を指摘しながら、文意を捉える力の育成に努めた。音読を重視した。 ・機関英語Ⅱにおいては、専門科目の先生との Team Teaching 方式を取り入れた。専門的知識が必要な場面では、専門科目の先生が図解で説明するので、英文理解を深めることができた。海技士試験の英語の問題を題材にしているが、接続詞を含む語句のまとまりや、主語＋述語動詞のつながりを意識させ、文意を捉える力の育成に努めた。自作の単語プリントにスペルを書かせ、単語テストを実施し、専門語彙の定着を図った。単語テストは定期試験の評価に入れた。
自己評価や学生の感想： 海技士試験に出題された英語を題材にするので、英文の内容理解を深めながら、学生の学習意欲を向上させることができた。	

プログラム名： 特別教育活動 前期・後期 2015 年 4 月～2016 年 2 月実施							富山高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加 人数	41 名在籍 延べ人数 973 人							
概要： ・“Surfing English”や“Navigating English”を題材として教材プリントを作成し、「主語＋動詞」という英語の基本を定着させた。音読を重視し、区切って読むことが分かりやすくなるように、スラッシュを入れさせる活動をしなが、語彙の習得に努めた。 ・実践的な場を通して、異文化理解を深め、交流活動を楽しみながら、コミュニケーション能力を育成できるように、短期留学生との交流活動を計画し、実施した。								
周知・実施方法 ・前期の特別教育活動を火曜日 5・6 限に設定し、単位認定科目ではないが、授業の 1 コマとして時間割に記載し、学生に周知した。前期は、1 年生対象に 11 回開講し、延べ 445 人が受講した。後期の特別教育活動も火曜日 5・6 限に設定し、14 回開講し、528 人が受講した。前・後期合わせて 973 人が受講した。 ・前期の 6 月 23 日に、シンガポール、ナンヤンポリテクの学生 4 名やタイのキンモック工科大学の学生 4 名と日本人学生 40 名が交流活動をした。事前に自己紹介英文と英文質問を一覧にしたシートを準備し、交流学习の充実に努めた。 ・英語検定能力検定で問われるリスニング力やリーディング力を強化するために、受験日が近づくと、放課後の補講をクラス掲示で周知し、希望する学生に個別対応を行った。								
到達目標： ・特別教育活動の目標は、英文は「動詞」を中心に構成されていることを理解させ、「主語＋動詞」を把握する力を育成することであり、英文を理解する力や語句の意味推測力を強化することである。 ・短期留学生との交流活動を実施する目的は、21 世紀型海事人材に求められる能力のひとつである実践的なコミュニケーション能力を育成し、異文化に興味を持たせ、英語学習に意欲的に取り組む態度を育成することである。								

授業例

使用教材	“Surfing English” “Navigating English” （海文堂出版）
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
45 分授業 前期： 13 回実施 後期： 12 回実施	“Surfing English”を使い区切って読む箇所にスラッシュを入れたプリント教材を作成し主語＋述語という英語の基本と語彙の定着を図った。 ・“Navigating English”を使って、単語を書き込んだり、部分訳を書きこんだり、内容把握問題に答えたりという書く活動ができるので、できるだけ声に出して英語を読み、概要把握をして、書くという活動をした。 ・6 月 23 日に実施した短期留学生との交流学习では、発信型のコミュニケーション活動ができるように、自己紹介英文や質問文を書かせ、それらを質問シートに集約し、学生同士の情報の共有化を図った。この活動では、事前に準備してきた自己紹介ではあるが、実践的な場面で繰り返し使うことを通して、学生のコミュニケーション能力の育成を意図している。以下は、学生作成の自己紹介英文と質問文である。 1) I’m ----. I am 16. My favorite sport is basketball. On weekends I always play games. I like games very much. I want to go aboard a ship in the future. Do you like travelling? Is Japanese language difficult for you? 2) My name is ---. I am 15. I belong to the table tennis club. I am from Toyama. I like playing games. I would like to speak in English. My future dream is to become a chief engineer. What is your dream? What would you like to do in your free time? 交流活動では、シンガポールとタイの留学生 8 名が、1 グループ 5 人ずつ担当し、日本人学生の質問に答えた。留学生は 15 分間で新しいグループに移動した。グループ内の日本人学生は 15 分毎に、新しい留学生と出会い、自己紹介したあと、同じ質問を繰り返した。日本人学生は、留学生からの返答を簡単に質問シートに記録した。
自己評価や学生の感想： 活動終了後に、振り返り活動として感想を書かせ 40 名の学生から回答を得た。 34 名の学生から前向きに交流活動をとらえている感想が得られた。例えば、「たくさん英語で話すことができたのでよかったです。自分の英語が思ったよりも伝わったのでうれしかったです。」「日本語のような発音だと伝わらなくてしっかりと発音で話さないと理解してもらえなくて、ALT の先生などとは違う会話ができ相手の話も聞くことができ、とても勉強になりました」「英語は発音がちがうだけで、ぜんぜん通じないんだなと思いました」「相手のことを理解することが難しかったけど、少しずつコミュニケーションをとることができた」など相手への興味、英語への関心を持っている姿勢が伺えた。 自己紹介の他に異文化理解に興味をわくような活動、例えばマレー語、タイ語の簡単な言葉などを教えてもらう、日本語を教えてあげるという交流活動があれば、トピックが広がり、コミュニケーションが活性化されるのではないかという示唆が得られた。	

プログラム名： 特別教育活動 前期・後期 2015 年 4 月～2016 年 2 月実施							富山高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加 人数		41 名在籍 延べ人数 942 人						
概要： ・“Navigating English”（海文堂出版）を題材として使用した。初めて自動車専用船に乗って仕事を覚えることになった航海士と機関士の二人が直面する場面を英語で学びながら、「主語＋動詞」という英語の基本を定着させた。また、練習問題を解きながら、専門英語として使われる語彙の習得に努めた。 ・実践的な場を通して、異文化理解を通して、臨機応変なコミュニケーション能力を育成するために、短期留学生との交流活動を計画し、実施した。								
周知・実施方法 ・前期の特別教育活動を火曜日 7 限に設定し、単位認定科目ではないが、授業の 1 コマとして時間割に記載し、学生に周知した。前期は、2 年生対象に 13 回開講し、延べ 469 人が受講した。後期の特別教育活動は金曜日 7 限に設定し、13 回開講し、473 人が受講した。前・後期で合わせて延べ 942 人が受講した。 ・前期・後期ともに、放課後の 8 時間目を、2 年生のための補習に割り当てて、希望する学生対象に、資格試験対策や定期試験対策に応えるなど個別対応を行った。 ・前期の 6 月 26 日に、シンガポール、ナンヤンポリテクの学生 4 名やタイのキンモック工科大学の学生 4 名と交流活動を実施し、40 名の学生が参加した。事前学習では、自己紹介英文や質問文を書かせ、交流学习の充実に努めた。								
到達目標： ・特別教育活動の目標は、英文が理解できる力を高め、使える語句を増やし、語意の推測力を強化させることである。また、英文の基本である前置詞・接続詞・主語や動詞を意識させながら、英語を音読する習慣を付けさせることである。 ・短期留学生との交流活動を実施する目的は、21 世紀型海事人材に求められる能力のひとつである実践的なコミュニケーション能力を育成し、英語学習に関心を持たせ、意欲的に学習する態度を育成することである。								

授業例

使用教材	“Navigating English”（海文堂出版）
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
45 分授業 前期： 13 回実施 後期： 12 回実施	・ Navigating English は、単語を書き込んだり、部分訳を書きこんだり、内容把握問題に答えたりという書く活動を通して、航海士・機関士という仕事を学び、船上で使われる専門英語に親しむという構成になっているので、できるだけ声に出して英語を読み、書くという活動をした。 ・ 6 月 23 日に実施した短期留学生との交流学习では、発信型のコミュニケーション活動ができるように、自己紹介英文や質問文を書かせ、それらを質問シートに集約し、学生間の情報の共有化を図った。ここでは、実践的な場面で、自己紹介を繰り返し、学生のコミュニケーション能力を育成することを意図している。以下は、事前学習で書いた例である。 1) How do you do? Let me introduce my name. My name is ~~~. I am 17. I am very easygoing. Watching TV is my favorite pastime. My hometown is Saitama. Do you know where Saitama is? Why did you come to Japan? 2) My name is ~~~. I am 17. I like to play baseball. I want to sleep in my free time. I like to swim. Is the sea clean to swim in your country? Is there any difference about rice between Japan and your country? 交流活動では、シンガポールとタイの留学生 8 名は、それぞれ 1 グループ 5 人の日本人学生を担当し、15 分間で新しいグループに移動した。日本人学生は 15 分毎に、新しい留学生と出会い、自己紹介した後で質問し、留学生からの返答を簡単に質問シートに書くという活動を繰り返した。
自己評価や学生の感想： 振り返り活動として、活動終了後に感想を書かせた。36 名から感想が得られた。 ・ 30 名の学生は、交流活動を評価した。例えば「前回よりもたくさん話せたと思います。またチャンスがあったら話したいです」「なかなか聞き取れないところが多数あった。日頃から耳を慣らしたいと思う」「去年より少し話せたので良かった」「意外に単語をならべたり、手で表現して分かってくれたのすごく助かりました」「楽しかったです。身振り手振りしながら片言な英語でもある程度伝わったので良かったです」と、前向きな気持ちが伺えた。 ・ 6 名の学生は、交流活動では「英語が難しかった。話せなかった。ちょっとくやしい」「英語を話すのは難しかった。うまく伝えられなかった」と述べていた。 ・ 1 名の学生は、「タイの有名なものや知らないことを教えてもらえた。英語は、難しいと思った。しかし単語をつなげることにより少しは話すことができた」と述べている。 ・ 今回の交流活動から示唆されたことは、「異文化への興味が広がり、英語学習への意欲向上に繋がるような交流活動が活性化のポイント」だということである。	

プログラム名： 特別教育活動 前期・後期 2015 年 4 月～2016 年 2 月実施							富山高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加 人数			36 名在籍 延べ人数 751 人					
概要： ・“ゼロからはじめる新 TOEIC テスト”を題材として使用した。理解できる単語量を増やすために、与えられた TOEIC リスニングパート 4 の英文パッセージを読み、指示された単語の意味を書きこむプリント教材を作成し、授業の集中度を高めた。 ・実践的な場を通して、臨機応変なコミュニケーション能力の育成を図るために、短期留学生との交流活動を実施した。								
周知・実施方法 ・前期の特別教育活動を火曜日 7 限に設定し、単位認定科目ではないが、授業の 1 コマとして時間割に記載し、学生に周知した。前期は、3 年生対象に 13 回開講し、延べ 445 人が受講した。後期の特別教育活動も火曜日 7 限に設定し、12 回開講し、306 人が受講した。前・後期合わせて、延べ 751 人が受講した。 ・前・後期ともに、放課後の火曜日の 8 時間目を、3 年生のための補習に割り当てて、希望する学生対象に、資格試験対策や TOEIC 試験対策など個別対応を行った。 ・前期の 6 月 23 日に、シンガポール、ナンヤンポリテクの学生 4 名やタイのキンモック工科大学の学生 4 名と交流活動を実施し、33 名の学生が参加した。								
到達目標： ・特別教育活動の目標は、リーディング力を高めるために理解できる単語を増やし、語意の推測力を強化させることである。意欲的に学習する態度を育成し、英語学習の習慣化を通して、TOEIC スコアのアップを図り学生のキャリア活動を支援することである。 ・短期留学生との交流活動を実施する目的は、21 世紀型海事人材に求められる能力のひとつである実践的なコミュニケーション能力を育成し、学生が英語学習に関心を持ち、継続的に学習させることである。								

授業例

使用教材 “ゼロからはじめる新 TOEIC テスト”（中経出版）	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
45 分授業 前期： 13 回実施 後期： 12 回実施	・テキストを用いてリスニングパートの英文を題材として概要読みができる力を付けさせる。プリントを作成し単語の意味や派生語を書いたり主語や述語を意識して英文を音読したりして授業への集中度を高めた。 ・6 月 23 日に実施した短期留学生との交流学习では、発信型のコミュニケーション活動ができるように自己紹介英文や質問文を書かせ、それらを質問シートに集約し、学生間の情報の共有化を図った。交流活動では、シンガポールとタイの留学生 8 名が、それぞれ 1 グループ 5 人いる日本人学生を担当し、15 分間で新しいグループに移動した。日本人学生は 15 分毎に、新しい留学生と出会い、自己紹介したあと、同じ質問を繰り返し、留学生からの返答を簡単に質問シートに記録した。
自己評価や学生の感想： 振り返り学習として感想を書かせた。このクラスは入学時より 4 回目の交流活動である。33 名の学生から感想を得た。16 人（49%）は「活動が良かった」理由を分析している。8 人（24%）は「会話が難しい」理由を分析している。7 人（21%）は、「楽しかった」とシンプルな感想であり、2 人（6%）は無回答である。 ・16 人の「活動が良かった」という具体的な理由は以下の通りである。 「通じてよかった」－7 人 「聞き取れてよかった」－2 人 「質問できた」－5 人 「異文化理解できた」－2 人。 例えば「去年よりも積極的に話すことができた。自分なりに質問を考えて話せた」「前回よりは積極的に参加できたと思います。伝えたいことを伝えるために語意力を身につけたいです」「英語はそれなりに理解できるようになったけど、質問が出てこなかったので、できるように練習していきたいと思った」「あんまりすらすら英語を話すことができなかった。質問があまり良くなかったので、次は発展できるような質問を考えたい」「たくさん質問できて良かった。だいたい聞き取れて良かった。英語が通じた時は嬉しかった」である。これらの感想から得られた示唆は、「交流学习を活性化させるには、会話がはずむような質問を事前準備しておく」である。 ・8 人の「会話が難しい」という具体的な理由は以下の通りである。 「うまく伝わらなかった」－5 名 「英語で会話はむずかしい」－1 名 「聞いていて分からない単語があった」「会話の終わり方が分からない」－2 名 うまく伝わらない具体的な理由は、「全然話せない。発音が悪いのなかなか伝わらない」「自分の質問がうまく伝わらない」「けっこう伝わらないことが多かったり、思わず日本語で話したりしてしまった」「ほとんど聞き取れなかったけれど分かる部分もあった」である。これらの感想から得られた示唆は、「事前学習で、自分の伝えたいことをしっかり発音して練習しておく」である。 ・3 年生の感想から、以前の交流学习と比較して自分なりの分析をしていることが分かる。得られた示唆をまとめてみると「会話が広がるような質問を準備しておくこと、声に出してしっかりと発音練習をしておくこと」が、活動の活性化には必要だと分かった。	

英語補助教員によるプログラム事例集 - 10

プログラム名:特別教育活動： 前期 2015 年 4 月～2015 年 7 月実施							富山高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加 人数				36 名在籍 延べ人数 300 人				
概要: ・TOEIC 新公式問題集や、“TOEIC 公式プラクティス・リスニング編”を題材として使用した。TOEIC 試験の中でもリスニングのパートに重点を置いた。理解できる語意を増やし、リスニング力を付けるために、ディクテーションを段階的に取り入れた教材を利用して、プリントを作成した。 ・実践的な場面を通して、臨機応変に対応できるコミュニケーション能力を育成するために、短期留学生らとの交流活動を実施した。								
周知・実施方法 ・前期の特別教育活動を金曜日 5 限に設定し、単位認定科目ではないが、授業の 1 コマとして時間割上に記載し、学生に周知した。4 年生対象に 12 回開講し、延べ 300 人が受講した。後期は長期航海実習のため実施しなかった。 ・前期の放課後、TOEIC や海技士試験対応の補講を特設し、小人数あるいは個人指導をし、学生の継続的な学習支援した。クラス掲示で学生に周知を図った。 ・シンガポール、ナンヤンポリテクの学生 4 名と、タイ、キンモック工科大学の学生 4 名との交流活動を 6 月 26 日に実施した。留学生と学生との情報の共有化を図るために、日本や富山のお勧めスポット紹介を書き、質問シートに集約した。								
到達目標: ・特別教育活動の目的は、リスニング力や語意量を向上させ、TOEIC スコアアップの基礎を作ることである。補講の目的は、継続的な学習支援を通して、自立した学習者を育成し、学生のキャリア意識向上を目指すことである。 ・短期留学生との交流活動の目的は、21 世紀型海事人材に求められる能力のひとつである実践的なコミュニケーション能力の向上を図り、意欲的な学生を育成することである。								

授業例

使用教材： TOEIC 公式プラクティス・リスニング編（国際コミュニケーション協会発行）	
TOEIC 新公式問題集 （国際コミュニケーション協会発行）	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
45 分授業 前期 12 回実施	・TOEIC 試験問題を題材としたプリント教材を作成した。リスニングの学習手順を①～⑤のように確かめながら、リスニング問題を解いた。 ① 英文スクリプトをみないで 音声聞く ② 音声の内容が分からない時は、英文スクリプトを見る。③ 音声を聞きながら、英語の文字をなぞり、文字と音の聞こえ方を確認する。④ 内容理解をしながら（和訳を読んでもよい）、声に出して英文をよむ（音読する）。⑤ もう一度、英文スクリプトをみないで、音声を聞く。 1 回目の聞き取りだけで理解困難なリスニング問題では、リスニングの英文スクリプトを音読し、和訳で意味を確かめてから、次に英文スクリプトを見ずに、2 回目のリスニングを実施し、聞き取りの効果を確かめた。必要に応じて、語彙定着のために和訳付きの英文スクリプトを活用した。
自己評価や学生の感想： 交流活動に参加した 27 名の中から、20 名の感想が得られた。12 名の学生の感想には「活動が良かった」と思う理由が記述され、8 名の学生の感想には「活動が難しい」と思った理由が記述されていた。得られた感想を下記のように分析した。 ・交流活動をプラス評価している人－12 名 「少人数だったのでたくさん話せた」「たくさんいろいろな話ができて楽しかったです」「おもしろかったです。もっと話したいことがたくさんありました」「色々細かいことがきけて面白かった。用意していた質問以外のことも聞けてよかった」「簡単な英語の質問だったから聞き取りやすかった。次回、機会があればもう少し難しい質問をしてみたい」「いろいろな事が知れていい経験となった」と述べている。つまり 60%の学生は「たくさん質問できて、話せたからと面白い」と評価している。 ・話が續かない、言いたいことを伝えることができなかった人－5 名 「英語で話すどうしても縮こまってしまって、言いたいことがあまり伝えられなかった。もっと英会話できるようになりたい。悔しかった。」「英語がなかなか伝わらなくてとても大変でした」「新たに質問したいことがでてきたときに、英語にできなくてもどかしかった」「英語が難しくて分からなかった。全然英語を話せなかった」「なかなか話が續かなくて難しかった。タイでは英語は使われてないのに、みんな流暢ですごかった」 ・話しかけることができなかった人－3 名。 「自分からはなしかけることができなかった」「まだまだコミュニケーションをとるのは先だなと思った」「しゃべれないから、いまいち、たいくつそうだった」 以上のことから、「話が相手に通じると面白いし、楽しい。英語で伝えられなかった。話が通じないと大変だ」と学生が感じたことが分かる。交流活動の活性化には、日本人学生が「相手に伝える内容、話すトピックを決めておく。それらを英語で言えるように準備する。せめてそれらを伝えるためのキーワードを単語レベルでもよいから準備する」ことが必要だということが示唆される。	

英語補助教員によるプログラム事例集 ― 11

プログラム名： 特別教育活動 2015 年度 4 月～2016 年 2 月実施							富山高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数					42 名在籍 延べ人数 702 人			
概要： ・ TOEIC テスト新公式問題集や、“TOEIC 公式プラクティス・リーディング編”を使用し、リーディング問題形式に慣れながら、基礎的な文法知識の整理をし、語彙の強化を図った。								
周知・実施方法： ・ 前期、後期の特別教育活動を毎週月曜日 7 限に設定した。単位認定科目ではないが、学生の英語力向上をめざし、時間割上に授業の 1 コマとして記載し、学生に周知した。前期に 14 回実施し、延べ人数で 390 人が参加した。後期は、12 回実施し、延べ人数で 312 人が参加した。前・後期合わせて、延べ 702 人が参加した。								
到達目標： ・ 特別教育活動の目的は、リーディング問題形式に慣れながら、基礎的な文法知識の定着と語彙力を強化することである。自ら学ぼうとする意欲的な学習者の育成を目指し、TOEIC スコアアップを図り、学生のキャリア活動を支援することである。								

授業例

使用教材：“TOEIC 新公式問題集”（国際コミュニケーション協会発行） “TOEIC 公式プラクティス・リーディング編”（国際コミュニケーション協会発行）						
目安（分）		内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など				
45 分授業 ・ 前期 14 回、 後期 12 回実施		・ リーディング問題のパート 5・6 に特化した。難解な文法問題では詳細に説明し、派生語から単語の意味を類推する力を育成した。長文問題では主語と述語動詞の意味を理解し、概要を把握する力の育成に努めた。				
自己評価や学生の感想： 2015 年 7 月に、過去 2 年間の TOEIC 自己ベストスコア 39 人分を集約した。5 名がオフィシャル TOEIC スコア、34 名はカレッジ TOEIC スコアである。39 人の平均点は 338 点。550 点以上は、760 点、650 点、570 点だった。50 点きざみのスコア分布は下記の通りである。						
299 点以下	300 点~349 点	350 点~399 点	400 点~449 点	450 点~499 点	500 点~549 点	550 点以上
16 人	9 人	6 人	2 人	3 人	0 人	3 人

英語補助教員によるプログラム事例集 - 12

プログラム名： 英会話							広島商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数		4	4	4	2		0	14
概要： 外国人である LAOUBI Khaled (ラオビカレド) 先生にグローバル教育拠点等を利用して英会話を実施していただいている。基本的には日本語は一切使わず英語のみの会話の時間としている。上記人数は概略で週ごとに参加人数は異なっている。								
周知・実施方法： 毎週火曜日昼休みに実施している。周知は海事人材育成担当教員が授業中に周知し、実施時には放送で周知している。外国人に不慣れな学生も参加しやすいよう海事人材担当教員が教室の前に立ち学生に声をかけ入室を促すようにしている。								
到達目標： 外国人との会話に慣れることを目標としている。また学生が現在持っている英語力で十分会話が行えることを理解させることも目標としている。								

授業例

使用教材 当初グローバル教育拠点の教材を用いていたが、会話をより円滑にするため現在は特に使用していない。	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
5 分	挨拶
5 分	テーマの説明
15 分	学生と外国人講師によるその日のテーマに関する会話。
5 分	フリートーク
自己評価や学生の感想： 学生が現在もっている知識で身の回りの物を英語で表現することが出来、会話に必要な動詞も学生の知識でほぼ足りていることを学生が認識することが出来ているようである。知識よりも勇気と練習が必要であることを参加した学生からは聞けるようになった。	

英語補助教員によるプログラム事例集 - 13

プログラム名: 海技演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ							広島商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数			40	40	40			120
概要: 海技演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲという授業の枠の中で、英語補助教員に TOEIC の点数向上のための授業を補助していただいている。また、海事英語に関するプリントの作成の補助をしていただいている。								
周知・実施方法: 授業時間に補助教員として入ってもらい実施している。 従って特に周知は行っていない。								
到達目標: 海事人材として必要な TOEIC の点数獲得及び海事に関する英語の習得。								

授業例

使用教材 TOEIC テスト新公式問題集< Vol.6> 新 TOEIC テスト英単語ターゲット 3000 海事英語自作プリント	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
45 分	TOEIC 教材の付属されている CD を活用し、模擬テストを行い、丁寧な解説を交えながら、答え合わせを行っている。このように、習熟度を確認しながら、丁寧な教育を実施している。また、TOEIC に出題される単語の暗記もテストを通じて行っている。
45 分	二級海技士国家試験に出題される英語の問題を中心とした海事英語自作プリントにより、海技技術者として必要な英語読解力を養う。
自己評価や学生の感想: TOEIC に多くの時間を割いているが、簡単には学生の成績が向上していないのが実情である。今後も少しずつ実情に合わせ変更しながら可能な範囲で取り組みを続けたい、	

英語補助教員によるプログラム事例集 ― 1 4

プログラム名： 英会話教室							弓削商船高専									
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計								
参加 人数			43					43								
概要： 特命助教であるガリー先生による TOEIC 対策の授業である。TOEIC は独特の受験形式であるため、形式を知っているか否かでは得点にかなり影響する。よって、TOEIC のスコアを上げることを第一目的で授業を行う。																
周知・実施方法：																
通常の学校の時間割に組み込んで、実施している。時間は、50 分としている。単位認定は行っていない。同授業の試験はない。ただし、出席は義務として、毎回出欠を取っている。欠席の多い学生は、担任及び本プロジェクト責任教員が学生に注意している。よって出席率は、他の授業と変わらない。																
商船学科 3 年の時間割抜粋																
週	(木)								(金)							
コマ	1	コマ	2	コマ	3	コマ	4	コマ	1	コマ	2	コマ	3	コマ	4	コマ
時間	08:50	～10:20	10:30	～12:00	13:00	～14:30	14:40	～16:10	08:50	～10:20	10:30	～12:00	13:00	～14:30	14:40	～16:10
時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
S2	専門英語1		数学1		国語		特別活動		地歴2		実験実習1		情報処理2		補講	
	オダゲレル		雙知		田中		柳沢		日下(図書)		筒井,伊達,小林		長尾(センター)			
M2	国語	補講	地歴2		物理		特別活動		電気磁気学		化学		数学2			
	田中		岡田		梶山		稲田		瀬清		伊藤		藤井			
I2	プログラミング基礎		国語		地歴2		特別活動		物理		電磁気学1		総合英語		数学補習	
	田原,横木,阿部,加(講演)		田中		岡田		梶山		梶山		葛目		石田		前田	
S3N	計測・制御1		体育(実技)		数学1		特別活動		基礎英語		運送管理学1		TOEIC向上		補講	
	筒井		水崎,富永,金島		久保		池田		野口		賀路山		カリ(メディア)		(メディア)	
S3E	計測・制御1		体育(実技)		数学1		特別活動		基礎英語		蒸気工学1		TOEIC向上		補講	
	筒井		水崎,富永,金島		久保		池田		野口		村上		カリ(メディア)		(メディア)	
M3	数学1		体育(実技)		材料科学		特別活動		基礎英語		工業力学2		設計製図3		補講	
	藤井		水崎,富永,金島		大根田(アセンブリ)		長井		上江		稲田		鶴(製図)			

到達目標： TOEIC の受験形式になれること。上級者は TOEIC500 点以上。								
--	--	--	--	--	--	--	--	--

授業例

使用教材 基本的に、過去の TOEIC 試験を基にガリー先生が作成している。	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
50 分	Who? The Institute for International Business Communication (財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会, Zaijishonkōin Kokusai Bijinesu Kōmyūshikōhon Kyōkai) Part of The Ministry of Economy, Trade and Industry (経済産業省, Keizai-sangyō-shō) or METI What? The TOEIC Listening & Reading Test is a two-hour multiple-choice test consisting of 200 questions evenly divided into listening comprehension and reading comprehension. Where? The TOEIC SP Test (Secure Program Test, セキュアテスト, Sekyū Tesuto) at a test centre. The TOEIC Institutional Program (IP) Test (財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会, Zaijishonkōin Kokusai Bijinesu Kōmyūshikōhon Kyōkai) at a school, college or workplace. When? The TOEIC SP Test – on average every month at various locations around Japan. The TOEIC Institutional Program (IP) Test – at the school, college or workplace's convenience. How? By answering 200 multiple-choice questions to give a score ranging from 5 to 990. Why? ????? Listening – Part 2 – Questions & Answers Answer the following 4 questions ① B1 Operative Ship Handling B1 操船 <u>Do you understand the standing orders?</u> (A) <u>(B)</u> (C) あなたは当直規定を理解しているか？ Page 214 .4 Listening – Part 2 – Questions & Answers Answer the following 16 questions <u>29. What's wrong with ...?</u> What's wrong with the Internet connection? (A) Are you sure the modem is turned on? (B) As a matter of fact, we did. (C) I met her at a party, remember? インターネット接続の何が問題なのかしら。 (A) モデムの電源が入っているのは間違いないかしら。 (B) じつを言うと、私たちがやったんだ。 (C) 彼女とはパーティーで会ったんだよ、覚えてる？ 聴解試験一問一答 TOEIC - L1 & L2 S... Number... Name: Listening Part 1 - Photographs 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 Listening Part 2 - Q & A 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40
自己評価や学生の感想: 自己評価：スコットランド出身のガリー先生は、弓削商船高専で 20 年以上前より、非常勤講師を務め、学生の気質を理解している。そのため学生の弱点などを集中的に授業で鍛えている。その効果が毎年の TOEIC スコアのクラス平均の向上に繋がっている。 学生の感想：はじめは難しく、何を言っているのかよくわからなかったが、一度 TOEIC を受験するとガリー先生の授業がよく理解できた。	

英語補助教員によるプログラム事例集 ― 15

プログラム名： 英会話教室							弓削商船高専																																																																																																																																																																																																																																			
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計																																																																																																																																																																																																																																		
参加人数				34				34																																																																																																																																																																																																																																		
概要： 特命助教であるガリー先生による TOEIC 対策の授業である。TOEIC は独特の受験形式であるため、形式を知っているか否かでは得点にかなり影響する。よって、TOEIC のスコアを上げることを第一目的で授業を行う。																																																																																																																																																																																																																																										
周知・実施方法：																																																																																																																																																																																																																																										
通常の学校の時間割に組み込んで、実施している。時間は、90 分としている。そのうち後半の 40 分は自分で間違いを直したり、質問したりと自学自習の形をとっている。ガリー先生は質問のため、教室内にいる。また単位認定は行っていない。同授業の試験はない。ただし、出席は義務として、毎回出欠を取っている。欠席の多い学生は、担任及び本プロジェクト責任教員が学生に注意している。よって出席率は、他の授業と変わらない。																																																																																																																																																																																																																																										
商船学科 4・5 年の時間割抜粋																																																																																																																																																																																																																																										
<table><tr><td colspan="4"></td><td colspan="4">(木)</td><td colspan="4"></td><td colspan="4">(金)</td></tr><tr><td colspan="2">1 コマ</td><td colspan="2">2 コマ</td><td colspan="2">3 コマ</td><td colspan="2">4 コマ</td><td colspan="2">1 コマ</td><td colspan="2">2 コマ</td><td colspan="2">3 コマ</td><td colspan="2">4 コマ</td></tr><tr><td colspan="2">08:50 ～10:20</td><td colspan="2">10:30 ～12:00</td><td colspan="2">13:00 ～14:30</td><td colspan="2">14:40 ～16:10</td><td colspan="2">08:50 ～10:20</td><td colspan="2">10:30 ～12:00</td><td colspan="2">13:00 ～14:30</td><td colspan="2">14:40 ～16:10</td></tr><tr><td>1限</td><td>2限</td><td>3限</td><td>4限</td><td>5限</td><td>6限</td><td>7限</td><td>8限</td><td>1限</td><td>2限</td><td>3限</td><td>4限</td><td>5限</td><td>6限</td><td>7限</td><td>8限</td></tr><tr><td colspan="4">小島 学務課 監修</td><td colspan="4"></td><td colspan="4">藤本宏</td><td colspan="4">丸山</td></tr><tr><td>S4N</td><td>講義</td><td>田</td><td>電気工学2 佐久間</td><td>生物概論 香田(アセンブリ)</td><td>航海学2 多田</td><td>運送管理学2 真珠山</td><td></td><td>電子工学1 樺沢</td><td>TOEIC 向上2 ガリー(メディア)</td><td>総合英語 野口</td><td>補講</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>S4E</td><td>講義</td><td>田</td><td>電気工学2 佐久間</td><td>生物概論 香田(アセンブリ)</td><td>熱工学2 村上</td><td></td><td></td><td>電子工学1 樺沢</td><td>TOEIC 向上2 ガリー(メディア)</td><td>総合英語 野口</td><td>補講</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>M4</td><td>工学実験1</td><td></td><td>工作機械 大橋田</td><td>流体力学 ガンバット</td><td>応用物理1 藤本隆</td><td>国語 田中</td><td></td><td>制御工学 大澤</td><td>電子回路 瀬崎</td><td>補講</td><td></td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>M4留</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>日本事情 専田(レク1)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>I4</td><td>講義 ディマ</td><td>補講</td><td>デジタルシステム設計工学 前田、益崎智(情漢)</td><td>応用数学2 真結</td><td>画像処理 田房(情漢)</td><td>科学技術英語1 葛田</td><td>国語 田中</td><td>オペレーター・イングリッシュシステム 高木(システム工学)</td><td>数理統計学 樺木(情漢)</td><td>応用数学1 藤本宏</td><td>心身健康学 徳田、樺木</td><td>補講</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>S5N</td><td>セミナー 審</td><td></td><td>海上交通工学 山崎</td><td colspan="4">卒業研究</td><td>海上交通法2 亀井</td><td>英語講義 野口</td><td>TOEIC 向上3 ガリー(メディア)</td><td>補講</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>S5E</td><td>セミナー 審</td><td></td><td>流体機械工学 亀井</td><td colspan="4">卒業研究</td><td>材料学 池田</td><td>英語講義 野口</td><td>TOEIC 向上3 ガリー(メディア)</td><td>補講</td><td colspan="4"></td></tr><tr><td>M5</td><td>工学実験2</td><td>補講</td><td>工業英語 ガンバット</td><td>機構学 沖</td><td>制御工学概論 沖</td><td>ロボット工学 沖</td><td>計算機制御 長原</td><td>英語講義 坂内</td><td>設計製図5 堀田、鶴</td><td>卒業研究</td><td></td><td colspan="4"></td></tr><tr><td colspan="3"></td><td colspan="16">商船学科 4・5 年 時間割抜粋 (2024 年度 1 学期)</td></tr></table>													(木)								(金)				1 コマ		2 コマ		3 コマ		4 コマ		1 コマ		2 コマ		3 コマ		4 コマ		08:50 ～10:20		10:30 ～12:00		13:00 ～14:30		14:40 ～16:10		08:50 ～10:20		10:30 ～12:00		13:00 ～14:30		14:40 ～16:10		1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限	小島 学務課 監修								藤本宏				丸山				S4N	講義	田	電気工学2 佐久間	生物概論 香田(アセンブリ)	航海学2 多田	運送管理学2 真珠山		電子工学1 樺沢	TOEIC 向上2 ガリー(メディア)	総合英語 野口	補講					S4E	講義	田	電気工学2 佐久間	生物概論 香田(アセンブリ)	熱工学2 村上			電子工学1 樺沢	TOEIC 向上2 ガリー(メディア)	総合英語 野口	補講					M4	工学実験1		工作機械 大橋田	流体力学 ガンバット	応用物理1 藤本隆	国語 田中		制御工学 大澤	電子回路 瀬崎	補講						M4留						日本事情 専田(レク1)										I4	講義 ディマ	補講	デジタルシステム設計工学 前田、益崎智(情漢)	応用数学2 真結	画像処理 田房(情漢)	科学技術英語1 葛田	国語 田中	オペレーター・イングリッシュシステム 高木(システム工学)	数理統計学 樺木(情漢)	応用数学1 藤本宏	心身健康学 徳田、樺木	補講			S5N	セミナー 審		海上交通工学 山崎	卒業研究				海上交通法2 亀井	英語講義 野口	TOEIC 向上3 ガリー(メディア)	補講					S5E	セミナー 審		流体機械工学 亀井	卒業研究				材料学 池田	英語講義 野口	TOEIC 向上3 ガリー(メディア)	補講					M5	工学実験2	補講	工業英語 ガンバット	機構学 沖	制御工学概論 沖	ロボット工学 沖	計算機制御 長原	英語講義 坂内	設計製図5 堀田、鶴	卒業研究									商船学科 4・5 年 時間割抜粋 (2024 年度 1 学期)															
				(木)								(金)																																																																																																																																																																																																																														
1 コマ		2 コマ		3 コマ		4 コマ		1 コマ		2 コマ		3 コマ		4 コマ																																																																																																																																																																																																																												
08:50 ～10:20		10:30 ～12:00		13:00 ～14:30		14:40 ～16:10		08:50 ～10:20		10:30 ～12:00		13:00 ～14:30		14:40 ～16:10																																																																																																																																																																																																																												
1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限																																																																																																																																																																																																																											
小島 学務課 監修								藤本宏				丸山																																																																																																																																																																																																																														
S4N	講義	田	電気工学2 佐久間	生物概論 香田(アセンブリ)	航海学2 多田	運送管理学2 真珠山		電子工学1 樺沢	TOEIC 向上2 ガリー(メディア)	総合英語 野口	補講																																																																																																																																																																																																																															
S4E	講義	田	電気工学2 佐久間	生物概論 香田(アセンブリ)	熱工学2 村上			電子工学1 樺沢	TOEIC 向上2 ガリー(メディア)	総合英語 野口	補講																																																																																																																																																																																																																															
M4	工学実験1		工作機械 大橋田	流体力学 ガンバット	応用物理1 藤本隆	国語 田中		制御工学 大澤	電子回路 瀬崎	補講																																																																																																																																																																																																																																
M4留						日本事情 専田(レク1)																																																																																																																																																																																																																																				
I4	講義 ディマ	補講	デジタルシステム設計工学 前田、益崎智(情漢)	応用数学2 真結	画像処理 田房(情漢)	科学技術英語1 葛田	国語 田中	オペレーター・イングリッシュシステム 高木(システム工学)	数理統計学 樺木(情漢)	応用数学1 藤本宏	心身健康学 徳田、樺木	補講																																																																																																																																																																																																																														
S5N	セミナー 審		海上交通工学 山崎	卒業研究				海上交通法2 亀井	英語講義 野口	TOEIC 向上3 ガリー(メディア)	補講																																																																																																																																																																																																																															
S5E	セミナー 審		流体機械工学 亀井	卒業研究				材料学 池田	英語講義 野口	TOEIC 向上3 ガリー(メディア)	補講																																																																																																																																																																																																																															
M5	工学実験2	補講	工業英語 ガンバット	機構学 沖	制御工学概論 沖	ロボット工学 沖	計算機制御 長原	英語講義 坂内	設計製図5 堀田、鶴	卒業研究																																																																																																																																																																																																																																
			商船学科 4・5 年 時間割抜粋 (2024 年度 1 学期)																																																																																																																																																																																																																																							
到達目標： TOEIC の受験形式になれること。上級者は TOEIC500 点以上。																																																																																																																																																																																																																																										

授業例

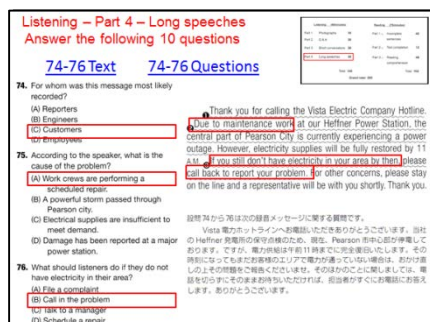
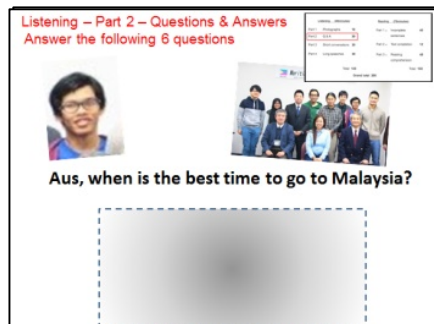
使用教材

基本的に、過去の TOEIC 試験を基にガリー先生が作成している。海事英語や弓削丸での実習なども模擬試験に取り入れている。

目安 (分)

内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など

50 分



自己評価や学生の感想:

自己評価: スコットランド出身のガリー先生は、弓削商船高専で 20 年以上前より、非常勤講師を務め、学生の気質を理解している。そのため学生の弱点などを集中的に授業で鍛えている。その効果が毎年の TOEIC スコアのクラス平均の向上に繋がっている。

学生の感想: 昨年はあまりやる気はなかったが、TOEIC の点を上げたいと思ってから真剣に聞き出した。とてもためになっている。放課後の英会話教室でも少しずつ英語が聞けるようになってきているのでよかった。点数が上がってうれしい。難しい。

英語補助教員によるプログラム事例集 - 16

プログラム名: 英会話教室							弓削商船高専																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
参加人数					36			36																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
概要: 特命助教であるガリー先生による TOEIC 対策の授業である。TOEIC は独特の受験形式であるため、形式を知っているか否かでは得点にかなり影響する。よって、TOEIC のスコアを上げることを第一目的で授業を行う。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
周知・実施方法:																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
通常の学校の時間割に組み込んで、実施している。時間は、90 分としている。そのうち後半の 40 分は自分で間違いを直したり、質問したりと自学自習の形をとっている。ガリー先生は質問のため、教室内にいる。また単位認定は行っていない。同授業の試験はない。ただし、出席は義務として、毎回出欠を取っている。欠席の多い学生は、担任及び本プロジェクト責任教員が学生に注意している。よって出席率は、他の授業と変わらない。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
商船学科 4・5 年の時間割抜粋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
<table><tr><td colspan="3"></td><td colspan="8">(木)</td><td colspan="8">(金)</td></tr><tr><td colspan="3">1 コマ</td><td colspan="2">2 コマ</td><td colspan="3">3 コマ</td><td colspan="3">4 コマ</td><td colspan="3">1 コマ</td><td colspan="2">2 コマ</td><td colspan="3">3 コマ</td><td colspan="3">4 コマ</td></tr><tr><td colspan="3">08:50 ~ 10:20</td><td colspan="2">10:30 ~ 12:00</td><td colspan="3">13:00 ~ 14:30</td><td colspan="3">14:40 ~ 16:10</td><td colspan="3">08:50 ~ 10:20</td><td colspan="2">10:30 ~ 12:00</td><td colspan="3">13:00 ~ 14:30</td><td colspan="3">14:40 ~ 16:10</td></tr><tr><td colspan="3">1限</td><td colspan="2">2限</td><td colspan="3">3限</td><td colspan="3">4限</td><td colspan="3">5限</td><td colspan="3">6限</td><td colspan="3">7限</td><td colspan="3">8限</td></tr><tr><td colspan="3">小島 学務部長</td><td colspan="8"></td><td colspan="8">藤本宏</td><td colspan="3">丸山</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td colspan="3">S4N</td><td colspan="2">講義</td><td colspan="2">田</td><td colspan="3">電気工学2 佐久間</td><td colspan="3">生物概論 香田(アセンブリ)</td><td colspan="3">航海学2 多田</td><td colspan="3">運送管理学2 真珠山</td><td colspan="3">電子工学1 樺沢</td><td colspan="2">TOEIC 向上2 ガリー(メディア)</td><td colspan="3">総合英語 野口</td><td colspan="3">補講</td></tr><tr><td colspan="3">S4E</td><td colspan="2">講義</td><td colspan="2">田</td><td colspan="3">電気工学2 佐久間</td><td colspan="3">生物概論 香田(アセンブリ)</td><td colspan="3">熱工学2 村上</td><td colspan="3"></td><td colspan="3">電子工学1 樺沢</td><td colspan="2">TOEIC 向上2 ガリー(メディア)</td><td colspan="3">総合英語 野口</td><td colspan="3">補講</td></tr><tr><td colspan="3">M4</td><td colspan="2">工学実験1</td><td colspan="2"></td><td colspan="3">工作機械 大橋田</td><td colspan="3">流体力学 ガンバット</td><td colspan="3">応用物理1 藤本隆</td><td colspan="3">国語 田中</td><td colspan="3">制御工学 大澤</td><td colspan="2">電子回路 瀬崎</td><td colspan="3">補講</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td colspan="3">M4留</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="3"></td><td colspan="3"></td><td colspan="3"></td><td colspan="3">日本事情 専田(レク1)</td><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td><td colspan="3"></td><td colspan="3"></td></tr><tr><td colspan="3">I4</td><td colspan="2">講義 ディマ</td><td colspan="2">補講</td><td colspan="3">デジタルシステム設計工学 前田,益崎智(情漢)</td><td colspan="3">応用数学2 真結</td><td colspan="3">画像処理 田房(情漢)</td><td colspan="3">科学技術英語1 葛田</td><td colspan="3">国語 田中</td><td colspan="3">オペレーション・システム 高木(システム工学)</td><td colspan="2">数理統計学 榎木(情漢)</td><td colspan="3">応用数学1 藤本宏</td><td colspan="3">システム・ソフトウェア工学 徳田,榎木</td><td colspan="3">補講</td></tr><tr><td colspan="3">S5N</td><td colspan="2">セミナー 審</td><td colspan="2"></td><td colspan="3">海上交通工学 山崎</td><td colspan="3">卒業研究</td><td colspan="3"></td><td colspan="3"></td><td colspan="3">海上交通法2 亀井</td><td colspan="2">英語講義 野口</td><td colspan="2">TOEIC 向上3 ガリー(メディア)</td><td colspan="3">補講</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td colspan="3">S5E</td><td colspan="2">セミナー 審</td><td colspan="2"></td><td colspan="3">流体機械工学 亀井</td><td colspan="3">卒業研究</td><td colspan="3"></td><td colspan="3"></td><td colspan="3">材料学 池田</td><td colspan="2">英語講義 野口</td><td colspan="2">TOEIC 向上3 ガリー(メディア)</td><td colspan="3">補講</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td colspan="3">M5</td><td colspan="2">工学実験2</td><td colspan="2">補講</td><td colspan="3">工業英語 ガンバット</td><td colspan="3">機構学 沖</td><td colspan="3">制御工学概論 沖</td><td colspan="3">ロボット工学 沖</td><td colspan="3">計算機制御 長原</td><td colspan="3">英語講義 坂内</td><td colspan="2">設計製図5 堀田,藤</td><td colspan="3">卒業研究</td><td colspan="3"></td></tr></table>												(木)								(金)								1 コマ			2 コマ		3 コマ			4 コマ			1 コマ			2 コマ		3 コマ			4 コマ			08:50 ~ 10:20			10:30 ~ 12:00		13:00 ~ 14:30			14:40 ~ 16:10			08:50 ~ 10:20			10:30 ~ 12:00		13:00 ~ 14:30			14:40 ~ 16:10			1限			2限		3限			4限			5限			6限			7限			8限			小島 学務部長											藤本宏								丸山						S4N			講義		田		電気工学2 佐久間			生物概論 香田(アセンブリ)			航海学2 多田			運送管理学2 真珠山			電子工学1 樺沢			TOEIC 向上2 ガリー(メディア)		総合英語 野口			補講			S4E			講義		田		電気工学2 佐久間			生物概論 香田(アセンブリ)			熱工学2 村上						電子工学1 樺沢			TOEIC 向上2 ガリー(メディア)		総合英語 野口			補講			M4			工学実験1				工作機械 大橋田			流体力学 ガンバット			応用物理1 藤本隆			国語 田中			制御工学 大澤			電子回路 瀬崎		補講						M4留																日本事情 専田(レク1)														I4			講義 ディマ		補講		デジタルシステム設計工学 前田,益崎智(情漢)			応用数学2 真結			画像処理 田房(情漢)			科学技術英語1 葛田			国語 田中			オペレーション・システム 高木(システム工学)			数理統計学 榎木(情漢)		応用数学1 藤本宏			システム・ソフトウェア工学 徳田,榎木			補講			S5N			セミナー 審				海上交通工学 山崎			卒業研究									海上交通法2 亀井			英語講義 野口		TOEIC 向上3 ガリー(メディア)		補講						S5E			セミナー 審				流体機械工学 亀井			卒業研究									材料学 池田			英語講義 野口		TOEIC 向上3 ガリー(メディア)		補講						M5			工学実験2		補講		工業英語 ガンバット			機構学 沖			制御工学概論 沖			ロボット工学 沖			計算機制御 長原			英語講義 坂内			設計製図5 堀田,藤		卒業研究					
			(木)								(金)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1 コマ			2 コマ		3 コマ			4 コマ			1 コマ			2 コマ		3 コマ			4 コマ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
08:50 ~ 10:20			10:30 ~ 12:00		13:00 ~ 14:30			14:40 ~ 16:10			08:50 ~ 10:20			10:30 ~ 12:00		13:00 ~ 14:30			14:40 ~ 16:10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
1限			2限		3限			4限			5限			6限			7限			8限																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
小島 学務部長											藤本宏								丸山																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
S4N			講義		田		電気工学2 佐久間			生物概論 香田(アセンブリ)			航海学2 多田			運送管理学2 真珠山			電子工学1 樺沢			TOEIC 向上2 ガリー(メディア)		総合英語 野口			補講																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
S4E			講義		田		電気工学2 佐久間			生物概論 香田(アセンブリ)			熱工学2 村上						電子工学1 樺沢			TOEIC 向上2 ガリー(メディア)		総合英語 野口			補講																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
M4			工学実験1				工作機械 大橋田			流体力学 ガンバット			応用物理1 藤本隆			国語 田中			制御工学 大澤			電子回路 瀬崎		補講																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
M4留																日本事情 専田(レク1)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
I4			講義 ディマ		補講		デジタルシステム設計工学 前田,益崎智(情漢)			応用数学2 真結			画像処理 田房(情漢)			科学技術英語1 葛田			国語 田中			オペレーション・システム 高木(システム工学)			数理統計学 榎木(情漢)		応用数学1 藤本宏			システム・ソフトウェア工学 徳田,榎木			補講																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
S5N			セミナー 審				海上交通工学 山崎			卒業研究									海上交通法2 亀井			英語講義 野口		TOEIC 向上3 ガリー(メディア)		補講																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
S5E			セミナー 審				流体機械工学 亀井			卒業研究									材料学 池田			英語講義 野口		TOEIC 向上3 ガリー(メディア)		補講																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
M5			工学実験2		補講		工業英語 ガンバット			機構学 沖			制御工学概論 沖			ロボット工学 沖			計算機制御 長原			英語講義 坂内			設計製図5 堀田,藤		卒業研究																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
到達目標: TOEIC の受験形式になれること。上級者は TOEIC500 点以上。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

授業例

使用教材

基本的に、過去の TOEIC 試験を基にガリー先生が作成している。海事英語や弓削丸での実習なども模擬試験に取り入れている。

目安 (分)

内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など

50 分

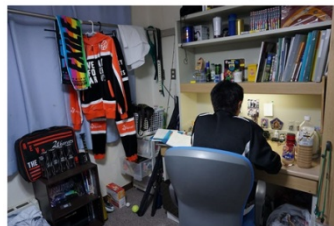
Listening – Part 1 – Pictures
Tips for success



①
'read' the picture for clues before you hear the sentences.

②
eliminating the wrong answer is often as effective as hearing the right one.

Listening – Part 1 – Pictures
Answer the following 4 questions



Listening – Part 1 – Pictures
Answer the following 4 questions



Listening – Part 2 – Questions & Answers
Answer the following 6 questions



Do you know Shinha from Laos?

Listening – Part 3 – Short conversations
Answer the following 6 questions

53-55 Text **53-55 Questions**

53. When will the man's office be painted?
(A) This morning
(B) Tomorrow morning
(C) Tomorrow afternoon
(D) Tomorrow evening

54. Why is the man concerned?
(A) All the rooms of a hotel are fully booked.
(B) His client has not yet arrived at the office.
(C) The work crew has used the wrong paint.
(D) He doesn't know where to conduct a meeting.

55. What does the woman suggest?
(A) Calling a contractor
(B) Using another room
(C) Rescheduling a meeting
(D) Canceling a reservation

53. W: Your office looks great. I guess the renovations are almost completed.
M: Yes, I have someone coming in this morning to do the painting. After it is finished, all I need to do is move in my new furniture. The only problem is that I am supposed to have a consultation with a client here this afternoon. At the meeting, I need to know where to hold the meeting. Why don't you use my office? It will not be here this afternoon, so it will be free. I can just let my secretary know about your appointment.

54. W: Your office looks great. I guess the renovations are almost completed.
M: Yes, I have someone coming in this morning to do the painting. After it is finished, all I need to do is move in my new furniture. The only problem is that I am supposed to have a consultation with a client here this afternoon. At the meeting, I need to know where to hold the meeting. Why don't you use my office? It will not be here this afternoon, so it will be free. I can just let my secretary know about your appointment.

55. W: Your office looks great. I guess the renovations are almost completed.
M: Yes, I have someone coming in this morning to do the painting. After it is finished, all I need to do is move in my new furniture. The only problem is that I am supposed to have a consultation with a client here this afternoon. At the meeting, I need to know where to hold the meeting. Why don't you use my office? It will not be here this afternoon, so it will be free. I can just let my secretary know about your appointment.

Listening – Part 4 – Long speeches
Answer the following 10 questions

77-79 Text **77-79 Questions**

77. What service is being advertised?
(A) Event planning
(B) Party venues
(C) Equipment rentals
(D) Business consultations

78. How can listeners receive a special offer?
(A) By presenting a coupon
(B) By signing up for membership
(C) By attending an event
(D) By paying a minimum amount

79. According to the speaker, what can listeners find on the Web site?
(A) Order forms
(B) Service details
(C) Payment options
(D) Event schedules

Planning a wedding, party, or business event? Contact Rosemont Rentals and let us take care of all your needs! We offer a variety of chairs, tables, stages, and audio-visual equipment at responsible rates. And this month, those renting boxes of rental equipment are eligible to receive use of an audio-visual system at no extra cost! Check out our list of rental products and services at www.rosemontrentals.com today and allow us to help you make your event a success!

77. What service is being advertised?
(A) Event planning
(B) Party venues
(C) Equipment rentals
(D) Business consultations

78. How can listeners receive a special offer?
(A) By presenting a coupon
(B) By signing up for membership
(C) By attending an event
(D) By paying a minimum amount

79. According to the speaker, what can listeners find on the Web site?
(A) Order forms
(B) Service details
(C) Payment options
(D) Event schedules

自己評価や学生の感想:

自己評価: スコットランド出身のガリー先生は、弓削商船高専で 20 年以上前より、非常勤講師を務め、学生の気質を理解している。そのため学生の弱点などを集中的に授業で鍛えている。その効果が毎年の TOEIC スコアのクラス平均の向上に繋がっている。

学生の感想: 試験を受けたとき、問題に慣れていたのよかった。得点が上がってきたので、授業が分かるようになった。また受験しようと思った。学校の問題になっていてわかりやすかった。

英語補助教員によるプログラム事例集 ― 17

プログラム名： 英会話教室							弓削商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数	1	5	7	7	6		1	27

概要： Ark 外国語学院と協力し、外国人講師による英会話教室を放課後に開いている。月曜日以外の 15 時から 18 時の 3 時間、自由に学生及び教員に来てもらい、英会話や論文の添削などをお願いしている。

周知・実施方法:

以下のポスターを商船学科 1～5 年生の全教室に掲示している。



Good

休学間連携共同教育事業 「海事人材育成プロジェクト」

英会話教室

ENG LISH

場所：グローバル教育センター（商船学科棟2F）

日時：火曜日 15：00～18：00 （Matt etc.）
 水曜日 15：00～18：00 （Matt etc.）
 木曜日 15：00～18：00 （Matt etc.）
 金曜日 15：00～18：00 （Gary）

対象：商船学科 1 年～5 年

講師（instructors）：



Matthew Winfield



Gary Craig Baird





Todd Westcott



Isadora Allen



Daniel Bridden

問い合わせ：商船学科 村上知弘 もしくは 学生課教務係

到達目標： 学生は外国人との会話になれること、上級者は TOEIC500 点以上。

授業例

使用教材																																																																																																					
 Level 1  Level 2 Student Book with Full Audio CD! 日本人を含むキャラクターたちが、様々な国を旅しながら繰り広げるアドベンチャーに沿って旅行英語を学習していきます。 Click for FREE Samples:  PDF - Level 1 Contents  PDF - Level 1 Unit 10  PDF - Level 1 Destination File  PDF - Level 2 Contents  PDF - Level 2 Unit 6  PDF - Level 2 Destination File																																																																																																					
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など																																																																																																				
30-60 分	Contents <table><tr><th>COMMUNICATION SKILLS</th><th>GRAMMAR</th><th>VOCABULARY</th><th>STORYLINE</th></tr><tr><td colspan="4">Introduction page 4</td></tr><tr><td colspan="4">Where are you from? page 6</td></tr><tr><td>1. Would you like chicken or fish? page 6</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Asking for things on a flight</td><td>Question forms Could/may and Wh-</td><td>Items on a plane</td><td>Miki is on a plane to the U.K.</td></tr><tr><td>2. Can I have your passport, please? page 10</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Answering questions at Immigration</td><td>Question forms Wh- and How</td><td>Words to describe jobs</td><td>Hideo and Naoki are answering questions at Immigration.</td></tr><tr><td>3. My mother has her own business. page 12</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Talking about family</td><td>Present simple for routines</td><td>Words to describe hobbies and transportation</td><td>Eri and Lauren are talking about their families.</td></tr><tr><td>4. Can I check my email? page 14</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Asking for things you need</td><td>Can/could for permission Will for offers</td><td>Household objects</td><td>Miki is asking her friend Helen about what she can use in her flat.</td></tr><tr><td>5. Are you ready to order? page 16</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Ordering a meal</td><td>Question forms Would you like...? and Could/may...</td><td>Food and drink</td><td>Hideo and Naoki are eating out.</td></tr><tr><td colspan="4">Destination: The U.K. page 18</td></tr><tr><td>6. Where's the station? page 20</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Asking for directions</td><td>Imperatives Prepositions of location</td><td>Places around town</td><td>Miki is lost in London and asks for directions.</td></tr><tr><td>7. Can I use my card in this ATM? page 22</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Getting money at a bank</td><td>Can for ability</td><td>Numbers and currencies</td><td>Eri and Lauren are at a bank in Bangkok.</td></tr><tr><td>8. Do you have a non-smoking room? page 24</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Reserving a hotel room</td><td>Question forms</td><td>Hotel facilities</td><td>Miki is reserving a hotel room over the phone.</td></tr><tr><td>9. I have a stomachache. page 26</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Getting help for minor medical problems</td><td>Modals and the imperative for advice</td><td>Medical problems and remedies</td><td>Eri and Lauren visit a pharmacy.</td></tr><tr><td>10. I'm from Japan. page 28</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>Asking about where people are from and talking about your home town</td><td>Question forms Wh- questions</td><td>Words to describe cities/places</td><td>Miki makes new friends while in Edinburgh.</td></tr><tr><td colspan="4">Destination: New Zealand page 30</td></tr></table>	COMMUNICATION SKILLS	GRAMMAR	VOCABULARY	STORYLINE	Introduction page 4				Where are you from? page 6				1. Would you like chicken or fish? page 6				Asking for things on a flight	Question forms Could/may and Wh-	Items on a plane	Miki is on a plane to the U.K.	2. Can I have your passport, please? page 10				Answering questions at Immigration	Question forms Wh- and How	Words to describe jobs	Hideo and Naoki are answering questions at Immigration.	3. My mother has her own business. page 12				Talking about family	Present simple for routines	Words to describe hobbies and transportation	Eri and Lauren are talking about their families.	4. Can I check my email? page 14				Asking for things you need	Can/could for permission Will for offers	Household objects	Miki is asking her friend Helen about what she can use in her flat.	5. Are you ready to order? page 16				Ordering a meal	Question forms Would you like...? and Could/may...	Food and drink	Hideo and Naoki are eating out.	Destination: The U.K. page 18				6. Where's the station? page 20				Asking for directions	Imperatives Prepositions of location	Places around town	Miki is lost in London and asks for directions.	7. Can I use my card in this ATM? page 22				Getting money at a bank	Can for ability	Numbers and currencies	Eri and Lauren are at a bank in Bangkok.	8. Do you have a non-smoking room? page 24				Reserving a hotel room	Question forms	Hotel facilities	Miki is reserving a hotel room over the phone.	9. I have a stomachache. page 26				Getting help for minor medical problems	Modals and the imperative for advice	Medical problems and remedies	Eri and Lauren visit a pharmacy.	10. I'm from Japan. page 28				Asking about where people are from and talking about your home town	Question forms Wh- questions	Words to describe cities/places	Miki makes new friends while in Edinburgh.	Destination: New Zealand page 30			
COMMUNICATION SKILLS	GRAMMAR	VOCABULARY	STORYLINE																																																																																																		
Introduction page 4																																																																																																					
Where are you from? page 6																																																																																																					
1. Would you like chicken or fish? page 6																																																																																																					
Asking for things on a flight	Question forms Could/may and Wh-	Items on a plane	Miki is on a plane to the U.K.																																																																																																		
2. Can I have your passport, please? page 10																																																																																																					
Answering questions at Immigration	Question forms Wh- and How	Words to describe jobs	Hideo and Naoki are answering questions at Immigration.																																																																																																		
3. My mother has her own business. page 12																																																																																																					
Talking about family	Present simple for routines	Words to describe hobbies and transportation	Eri and Lauren are talking about their families.																																																																																																		
4. Can I check my email? page 14																																																																																																					
Asking for things you need	Can/could for permission Will for offers	Household objects	Miki is asking her friend Helen about what she can use in her flat.																																																																																																		
5. Are you ready to order? page 16																																																																																																					
Ordering a meal	Question forms Would you like...? and Could/may...	Food and drink	Hideo and Naoki are eating out.																																																																																																		
Destination: The U.K. page 18																																																																																																					
6. Where's the station? page 20																																																																																																					
Asking for directions	Imperatives Prepositions of location	Places around town	Miki is lost in London and asks for directions.																																																																																																		
7. Can I use my card in this ATM? page 22																																																																																																					
Getting money at a bank	Can for ability	Numbers and currencies	Eri and Lauren are at a bank in Bangkok.																																																																																																		
8. Do you have a non-smoking room? page 24																																																																																																					
Reserving a hotel room	Question forms	Hotel facilities	Miki is reserving a hotel room over the phone.																																																																																																		
9. I have a stomachache. page 26																																																																																																					
Getting help for minor medical problems	Modals and the imperative for advice	Medical problems and remedies	Eri and Lauren visit a pharmacy.																																																																																																		
10. I'm from Japan. page 28																																																																																																					
Asking about where people are from and talking about your home town	Question forms Wh- questions	Words to describe cities/places	Miki makes new friends while in Edinburgh.																																																																																																		
Destination: New Zealand page 30																																																																																																					
自己評価や学生の感想： 自己評価：毎日来る学生もいれば、時々来る学生もいる。毎日来る学生は、目的意識がはっきりしており、英会話（外国人講師との談話）を楽しんでいる。毎日来る学生はレベルが上がっていることを実感できる。これらの学生は TOEIC スコアも高い。 学生の感想：はじめは、緊張したけど何回も通ううちに相手のこと（家族のことなど）を聞けたりして仲良くなった。日本語も話せる先生だったので、楽しくできた。いろいろな先生が来るので、今度はどんな先生が来るのかと楽しみだった。様々な国のことを聞けるので、楽しかった。カードゲームなどもやるので、楽しかった。																																																																																																					

プログラム名: 英検・TOEIC テスト対策							大島商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数		2	1	2		1		6
概要:各生徒のレベル・受けたい試験に合わせて英語学習を実施。 週に 1～2 回個別に指導。 英作文トレーニング、中学 3 年生レベルの英文読解からスタートし、最終的には TOEIC の問題ぐらいの文章が解けるまで、継続的に指導。								
周知・実施方法: 通常の授業時やホームルーム時などに紹介。 教室や教官室で個別指導を実施。								
到達目標: TOEIC スコア 500 点以上、英語検定 2 級、2 級海技士試験（筆記）、第一級海上特殊無線技士試験の合格。								

授業例

使用教材　みるみる英語力がアップする音読パッケージトレーニング どんどん話すための瞬間英作文トレーニング	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
60 分	毎回 6～8 パッセージを宿題として渡し、単語がわからないところなどは事前に調べてくるように指示。授業では、パッセージを音声で聞き、口頭で訳し、おんどくする。また、単語の意味だけでは訳せない文章は、文法解説を行った。
60 分	中学 1～3 年生レベルの英作文トレーニング。毎回その場で 100 文ぐらい英作文させる。 ぱっと答えが出ないところは、こちらで解答を教える。復習では、日本語をみてぱっと英作文できるようになるまで声に出して英作文トレーニングするよう指導した。
自己評価や学生の感想： 資格試験等の受験や就職活動について、長期スパンで計画を立案できる低学年の学生ほど、英語を基礎から学習できる環境にあるため、取り組む姿勢も「付け焼刃的なものではなく」、充実したものとなっていると考えられる。 受講中の 2 年生・3 年生は、現時点では、TOEIC のハイスコアを必ずしも得られるレベルではないが、基礎の積み上げができており、今後期待できる。	

プログラム名: Conversation							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数	4	12			1			17
概要: Improve fluency and ability to speak about common topics.								
周知・実施方法: Posters, word of mouth								
到達目標: Students get used to speaking freely and expressing themselves.								

授業例

使用教材 Let's Talk About It – 1,000 Questions for Conversation	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00-30:00	Students answer questions from first page of unit. Teacher should teach useful sentence patterns, related vocab, etc, as needed. *** Second page of unit is <i>not</i> conversation; however, it is useful and could be assigned as homework.
自己評価や学生の感想: Students of all ages can handle this material. Students enjoy talking about their own experiences and opinions.	

英語補助教員によるプログラム事例集 - 20

プログラム名: Listening (2)							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数			11					11
概要: Improve listening skills for conversations, daily life, and TOEIC. Get used to different accents and native pronunciation.								
周知・実施方法: Poster, word of mouth.								
到達目標: Improve ability to listen for gist, details, inference, etc..								

授業例

使用教材 “Sounds Good (Student Book 2)”	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00-5:00	“Learn the Language”. Students should listen to and repeat the vocabulary.
5:00-10:00	Students do the “Focus” section; check answers.
10:00-20:00	“Listening Task One”.
20:00-30:00	“Listening Task Two”.
30:00-35:00	“Write What You Hear”. Teach native pronunciation, then listen.
35:00-40:00	“Use What You Learn”. Student can practice speaking.
40:00-45:00	Test. Students should read questions first (same as TOEIC).
45:00-50:00	“Online Listening” Can be done in class or as homework.
自己評価や学生の感想: Sometimes students need to listen to exercises more than once; units can be divided into two lessons. Slightly easier book for a listening class than “Expanding: Tactics for Listening”. Useful practice for listening to conversational English, and for TOEIC style questions.	

プログラム名: Listening							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数		1	1					2
概要: ■ Improve listening skills for conversation, daily life, and TOEIC. ■ Get used to different accents and native pronunciation.								
周知・実施方法: ■ Posters, word of mouth								
到達目標: ■ Improve ability to listen for gist, details, inference, etc..								

授業例

使用教材 “Expanding Tactics for Listening”	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00-5:00	Explain task and unknown words, students try it, check answers
5:00-10:00	Listening 1. Explain task. Students read questions first, listen, and check.
10:00-15:00	Listening 2 / Task 1. Explain task, explain possible unknown words, listen, check
15:00-20:00	Listening 2 / Task 2. (Same as above). Students should read questions first.
20:00-25:00	Listening 3 / Task 1 (Same as above).
25:00-30:00	Listening 3 / Task 2 (same as above).
30:00-35:00	Pronunciation / Task 1. Listen and repeat.
35:00-40:00	Pronunciation / Task 2. Reading / Speaking practice.
40:00-45:00	Dictation. Listen, write, and check.
自己評価や学生の感想: ■ Students often need to listen to various exercises more than once. Thus, each unit can easily be divided into two lessons. ■ This book is challenging, but not too difficult for most students. ■ The pronunciation practice is highly useful.	

英語補助教員によるプログラム事例集 - 22

プログラム名: Reading and Grammar for TOEIC							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数	1	1	1					3
概要 Learn new vocabulary. Test grammatical knowledge.								
周知・実施方法 Posters, word of mouth.								
到達目標 Improve vocabulary and grammar.								

授業例

使用教材 “Basic Reading for the TOEIC Test”	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00-5:00	Students look up new vocabulary words. Check answers and review pronunciation.
5:00-15:00	Students do the 10 questions.
15:00-25:00	Check answers and review the difficult grammar.
自己評価や学生の感想: Very short files, so they can be completed in a short time. Good vocabulary warm-up. It's important to teach pronunciation. Teachers should be able to provide other example sentences. “Error Recognition” exercises are from an older version of TOEIC, but it's still useful practice.	

英語補助教員によるプログラム事例集 – 23

プログラム名: Reading and Vocabulary							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数	1	2						3
概要: Improve reading speed and comprehension for TOEIC. Improve vocabulary for TOEIC and everyday use.								
周知・実施方法: Posters, word of mouth								
到達目標: Students can become better readers and can use TOEIC vocabulary in non-test material.								

授業例

使用教材 Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00-5:00	Students listen to pronunciation of vocab and look up words they can't understand.
5:00-10:00	Students read passage, and then once again while listening to it on CD.
10:00-20:00	Students do "Comprehension Questions" & "Grammar Exercises"; check
20:00-25:00	Students do "Listen and Repeat" exercise; check.
25:00-30:00	"Optional Exercises"; check.
35:00-40:00	"Listening Exercises for TOEIC" and check.
40:00-45:00	"Sentences with TOEIC Vocabulary" – listen while reading.
自己評価や学生の感想: Students enjoy the variety of topics. Good way to study vocabulary – more interesting than just memorizing words out of context. CD usage is good to hear words as they're spoken naturally in sentences.	

プログラム名: TOEIC Listening Practice							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数	1							1
概要: Improve listening ability for TOEIC, and get used to the style of questions in the listening section.								
周知・実施方法: Posters, word of mouth.								
到達目標: Students become accustomed to the speed and variety of accents used on TOEIC.								

授業例

使用教材	
Listening Promoter for the TOEIC Test	
目安（分）	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00~5:00	“Vocabulary Check” section, and check.
5:00~10:00	Play CD and students do Parts 1 to 4.
10:00~20:00	Check answers and teach / review any difficult grammar points. Listen to CD again if necessary.
自己評価や学生の感想:	
Chapters are very short so it's easy to use 2 or more in one lesson.	

プログラム名: TOEIC Preparation							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数		1	1					2
概要: Get used to the TOEIC test format and style. Improve skills needed for the TOEIC test.								
周知・実施方法: Posters, word of mouth								
到達目標: Improve listening, reading, and grammar skills. Learn more vocabulary.								

授業例

使用教材 “Successful Keys to the TOEIC Test”	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00-10:00	Teach pronunciation of words and phrases. Students look up meanings and do the exercises. Check the answers.
10:00-20:00	Do the listening section and check answers.
20:00-30:00	Do the reading section and check answers.
自己評価や学生の感想: Students often want to hear some of the listening sections twice. This extra time needs to be factored into the lesson plan. Teacher should explain various test strategies as they teach.	

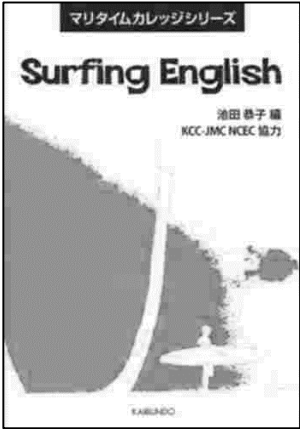
プログラム名: Basic Skills							鳥羽商船高専	
対象年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専 1	専 2	合計
参加人数		3	10					13
概要: Review / teach junior high school level grammar through reading, writing, listening, and speaking exercises.								
周知・実施方法: Posters, word of mouth								
到達目標: Ensure that students are capable of junior high school level English.								

授業例

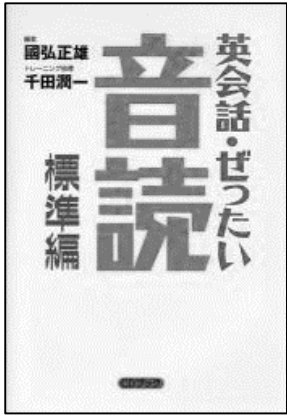
使用教材 American Headway (Starter)	
目安 (分)	内容、活用している研修内容、学習者の作業・成果物など
0:00~90:00	***Each unit is organized differently, but revolves around a grammar point and a vocabulary set. ■ Work through each unit in order, being sure to explain the unit's main grammar point. ■ There are many chances for students to speak and use the grammar and vocab. ■ Units are quite long and can divided into 2 lessons
自己評価や学生の感想: Basic English skills (junior high school level) appear to be a problem for many Shousen students. This style of lesson review the grammar they should already know, and allows them to practice it through reading, listening, writing, and speaking.	

6-2 グローバル教育拠点を利用した 教育補助教員による英語教育 推薦教材集

推薦教材 — 1

教材名: Surfing English 著 者: 池田恭子 編 出版社: 海文堂出版 ISBN 978-4-303-23345-7 発売日: 2013 年 2 月	
内容: サーフィンを話題の中心に、ハワイの海や文化を題材としたストーリーやハワイの学生が書いたエッセイを読み、英語の総合的な力を伸ばすことを目指す。同時に、中学校で学んだ英文法を、コミュニケーションに生かす形で復習する。CDをくり返し聞くことで、リスニングの力も伸ばす。	
目次: 1 No Surf, No Life (主語と動詞) In the Life of a Surfer (be 動詞) A Hawaiian Here (品詞) ほか 2 Safety at Sea (指示) Learning How to Surf (命令・禁止・義務) If in Doubt, Don't Go Out! (助動詞 can/could) You Could Get Swept Away! ほか	3 Stories From the Ocean • “A Soul Surfer” by Sonya Balmores Chung • “Pacific Sea Monster” by Jessica Austin • “Hokulea-A Symbol of Hope” by Kananaikahaku Kuhaulua, Shannon Pabo ほか
活用例: • To listen to the sample speeches and essays. • To read the sample speeches and essays. • To learn basic grammar. • To discuss what we have read	
推薦理由: ① This book focuses on Hawaii and Hawaiian culture, which can be a stimulating text for us. (This text is also used by our students.) ② This book helps us make progress in our total English, including speaking, reading, listening writing and communicating.	

推薦教材 — 2

教材名： 英会話・ぜったい音読（標準編） 著 者： 國弘正雄 編／千田潤一 トレーニング指導 出版社： 講談社インターナショナル ISBN 978-4-7700-2459-6 発売日： 2000 年 4 月 内容： 中学 3 年生用の英語教科書から 1 2 レッスンを選び、音読を中心に頭の中に英語回路をつくることを目指す。総合的に英語を学ぶトレーニング型教材。CD 付き。	
目次： ・ トレーニングを始める前に （英語習得の王道は音読） ・ 本書の使い方 （英語トレーニングのやり方） ・ 実践編 The Internet The Development of Computers A Blend of Cultures 他 ・ 巻末付録 トレーニング記録帳 Lesson 1 ～12（記入の仕方） ・ 音読筆写の進歩記録表	
活用例： ・ To listen to the text, catching main points of the text. ・ To check the understanding by reading the text. ・ To read aloud the text repeatedly, which leads to speaking naturally and fluently. ・ To discuss what we have read ・ To copy the text, reading it aloud at the same time. ・ To make notes how many words we can read per minute	
推薦理由： 1. The twelve lessons are written in easy English, which is useful for our daily conversation. 2 The method is based on reading-aloud activity and it leads to speaking fluently. This method make it also possible to respond, in English, physically.	

推薦教材 — 3

教材名： 自分の気持ちを1分間英語で自分の気持ちをつぶやいてみる 著 者： 浦島久／クライド・ダブnpポート 出版社： 中経出版 ISBN 978-4-8061-4920-0 発売日： 2013 年 9 月	
内容： 約1分間の短いつぶやきを読み、同じテーマでつぶやいてみる。心に浮かんだことをそのまま英語で発することで、スピーチよりもっと気楽に英語を使うことができる。「思ったこと」がすぐ英語で言えることを目指す。CD付き。	
目次： ・ 第1章： 朝／起きてから ・ 第2章： 昼／仕事るとき ・ 第3章： 昼／家事るとき ・ 第4章： 昼／外出るとき ・ 第5章： 夜／寝るまで ・ 第6章： 週末・余暇るとき ・ 第7章： その他	
活用例： ・ To listen to the text and get the outline and main points. ・ To check the understanding by reading the script. ・ To discuss the theme or topic of the text. ・ To put what comes into head into English whispering about the same topic. ・ To ask questions about what the members speak.	
推薦理由： ① To put what comes into head directly into English is easier than making a speech beforehand. You need no preparation. ② The topics given in the textbook are useful for daily conversation.	

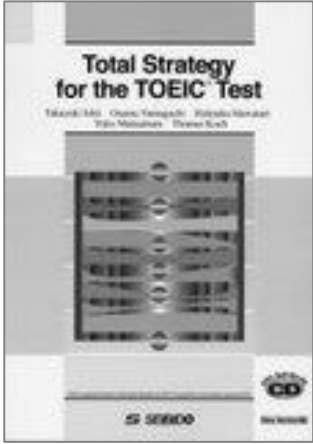
推薦教材 — 4

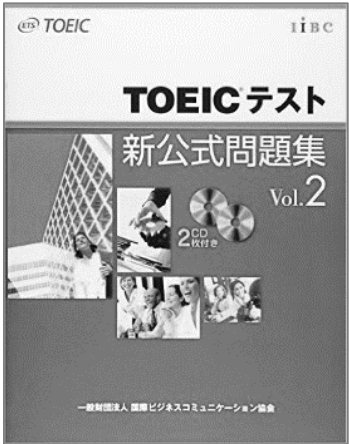
教材名： 1 分間英語で自分のことを話してみる	
著 者： 浦島久／クライド・ダブnpポート	
出版社： 中経出版	
ISBN-10 ISBN 4-8061-2418-4 ISBN-13	
発売日： 2006 年 4 月	
内容： ゆっくり読んで1分間程度のスピーチを、CDを聞きながら、くり返し練習する。そのことで、1分程度で自分のことが話せるようになることを目指す。家族・趣味・仕事など自分に関する40のトピックを紹介しているので、自分のことを英語で伝える楽しさを味わいながら、会話力を伸ばすことができる。	
目次： ・ 第1章：自分・家族について、こんなふうに話してみよう！ ・ 第2章：日常生活について、こう言えばうまく伝わる！ ・ 第3章：趣味や余暇で「自分らしさ」をうまく出そう！ ・ 第4章：会社・仕事の話題をふくらまそう！ ・ 第5章：社会・人間に関して、自分の意見を伝えよう！	
活用例： ・ To listen to the sample speeches and get the outline and main points. ・ To check the understanding by reading the script. ・ To discuss the theme and topic of the sample speech. ・ To learn some useful words and expressions.	
推薦理由： ① The sample speeches are based on our daily topics and provide useful expressions. ② This book helps us brush up our English to express ourselves in easy English through listening, reading, speaking and discussing.	

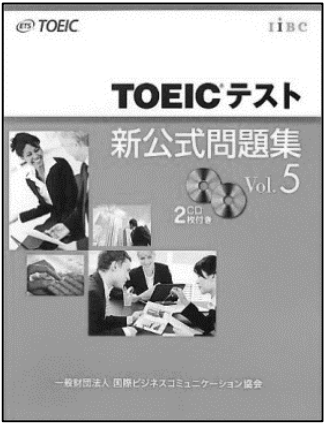
教材名： ずるいえいご 著 者： 青木ゆか／ほしのえみ 出版社： 日本経済新聞出版社 ISBN 978-4-532-16900-8 (4-532-16900-3) 発売日： 2014 年 7 月 内容： 役に立つはずのフレーズを暗記して使うのではなく、「完璧」「直訳」「大人語」などをすてて、今持っている単語力でスラスラと話せるようになることを目指す。	
目次： 1 話せることを知る「6つの心構え」 ・完璧をすてる ・挫折英語への近道ほか 2 言い換えの原則「4大柱」 ・8割すてる ・大人英語をすてる 3 魔法のボックスー言い換えトレーニング編 ・「一目置く」「息が合う」ほか 4 魔法のボックスー応用編 ・「意地を張る」「胃に穴があく」ほか	
活用例： ・ To put the word or the expression given into English without using a Japanese-English dictionary. Three answers are required. Make use of your vocabulary. You shouldn't try to translate it directly. ・ To check your answers in class each other, and discuss the. ・ To read the sample answers and discuss them evaluating its properness.	
推薦理由： ① It's a different kind of fun to translate the given words or expressions into English by your own vocabulary. ② Making the utmost use of your vocabulary is a great way to your success in daily conversation.	

教材名： 誰でも笑える英語落語 著 者： 立川志の春 出版社： 新潮社 ISBN 978-4-10-335031-6 発売日： 2013 年 12 月	
内容： 立川志の春による英語落語を三席、文字と音で収録。左ページに英語、右ページには日本語という構成で、付属のライブCDを聴けば落語を楽しみながら、英語を勉強することができる。	
目次： ・ 第 1 席： 転失気 ・ 第 2 席： 動物園 ・ 第 3 席： 禁酒番屋	
活用例： ・ To enjoy Japanese funny stories Rakugo and brush up your listening skill. ・ To read the script and check the understanding of the story. ・ To enjoy performing part of the story.	
推薦理由： ① You can enjoy listening to Rakugo, Japanese funny stories in English. Laugh-and-learn type of method of learning English. ② You can try to perform Rakugo yourself, not reading English mechanically. You can learn live, expressive, and natural English.	

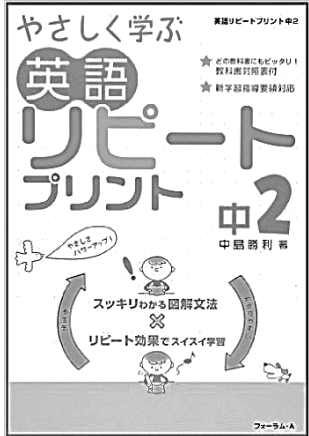
推薦教材 — 7

教材名: TOEIC テスト トータル演習	
著 者: 石井隆之	
出版社: 成美堂	
ISBN9784791905539 [4791905539] ISBN-13	
発売日: 2006 年 1 月 20 日	
内容: TOEIC のスコアアップをめざす総合教材。全 14 章からなり、各章に総合テーマが設けられ、全てのパートの問題をカバー。設問形式やテーマ・ジャンル別に、各パートのテーマも設定。語彙増強を強調し、コラムが充実。TOEIC に準拠しつつ、本物の英語力が身に付く問題とレベル。語彙チェック小テスト、スクリプトを利用したディクテーションが、教授用資料からのコピーで可能である。	目次: Chapter 1 Computer and Society Chapter 2 Business Transaction Chapter 3 At the office Chapter 4 Cars and Society Chapter 5 Eating and Drinking Chapter 6 Shopping Chapter 7 Entertainment Chapter 8 Accidents & Crimes Chapter 9 Teaching & Learning Chapter 10 Medicine & Hospitals Chapter 11 Finance and Banks Chapter 12 Economy and Industry Chapter 13 Geography and Travels Chapter 14 Weather and Climate
活用例: グローバル教育拠点に常備している。外国人講師から TOEIC 対策に大変有効であるとの推薦もあり、当初英会話での使用を試みたが難解であったため断念し、TOEIC 高得点者に貸し出す形で活用した。	
推薦理由: TOEIC である程度得点を取っている学生に対して得点アップに有効であると思われる。	

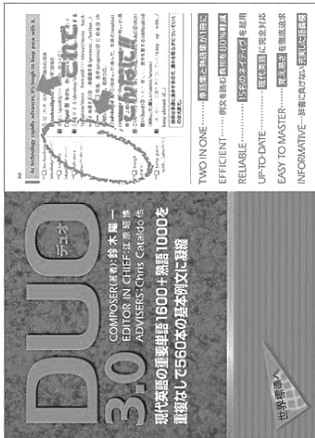
教材名: TOEIC テスト新公式問題集< Vol.2> 著 者: Educational Testing Service (著) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 (編集) ISBN-10 4906033369 ISBN-13 978-4906033362 発売日: 2007 年 2 月	
内容: 本書には TOEIC テストのサンプル問題と実際のテストと同じ問題数(200 問)から成る TOEIC 練習テスト(1)と TOEIC 練習テスト(2)が収められている。別冊の『解答・解説編』には 2 回分のテストの解答・解説・和訳と、参考スコア換算表が付いている。この一冊で TOEIC テストの概要を知ることができる。	
目次: 【問題編】 ・はじめに ・本書の使い方 ・TOEIC テストについて ・サンプル問題 16 問 (新 TOEIC テストの各パートで出題される問題形式をつかむための問題) ・TOEIC 練習テスト (1) 200 問 (新 TOEIC テストと同じ問題形式・問題数) ・TOEIC 練習テスト (2) 200 問 (新 TOEIC テストと同じ問題形式・問題数) 【解答・解説編】 ・TOEIC 練習テスト (1)・(2) の解答・解説。(和訳・音声スクリプト・スコア換算表付き) ※解答・解説編は取り外し可能。	
活用例: TOEIC テスト新公式問題集<Vol.2>を用いて商船学科 2 年生全員に対し、リスニングの演習を実施している。学生を 10 人ずつの 4 グループに分けそれぞれ 4 時間の演習を行っている。この教材は海事人材育成のために設置したグローバル教育拠点に常時置かれており、演習も同拠点で実施している。ただしリスニング CD は初学者には速度が速すぎるため教員がゆっくりと単語を発音し理解させてから使用している。	
推薦理由: この問題集は公式問題集であり、TOEIC を一度も受けたことのない低学年に対して TOEIC テストの概要を理解させるために大変有効である。	

教材名: TOEIC テスト新公式問題集< Vol.5> 著 者: Educational Testing Service (著) 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 (編集) ISBN-10 4906033431 ISBN-13 978-4906033430 発売日: 2012 年 6 月 内容: 練習テスト 2 回分(400 問)を収録。換算表で参考スコア範囲が算出可能。解答、解説、和訳、音声スクリプト付き。	
目次: 【問題編】 ・はじめに ・本書の使い方 ・TOEIC テストについて ・サンプル問題 16 問 (新 TOEIC テストの各パートで出題される問題形式をつかむための問題) ・TOEIC 練習テスト (1) 200 問 (新 TOEIC テストと同じ問題形式・問題数) ・TOEIC 練習テスト (2) 200 問 (新 TOEIC テストと同じ問題形式・問題数) 【解答・解説編】 ・TOEIC 練習テスト (1)・(2) の解答・解説。(和訳・音声スクリプト・スコア換算表付き) ※解答・解説編は取り外し可能。	
活用例: 一般教科教員と連携し放課後 TOEIC の勉強会を実施している。2 年生の希望者に対し TOEIC テスト新公式問題集<Vol.4>を用いて月 2 回程度実施している。参加学生に必要となる単語の一覧を配り学習させた後問題集を解かせ教員が解説を行っている。公式問題集の利点を生かし、要求される時間内に解くことを目標に行っている。 リーディング、リスニングとも同様方法で実施している。	
推薦理由: この問題集は公式問題集であり、時間内に TOEIC の問題を解くためのトレーニングに有効である。	

推薦教材 — 10

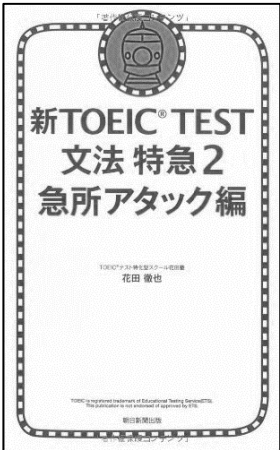
教材名: やさしく学ぶ英語リピートプリント 中2 著 者: 中島 勝利 出版社: フォーラム A 企画 ISBN-10 4894286874 ISBN-13 978-4894286870 発売日: 2012 年 6 月 内容: 文法のつまづきやすい項目を分析し、「くりかえし学習」ができるように工夫されている。英語の基礎学力が身につく本である。見やすい図解で文法をわかりやすく解説されており、文法が苦手な学生でも視覚的に学習できる。また、語形変形など、文法に関する単語の定着もはかれる。直接書き込め、ゆったりした解答スペースが配置されている。	
目次: 1 年の復習をしよう① 1 年の復習をしよう② STEP01 I was ～ STEP02 We were ～ STEP03 Were you ～? STEP04 過去進行形 確認テスト STEP05 There is ～ STEP06 接続詞 When	STEP07 感嘆文 STEP08 主語+give+目的語+目的語 確認テスト STEP09 have to STEP10 助動詞 must STEP11 助動詞 may STEP12 助動詞 will STEP13 be going to be able to 確認テスト
活用例: TOEIC 受験を目指しているが比較的学力が低い学生に貸し出す形で勉強させている。書名にあるように中学生英語の復習が主であり学生が自習書として活用している	
推薦理由: 中学生の英語の復習のための本であるが、内容的には簡単であり学生が一人で勉強することが出来る。学生からも遠回りのようで勉強すべき内容がすべて載っていると好評である。	

推薦教材 — 11

教材名: DUO 3.0 単行本	
著 者: 鈴木 陽一	
出版社: アイシーピー	
ISBN-10 4900790052	
ISBN-13 978-4900790056	
発売日: 2000 年 3 月	
内容: 日本の「いろは歌」をヒントに、現代英語の重要単語 1600 語と重要熟語 1000 語を重複なしで 560 本の英文に凝縮している。昔は 560 本の例文からは 560 語の重要語しか覚えられなかったものが、DUO ならわずか 560 英文で標準レベルの単語集 1 冊分の単語+熟語集 1 冊分の熟語が完全にマスターできる内容。	
目次: SECTION 1 ～SECTION 45 この本には目次はありません。	
活用例: グローバル教育拠点に常備し、TOEIC 受験学生に貸し出しを行っている。また CD もそろえており、随時貸し出している。	
推薦理由: 一冊で重要単語、熟語の学習ができ、例文用いて単語、熟語が学習できることからしっかりと学習したい学生に推薦している。	

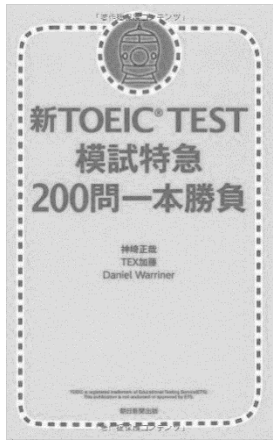
推薦教材 — 12

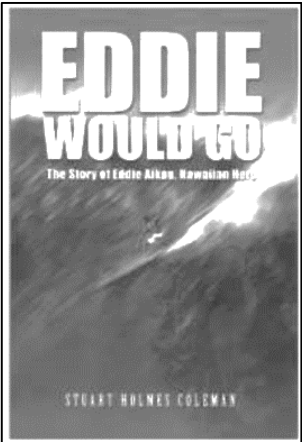
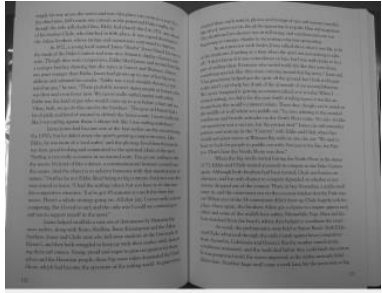
教材名: TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点 著 者: TEX 加藤 出版社: 朝日新聞出版 ISBN-10 ISBN-13 978-4023309166 発売日: 2011 年 3 月 30 日	
内容: TOEIC の入門的な書物であり、ポイントとノウハウを駆使し、初心者でも無理なく学習を進められるように工夫されている。一問ずつ丁寧に解説がなされている。	
目次: - Part0 試験準備がスコアを決める - Part1 写真描写問題 - Part2 応答問題 - Part3 会話問題 - Part4 説明文問題 - Part5 短文穴埋め問題 - Part6 長文穴埋め問題 - Part7 読解問題	
活用例: グローバル教育拠点に常備し TOEIC 受験学生に貸し出しを行っている。コンパクトな本であり学生に長期間の貸し出しを行っている。	
推薦理由: TOEIC の問題のうち 600 程度を目指す学生向けの問題が一通り掲載されており、リスニング問題はダウンロードが可能なことから、携帯オーディオ等でも勉強できる点が推薦理由である。	

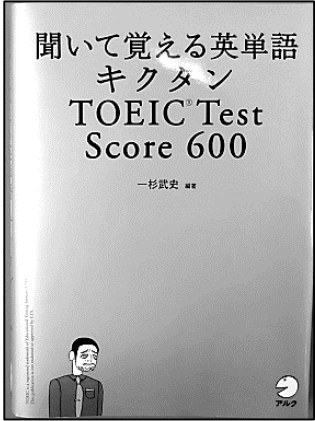
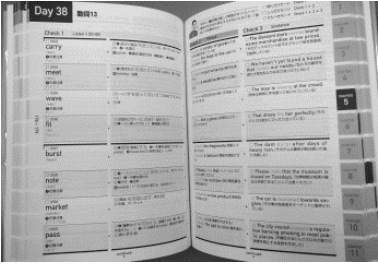
教材名: 新 TOEIC TEST 文法特急 2 急所アタック編	
著 者: 花田徹也	
出版社: 朝日新聞出版	
ISBN-10: 4023308404	
ISBN-13: 978-4023308404	
発売日: 2010 年 9 月 17 日	
内容: ビジネスマン支持率 No.1 の「特急シリーズ」。本番そっくりの問題を揃えた、「文法特急」。著者が連続受験をし、TOEIC を分析し続けている。「特急」で指摘したポイントは試験に出題される。「文法 2」では、全問題を新規作成。練習問題も多数収録されている。	
目次: 第 0 章 迅速かつ正確な攻略法 第 1 章 絶対に落とせない 26 題 第 2 章 取りこぼしやすい弱点を克服する 32 題 第 3 章 自分のペースをモニにする 12 題 第 4 章 難問でも基本は同じ 26 題 第 5 章 力試しに挑戦したい 10 題 第 6 章 しつかりモノにする 24 題	
活用例: コンパクトな本であり、グローバル教育拠点に常備し TOEIC 受験者に長期間で貸し出しを行っている。	
推薦理由: TOEIC の問題集、解説書でありながら、文法的な解説が丁寧になされている本である。学生をはじめ多くの人が TOEIC 受験に際して、文法事項を敬遠しがちであるが、文法的に理解していたほうが応用もきき、TOEIC のみならず英会話にもつながるため推薦している。	

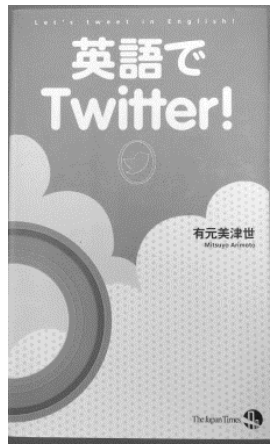
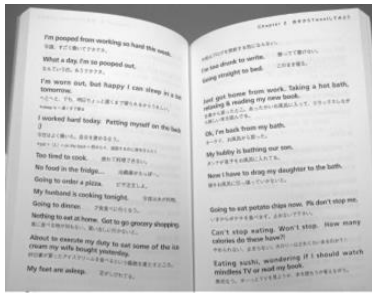
教材名： 新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ	
著 者： TEX 加藤	
出版社： 朝日新聞出版	
ISBN-10: 4023310654 ISBN-13: 978-4023310650	
発売日： 2012 年 3 月 7 日	
内容：	
TOEIC は、問題の難易度を同レベルに維持するため、同じ問題、同じ単語が繰り返し使われている。過去問は非公開であるが、本書は実際に本試験に出た単語を中心に 1000 語を厳選し、覚えやすい 7 語以下の「TOEIC フレーズ」にまとめ、掲載している。それぞれのフレーズは「日本語→英語」の穴埋め問題形式で、付属のチェックシートを使えば、ゲーム感覚で手軽に取り組むことができる。「頻出多義語 40」「Part1 重要語 100」などのスコアアップに有効な情報も盛り込まれている。	
目次：	
600 点レベル—助走の 400 語	
730 点レベル—加速の 300 語	
860 点レベル—飛躍の 200 語	
990 点レベル—頂点の 100 語	
活用例：	
コンパクトな本であり、希望する学生に長期貸し出しを行っている。	
推薦理由：	
重要な単語をフレーズのなかで憶えてゆく形式の本であり、今まで単語を順番に丸暗記をしてきた学生に、違った形の覚え方の本として推薦している。	

教材名: 1 駅 1 題 新 TOEIC TEST 読解特急 著 者: 神崎 正哉, TEX 加藤, Daniel Warriner 出版社: 朝日新聞出版 ISBN-10: 402330459X ISBN-13: 978-4023304598 発売日: 2009 年 10 月 7 日	
内容: 速読・速解×出る問題!! 「問題が最後まで終わらない」という受験者むけに、TOEIC スピードとリズムを身につける内容である。本書は問題の量や長さも本番と同じである。また問題から選択肢まで、TOEIC の頻出語で作られている。TOEIC スピードでの朗読音源(米国人・英国人)まで無料配信でダウンロードできる。	
目次: はじめに—ポイント理解編 第 1 部 TOEIC スピード獲得編 第 2 部 実践! Part7 まるごと完走編	
活用例: コンパクトな本であり、TOEIC 受験希望者に長期間貸し出しを行っている。	
推薦理由: 長文読解のための問題集である。TOEIC で高得点を目指すためには長文読解をいかに短時間でこなすかが重要とあるため、高得点を目指す学生に推薦している。長文の詳しい解説よりも長文のポイントの抑え方を短時間でみつけるための本である。	

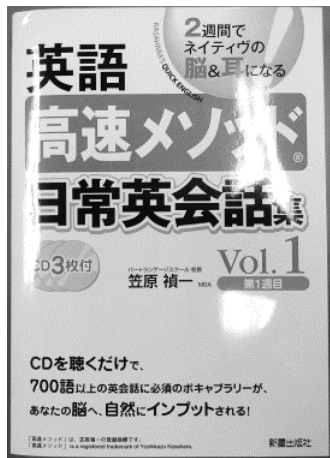
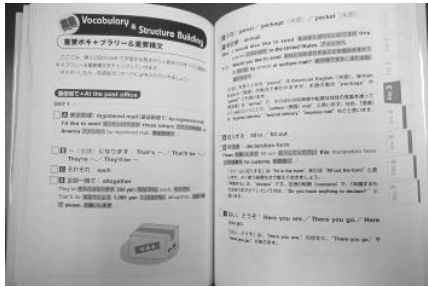
教材名： 新 TOEIC TEST 模試特急 200 問一本勝負 著 者： 神崎正哉 , TEX 加藤, Daniel Warriner 出版社： 朝日新聞出版 ISBN-10: 4023309362 ISBN-13: 978-4023309364 発売日： 2011 年 5 月 6 日	
内容: コンパクトな一冊で 1 回分の模擬試験を完全収録している。他の「特急シリーズ」同様に、リスニングパートだけでなくリーディングパートの朗読音声もダウンロード可能となっている。軽くて小さくて音声付なのでいろいろな場所での復習にも適している。	
目次: 新 TOEIC TEST 丸ごと模試 200 題 TOEIC スコア表の見方 新 TOEIC テスト 解説&語彙 Part1～Part7 解答 解説 マークシート	
活用例: コンパクトな本で TOEIC 受験希望者に長期間の貸し出しを行っている。	
推薦理由: コンパクトなサイズで TOEIC 試験の模試がすべて入っているため、TOEIC 全体をとりあえず把握したい学生に推薦している。	

教材名: EDDIE WOULD GO 著 者: SRUART HOLMES COLEMAN 出版社: Mind Raising Press ISBN-10 ISBA 978-0-9706213-7-5 ISBN-13 発売日: 2002 年 10 月 (第 1 刷) 内容: ハワイのヒーローであるエディ・アイカウの伝記	
目次: 1. Sailing in Eddie's Wake 2. The Spirit of the Bay 3. The Life of the Land 4. A Brotherhood of Surfers 5. Eddie and Duke 6. Lifeguards and Guardian Angels	
活用例: ハワイのカウアイ島のカウアイ・コミュニティ・カレッジ (KCC) での国際インターンシップに行く前に事前研修として本書を利用して勉強会をしている。 ハワイのヒーローの伝記を読んで、彼らの文化を理解している。ただし、難しい箇所も多いので、抜粋し、冬休みの宿題として訳を提出させている。 また、研修後にはあらためて読み返しも行っている。	
推薦理由: KCC の国際インターンシップに行く学生全員に読ませている。本書を読んで、インターンシップに参加すると町中の車のバンパーにも「EDDIE WOULD GO」が貼ってあったりして、学生たちにも身近な話として読める。また、現地の学生とも EDDIE の話ができ、有効である。 高専教科書の「Surfing English」中の話もより理解できる内容となっている。相互に読むとよいと思われる。	

教材名： 聞いて覚える英単語 キクタン TOEIC Test Score 600	
著 者： 一杉 武史	
出版社： アルク	
ISBN-10 ISBA 978-4-7574-1488-4 ISBN-13	
発売日： 2013 年 7 月 14 日（第 7 刷）	
内容： 「聞いて覚える」そして「使って磨く」、CD を使用した英語習得法。TOEIC スコア 600 点に必要な単語と修飾語が身につく。	
目次： 1. 名詞 2. 動詞 3. 形容詞 4. 副詞 5. 動詞句 6. 形容詞句 7. 数量・表現 8. 文の熟語	
活用例： 自学自習方式。CD ウォークマンを貸し出しているので、寮生でも借りることができる。 TOEIC 受験は、4 年生以上は全員が受験しているので、受験時期が近づくとも借りに来る学生が多い。	
推薦理由： 勉強を始めるにあたって、まずスタートすることが難しい。本教材はまずは聞くことから薦めて、聞き流してもいいからやり始めようを合言葉に本教材を薦めている。 もちろん本教材は 600 点用だが、もっと低い点数から同シリーズを揃えており、初級者から上級者までいろいろな点数用を揃えている。	

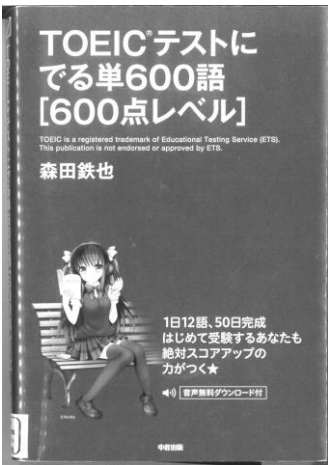
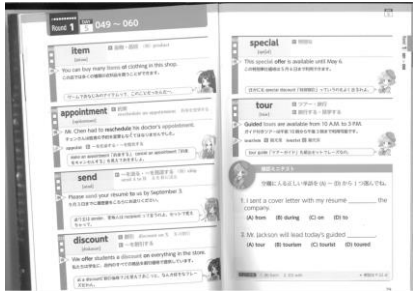
教材名: 英語で Twitter! 著 者: ジャパンタイムス&日本アイアール 出版社: ジャパンタイムス ISBN-10 ISBA 978-4-7890-1397-0 ISBN-13 発売日: 2012 年 6 月 5 日 (第 6 刷) 内容: 英語でツイッターに挑戦したいという人のために、実際にツイッターでネイティブスピーカーが使用している日常表現を多数紹介している。	
目次: 1. 他人の Tweet に反応する 2. 自分から Tweet してみよう 3. 折々のあいさつを Tweet する	
活用例: 学生が国際インターンシップや交換留学などで多くの外国人と交流している。その際、ほとんどの学生は、ツイッターでやり取りをしている。その中で、ただ英語で返すのではなく、本教材を使用して、最近の若者の表現で返すことによってより親密度を増している。	
推薦理由: 本校でもハワイの KCC の国際インターンシップに参加したり、フィリピンの学生と交流していたりしている。このときツイッターが重要なツールとなっている。 また、本教材は、最近の表現方法を多数記載されえており、簡単にツイートしたり、リツイートする表現が記載されている。 本プロジェクトの外国人講師も本教材はとて面白いと薦めている。短く簡単でなおかつ、ストレートに表現する方法が数多く記載されている。	

推薦教材 — 20

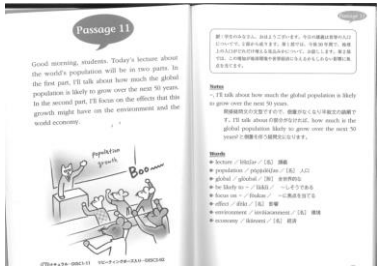
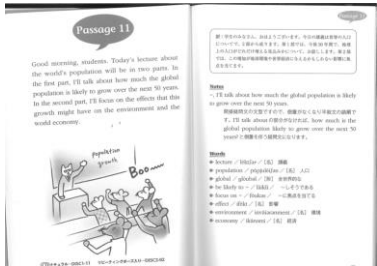
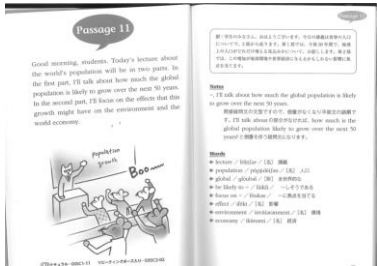
教材名: 英語高速メソッド 日常英会話集 Vol.1 著 者: 笠原 禎一 出版社: 新星出版社 ISBN-10 ISBA 978-4-405-01111-3 ISBN-13 発売日: 2013 年 2 月 25 日 (第 27 刷) 内容: 中学英語でネイティブの脳と耳になる。英語の語順と英語の瞬発力が身につく。	
目次: 1. 起床、オフィス、帰宅 2. 電話、レストラン、買い物 3. 郵便局、美容院、家計 4. 選択、掃除 5. 料理、食事 6. 健康	
活用例: 学生が自主勉強するときに使用している。 寮及び自宅で付属の CD を聞きながら、耳を鍛える。 テープが早回しで話す時があるので、これを聞くと通常の速度がゆっくりと話しているように聞けてヒアリングの向上へ繋がる。	
推薦理由: 本サブプログラムで行っているグローバル教育センターでの外国人講師との英会話で、内容を聞き取れないという学生が多くみられた。通常の教材では何回聞いても聞き取れないという学生がいたが、本教材はゆっくり区切って話し、その後早回しに再生し、最後にまた通常で再生されるため、最後の通常会話がゆっくり話しているように感じる。よって、ヒアリング向上へ役立つ教材である。	

教材名： 日常生活会話英語フレーズ 9000 著 者： ジャパンタイムス&日本アイアール 出版社： ジャパンタイムス ISBN-10 ISBA 978-4-7890-1435-9 ISBN-13 発売日： 2011 年 5 月 5 日（第 1 刷）	
内容： 一般の和英辞典にも出ていないような日常生活表現がきめ細かく、収録されている。表現が場面別にまとめられているので、そのままでも楽しくぴったりの表現を探ることができる。	
目次： 1. 一日の生活 2. 服装 3. 化粧、ヘアスタイル 4. 日常の娯楽 5. 掃除、洗濯 6. 食べる 7. 交通 8. 料理 9. 会社 10. 学校 11. 機械、道具 12. 買い物 13. 休日 などなど	
活用例： 英会話教室で、外国人講師が話したい表現を本教材から示してくれる。外国人講師も日本語が不自由なため、本教材で学生に伝えるときもある。	
推薦理由： 多くの英語表現が日本語付きで示されているため、学生及び外国人講師相互に活用されている。教材によっては、古い（年配の人が話す表現）ことがあるが、本教材は、表現が最近の表現のため外国人講師が本教材がいいと薦めている。	

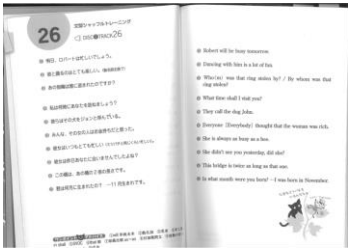
推薦教材 — 22

教材名: TOEIC テストにできる単600語〔600点レベル〕 著 者: 森田鉄也 出版社: 中経出版 ISBN-10 ISBN978-8061-4380-2 ISBN-13 発売日: 2012 年 5 月 28 日 内容: 頻繁に出題される順に、単語を掲載。 単語毎に、意味・例文・ワンポイントアドバイス付き。	
目次: Round1 1～60 語 確認ミニテストの解説 Round2 61～120 語 確認ミニテストの解説 Round3 121～180 語 確認ミニテストの解説 Round4 181～240 語 確認ミニテストの解説 Round5 241～300 語 確認ミニテストの解説 Round6 301～360 語 確認ミニテストの解説 Round7 361～420 語 確認ミニテストの解説 Round8 421～480 語 確認ミニテストの解説 Round9 481～540 語 確認ミニテストの解説 Round10 541～600 語 確認ミニテストの解説 アルファベット順見出し語 INDEX 音声ダウンロードについて	
活用例: 単語を「ひたすら書いて覚える」といった学習方法が苦手な学生に使用。 例文で単語を覚えることができるため、使用方法も理解できる。	
推薦理由: 単語ごとに例文がついており、実際の使用方法がわかる。 また、ワンポイント解説により、単語の印象やイメージが容易で、覚えやすい。	

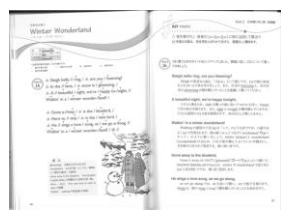
推薦教材 — 23

教材名: ぐんぐん英語力がアップする音読パッケージ トレーニング 中級レベル	
著 者: 森沢洋介	
出版社: ベレ出版	
ISBN-10 ISBN978-4-86064-283-9	
ISBN-13	
発売日: 2011 年 3 月 25 日	
内容: 見開き 1 ページに 7~10 行ほどの短文を掲載。 (左に英文、右に日本語訳と 1 ポイント文法解説) 文章は 1 ページ完結となっており、本書では約 90 編あり。	
目次: 音読パッケージとは 英語学習の 2 分野 音読トレーニングのパッケージ化 音読パッケージに使用する素材 本書を使った音読パッケージトレーニングの行い方 音読パッケージのメインパート 素材のおかわり レベル向上と音読パッケージとトレーニングの変化 本テキストの構成・内容について 全パッケージ 90	
活用例: 本科 1 年生・2 年生を対象に、左側ページの英文のみを渡し、「リスニング→音読→簡易的な和訳」といった流れの教材として使用。1 パッケージにつき、文法解説が 1 つあり、その都度、学生が誤答する傾向にあり、学生の理解していない箇所を確認しながら進行するためにも、使用しやすい教材であるといえる。	
推薦理由: 英単語そのものは、さほど難しくないが、英文の読解上、必要な文法事項など押さえられているので、英語力向上に役立つ。使われている文章の素材も、身近なアナウンスや、日記など状況の想像が付きやすい。	

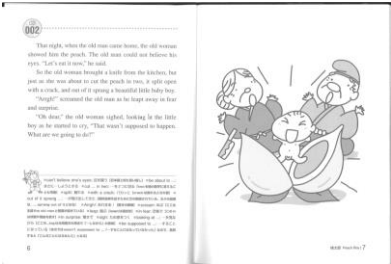
推薦教材 — 24

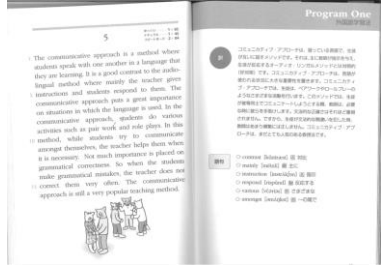
教材名: スラスラ話するための瞬間英作文 シャッフルトレーニング 著 者: 森沢洋介 出版社: ベレ出版 ISBN-10 ISBN978-4-86064-157-3 ISBN-13 発売日: 2007年6月25日 内容: 文型シャッフル500例文と文型コンビネーション500 例文、合計1,000例文の瞬間英作文で徹底トレーニング。	
目次: Training1 文型シャッフルトレーニング 中学1・2・3年レベル問題1～50 Training2 文型コンビネーショントレーニング Part1 中学1・2年レベル問題1～30 Part2 中学1・2・3年レベル問題1～30	
活用例: まず、英語の基本構造を理解するために使用。 英文をある程度の解読はできるが、話せない・書けないといった状態を克服したい場合に、効果的と思われる。 「どんどん話するための瞬間英作文トレーニング」を終え、まだまだ英作文したいという学生に使用した。	
推薦理由: 話せるようになるにも、読めるようになるにも、基本の中学英語を完璧にしていけないと次のステップに進めない。そういった意味でも、英作文することで、中学英語の総復習ができるこの本は最適である。	

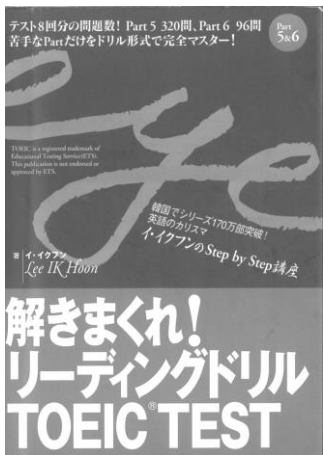
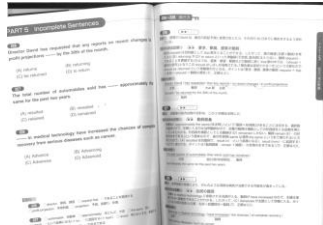
教材名: どんどん話すための瞬間英作文トレーニング 著 者: 森沢洋介 出版社: ベレ出版 ISBN-10 ISBN978-4-86064-134-4 ISBN-13 発売日: 2006 年 10 月 25 日 内容: 中学生レベルの英作文トレーニング。教科書で習う文法順にならんでおり、単元ごとに10問問題がある。 見開き左ページに日本語文、右ページに答えの英文。	
目次: Part1 (中学1年レベル) Part2 (中学2年レベル) Part3 (中学3年レベル)	
活用例: 英語の基本構造を理解するために使用した。 英文を、ある程度は解読できるが、話せない・書けないといった状態を克服させる教材として使用し、効果が見られた。 全学年（本科1年～専攻科）で使用したが、学生の英語能力が中学生レベルの場合、低学年の学生のほうがスラスラできるようになる傾向にあった。 使用方法としては、学生に日本語のみを提示し、その場で英作文をさせた。 復習時は、書くことより、スラスラと発声できるようになることを目標とした。これにより、英語検定の並び替え問題などを、正答できるようになった。	
推薦理由: 話せるようになるにも、読めるようになるにも、基本の中学英語を完璧にしていないと次のステップに進めない。そういった意味でも、英作文することで、中学英語の総復習ができるこの本は最適であると考えられる。	

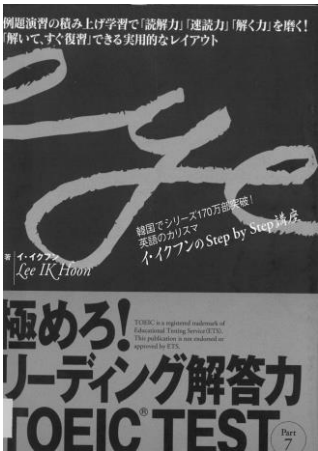
教材名： 英語で歌おう！ ポップスの名曲からマザーグースまで		
著 者： 柏木厚子		
出版社： 株式会社アルク		
ISBN-10 ISBN978-4-7574-1888-2 ISBN-13		
発売日： 2010 年 7 月 16 日(第 3 刷版)		
内容： 英語の歌や、早口言葉などを使って、発音トレーニングするための本。CD つき。		
目次： Part1 歌はメリハリが命！強弱をしっかりとつけよう I Just Called to Say I Love You / Take Me Out to the Ball Game / Simple Simon / London Bridge is Falling Down / 早口言葉に挑戦 Humpty Dumpty Part2 日本語にない音をマスターしよう My Darling Clementine / Winter Wonderland / Old King Cole / 500Miles / 早口言葉に挑戦 A Wyan Swam/ Jingle Bells Monday's Child is Fair of Face/ Oh! Susanna/早口言葉に挑戦 Woodchuck Chuck Part3 英語らしさを追及！滑らかにつなげて歌おう Sing a Song of Sixpence/ Over the Rainbow/ We Wish You a Merry Christmas/ Home on the Range/ 早口言葉に挑戦 Peter Piper ほか/ Green Green/ Take Me Home, Country Roads/ 早口言葉に挑戦 Betty Botter/ Michel, Row the Boat Ashore/ Grandfather's Clock/ What a Wonderful World あとがき		
活用例： 発音の練習に、特に早口言葉を使用した。		
推薦理由： 本書中の英文には、アクセントの位置・言葉の切れ目などに、記号が細かく付されており、文字や記号を確認しながら CD に合わせて歌ったり、早口言葉を真似る事で、より効果的な発音練習になるものと考えられる		

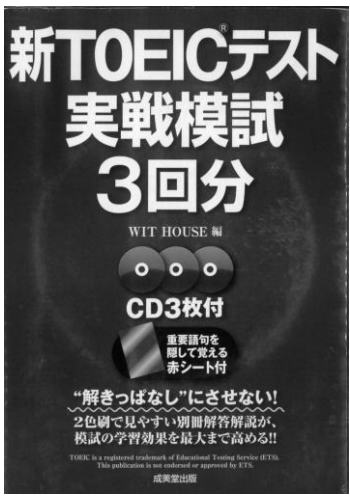
推薦教材 — 27

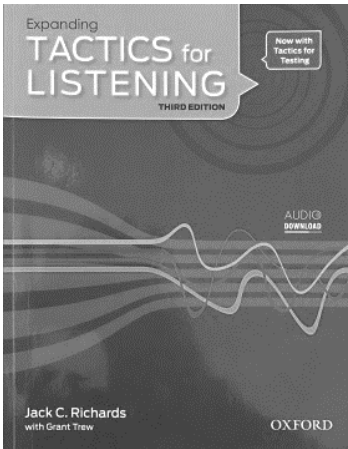
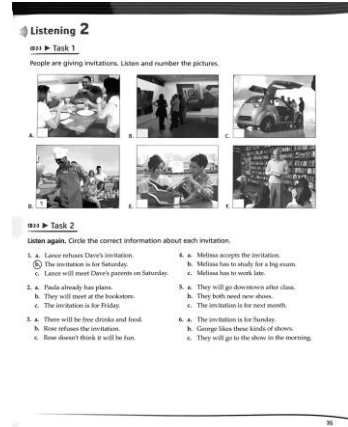
教材名: 英語で読む日本昔話シリーズ 5冊セット	
著 者: ジャパンタイムズ「週刊 ST」編	
出版社: 株式会社ジャパンタイムズ	
ISBN-10 ISBN978-4-7890-1215-7	
ISBN-13	
発売日: 2005 年 7 月 5 日 (第 1 巻)	
内容: だれもが知っている日本昔話の英語版。1冊につき 5～6 話収録されている。	
目次: Book1 ●桃太郎●かちかち山●かさ地蔵 ●カップの雨ごい●おむすびころりん Book2 ●浦島太郎●さるかに合戦●こぶとりじいさん ●にんじんとごぼうと大根 Book3 ●かぐや姫●鶴の恩返し●ねずみの嫁入り ●山姥と小僧●うば捨て山●のっぺらぼう Book4 ●はなさかじいさん●ぶんぶく茶かま ●まんじゅう怖い●へっぴりよめご ●甘酒●うそつき村 Book5 ●一寸法師●舌切りすずめ●屏風のトラ ●はなたれ小僧●いもごろごろ ●ねずみの相撲	
活用例: TOEIC TEST や、英検の勉強の合間に息抜き教材として使用。 知っている話が英語になるとどういう表現になるのかを体感できた。	
推薦理由: そもそも日本語の話を知っているというだけで、英語の長文に対するためらいが緩和され、苦手意識のある学生も英語の文章に取り組みやすくなる。 その他、日本語と英語の表現の違いも知ることができる。	

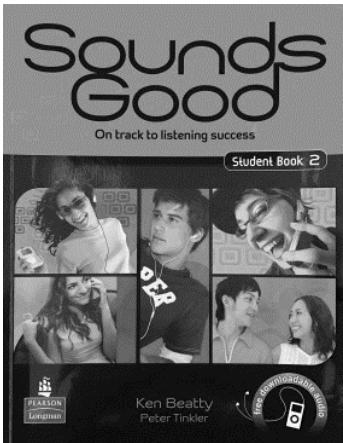
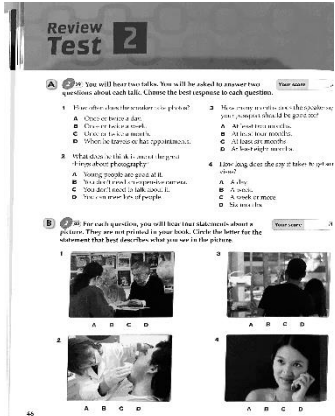
教材名: みるみる英語力がアップする音読パッケージ トレーニング	
著 者: 森沢洋介	
出版社: ベレ出版	
ISBN-10 ISBN978-4-86064-246-4 ISBN-13	
発売日: 2009 年 11 月 25 日	
内容: 文法・文型は、ほぼ中学生レベルのものが掲載。 単語は、中学生レベルを超えたものが掲載されているが、語彙は基本レベルとなっている。 約 5 ページで 1 話分を完結させるショートストーリー形式となっており、「聞く→話す」を目的とした教材であると言える。 見開き左側に英文、右側に訳と語句、解説が掲載されている。	
目次: Program One 外国語学習法 Program two ついてない日 Program three お気に入りの時間 Program four ジョーク集-1 Program Five さまざまなアナウンス Program Six 禁煙 Program Seven 体形と体調の保ち方 Program Eight ジョーク集-2 Program Nine クリスマスプレゼント O・ヘンリー短編より	
活用例: 学生に英文のみ渡し、実際に CD で音声を聞かせ、次に一緒に音読させている。 学生には、完全な和訳を求めず、何が書いてあるか、何が話されているのか、内容について、簡易的な翻訳をさせる。 文法的に分からないところは品詞分解などして解説を加えるようにしている。	
推薦理由: 使用される単語レベルは、高くないため単語の意味にとらわれず、長文読解のための文法を学ぶことができる。 また、同様の理由で、英文の耳慣れに適している。	

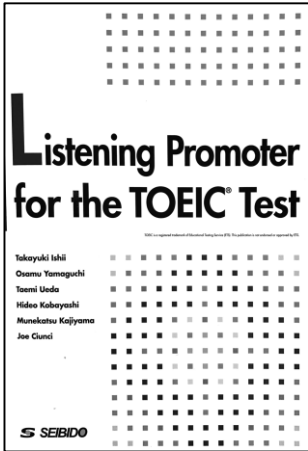
教材名: 解きまくれ！リーディングドリル TOEIC TEST Part5&6	
著 者: イ・クンフン	
出版社: スリーエーネットワーク	
ISBN-10 ISBN978-4-88319-516-9 ISBN-13	
発売日: 2010 年 5 月 28 日	
内容: TOEIC TEST の Part5 と Part6 の徹底練習用ドリル。 1 文 1 文に文法解説が詳しくついています。	
目次: Part5 短文穴埋め問題 Part6 長文穴埋め問題	
活用例: TOEIC を受ける学生に、文法強化のため使用。 同時に単語力アップも図るため、出てきた単語は覚えるよう指示しました。 また、本書では、いろいろな文法や語彙の問題がランダムに出てくるのですが、実際に教材使用する際には、似た用法などをピックアップして並び替えて使用しました。	
推薦理由: ・ 解説が詳しいので、穴埋めだけでなく、それ以外の部分も役に立つ。 ・ 問題数が多いので、(テスト 8 回分) 重点的に穴埋め問題を勉強したい人には最適。	

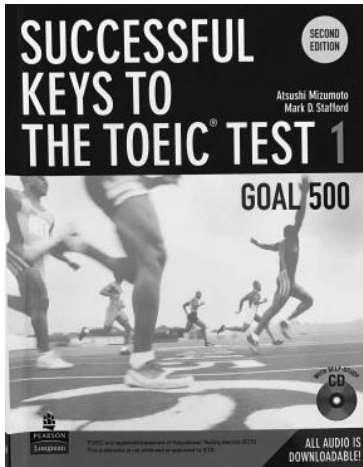
教材名: 極めろ!リーディング解答力 TOEIC TEST Part7 著 者: イ・クンフン 出版社: スリーエーネットワーク ISBN-10 ISBN978-4-88319-474-2 ISBN-13 発売日: 2009 年 12 月 14 日 内容: TOEIC TEST の Part7 読解問題の集中トレーニング本です。	
目次: Chapter1 読解入門 UNIT01 文書のパターンとフォームを理解する UNIT02 詳細情報を把握する UNIT03 語彙と Paraphrasing の力をつける UNIT04 文脈上最も近い意味の単語 Chapter2 1つの文書 UNIT01 大意を把握する UNIT02 正確な情報を把握する UNIT03 推論問題 UNIT04 Single Passage に慣れるための実践問題 Chapter3 2つの文書 UNIT01 詳細情報を把握する UNIT02 関連情報を把握する UNIT 03 Double Passage に慣れるための実践問題	
活用例: TOEIC を受ける学生に Part7 に慣れるために使用。 学生の英語レベル・進度によって本書の中から問題を抜粋して使用。	
推薦理由: さまざまなパターンの問題に触れることができる。 この1冊のみでも、繰り返し使用することで、かなりの単語を覚えることができる。 制限時間が設けられているため、時間を意識して取り組むことにより、読むスピードアップにもつながる。	

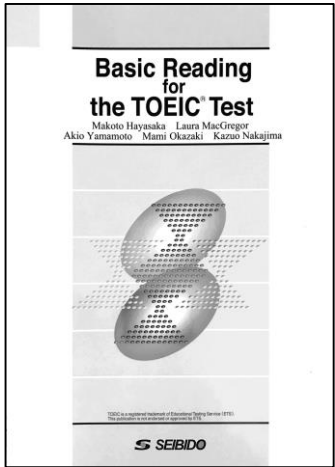
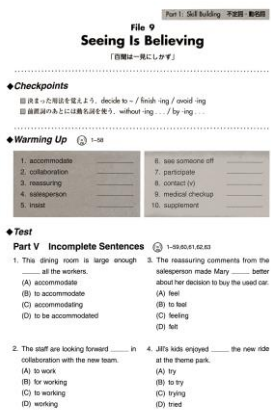
教材名： 新 TOEIC テスト実践模試 3 回分 著 者： 成美堂出版編集部 出版社： 成美堂出版 ISBN-10 ISBN978-4-415-20927-2 ISBN-13 発売日： 2012 年 2 月 20 日 内容： TOEIC TEST 実践模試 3 回分収録。 リスニング用 CD 3 枚付き	
目次： 第一回 実践模試 第二回 実践模試 第三回 実践模試 別冊解答集・解答用紙付き	
活用例： 実際の試験形式での解答後、解答集を見ながら、1 文ずつ復習をさせた。 解答集の単語リストが赤シートで隠せるため、単語の暗記用としても活用した。 学生には、別途、学生個人用としても購入させ、この本をやりこむように指導した。	
推薦理由： 解答が別冊になっており、使いやすい。 復習時に、的を絞れるため、解きっぱなしにならず、この 1 冊でも、徹底的に繰り返し学習することで、TOEIC スコアの 500 点以上到達が可能になると思われる。	

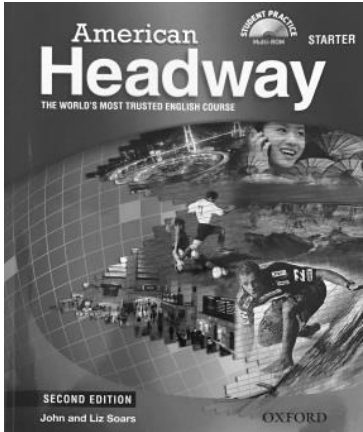
教材名: Expanding Tactics for Listening (3rd Edition) 著 者: Jack C. Richards, Grant Trew 出版社: Oxford ISBN-10 ISBN 978-0-19-401386-4 ISBN-13 発売日: 2011 年 11 月 14 日 (3 Csm Stu 版) 内容: Vocabulary worksheets Listening exercises Pronunciation exercises Progress tests	
目次: Unit 1: Small Talk Unit 2: Plans Unit 3: Successful Business Unit 4: Apologies and Excuses Unit 5: Character Traits Unit 6: Travel Unit 7: Housing Unit 8: Can you Believe it? Unit 9: Friendship	
活用例: Students complete the vocabulary worksheet (possibly as homework) Quickly do the warm-up page Begin the Listening Activities Finish with the Pronunciation Practice page	
推薦理由: Good variety of accents Questions are similar in style to TOEIC Pronunciation practice is highly useful Interesting variety of vocabulary practice Half of each unit can be listened to online	

教材名: Sounds Good (Student Book 2) 著 者: Ken Beatty, Peter Tinkler 出版社: Pearson Longman ISBN-10 ISBN 978-962-00-5890-5 ISBN-13 発売日: 2008 年 6 月 19 日	
内容: Listening practice for a variety of skills Native pronunciation practice Speaking practice Tests	
目次: Unit 1: Pleased to Meet You Unit 2: What's New Unit 3: Where can I catch a taxi? Review Test 1 Unit 4: I Need to Reschedule Unit 5: Do you have a hobby? Unit 6: You Need a Passport. Review Test 2 Unit7: May I See the Menu?	
活用例: Students complete the “Learn the Language” section. Do the Listening Tasks 1 and 2. Finish with the pronunciation / dictation practice, and students can try the practical application practice at the end of each unit.	
推薦理由: Good introductory book. Many activities and test questions are similar to TOEIC style. Online support available (good for homework).	

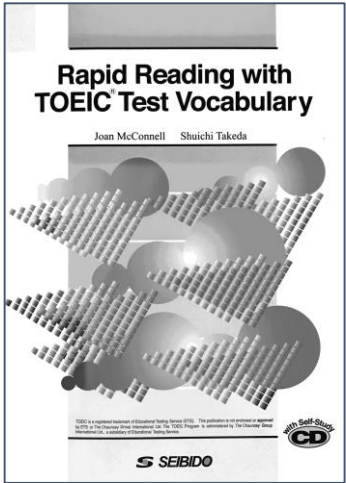
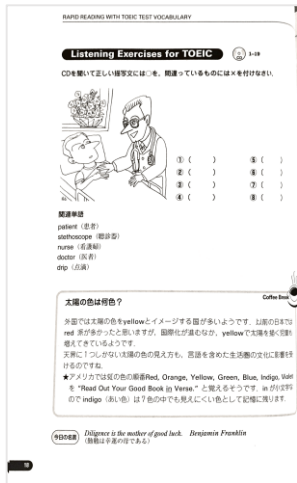
教材名: Listening Promoter for the TOEIC Test 著 者: Takayuki Ishii, Osamu Yamaguchi, et al. 出版社: Seibido ISBN-10 ISBN 978-4-7919-1290-2 ISBN-13 発売日: 2013 年 3 月 内容: Vocabulary and example sentences. TOEIC listening section questions.	
目次: Ch 1: Office Ch 2: Restaurant Ch 3: Department Store Ch 4: Airport Ch 5: Bank Ch 6: Review Test 1 Ch 7: Duty-free shop Ch 8: Travel Ch 9: Rent-a-Car	
活用例: Students do the vocabulary and usage exercises. Check answers and listen to them on CD. Students do parts 1 to 4. Encourage them to read questions before listening. Check when finished. Giving students a copy of the answers and script is useful while checking answers.	
推薦理由: Chapters are short and can be done quickly. Different accents can be heard.	

教材名: Successful Keys to the TOEIC Test 1 (2nd ed.) 著 者: Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford 出版社: KIRIHARA SHOTEN ISBN-10 ISBN 978-4-342-55270-0 ISBN-13 発売日: 2007 年 5 月 内容: ■ Vocabulary ■ Word association ■ TOEIC test practice ■ Glossary ■ Self-study quizzes	
目次: - Unit 1: Daily Life - Unit 2: Places - Unit 3: People - Unit 4: Travel - Unit 5: Business - Unit 6: Office - Unit 7: Technology - Unit 8: Personnel - Unit 9: Management	
活用例: ■ Students warm-up with vocabulary and word association exercises. ■ Listen to the 4 parts of Listening Section separately and check answers after each. Listen again if necessary. ■ Students do the Reading section. 10 minutes is usually enough time. ■ Check answers and review common problems.	
推薦理由: ■ Vocabulary practice is good. ■ 4 accents; native speed. ■ One unit can be completed in a short time (30-40 mins). ■ Answer key has explanations in Japanese.	

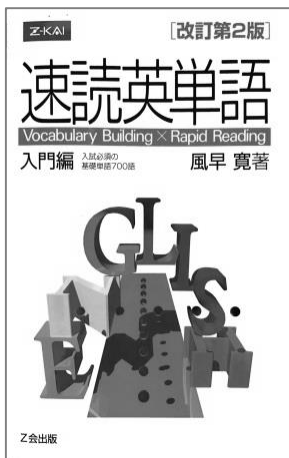
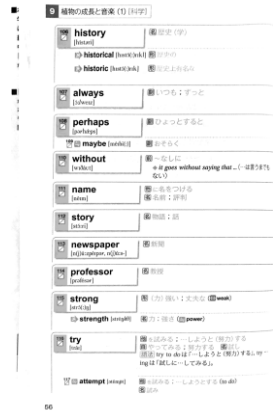
教材名: Basic Reading for the TOEIC Test 著 者: Makoto Hayasaka, Laura MacGregor, Akio Yamamoto, et al 出版社: Seibido ISBN-10 ISBN 978-4-7919-0059-6 ISBN-13 発売日: 2004 年 1 月 内容: Vocabulary Grammar and reading exercises	
目次: File 1: It's a Deal File 2: It's up to You File 3: Look Before you Leap File 4: Let's Check it Out File 5: You Must be Joking File 6: Tomorrow is Another Day File 7: It's not the End of the World File 8: All that Glitters is not Gold File 9: Seeing is Believing	
活用例: Students look up vocabulary words; check afterwards and review pronunciation. Students do the exercises; check answers and review common problems.	
推薦理由: Vocabulary practice is good Grammar and reading practice is good Each file is short; not time consuming Answer book has good explanations in Japanese	

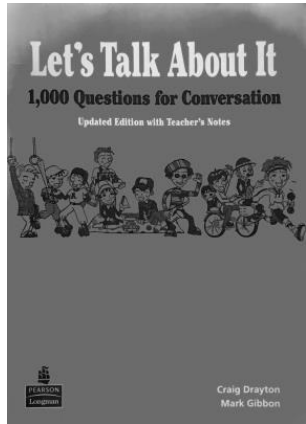
教材名: American Headway (Starter)	
著 者: John and Liz Soars	
出版社: Oxford	
ISBN-10 978-0-19-472926-0	
ISBN-13	
発売日: 2002 年 10 月 10 日	
内容: Speaking exercises Reading exercises Listening exercises Writing exercises	
目次: Unit 1: Hello Unit 2: Your World Unit 3: All About You Unit 4: Family and Friends Unit 5: The Way I Live Unit 6: Every Day Unit 7: My Favorites Unit 8: Where I Live Unit 9: Times Past	
活用例: Pages are often based around a grammar point; review that first. Work through the unit in order. Check students' answers for each exercise and watch for common errors.	
推薦理由: Good review and practice of junior high school English. Good practice of the four basic skills. Nicely designed text, with many short exercises.	

教材名: Sounds Good (Student Book 3) 著 者: Ken Beaty, Peter Tinker 出版社: Pearson Longman ISBN-10 ISBN 978-962-00-5891-2 ISBN-13 発売日: 2008 年 6 月 19 日 内容: Listening for basic comprehension Listening for practical understanding Connecting and combining information Listening for inference Tests	
目次: Unit 1: Let me introduce myself Unit 2: I like getting presents Unit 3: I can't stand the graffiti Review Test 1 Unit 4: All the hard chores! Unit 5: Let's do something fun! Unit 6: Enjoy your stay. Review Test 2 Unit 7: Sounds delicious!	
活用例: Students do the “Learn the Language” and “Focus” sections for warm-up. Proceed with the unit in order, finishing with the mini test. “Go online!” page can be done as homework or in class.	
推薦理由: Similar format to Student Book 2. Many similarities to TOIEC. Online support (good for homework). Uses many accents and natural English.	

教材名: Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary 著 者: Joan McConnel and Shuichi Takeda 出版社: Seibido ISBN-10 ISBN 4-7919-4572-7 ISBN-13 発売日: 2003 年 1 月 内容: TOEIC vocabulary and example sentences Reading passages Comprehension questions TOEIC grammar exercises Listening exercises	
目次 Ch 1: Falliing in Love Ch 2: An American Breakfast in Kyoto Ch 3: You are the Sunshine of my Life Ch 4: Friends are Important Ch 5: Hair and your Personality Ch 6: The Tree of Life Ch 7: Fashion Expresses your Identity Ch 8: Peace is Beautiful Ch 9: Candles in the Dark	
活用例: Students learn the key words. They read the passage as quickly as possible. Do the exercises in order.	
推薦理由: Introduces and uses TOEIC vocabulary. Students can read short, well-written passages on many topics. Reading speed can be calculated. Grammar questions are similar to TOEIC.	

推薦教材 — 40

教材名： 速読英単語 Vocabulary Building × Rapid Reading	
著 者： 風早 寛	
出版社： Z-KAI	
ISBN-10 ISBN 978-4-86066-760-3 ISBN-13	
発売日： 2004 年 11 月（改訂第 4 版）	
内容： Reading Vocabulary	
目次： Theme 1: トマトが「食材」になるまで Theme 2: ベートーベンとコーヒー豆 Theme 3: 山登りと精神力 Theme 4: バレンタインの起源 Theme 5: 植物の成長と音楽 Theme 6: コアラの生態 Theme 7: アインシュタイン Theme 8: 「名字」が表すもの Theme 9: スーパーマーケットの作戦	
活用例： Students read passage in English and check meaning in Japanese. Next, listen to CD and read at the same time. Finally, check the vocabulary list; listen to the words and example sentences from CD.	
推薦理由： Many topics. Short passages. Listening to a native speaker read (from CD) is good practice. Students can learn and read vocabulary in context.	

教材名: Let's Talk About It – 1,000 Questions for Conversation 著 者: Craig Drayton, Mark Gibbon 出版社: Pearson Longman ISBN-10 962-01-8951-5 ISBN-13 978-962-01-8951-7 発売日: 2007 年, 1997 年 内容: Several topics for conversation. Short vocabulary exercises. English usage exercises.	
目次: Unit 1: Food Unit 2: Japan Unit 3: Shopping Unit 4: Music Unit 5: Transportation Unit 6: The Salaryman and work Unit 7: Family Unit 8: Travel Unit 9: Europe Unit 10: Famous people	
活用例: Students answer ten question about the picture at the top of each unit. Last ten questions are based on students' opinions and experiences. Teacher should encourage students to speak freely, and should correct mistakes when necessary, as well as introduce relevant vocabulary, sentence structures, etc. Second page of each unit can be done in class or as homework before or after the conversation part.	
推薦理由 Many topics that students can relate to. Conversation section can be finished in about 30 minutes. Good book for individuals or small groups.	

6-3 平成 25 年度教員英語外地研修報告集

平成25年度 英語外地研修参加者

高専名	役 職	氏 名
富山高専	教授	中谷 俊彦
富山高専	准教授	笹谷 敬二
鳥羽商船	助教	小田 真輝
鳥羽商船	助教	吉田 南穂子
広島商船	助教	木下 恵介
大島商船	助教	前畑 航平
弓削商船	准教授	野々山 和宏
弓削商船	准教授	向瀬 紀一郎

KCC Visit 4th~21th September, 2013 について

(1) 目的

9月5日~21日のKCC（リフエ、ハワイ州）で実施される「教員英語外地研修」は、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科・専門教員の英語外地研修として、国立商船系高専の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムです。本研修を通じて専門科目における英語の利用と英語による授業展開という目的に応える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

(2) 参加者一覧

教員英語研修(8名)の参加者一覧を資料-1に示します。

初対面の方が多いので、携帯電話番号一覧(資料-2)を作成しました。

(3) 旅程

旅程は以下の通りです。

9月4日(水) 成田 → ホノルル → リフエ

19:30 集合 (出発の2時間前)

場所： 成田空港 第1ターミナル 中央ビル 4F(出発階) コスモスプラザ

- 参照 URL： http://www.narita-airport.jp/jp/guide/service/list/svc_29.html
- 遅刻厳禁をお願いします。不測の事態で遅れる場合には富山高専・中谷先生(090-8099-3891)に必ず連絡してください。

19:30 搭乗手続き、ドル換金、出国審査

21:30 成田発 → NH1052 → 10:05 ホノルル着

- 入国審査において、滞在目的は観光(Sightseeing)とご回答願います。

12:34 ホノルル発 → HA343 → 13:12 リフエ着

- ハワイ航空は預ける荷物の重量により、お金の支払いが求められます可能性があります。

9月4日(水) ~21日(土) カウアイ島

カウアイ島の詳細なスケジュールは資料-3のプログラム日程を参照して下さい。

9月21日(土) リフエ → ホノルル

08:30 リフエ発 → HA124 → 09:02 ホノルル着

9月21日(土) ホノルル → 成田

ホノルル到着後搭乗手続き、出国

11:35 ホノルル発 → NH1051 → 22日(日) 14:50 成田着

16:00 頃 解散

(4) ハワイの滞在環境

4.1 電話・インターネット

- ・電話

オアフ島とカウアイ島、ともに、国際ローミングで日本と通話できます。iモードによるメールも可能です。

- ・インターネット

カウアイ島宿泊先：Plantation Hale は有線・無線のネット環境が整備されています。

4.2 ホテル

4 日(水)～21 日(土) カウアイ島 プランテーション・ハレ(Plantation Hale)

- ・ Check-in(4 日夕方) / Check-out(21 日朝)

- ・ カウアイ島東海岸にあるコンドミニアム形式(自炊設備付)のホテルで、食事は付いていません。リフエ空港より車で 10 分。

- ・ 宿泊費はチェックイン時にカード決済にて支払います。

- ・ 現地でかかる食費等はすべて個人負担となります。

- ・ ホテルの詳細は <http://www.plantation-hale.com/> を参照してください。

4.3 交通手段

- ・ 9/4、9/21 の空港－ホテル間の移動は KCC 側に送迎いただきます。

- ・ プログラム中の宿泊施設から KCC までの移動は公共交通機関：Kauai Bus を利用。

1 ヶ月間有効のバス定期券（\$ 30）を到着後に各参加者にご購入いただきます。

- ・ またプログラム中のグループでの視察等の移動は、KCC 側に貸切バス等を手配いただきます。【空港－ホテル送迎費、貸切バス等の手配は研修費に含まれます。】

(5) その他

5.1 航空券の半券について

経費処理上、航空券の半券が必要となりますので、後日各校の旅費担当に提出願います。

なお、富山高専：笹谷先生、弓削商船高専：野々山先生については、本研修の旅費は鳥羽商船高専配分額からの支出となりますので、帰国後の成田空港にて鳥羽商船高専：吉田先生に航空券の半券をお渡し願います。また、富山高専：笹谷先生につきましては、羽田空港～富山空港の半券を後日、鳥羽商船事務担当江崎まで郵送願います。

5.2 空港－ホテルの移動について

9/4、9/21 の空港－ホテルの移動は KCC 側に送迎いただくので、両日は 1/2 日当となります。

5.3 経費の留意事項

6/11 付参加者募集案内「④経費及び取扱い」を参照すること。

以上

JMC Professional Development Program Weekly Schedule (As of 09/01/13)

Week 1	Sep 2 (Mon)	Sep 3 (Tue)	Sep 4 (Wed)	Sep 5 (Thu)	Sep 6 (Fri)	Sep 7 (Sat)	Sep 8 (Sun)
Bus Departs				9:07	8:07		
Morning				10:00 – 11:00 KCC Orientation Program Overview 11:00 – 12:00 Campus Tour	9:00-9:45 Class: Intro to Hawaiian Culture 10:00 – 11:30 Tour of Hydro Plant by Prof. Yamamoto		
Lunch				Lunch	Lunch		
Afternoon			Arrive in Lihue (2:30) General Orientation Tour of the area Welcome dinner	1:00 – 3:00 Planning Session for Directed Research Setting up Appointments	12:00 – 2:00 Namahoe 2:30 – 4:00 Networking Meeting		
Assignment Output							
Bus Departs				3:25 or 3:55	4:25		

Week 2	Sep 9 (Mon)	Sep 10 (Tue)	Sep 11 (Wed)	Sep 12 (Thu)	Sep 13 (Fri)	Sep 14 (Sat)	Sep 15 (Sun)
Bus Departs	7:07, 8:08, 9:07	7:07, 8:08, 9:07	9:07	9:07	9:00		
Morning	8:00 – 12:00 Directed Research & Class Observation	8:00 – 12:00 Directed Research & Class Observation	9:45 – 10:15 Check-in 10:30 – 12:00 Film: Great Grandfather's Drum	9:45 – 10:15 Check-in 10:30-12:00 Class: Intro to History of Japanese in Hawaii	10:00 – 3:00 Class: Biomimicry @ National Tropical Botanical Garden		
Lunch						Lunch	
Bus Departs	1:15			1:25			
Afternoon	1:30-3:30 Excursion Hokulue'a Dockside lessons/ Canoe Tour	1:00-3:30 English for Professional Purpose	1:00-3:30 English for Professional Purpose	1:45 – 3:30 Kauai Museum	Practicum @ National Tropical Botanical Garden	Hanapepe Soto Zen Temple Kaiwo-maru	
Assignment Output							
Bus Departs		3:55	3:55	3:38, 4:08, 4:38			

Week 3	Sep 16 (Mon)	Sep 17 (Tue)	Sep 18 (Wed)	Sep 19 (Thu)	Sep 20(Fri)	Sep 21 (Sat)	Sep 22 (Sun)
Bus Departs	9:07	9:07	9:07	9:07			
Morning	9:45 – 10:15 Check-in	9:45 – 10:15 Check-in	9:45 – 10:15 Check-in	9:45 – 10:15 Check-in	10:00 – 12:00 Final Presentation	Departure for Japan	
	10:15 – 12:00 Directed Research	10:15 – 12:00 Directed Research	10:15 – 12:00 Directed Research	10:15 – 12:00 Directed Research			
Lunch							
Afternoon	1:00-3:30 English for Professional Purpose	1:00-3:30 English for Professional Purpose	1:00-3:30 English for Professional Purpose	1:00-3:30 English for Professional Purpose	5:30 – 8:30 Farewell Event		
Assignment Output							
Bus Departs	3:55	3:55	3:55	3:55	1:25		

Five National Colleges of Maritime Technology		Kaua'i Community College	IMPORTANT PHONE NUMBERS
JMC International Professional Development Program - Participants' Itinerary		Continuing Education & Training	Kyoko Ikeda: (808) 393-3914
September 4 - 21, 2013 (8 participants) (As of 09/01/13)		3-1901 Kaunualii Highway Lihue, Hawaii 96766 Phone No. (808) 245-8318	Dr. Bruce Getzan: (808) 635-0047 Jennifer Defuntorum: (808) 652-0983 Police, Medical, Fire Emergency - 911
Date/Time	Activity	Location	Instructor/Coordinator
Wednesday, Sept. 4 Arrival, Orientation			
1:15 PM	Arrival - at Lihue Airport on Island Air flight # 105 (Confirm flight status in the morning)		
1:40 PM	Depart - Lihue Airport to Plantation Hale by individual cars (Keiichiro Yamamoto, Dennis Chun)		Dennis Chun (Keiichiro Yamamoto) After 3:30, Ikeda and after 4:30 B. Yamamoto join
2:15 - 3:00 PM	Check-in		Dennis Chun (Keiichiro Yamamoto) After 3:30, Ikeda and after 4:30 B. Yamamoto join
3:00 - 6:00 PM	Settle in / Rest		
5:00 - 6:30	Shopping / Orientation of the Area - Determine participants' needs and shop for groceries & other necessities at supermarket		
6:30 - 9:00 PM	Orientation (SEVIS, Model Release, Risk & Release, Bus Pass) / Dinner		Brian Y, Dennis C, Kyoko I.
Thursday, Sept. 5 KCC Orientation, Program Overview, Campus Tour, Planning Session			
8:00 - 8:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale - walk to Kauai Village Shopping Center bus stop to KCC by Kauai Bus	Bus Stop: Kauai Village	Kauai Bus
10:00 - 11:00 A	KCC Orientation / Program Overview (KCC overview, wifi access, etc.)	OCET 103	Kyoko I.
11:00 - 12:00 P	Campus Tour by KCC faculty		Jeff Mexia, Brian Cronwall, Dennis Chun
12:00 - 12:45 P	Lunch - (paid by participants at their own expense) escorted by KCC volunteer faculty	KCC Dining Room	Jeff Mexia, Brian Cronwall, Dennis Chun
1:00 - 3:00 P	Planning Session - directed research	OCET 103	Kyoko I, Jeff Mexia
3:25P	Depart - KCC to Plantation Hale by Kauai Bus		Kauai Bus
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Friday, Sept. 6 Introduction to Hawaiian Culture, Hydro Electric Turbine Tour, Namahoe, Networking Meeting			
7:00 - 7:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
7:40 A (8:07 bus)	Depart - Plantation Hale - walk to Kauai Village Shopping Center bus stop to KCC by Kauai Bus	Bus Stop: Kauai Village	Kauai Bus
9:00 - 9:45 A	Class - Introduction to Hawaiian Culture	OCET 103	Dennis Chun
10:00 - 11:30 P	Tour - Hydro Electric Turbine on KCC Campus by Keiichiro Yamamoto	OCET 103 - Loi	Prof. Keiichiro Yamamoto
12:00 PM	Depart - Nawiliwili Harbor (Matson Entrance) Namahoe Construction Site by Individual Cars		Dennis Chun / K. Yamamoto
12:15 - 2:00 P	Site Visit - Namahoe Construction Site / Voyaging canoe, Hawaiian history & culture, and education (Lunch from Po's Kitchen (10) and water)		Dennis Chun / K. Yamamoto
2:00 PM	Depart - Nawiliwili (Matson Entrance) to Kauai CC by Individual Cars		Dennis Chun / K. Yamamoto
2:30 - 4:00 P	Networking Meeting (Food / Drinks from Marks)	OCET 106 cld	Kyoko I.
4:25 PM	Depart - KCC to Plantation Hale by Kauai Bus		Kauai Bus
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Saturday, Sept. 7			
	Free day	Plantation Hale	
Sunday, Sept. 8			
	Free day		

Monday, Sept. 9 Directed Research, Class Observation, Hokulea			
6:00 - 7:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
7:07 /8:07/9:07A Bus	Depart - Plantation Hale to KCC	Bus Stop: Kauai Village	Kauai Bus
8:00 - 12:00 A	Directed Research / Class Observation		
12:00 - 1:00 P	Lunch - paid by participants at their own expense	KCC Dining Room	
1:15 PM	Depart KCC to Nawiliwili Small Boat Harbor by Akita Bus	In front of One Stop Ctr	Akita Bus
1:30 - 3:30 P	Excursion: Hokule'a Dockside Lessons / Canoe Tour		Dennis Chun, Kyoko Ikeda
4:00 PM	Depart - Nawiliwili Small Boat Harbor to Kukui Grove Shopping Center by Akita Bus		Akita Bus
TBD	Depart - Kukui Grove Shopping Ctr to Plantation Hale (Coconut Marketplace) by Kauai Bus		Kauai Bus
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Tuesday, Sept. 10 Directed Research, Class Observation, English			
6:00 - 7:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
7:07, 8:07, 9:07A Bus	Depart - Plantation Hale to bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
8:00 - 12:00 P	Directed Research / Class Observation		
12:00 - 1:00 P	Lunch - paid by participants at their own expense	KCC Dining Room	
1:00 - 3:30 P	English for Professional Purpose	OCET 103	Jeff Mexia
3:55 PM	Depart - KCC to Plantation Hale	KCC Bus Stop	Kauai Bus
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Wednesday, Sept. 11 Directed Research, Film, English			
7:00 - 7:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale - walk to Kauai Village Shopping Center bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
9:45 - 10:15 A	Check-in	OCET 103	Keiichiro Yamamoto
10:30 - 12:00P	Film: Great Grandfather's Drum	OCET 103	
12:00 - 12:50 P	Lunch - paid by participants at their own expense		
1:00 - 3:30 P	English for Professional Purpose	OCET 103	Brian C. Cronwall
3:55 PM	Depart - KCC to Plantation Hale	KCC Bus Stop	
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Thursday, Sept. 12 Introduction to History of Japanese in Hawaii, Kauai Museum			
7:00 - 7:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale - walk to Kauai Village Shopping Center bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
9:45 - 10:15 A	Check-in	OCET 103	Keiichiro Yamamoto
10:30 - 12:00P	Class : Introduction to History of Japanese in Hawaii	OCET 103	Roy Miyake
12:00 - 12:50 P	Lunch - paid by participants at their own expense		
1:25 AM	Depart - KCC to Civic Center	KCC Bus Stop	Kauai Bus
1:45 - 3:00 P	Excursion: Kauai Museum	Kauai Museum	Roy Miyake / Kyoko I
3:38, 4:08, 4:38 PM	Depart - Civic Center to Plantation Hale	Civic Center	Kauai Bus
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Friday, Sept. 13 Educational Excursion to NTBG			
8:00 - 8:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
9:00 AM	Depart - Plantation Hale to National Tropical Botanical Garden (NTBG) by Akita Bus	Plantation Hale Lobby	Akita Bus
10:00 - 3:00 P	Educational Excursion: National Tropical Botanical Garden, lecture on biomimicry and garden tour (lunch, refreshment provided)		
3:00 PM	Depart - NTBG to Plantation Hale by Akita Bus	NTBG	Akita Bus
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Saturday, Sept. 14			
11:00 AM	Depart - Plantation Hale to Hanapepe		
12:00 - 1:00 P	Lunch - Hanapepe		Kyoko I, Brian Y., Brian C., Jeff M.
1:00 - 3:30 P	Community event remembering Kaiwo-maru & Nippon-maru @ Hanapepe Soto Zen Temple		Gerald Hirata
Sunday, Sept. 15			
	Free Day		
Monday, Sept. 16 Directed Research, English			
7:00 - 8:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale to bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
9:45 - 10:15 A	Check-in	OCET 103	Keiichiro Yamamoto
10:15 - 12:00 A	Directed Research	OCET 103	
12:00 - 1:00P	Lunch - paid by participants at their own expense	KCC Cafeteria	
1:00 - 3:30	Class: English for Professional Purpose	OCET 103	Brian Cronwall
3:55 PM	Depart - KCC to Plantation Hale	KCC Bus Stop	
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Tuesday, Sept. 17 Directed Research, English			
7:00 - 8:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale to bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
9:45 - 10:15 A	Check-in	OCET 103	Keiichiro Yamamoto
10:15 - 12:00 A	Directed Research	OCET 103	
12:00 - 1:00P	Lunch - paid by participants at their own expense	KCC Cafeteria	
1:00 - 3:30	Class: English for Professional Purpose	OCET 103	Jeff Mexia
3:55 PM	Depart - KCC to Plantation Hale	KCC Bus Stop	
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Wednesday, Sept. 18 Directed Research, English			
7:00 - 8:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale to bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
9:45 - 10:15 A	Check-in	OCET 103	Keiichiro Yamamoto
9:00 - 12:00 A	Directed Research	OCET 103	
12:00 - 1:00P	Lunch - paid by participants at their own expense	KCC Cafeteria	
1:00 - 3:30	Class: English for Professional Purpose	OCET 103	Brian Cronwall
3:55 PM	Depart - KCC to Plantation Hale	KCC Bus Stop	
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Thursday, Sept. 19 Directed Research, English			
7:00 - 8:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale to bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
9:45 - 10:15 A	Check-in	OCET 103	Keiichiro Yamamoto
10:15 - 12:00 A	Directed Research	OCET 103	
12:00 - 1:00P	Lunch - paid by participants at their own expense	KCC Cafeteria	
1:00 - 3:30	Class: English for Professional Purpose	OCET 103	Jeff Mexia
3:55 PM	Depart - KCC to Plantation Hale	KCC Bus Stop	
	Free time - Dinner prepared by participants at their own expense		
Friday, Sept. 20 Final Presentation, Farewell Event			
8:00 - 8:40A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
8:40 A (9:07 bus)	Depart - Plantation Hale to bus stop to KCC by Kauai Bus	Kauai Village Bus Stop	Kauai Bus
10:00 - 12:00 A	Final Presentation	Fine Dining / OCET	
12:00 - 1:00 P	Lunch - paid by participants at their own expense		
1:25 PM	Depart - KCC to Plantation Hale	KCC Bus Stop	
5:30 AM	Farewell Dinner @ Huki Lau Lanai		
Saturday, Sept. 21 Depart for Japan			
5:30 - 6:00 A	Breakfast prepared by participants at their own expense		
6:30 AM	Depart - Plantation Hale to Lihue Airport by Akita Bus	Plantation Hale Lobby	Akita Bus
7:00 AM	Check-in with Hawaiian Airlines		
8:30 AM	Depart for Honolulu on Hawaiian Airlines flight 124		

平成 25 年度 研修写真集



KCC ブックストア前



ホクレア



KCC の教室にて



カウアイミュージアム



ナマホエ



KCC での昼食



ハナペペ曹洞宗寺



スクールバス



研修風景



ボタニックガーデン



英語による発表



修了証授与

氏 名	中谷 俊彦		
所属等	富山高等専門学校 商船学科		
1. 研修の目的			
1. 英会話能力の向上			
2. 専門科目における英語によるプレゼンテーション能力の向上			
3. KCCにおける授業の体験			
4. ハワイ文化の理解			
2. 研修の概要			
9月 4日 (水) 午後 リフエ着			
9月 5日 (木) 午前 KCCオリエンテーション、校内見学		午後	参観授業決定
9月 6日 (金) 午前 ハワイアンカルチャー デニス先生		午後	高専説明と自己紹介(KCC教職員へ)
9月 7日 (土) 休日			
9月 8日 (日) 休日			
9月 9日 (月) 授業参観 (各自選択 歴史 哲学)		午後	ホクレア号見学
9月10日 (火) 授業参観 (植物学 ブライアン山本先生)		午後	英語研修 (ジェフ先生)
9月11日 (水) Great fathers drum 移民に関するビデオ		午後	英語研修 (ブライアン先生)
9月12日 (木) 日系ハワイアン移民の歴史について Miyakeさん		午後	カウアイミュージアム見学
9月13日 (金) ナショナルボτανニクガーデン見学		終日	(ブライアン山本先生引率)
9月14日 (土) 練習船交流に携わった方々との交流会 (ハナペペ曹洞宗寺 ブライアン山本先生、ブライアン先生、ジョイス先生、池田さん)			
9月15日 (日) 休日			
9月16日 (月) 自由研究 (9月20日のプレゼンテーションに向けて)		午後	英語研修 (ブライアン先生)
9月17日 (火) 自由研究		午後	英語研修 (ジェフ先生)
9月18日 (水) 自由研究		午後	英語研修 (ブライアン先生)
9月19日 (木) 自由研究		午後	英語研修 (ジェフ先生)
9月20日 (金) 午前 英語による各自テーマのプレゼンテーション		KCC教職員に対して 「How To Teach Ship's Autopilot System」(中谷) 夕刻 レセプション	
9月21日 (土) 午前 リフエ発 9月20日の最終プレゼンテーションに向けて、チェックシートによる予行演習も行われ、プレゼンの効果的なやり方、文法チェック等が丁寧に指導された。			
3. 研修成果			
1. 英会話能力の向上 日常的に英語を使うことによる英会話の慣れ			
2. 専門科目における英語によるプレゼンテーション能力の向上 船用自動操舵装置 (オートパイロットを英語でわかりやすく教えるための例題、テクニック)			
3. ディスカッションを伴うKCCにおける授業の体験 教員と学生がディスカッションしながら行う授業の体験			
4. ハワイ文化の理解 特にカウアイ島は日本とのつながりが深く、日系移民の文化がベースにあることを理解した。 以前より、オートパイロットの説明を英語で説明したいと考えており、ポイントを絞った指導が受けられたと感じている。英会話能力が飛躍的に上がったわけではないが、英語によるフィードバックシステム、オートパイロットのわかりやすい説明方法の獲得について、目的は達成されたと思う。			
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて			
1. 帰国後の担当授業を意識してスライドを作成したので、オートパイロットの英語での説明をつけて実施する予定。			
2. KCCでの授業に倣って、ディスカッションを取り入れた授業をこころがけたい。			
3. いずれは遠洋航海に参加する商船学科学生に対して、日本とハワイとの特別な関係 (日系移民の歴史など) について、教える予定。			

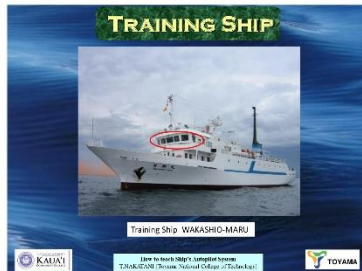
HOW TO TEACH SHIP'S AUTOPILOT SYSTEM

National Institute of Technology, Toyama College, Toshihiko NAKATANI

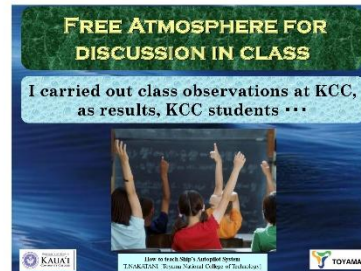


INTRODUCTION: There are many kind of navigational instruments. It is difficult to explain each instrument so that it can be understood easily. For example, in order to understand ship's autopilot system, we need to understand feedback control system first. There are some students who can not understand. In order to solve this problem, I need good example around our life. I've been looking for example.

There are many kind of navigational instruments. Students have to learn.



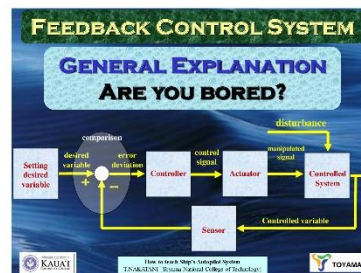
KCC teacher sometime made a joke, to be free atmosphere for discussion in class.



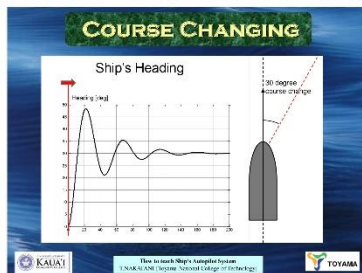
For example, ship's autopilot system is very important.



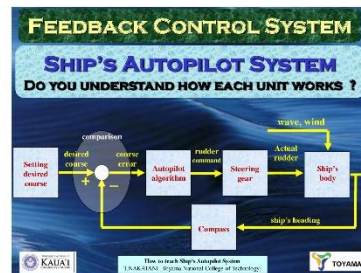
Typical explanation for feedback control Boring ?



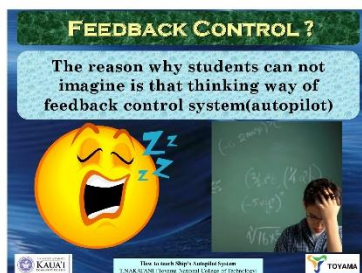
The Action of Autopilot:
The case of course changing from 0 to 30



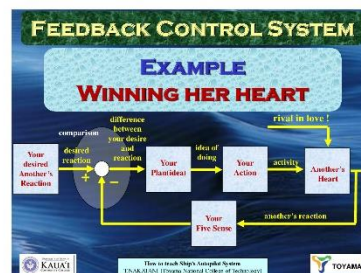
Typical ship's autopilot system
Each working, can you imagine ?



There are some students who are not interested in this system, who can not understand.



Example around our life: Feedback control system in order to win her heart.



CONCLUSIONS: I carried out some class observations at KCC. As a results, I thought that discussion or its atmosphere is very important. And also, in order to start with discussion, we need easy example around us to understand.

氏 名	笹谷 敬二		
所属等	富山高等専門学校 商船学科		
1. 研修の目的			
1. 英会話能力の向上			
2. 英語によるプレゼンテーション能力の向上			
3. KCCにおける授業の体験			
2. 研修の概要			
9月 4日 (水)	午後	リフエ着	
9月 5日 (木)	午前	KCC オリエンテーション 校内見学	午後 参観授業決定
9月 6日 (金)	午前	ハワイアンカルチャー デニス先生	午後 自己紹介 KCC教職員
9月 7日 (土)	休日		
9月 8日 (日)	休日		
9月 9日 (月)	授業参観 (各自選択 歴史 哲学)		午後 ホクレア号見学
9月10日 (火)	授業参観 (植物学 ブライアン山本先生)		午後 英語研修 (ジェフ先生)
9月11日 (水)	Great fathers drum 移民に関するビデオ		午後 英語研修 (ブライアン先生)
9月12日 (木)	日系ハワイアン移民の歴史について Miyakeさん		午後 カウアイミュージアム見学
9月13日 (金)	ナショナルボダニックガーデン見学		終日 (ブライアン山本先生引率)
9月14日 (土)	練習船交流に携わった方々との交流会 (ハナペペ曹洞宗寺 ブライアン山本先生、ブライアン先生、ジョイス先生、池田さん)		
9月15日 (日)	休日		
9月16日 (月)	自由研究 (9月20日のプレゼンテーションに向けて)		午後 英語研修 (ブライアン先生)
9月17日 (火)	自由研究		午後 英語研修 (ジェフ先生)
9月18日 (水)	自由研究		午後 英語研修 (ブライアン先生)
9月19日 (木)	自由研究		午後 英語研修 (ジェフ先生)
9月20日 (金)	午前	英語による各自テーマのプレゼンテーション 練習船のハワイ訪問の口伝について (笹谷)	KCC教職員に対して 夕刻 レセプション
9月21日 (土)	午前	リフエ発	
英語研修については、9月20日のプレゼンテーションに向けて具体的なものであった。 ブライアン先生、ジェフ先生ともに、大変丁寧にユーモアを交えて授業をしていただいた。			
3. 研修成果			
1. 英会話能力の向上			
2. 英語によるプレゼンテーション能力の向上			
3. 日本とは異なり、自由な雰囲気の中での討論を中心とした授業の体験			
4. 日常生活を通じての異文化体験			
5. 日系ハワイアンの歴史と戦争戦後の苦難の理解			
目に見えての英会話能力の向上といえるほどではありませんが、プレゼンテーション能力や恐れずに英会話を行う体験ができたことは大変良かったと思います。			
また、日系移民の戦争戦後の苦難の歴史を知りそれを実習でハワイを訪れる機会のある商船学科の学生に対して事前に伝えることは重要なことだと感じました。			
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて			
1. 学生に対して異文化体験と英会話の重要性を、身をもって伝えることができる。			
2. 日本とは異なる討論を中心とした授業を取り入れることは学生の自発的な意欲を引き出すものとして授業に取り入れたいと考えます。			
3. 実習に出る商船学科の学生に対して日系移民の歴史を簡単に教えていきたいと考えます。			

Oral History of Training ships in Kauai

National Institute of Technology, Toyama college. Keiji SASAYA



●Introduction

2013 JMC professional Development program brought me to KCC for improving English skill and teaching skill for students.

●Presentation at KCC

We had community event remembering Kaiwo-maru and Nippon-maru at Hanapepe Soto Zen temple.
I researched History of merchant training ship visiting to Kauai.

First visiting Kauai in July 1954



Nippon maru visited Kauai in 9th July 1954,
first Japanese merchant training ship to
visit Hawaii since before the war.

Over 400 people attended Reception for
visiting officers and Men of Nippon maru.



Transported Historical monument by
Training ship in 1961



Pagoda and Lantern in civic center was gifted
in 1961 for memorial of 100years of
immigration from Family temple Naosuke Iii,
famous Chief retainer of Tokugawa
government.

Meeting on Soto Zen Temple on 14th
Sept. 2013



Many old people attended remembering
meeting of Training ship Nippon maru and
Kaiwo maru at Soto Zen temple.

●Conclusion

- Volunteer to welcome Training ship.
- Historical importance of Japanese immigration to Hawaii over 100 years and 1940s difficulty.
- Remaining Old Japanese good affection in Hawaiian society, Okagesamade(おかげさまで), Thanks to you and fortunately.
- Generation had changed, so it is important to remain record of communication with not only training ship but also other activities.

氏 名	小田 真輝
所属等	鳥羽商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
本研修での目的は、自身の英語能力を高め、授業を英語で行うための英会話力・コミュニケーション能力を身に付けることとした。また、国際交流のプログラムや、自身の研究を進めるにあたっての国際学会の場等でも英語のプレゼンテーションができ、質疑応答やディスカッションができるようになることを目指す。	
2. 研修の概要	
研修はハワイ州カウアイ島にて行われた。KCC での英語の授業を軸に、KCC 学生の授業の参加・見学や、カウアイ島と日本の繋がりを学ぶなど、多くの経験をできるものであった。カウアイ島には日本との関わりが強いことと、海王丸との交流があったこともあり、カウアイ島の歴史についても学ぶことができた。 研修期間中のプログラムは決められており、自分で課題・テーマを決め、聞き取りや文献調査、授業観察するものと、その調査の進行や英語での発表に必要なコミュニケーション方法を学ぶもので構成されていた。 課題・テーマの例は与えられていたが、研修期間中に体験したことや、日本の文化との比較など、自分で自由に決めることができた。 研修は KCC でのみで行われるのではなく、ナマホエ建設現場や博物館、植物園でも行われた。 研修最終日には英語のプレゼンテーションが課され、本プログラム関係者及び KCC の職員に対して自分のテーマについて発表を行った。発表後には質疑応答・ディスカッションが行われた。	
3. 研修成果	
本研修はカウアイ島にて行われることもあり、期間中常に英語を意識し続けるという貴重な経験をすることができた。 KCC では現地の授業に実際に学生の立場として参加することができ、一般的な日本の学校での授業のスタイルと異なる点を多く見つけることができた。日本の授業との大きな違いとしては、先生が多くの質問を学生に投げかけ、学生たちとディスカッション形式で授業が行われることが印象的だった。 英語の授業に関して、自己紹介の仕方から始まり、他己紹介や研究紹介をするための文章の組み立て方を学ぶことができた。プレゼンテーションの作り方や質疑の対応方法についても学び、多くの簡単な発表を行った。研修期間中のテーマとしてどのような調査を行うかの発表もあり、他の意見を多く取り入れることができた。 カウアイ島にある博物館にも見学に行き、カウアイ島の歴史や日本人との繋がりについても知ることができた。ハナペペでの海王丸を知る地域の方々とのミーティングでは練習船がカウアイ島へ寄港していた頃の話を知ることができた。 最終日のプレゼンテーションでは日本とハワイでの教育制度の違いと就職について発表を行った。プレゼンテーションを作るにあたり、KCC のカウンセラーや就職担当に直接アポイントをとり、話を聞くことができた。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
本研修に参加し、自身の英語能力に自信を付けることができた。英語だけでなく、日本とは異なる授業のスタイルも参考になることが多かった。日本の学生に対していきなり授業を英語で行うのは難しいかもしれないが、復習を英語で行ったり、英語の資料を使用するなど、うまく英語を絡めていきたいと考えている。 海外留学を考えている学生も多く、オフィスアワー等に期間中に行ったイベントや体験したことを話すことで学生たちの英語に対する意識の向上に役立つと考えられる。特に KCC は商船学科の国際プログラムの留学先でもあり、現地の雰囲気を経験することができたため、学生にわかりやすく説明することが可能である。 研修中のテーマとして日本とハワイでの教育制度の違いと就職について調査を行った。ハワイでは幼稚園から高校まで義務教育であることや、就職活動の仕方の違いを学ぶことができた。これらの違いについても学生に説明し、学生の勉学や就職活動に対しての意識の向上に繋がるのではないかと考えている。	

Comparison of Educational Pathway and Career Placement for Students in Japan and United States

Masaki ODA
National Institute of Technology, JAPAN, TOBA College

JMC Professional Development Program at KCC
University of Hawaii
- Kauai Community College (KCC), Kauai, Hawaii
4th - 21st September 2013

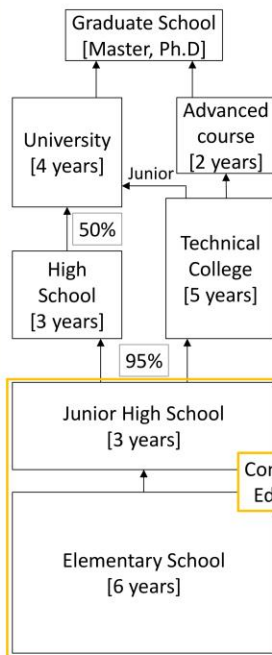
BACKGROUND

Having grown up in Japan, I only know the Japanese educational pathway.
Also, I found the way getting a job is different in Japan and US.

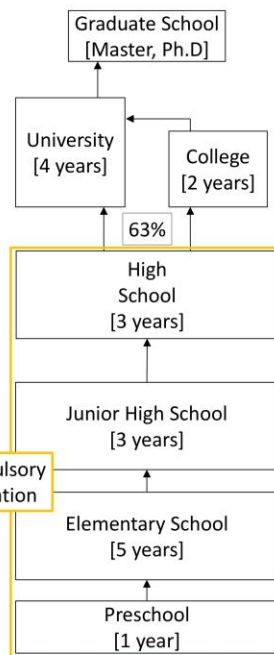
I decided to compare the educational pathway and career placement opportunities for students.
I observed many differences between Japan and US.

EDUCATIONAL PATHWAY

In Japan



In US



Compulsory Education

CAREER PLACEMENT OPPORTUNITIES

In Japan

- Most companies recruit only once a year.
- Most people get employed directly after graduating.
- Senior students look for job.
- Company trains employees.
- Many companies request English skills.

In US

- Able to look for a job all year around.
- Many ways to get a job.
 - Learn special skills to get ready for the job.
 - Go to internship to begin career.
- Major content and experience is important.
- Many people change their job.



MY OBSERVATIONS

- The system of education is similar, but there are some differences.
 - the period of compulsory education
 - student's age
- There are many differences in way of thinking about career.
 - how, when to start career
 - job experience
 - changing jobs
- Both systems provide educational opportunities for students. There are benefits in both systems.

ACKNOWLEDGEMENTS

Special thanks to ...
Jonathan KALK (Institutional Researcher),
Student Counseling Staffs,
Career Explorations Staffs,
KCC Faculties



氏 名	吉田 南穂子
所属等	鳥羽商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
9月4日～22日に、アメリカ合衆国ハワイ州にあるカウアイ・コミュニティ・カレッジ（KCC）において、商船系高等専門学校の教員を対象とした英語研修に参加しました。私には留学経験がなく、そのため使用している英語は文献等の引用による表現が多く、誤って使用していることが多々あります。そこで、自分が誤解している英語表現を学ぶと共に、単語の羅列ではない会話が少しでもできるようになることを目的としました。さらに、KCCでの授業を見学し、本校での教育と比較することで、今後学生への教育を考える機会としました。	
2. 研修の概要	
1. 英語研修としてのプログラムについて 本研修は英語能力の向上を目的として、現地の大勢の方々との交流をする機会が多く設けられていました、多種多様な場面でコミュニケーションを取るために英語を使用することで、英語の能力の向上を図るというものでした。プログラムの内容は、下記の通りです。 (1) オリエンテーション ・2週間半の研修スケジュールの確認、KCCのキャンパス見学やネットワーク・ミーティング（KCC教職員との顔合わせ）を行いました。 (2) 英語の授業 ・演習が中心であり、プレゼンテーション作成を通して英語での意思伝達方法や表現方法を体得するものでした。例として、参加者同士で他己紹介を行い相手に考えを伝える方法、2つの事柄を比較する方法などがありました。 (3) 授業見学 ・KCCの授業の見学を行いました。見学する授業は時間割表を参考に各個人で決定しました。授業形態は日本のような講義形式が少なく、演習形式が中心で講義形式であっても授業中に学生が活発に質問をしていました。また、化学の教科書にインターネットを使用した家庭学習の機能が付属されており、学生の学習結果を教員が確認できるようになっているのが印象的でした。私が見学した授業は下記の通りです。 ① 化学 ② 地球科学 ③ 公私におけるスピーチ ④ 生物  写真1：授業風景 (4) カウアイ島日系移民の歴史 ・現地の日系移民を先祖に持つ方々との交流を行いました。日本人がハワイに移住した背景や現地でどのような扱いを受けてきたのか歴史的経緯、また過去に帆船海王丸がカウアイ島に入港していたことについてお話を伺い新たな知見を得ることができました。 ① 日系移民の歴史の講義とカウアイ博物館見学 ② Soto Zen Templeにおける日系移民を先祖に持つ方々との交流会 (5) ハワイの文化交流 ・主に、ハワイの伝統的な航海術を実践するハワイアン・カヌーの見学を行い、その理解を深めました。 ③ ハワイアン・カヌーのナマホエやホクレアの見学 ④ ハワイの伝統航海術の講義 ⑤ 州立植物園の見学 (6) 個人研究 ・テーマを各々定めて、KCCの最終日に発表をしました。私のテーマは下記の通りです。 ① Safety Management in Experiment and Training for Students in Japan and Kauai 2. KCCについて ・日本の高専とは、主に下記の点での相違あることがわかった。 ① 学生は年齢層や背景が様々である ② 日本での生涯学習の機能も含まれている ③ 単位制のため、各学生で登下校の時間が異なる ④ コースにより必要科目や単位数が異なるため、その相談のための職員が存在する	

3. 研修成果

本研修は2週間半という長期間でありましたが、大島商船の英語研修もほぼ同時期に開催されていました。そのため担当スタッフは多忙であるにも関わらず、常に対応をしていただき無事に研修を終えることができました。例えば、個人研究では面談申込先が分からず戸惑っていた際に、担当のスタッフを紹介していただき、自分の研究テーマに関する学生の安全管理について話を聞くことができました。スタッフとの面談では、なるべく文章となるような会話を心掛けコミュニケーションを取ることができるようになりました。しかし、自分のヒアリング能力に合わせて面談をしていたので、今後は「聞く」能力の向上が課題と思いました。

最終発表では、英語の授業の中で学んだ対象物を比較するときの発表方法を参考に、発表用のスライドを作成しました。発表は、実習実験の安全管理を調査した理由（目的・動機）、鳥羽商船とKCCの比較（比較対象の紹介）、安全管理上の同意点、相違点、結論という流れで行いました。特に注目した点として、両校とも安全靴や作業着を忘れた場合は実験実習に参加できないこと、日本の教育機関では安全と心の健康を関連づけて考えられていないことを挙げました。もちろん、KCCと本校は規模や学生の年齢層、教育システムが異なるため、単純に比較はできないと感じましたが、この研究を通して、教育システムの違いを見るだけでなく、英語での発表方法を学ぶことができました。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

今回の研修に参加して、研修内容は英語能力の向上だけでなく、自分の意図を相手に伝える能力の向上に主眼を置かれていたと感じました。

また、KCCは職業訓練学校という側面もあり、学生自身がしっかりとした目的意識を持っており、質問や討論などの授業への積極的な参加が認められました。

Safety and Security Management at KCC and TOBA College

NAHOKO Yoshida National Institute of Technology, JAPAN , TOBA College

Why Research Safety Management? (Background and purpose)

- Don't any other way except in JAPAN
 - Student Learning
 - Instructors Teaching by the manual.
- e.g.
 - Fire and Earthquake (inclusive of TSUNAMI) drill
 - Individual Experiments and Training
 - Refer to your management for learning



at TOBA



at Hawaii

Example of rules and manual for safety

Principal of KCC and TOBA College

KCC	TOBA College
Student	
1500	600
Staff & Facility	
200	100
Courses, Programs and Departments Necessary to Safety Training	
• Automotive (Auto-body) • Natural Science • Nursing Program • Culinary Program • Farm (agriculture) ...	• Maritime Technology • Navigation • Engine • Information -Technology • Electric-Technology



at KCC



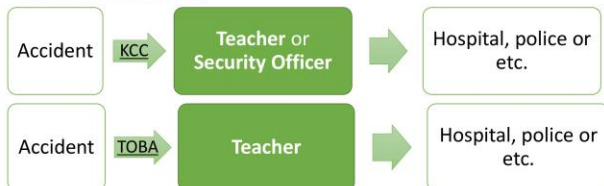
at TOBA College

Experiment and Training

Similarities

- Student learning Safety Training
 - Instructor(Staff, Faculty, etc.) teaching
 - Dangerous and Safety Situation
 - Heavy Equipment,
 - Machinery
 - on Board,
 - at Sea,
 - at High Place
 - Personal Protective Equipment
 - e.g. Steel toe shoes, gloves, working clothes
- If Student forget something they need
 - No hand-on
 - Observation learning
 - Providing student with security information

Flowchart in accident



Differences

- Security Management
 - No management in Japanese Educational institutions
- Who's Responsibility?
 - TOBA: Teacher
 - KCC: Teacher(in classroom) and Security Officer
- Relationship Security to Mental Health & Wellness
 - Japanese don't think .
 - American think.

Result

- Learning Safety Training Instructors teach
 - Safety and danger Security Management
- Relations **Safety and Security to Mental Healthy and Wellness**
- Learning to your system for improving TOBA college

Special Thanks

Ms. Patricia Wistinghausen
(KCC Campus Public Safety Manager)
KCC Staff & Faculty members



氏 名	木下 恵介
所属等	広島商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
自身の英語力の向上 及び 研修成果の学生へのフィードバック	
2. 研修の概要	
研修の概要として、大きく分けて次の4項目が挙げられる。 ① 「ナマホエ」「ホクレア」見学、カウアイ博物館、植物園、日系人から「海王丸」との交流の聞き取り、等のフィールドワーク ② KCCでの授業見学 ③ 英語の授業（主に、①及び②で得た知見を元にディスカッションを行なう。） ④ プレゼンテーション 研修期間は旅程を含めず16日間である。 KCCは、州立ハワイ大学傘下のコミュニティカレッジ（2年制短期大学）である。一般教養科目の他、塗装や溶接などの職業教育、陶芸のような生涯学習のクラスもある。学生の年齢は多様。1,000人程度の学生が在籍している。	
3. 研修成果	
2週間半の研修であったが、この研修を受けたことで英語が堪能になるわけではない。しかし、これから英語を勉強していこうという、モチベーションを持つためのきっかけ作りという意味では、有意義な研修プログラムであった。また、現地の人々（特に日系人）との交流を通して、その土地に暮らす人々の歴史や文化を学んで価値観を理解することが、コミュニケーションをとる上で重要であるということを実感できた。英語の学習そのものよりも、むしろこのことによる収穫が大きかったように思う。 異なる国の人間どうしが対話するためには、まず歴史や文化を知り、理解を深めた上でコミュニケーションをとるという手続きこそが重要であり、2週間半の滞在期間中に、それに気づき実践できたことは非常に有意義であった。移民による日系人が多いという点で、研修の場としてカウアイは最適であると言える。 また本研修を通して、KCC教員から生体工学(Bio-mimicry)についての新しい知見を得ることができた。今後、新たな分野への挑戦として自身の研究にもこれを取り入れる考えである。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
本校（広島商船高専）では、一般教科及び各専門学科において、月に1～2度、英語による授業を行なうこととなっている。本研修をきっかけとして、一層英語に力を入れた質の高い授業を目指す。 また、異文化への理解及び移民についての理解を深める目的で、ハワイへの移民の歴史について、映像資料を視聴するとともに、研修中に得た知見をもとに解説を行なうような授業を実施することを考えている。	

Training Report at Kauai Community College in 2013

National Institute of Technology, Hiroshima College
Keisuke Kinoshita

1.

What is Biomimicry ?

2.

"fine arts" at KCC



3.

Ascending Kiln : Nobori-gama



4.

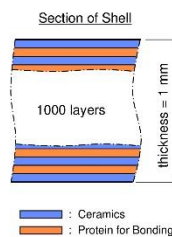


**Biomimicry :
Innovation
Inspired
by Nature**

5.

Multilayered Laminated Structure of Ceramics

Abalone : Awabi



6.

This is section of abalone's shell. This is compounded by thin ceramics layers. This ceramics is made by chemical reaction by abalone and seawater. There are 1000 layers of 1mm thickness. Very strong ceramics structure is fabricated by this way. This kind of structure is going to be applied to Out side Hull of Space Shuttle.

7.

Costa



8.

I went to National Tropical Botanical Garden. I was able to know the diversity of plants at Botanical Garden. This plant name is "Costa". This leaf becomes spiral form for photosynthesis. For using narrow space efficiently. This arrangement is applied to solar panel arrangement.

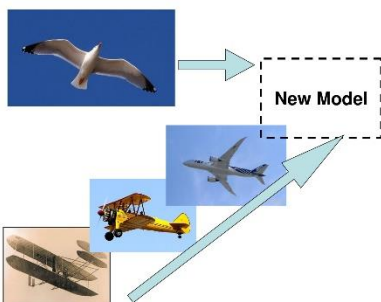
9.

Kingfisher : Kawasemi

Speed 10% ↑
EP consumption 15% ↓



10.



11.

Apply Biomimicry to Ship-design ?



12.

Conclusion

Bio-diversity at
National Tropical Botanical Garden

Biomimicry :
Assembling Biology and Technology

I'm going to try to study of biomimicry
for innovation.

氏 名	前畑 航平
所属等	大島商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
・ 英語外地研修の参加体験、国際インターンシップの視察。 ・ 専門性を備える商船系高専の教員の強みと、英語を直接結びつける。 ・ 専門科目における英語の利用と、英語による授業展開に必要な実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。	
2. 研修の概要	
研修先 : ハワイ州立大学 カウアイ・コミュニティ・カレッジ (米国ハワイ州 カウアイ郡カウアイ島) 研修期間 : 2013 年 9 月 4 日～9 月 21 日 (現地滞在 : 18 日間) 参加者 : 8 名 (商船学科所属教員) 富山高専 : 中谷俊彦 教授、笹谷敬二 准教授 弓削商船高専 : 野々山和宏 准教授、向瀬紀一郎 准教授 鳥羽商船高専 : 小田真輝 助教、吉田南穂子 助教 広島商船高専 : 木下恵介 助教 大島商船高専 : 前畑航平 助教 概 要 : カウアイ・コミュニティ・カレッジにて、英語のみによる講義等の受講。 講義等は「Directed Research」と「English for Professional Purpose」等で構成。 ・ Directed Research 期間中前半は、ハワイの歴史、日本からの移民との関係を切り口に講義を受講。また、見学や地域交流の一環としてハワイアンカヌー「ホクレア」「ナマホエ」、カウアイ博物館、ボタニカル・ガーデン (植物園)、アレン港、Kauai Soto Zen Temple (禅宗寺) を訪問した。期間中後半は、最終日の発表に向けた資料作成、調査のまとめ等を各自実施。最終日に、1 名約 10 分程度の持ち時間で調査事項等の発表と質疑応答。聴講者として KCC の教職員 20 名程度が出席。 ・ English for Professional Purpose 聞き取りの仕方や説明資料 (パワーポイント等) についての講義を受講。また、同大学の通常の講義を一般の学生に混じっての受講も実施した。	
3. 研修成果	
・ ハワイ及びカウアイにおける歴史、文化等を、すべて英語で説明を受けることで、現地の人の目線で見聞きする機会に恵まれた。 通常の海外訪問 (見物等) では、旅行者向けに用意された資料 (日本語資料) 等が用意されている場合があるが、今回の研修では、旅行者向け資料は皆無であり、解説用の日本語資料も一切無かったため、会話・コミュニケーションから得られる情報を頼りに理解することとなり、国際インターンシップとして見た場合、多いに有効であると感じた。 ・ 同大学の施設面での充実と活用の実態を体験することが出来た。 多くの講義室で、タッチプロジェクターが設置されていた。学生の板書等を最小限にし、その分、コミュニケーションに重点をおいた講義がなされるよう、ハード面での充実も図られていた。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
今般、英会話のスキルアップの必要性を痛感した。 同時に、知らない英単語をいかにして解釈するか、伝えるか、必要に迫られる場面が多々あった。私個人が感じたヒントとして、英会話のために必要な英単語の解釈力と解説力の習得は、専門である海洋海事についての教育のために必要な専門用語の伝え方 (教え方) の習得と、同位と思えた。 英会話時に重宝されるポケット辞書 (紙媒体、電子媒体) 等、多々、見受けられるが、同様に海洋海事に関するポケット辞書的な用語集、汎用性のあるモノの開発等を念頭において今回の体験を生かして生きたいと考えている。	

About the teachers English overseas training in Kauai Community College (Hawaii Kauai)

Kohei MAEHATA < National Institute of Technology, Oshima College >

Program Overview

【 Name of Program 】
Japan National Colleges of Maritime Technology (JMC)
Professional Development Seminar Tour

【 Date & Semester 】
September 4 – September 21, 2013 (Fall Semester)

【 Training destination 】
Kauai Community College (KCC)
(University of Hawaii Community Colleges)

【 The purpose 】
(1) Improvement of English communication skills.
(2) To strengthen the educational exchange
between KCC and Japanese maritime colleges.



My approach(efforts)

【 Theme 】
How should teach the Nautical terms?
For Maritime technology Department
of 1st year students.

【 My thoughts... 】
I tried to thought to make terms glossary (Abridged edition)...
(1) target : the 1st year students (they're beginners)
(2) things : need the Nautical Glossary for the beginner students

【 My ideas are ... 】
(1) This is easy to use for them.
(2) They can be easily tied the terminology
and general term by this glossary.

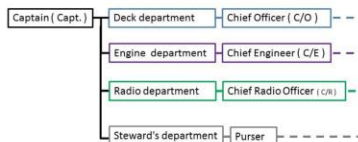


【 Method 】
I tried to take advantage of the illustrations.
I tried to add illustrations to Diagram.

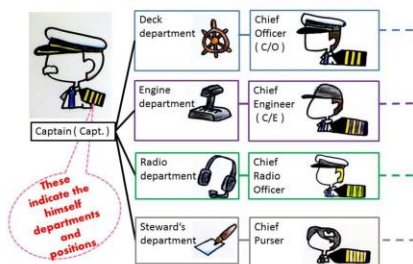
Example of a trial

- 1) Department and position of ship's personnel
If the Merchant vessel

The commentary by system diagram

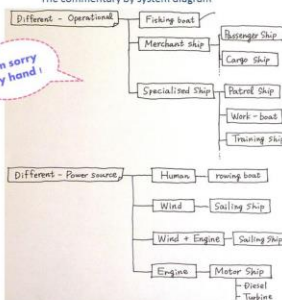


The commentary by system diagram + illustrations



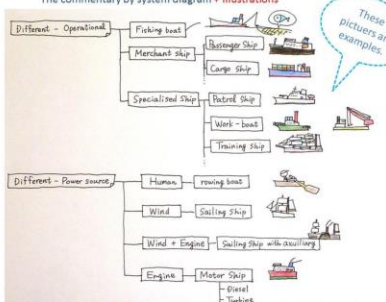
- 2) Type of ship (Kind of ship)
The commentary by system diagram

Example of a trial



- 2) Type of ship (Kind of ship)
The commentary by system diagram + illustrations

Example of a trial



【 Conclusion Summary 】 (In my humble opinion)
(1) Students only saw,
I will be easy to imagine an overview students themselves.
(2) They can have a familiarity.



Thank you for viewing.

氏 名	野々山 和宏
所属等	弓削商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
本研修は、国立商船系高等専門学校商船学科の専門科目における英語の利用促進及び英語による授業展開を可能とする実践的な英語コミュニケーション能力の向上が目的であった。そのため、ハワイ州立大学カウアイコミュニティカレッジ（以下、KCC という）より、国立商船系高等専門学校の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムが提供された。また、本研修では KCC 教員との共同作業を通して、英語のコミュニケーション能力の向上だけでなく、さらなる KCC と 5 商船高専間の交流を深めることも求められた。 なお、報告者は当初、本研修に参加するにあたり、普段の高等専門学校における教員生活では活用することが少ない英語によるコミュニケーション力の向上を目的としており、合わせて日本とは異なる文化や慣習に触れることで、自身の価値観を再検討したいとも考えていた。すなわち、英語によるコミュニケーションや異文化体験を踏まえて、自身が多角的な思考や多様な視野に気付かされることを期待し、単なる英語研修の域を越えて、今後の教員生活に活かし得る多彩な知見を得たいと考えたのである。	
2. 研修の概要	
本研修は、2013 年 9 月 4 日から 21 日までの日程で KCC において実施された（photo1）。ただし、報告者は 9 月 4 日（出発のための国内移動日）の台風接近に伴う交通障害により KCC 到着が遅れたため、実質的に 3 日目からの参加となった（報告者は 2 日目午後にカウアイ島へ到着したが、この日は池田コーディネータから研修参加のためのオリエンテーション及びレクチャーを受けた）。 本研修は、参加者が事前に選択した課題やテーマを元に調査を進める“Directed Research”とその調査の遂行や発表等に必要となる英語でのコミュニケーションに関するレクチャーである“English for Professional Purpose”を大きな 2 つの柱として実施され、その他にオリエンテーションやイベントが催された。 以下、それぞれについて述べる。	
1. Directed Research	
“Directed Research”に関して参加者は研修前に希望するテーマを選択しており、報告者はカウアイ島と海王丸の交流の歴史を調査する“Kaiwo-Maru Oral History Project”への参加を希望していた。本研修の前半では、この“Directed Research”の参考に資するためさまざまなプログラムが用意されていた。それらをテーマ別にまとめると次のようになる。	
① ハワイやカウアイ島について	
Intro to Hawaiian Culture ・ Excursion Hokulua Docksides lessons/ Canoe Tour ・ Kauai Museum Tour ・ National Tropical Botanical Garden Tour （photo2）	
② Japanese in Hawaii （日系人）について	
Film: Great Grandfather's Drum ・ Intro to History of Japanese in Hawaii ・ Hanapepe Soto Zen Temple Meeting （Kaiwo-maru Project）（photo3）	
③ KCC で行われている授業や研究について	
Class Observation ・ Tour of Hydro Plant by Prof. Yamamoto	
なお、これらのプログラムを受講するうち、“Directed Research”について新たなテーマを選択した参加者もいた。 本研修の後半（3 週目）では、午前中が“Directed Research”の時間にあてられ、参加者各自がそれぞれのテーマについて調査研究を行った。報告者はこの時期、カウアイ島と海王丸の交流の歴史について、図書館での資料検索やインターネットでの資料収集を行った。本研修の最終日には、“Directed Research”でまとめた内容を発表する“Final Presentation”が実施され、KCC スタッフが参加した中で参加者の発表が行われた（photo4）。	
2. English for Professional Purpose	
“English for Professional Purpose”は本研修の中盤（2 週目）から開始された。最初は、英語を用いての参加者同士の紹介や Class Observation（授業見学）で感じた KCC と高等専門学校の類似点や相違点の発表等がテーマだった。その際、講師から英語表現としてポイントとなる点やプレゼンテーション全般についての注意点等がレクチャーされた。	



Photo1 KCC



Photo2 National Tropical Botanical



Photo3 Hanapepe Soto Zen Temple Meeting (Kaiwo-maru Project)

本研修の後半(3週目)では、“English for Professional Purpose”が“Directed Research”についての発表(Final Presentation)準備の時間となり、参加者各自のプレゼンテーション内容について講師からアドバイスが行われた。なお、“Final Presentation”前日の“English for Professional Purpose”は発表に向けたリハーサルとなり、講師からはその内容のみならず効果的な表現方法等についての指摘があった。その後は参加者各自の個別指導の時間も設けられていた。

3. Other

本研修では上記の他に、次のようなオリエンテーションやイベントが催された。

① 研修開始時・終了時

General Orientation (報告者不参加)・Welcome dinner (報告者不参加)・Farewell Event

② KCC について

KCC Orientation・Networking Meeting (KCC スタッフへの紹介や交流)

これらの多彩なイベント等は、本研修をスムーズに進行するための多くの配慮がなされていた。

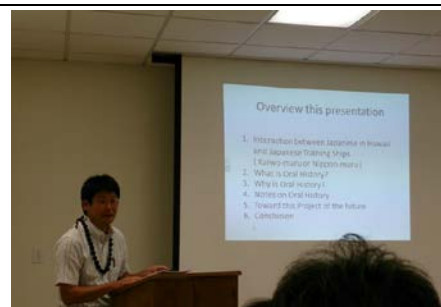


Photo4 Final

3. 研修成果

本研修における報告者の直接の成果物としては、まず“Final Presentation”でを使用したプレゼンテーション(題目: Memorandum on “Kaiwo-maru Oral History Project”)が挙げられる(fig.1・fig.2)。このプレゼンテーションでは、報告者の自己紹介に続いてカウアイ島と海王丸の交流の歴史を概観した後、これらの交流に関する資料が少ないことからオーラルヒストリーによる資料収集の必要性和その際の注意点をまとめ、発表した。これは本研修の大きな2つの柱である“Directed Research”と“English for Professional Purpose”を通じた成果といえる。

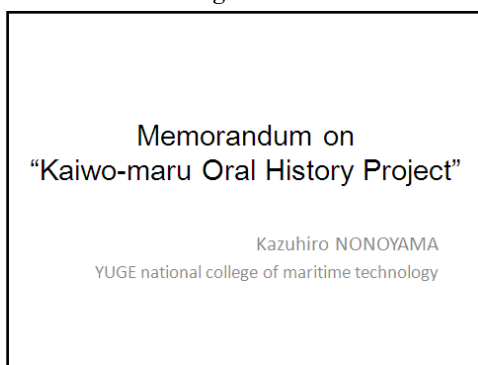


Fig.1 Memorandum on “Kaiwo-maru Oral

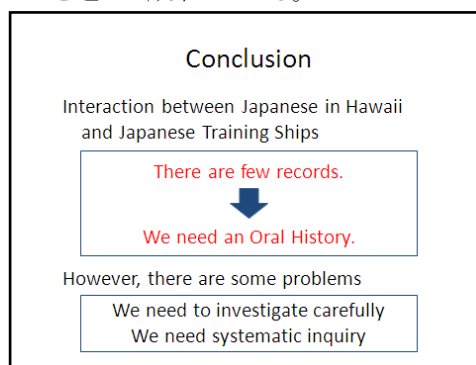


Fig.2 Memorandum on “Kaiwo-maru Oral

報告者が当初の目的としていた英語によるコミュニケーション力の向上については、TOEIC によるスコア向上が成果と考えられる。ただ、報告者は研修前に TOEIC を受験したものの、研修後は本報告書作成時点で諸般の事情により未だ受験しておらず、その成果を確認することができていない。ただ、報告者は本研修参加前から長らく英語に対する苦手意識を持っていたが、本研修に参加したことでそれが改善されたように感じている。特に、“English for Professional Purpose”におけるレクチャーは、講師陣の事前準備もあって、英語を身近に捉えられるようになり大変有意義であった。

また、報告者が期待していた異なる文化や慣習に触れることでの自身の価値観を再検討については、ハワイに暮らす人々のライフスタイルや人種間の差異等から、国際性を考える上でいくつかの示唆を得た。これらは有形の成果物とはなっていないが、今後の教員生活や研究活動を進める上での糧となる。

加えて、本研修の休日にはカウアイ島の各所を訪れる機会を得た。カウアイ島の雄大な自然やおおらかな人々との歓談は、深く印象に刻まれている。また、本研修に参加した他高専教員や KCC スタッフとの交流は、研修の域を越えて活発であった。これらも本研修における無形の成果である。

なお、本研修の終了に際して、KCC から参加者に証明書(certificate of participation)が授与された。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

報告者は現在、所属校において海事法規や海運経済論(以上は本科)、海洋環境法規(専攻科)等の授業を担当している。これらの授業に本研修での成果をどう反映させるのが今後の課題となろうが、科目の性格上、カリキュラムの中に加えるには多くの工夫が必要である。ただ、本研修から得られた異なる文化や慣習に触れることからの示唆は、授業において大いに活用したい。

また、研究活動についてはこれまでも文献レビュー等で受動的に英語を用いてきたが、今後はより積極的に英語と接していきたいと考えている。この具体化も今後の課題である。

なお、報告者は所属している弓削商船高等専門学校にて2013年11月開催予定の教員研究懇談会において、本研修の概要等を報告予定である。

Report on *the JMC Professional Development Program at KCC, 2013*

YUGE national college of maritime technology,
Kazuhiro NONOYAMA

Mission of the Program

Improvement of participants' communicative skills to teach specialized courses
in English

Approach of the Program

① Directed Research

Participants select a project theme beforehand and conduct interviews, literature research, and classroom observation for the project theme.

② English for Professional Purpose

Participants take English lessons to improve their communicative skills required for the directed research and presentation of its outcome.

Content of the Program

- | | |
|---|---|
| <p>① Hawaii and Kauai Islands</p> <ul style="list-style-type: none">○ Introduction to Hawaiian Culture○ Excursion to Hokulua Dockside and Canoe Tour○ Kauai Museum Tour○ National Tropical Botanical Garden Tour | <p>② Japanese people in Hawaii</p> <ul style="list-style-type: none">○ Film: Great Grandfather's Drum○ Introduction to History of Japanese People in Hawaii○ Hanapepe Soto Zen Temple Meeting (Kaiwo-maru Project) <p>③ Education and Research at KCC</p> <ul style="list-style-type: none">○ Classroom Observation○ Tour of Hydro Plant by Prof. Yamamoto |
|---|---|

Output of the Program

Participants make a presentation of their directed research as the outcome of this program.

My Theme : Memorandum on “Kaiwo-maru Oral History Project”

Impression of the Program

In this program,
I realized both the difficulties and joy of communicating in English.

氏 名	向瀬 紀一郎
所属等	弓削商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
高等専門学校の商船学科は、日本の産業の生命線とも言われる海上輸送を担う、質の高い海事技術者の育成に取り組んできている。現在、その海上輸送はグローバル化が進行しており、それに伴い海事技術者に期待される資質の内容も変化し、教育機関においても新しい取り組みが求められるようになってきた。すなわち、グローバル化に対応できる能力を具備した人材を育成する先進的な教育訓練システムを、高等専門学校において早急に整備しなければいけない状況である。 その取り組みの一環として、商船学科の多様な専門科目と有機的に連携する独創的な英語教育プログラムを開発し、学生の基礎的な英語力と基本的なコミュニケーション能力を涵養することを目指す、組織横断的なプロジェクトが開始された。そのプロジェクトの一環として、商船学科の専門科目を担当する教員たちのための、特別な英語外地研修プログラムが企画された。 今回の教員英語外地研修においては、商船学科の専門科目における英語の利用を促進させるべく、教員の実践的な英語コミュニケーション能力を、商船学に関する専門知識とリンクさせながら向上させることが図られた。さらに、カウアイコミュニティカレッジ (KCC) の教員たちと、日本の五つの高等専門学校の教員たちが、互いの専門性を活かしながら共同で作業に取り組むことを通じて、国境やキャンパスを超えた交流の深化と発展が図られた。	
2. 研修の概要	
本研修プログラムの内容は、大きく2つに分類できる。ひとつは、KCC の様々な分野の研究者たちとの共同研究のテーマを個々に探索するプログラムであり、もうひとつは、クラスルームにおいて KCC の英語教員による指導を中心としてコミュニケーション能力を強化するプログラムである。これらは連携しつつ並行して実施され、前者は後者の題材を提供し、後者は前者の手段を提供するものとなっていた。 研究テーマの探索に際しては、様々な意欲的なテーマについて、KCC の教員たちから積極的な提案を受けることができた。マイクロ水力発電に関する研究、伝統的なカヌーの建造法や航海術に関する研究、ハワイの日系人の歴史に関する研究、熱帯植物の生態や工学への応用に関する研究などについて、それぞれの専門家や関係者たちによる熱心な説明や実演、また活発な議論があり、強く興味を喚起された。また、KCC の授業風景を自由に視察し、KCC の教員たちと個々にコミュニケーションをとることができた。本報告者は電気工学や数学、化学、生物学の授業を参観した。日本の学校とは異なる双方向的な授業スタイルや、学生たちの高い学習意欲を見て、深く感銘をうけた。 英語クラスの受講に際しては、KCC の英語教員たちの非常に手厚い指導を受けることができた。プレゼンテーションやディスカッションを中心とした実践的な講義であったが、自由闊達な雰囲気の中で、双方向的な形式で進行し、外国語への抵抗感を忘れて参加することができた。	
3. 研修成果	
9月4日の豪雨による、日本国内の鉄道網の混乱の影響で、本報告者は予定よりも1日遅れの9月5日に現地入りした。したがって本報告者は、研修プログラムのうちの一部に参加することができなかったが、しかし非常に高密度なプログラムにより充実した研修を受けることができた。 研修最終日(9月20日)には、KCC の教職員達の前で、新しい研究テーマに関する英語でのプレゼンテーションを行った。本報告者は「Comparison of Textbooks and Educational Aids in KCC and Japan」という題で発表した。内容は、KCC の授業を参観した際に感銘を受けた、KCC で使われている教科書や教材の内容の豊富さについて、また自分が携わっている、海事人材育成プロジェクトの一環として開発中の教材の目標について、比較検討し、より高度な教材を目指すプロジェクトを提案するものであった。 また研修の目的であった英語能力の向上は、TOEIC のスコアでも確認できた。研修に参加する前、7月21日に受験した際のスコアは690(リスニング320+リーディング370)であったが、研修後の9月29日の試験の成果は、115ポイント増の805(リスニング365+リーディング440)であった。これを弾みとして今後も英語力の強化に取り組み、さらに高いスコアを目指していきたい。 その向上した英語力を応用し、以前より開発に取り組んできている、機関室ウォークスルーシミュレータを公開するWWW ページ (http://www.center.yuge.ac.jp/~mukose/yugeER/) に、英語での説明文を記述した。これは弓削商船高専の商船学科の学生たちの専門教育と英語教育に活用されるだけでなく、広く世界で活用されることも期待される、国境を越えたアウトリーチ活動ともなる成果である。	

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

研修の中で調査したアメリカのカレッジの教科書は、日本の通常の教科書と比べて高価ではあるものの、多くのカラーイラストや写真を含み、さらにインターネットを利用したオンラインホームワークシステムと連携しており、非常に豊かな内容であった。現在、海事人材育成プロジェクトの一部として進行中の、電機系教科書の開発に携わっているが、その我々の教科書とアメリカの教科書との比較は、刺激的な研究であった。調査の過程での、KCC の教員たちとのディスカッションを通じて、多くの新しい知見を得ることができ、今後もより高度な教材の自主開発に取り組んでいきたいという意欲を改めて強めることができた。

研修によって TOEIC のスコアアップを実現した経験は、今後は学生たちの受験対策へのアドバイスに活かしていきたい。また KCC の教員たちの授業スタイルを参考に、双方向的な要素を自分の授業にも取り入れていき、学生の興味や学習意欲を喚起する工夫に取り組んでいきたい。また専門科目の配布物などに、今後は英語の専門用語や解説を多く取り入れていき、それらの正しい発音を紹介する機会を増やすことで、学生たちの英語への抵抗感の低減を図っていきたい。

本報告者は以前より研究課題として、学生の自学自習に活用されることを想定した機関室シミュレータの開発に取り組んできているが、今後はその一部に英語のコンテンツも盛り込んでいきたい。それによって、既存の校内練習船実習や専門科目を補強するだけでなく、高度化し、グローバル化にも対応できるポテンシャルを有する教育訓練システムの開発へと、発展させていきたい。

What I Learned in Kauai

Kiichiro MUKOSE

Yuge National College of Maritime Technology



Introduction

Kiichiro MUKOSE

Yuge National College of Maritime Technology

had participated in

JMC Professional Development Program

at

University of Hawaii -

Kauai Community College (KCC)

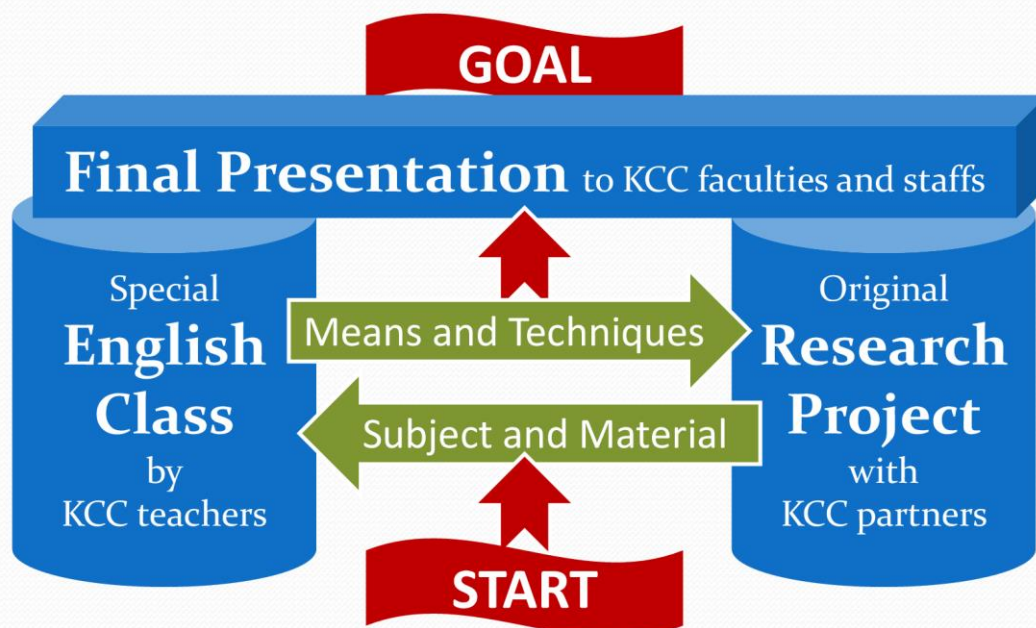
in September 4th – 21st, 2013



Outline

- What the **Program** gave me
- How much my **English Skills** have improved through the Program
- What I have been doing in my **Profession** after the Program

What the Program Gave Me



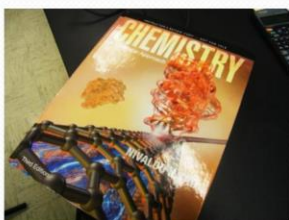
English Class

Focused on Intercultural Communication, Writing,
Interview, and Presentation skills
for **Academic** and **Professional Purpose**



Research Project

I investigated **Rich Textbooks** in KCC,
and compared them to those in Japan

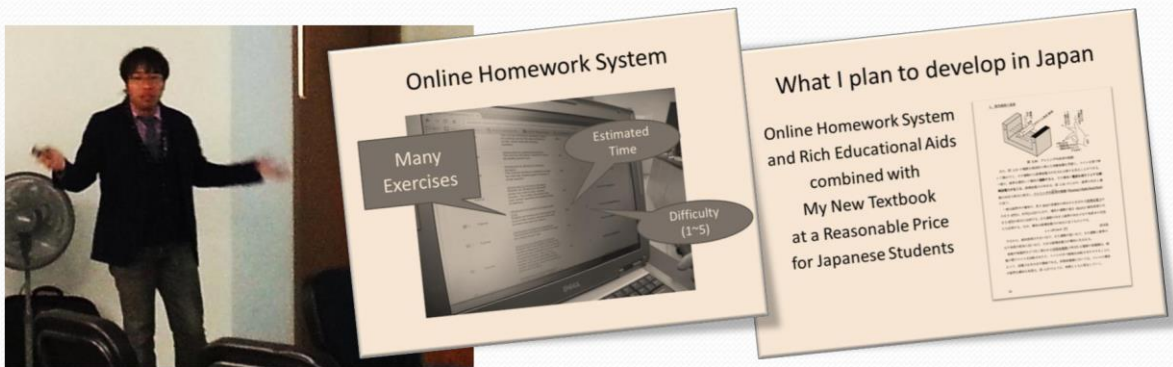


Textbooks in KCC	Textbooks in Japan
Thick and large	Thin and small
Rich in figures ★★★★★ (Mainly colored)	Poor in figures (Mainly monochrome)
Many aids included ★★★★★ (PPT, Online Homework, etc.)	No aids included
High price (Often over \$100)	Low price (Mainly under \$30)

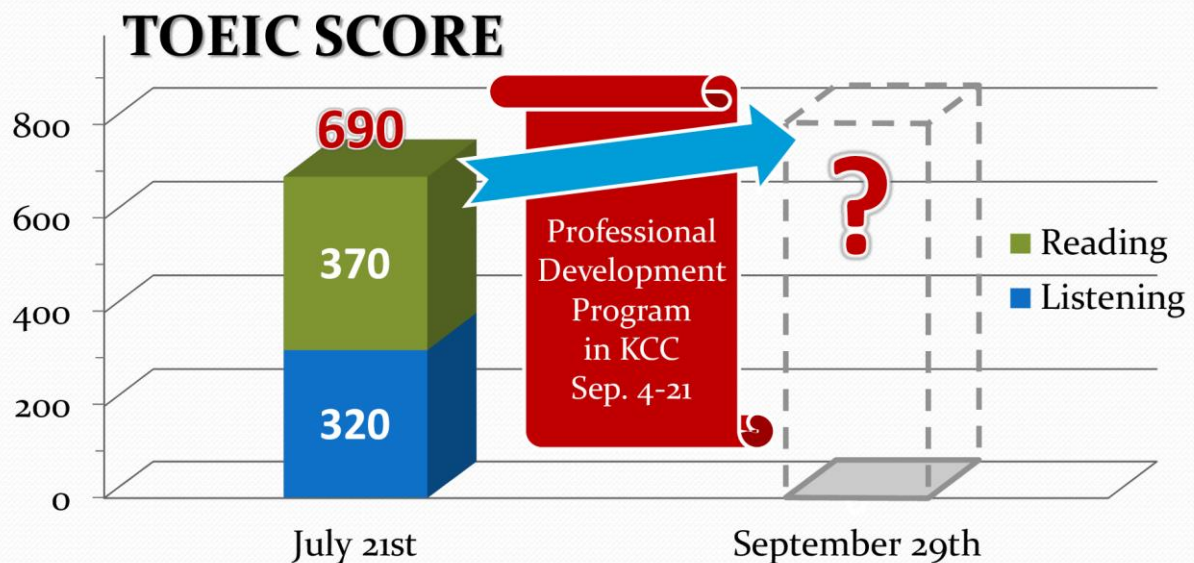
Final Presentation

I made a Presentation entitled:

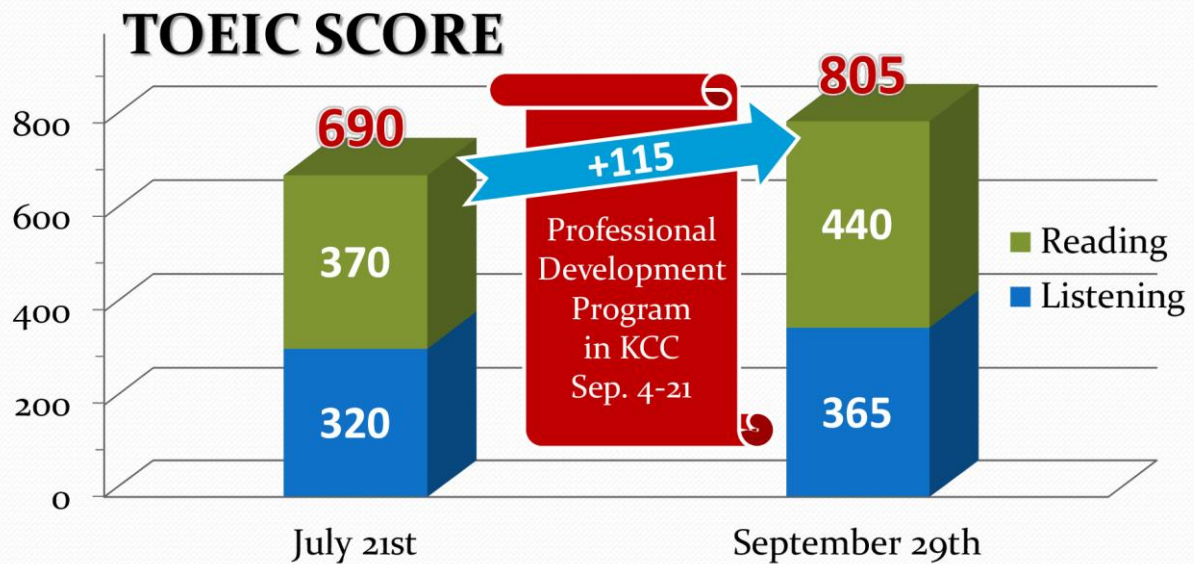
**“Comparison of Textbooks and Educational Aids
in KCC and Japan”**



Improved English Skills

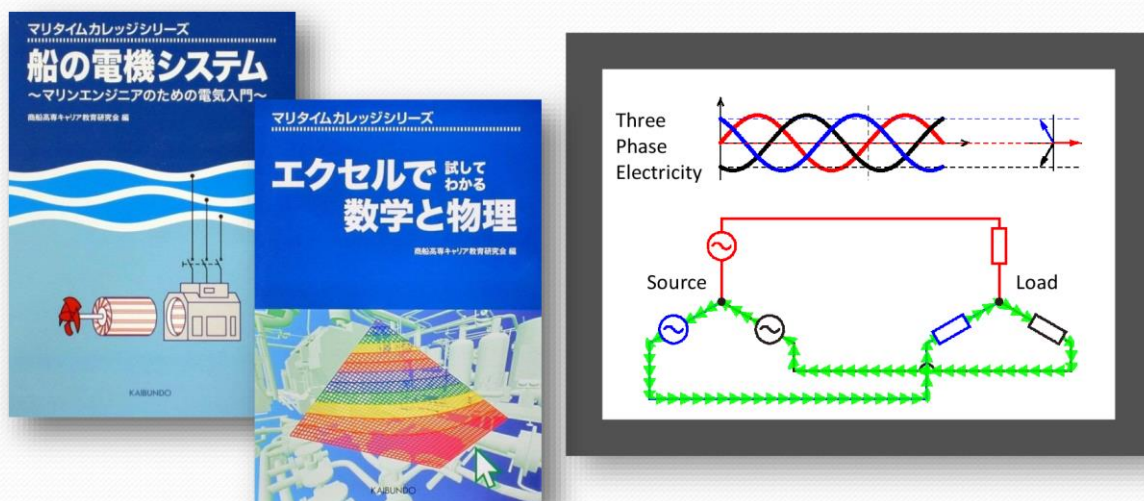


Improved English Skills



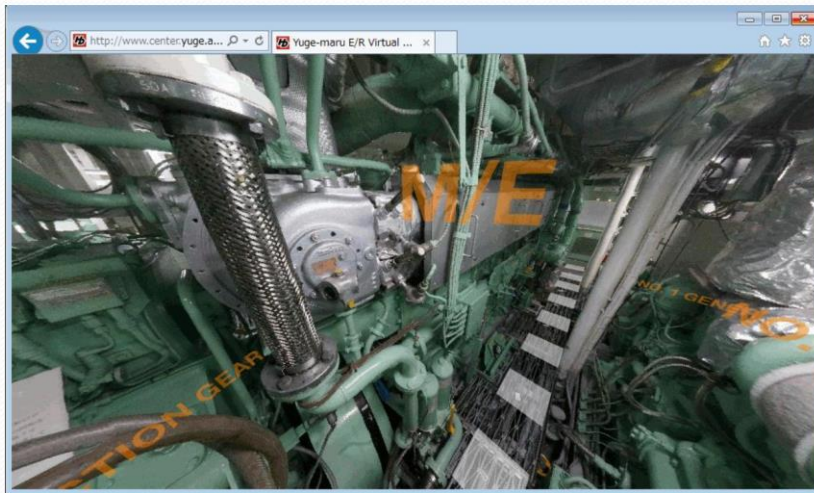
Developed Profession

I have been writing **New Textbooks**
and making **Educational Aids** for Japanese Students



Developed Profession

I have been creating a **New Interactive Web Service**
for Global Maritime Education, in Japanese and English



Training Ship
“Yuge-Maru”
E/R Virtual Tour

[http://
www.center.yuge.ac.jp/
~mukose/yugeER/](http://www.center.yuge.ac.jp/~mukose/yugeER/)

6-4 平成 26 年度教員英語外地研修報告集

平成26年度 英語外地研修参加者

高専名	職 名	氏 名
富山高専	教授	山本 桂一郎
富山高専	助教	経田 僚昭
鳥羽商船	教授	鈴木 治
鳥羽商船	准教授	鎌田 功一
広島商船	准教授	内山 憲子
大島商船	准教授	久保田 崇
弓削商船	准教授	二村 彰
弓削商船	准教授	秋葉 貞洋

KCC Visit 11th~26th September, 2014 について

(1) 目的

9月11日~26日のKCC（リフエ、ハワイ州）で実施される「教員英語外地研修」は、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科・専門教員の英語外地研修として、国立商船系高専の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムです。本研修を通じて専門科目における英語の利用と英語による授業展開という目的に応える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

(2) 参加者一覧

教員英語研修(8名)の参加者一覧を資料-1に示します。

緊急連絡用に参加者連絡表（携帯電話番号一覧等）を資料-2に示します。（後日作成）

(3) 旅程

旅程は以下のとおりです。

・ 成田出発

9月11日(木) 成田 → ホノルル → リフエ

19:30 搭乗手続き、ドル換金、出国審査

21:30 成田発 → NH1052 → 10:05 ホノルル着

- ・ 入国審査において、滞在目的は観光(Sightseeing)とご回答願います。

12:29 ホノルル発 → NH5646 → 13:07 リフエ着

- ・ ハワイ航空は預ける荷物の重量により、お金の支払いが求められます可能性があります。

・ 関西国際空港出発

9月11日(木) 関空 → ホノルル → リフエ

20:10 搭乗手続き、ドル換金、出国審査

22:10 関空発 → JL792 → 11:15 ホノルル着

- ・ 入国審査において、滞在目的は観光(Sightseeing)とご回答願います。

13:25 ホノルル発 → HA173 → 14:04 リフエ着

- ・ ハワイ航空は預ける荷物の重量により、お金の支払いが求められます可能性があります。

・ 集合場所はリフエ空港とします。成田出発組は、リフエ空港でしばらくお待ちください。

9月11日(木) ~26日(金) カウアイ島

カウアイ島の詳細なスケジュールは資料-3のプログラム日程を参照して下さい。

・ 成田帰国

9月26日(金) リフエ → ホノルル

07:06 リフエ発 → NH5647 → 07:38 ホノルル着

ホノルル到着後搭乗手続き、出国

13:00 ホノルル発 → NH1051 → 27日(土) 16:15 成田着

- ・ 関西国際空港帰国
9月26日(金) リフエ → ホノルル
08:30 リフエ発 → HA124 → 09:02 ホノルル着
ホノルル到着後搭乗手続き、出国
14:30 ホノルル発 → JL791 → 27日(土) 18:20 関空着
- ・ 富山高専山本先生
9月21日(日) リフエ → ホノルル
16:07 リフエ発 → HA354 → 16:40 ホノルル着
ホノルル到着後搭乗手続き、出国
18:50 ホノルル発 → NH1061 → 22日(月) 22:15 羽田着

(4) ハワイの滞在環境

4.1 電話・インターネット

- ・ 電話
オアフ島とカウアイ島、ともに、国際ローミングで日本と通話できます。iモードによるメールも可能です。
- ・ インターネット
カウアイ島宿泊先：Plantation Hale は有線・無線のネット環境が整備されています。

4.2 ホテル

- 11日(木)～26日(金) カウアイ島 プランテーション・ハレ(Plantation Hale)
- ・ Check-in(11日夕方) / Check-out(26日朝)
 - ・ カウアイ島東海岸にあるコンドミニアム形式(自炊設備付)のホテルで、食事は付いていません。リフエ空港より車で10分。
 - ・ 宿泊費はチェックイン時にカード決済にて支払います。
 - ・ 現地でかかる食費等はすべて個人負担となります。
 - ・ ホテルの詳細は <http://www.plantation-hale.com/> を参照してください。

(5) その他

5.1 航空券の半券について

経費処理上、航空券の半券が必要となりますので、後日各校の旅費担当に提出願います。

5.2 空港－ホテルの移動について

9/11、9/26の空港－ホテルの移動はKCC側に送迎いただくので、1/2日当となります。

5.3 ESTA について

参加者はESTAが必要になりますので、取得及び有効期限の確認をお願いいたします。
申請から取得まで1週間から10日ほどかかりますので、ご注意ください。

以上

2014 JMC Professional Development Program Schedule (Final Draft 08/25/14)

Week 1	Sep 8 (Mon)	Sep 9 (Tue)	Sep 10 (Wed)	Sep 11 (Thu)	Sep 12 (Fri)	Sep 13 (Sat)	Sep 14 (Sun)
Bus Departs					9:20	9:00	
Morning					10:00 – 12:00 Kauai Museum	National Tropical Botanical Garden	
Lunch				Lunch			
Afternoon				Arrive in Lihue (2:30) General Orientation Tour of the area Welcome dinner	12:30 – 3:30 Talk Story with Kupuna @ Hanapepe Library Walking Tour of Hanapepe Town	NTBG	
Assignment							
Bus Departs							

Week 2	Sep 15 (Mon)	Sep 16 (Tue)	Sep 17 (Wed)	Sep 18 (Thu)	Sep 19 (Fri)	Sep 20 (Sat)	Sep 21 (Sun)
Bus Departs							
Morning	Class Observation 12:00 – 1:30 1 st Presentation	9:30 - 10:30 Introduction to Hawaiian Culture / History 11:00 - 12:00 Kawaikini School Visit	Heritage Study Tour 10:00 – 12:00 Grove Farm Plantation Museum	Class Observation	10:00 – 12:00 Speech / Voice / Public Speaking Workshop	Optional: Namahoe- Double Hull Canoe Construction	
Lunch			@ Tip Top				
Afternoon	1:45 - 3:15 English (A) J. Mexia	1:00 - 3:15 English (B) B. Cronwall	1:30 -8:00 pm - Koloa Sugar Mill - Kauai Coffee - McBryde Wahiawa Camp - Port Allen - Hapanepe town - Dinner in Waimea Town	1:00 - 3:15 English (B) B. Cronwall	1:00 - 3:15 English (A) J. Mexia		
Assignment Output							
Bus Departs							

Week 3	Sep 22 (Mon)	Sep 23 (Tue)	Sep 24 (Wed)	Sep 25 (Thu)	Sep 26(Fri)	Sep 27 (Sat)	Sep 28 (Sun)
Bus Departs							
Morning	10:00 - 12:00 Speech/ Presentation Workshop	Individual Appointment / Preparation Time	Prepare for Presentation	Free	Departure for Japan		
Lunch							
Afternoon	1:00 - 3:15 English (A) J. Mexia	1:00 - 3:15 English (B) B. Cronwall	Final Presentation	Free 5:30 – 8:30 Farewell Event			
Assignment Output							
Bus Departs							

[KCC - 4]Japan Maritime Colleges			Kauai Community College	IMPORTANT PHONE NUMBERS
2014 JMC Faculty Program - Participants' Itinerary			Continuing Education & Training	Kyoko Ikeda: (808) 393-3914
[September 11 - 26, 2014]			3-1901 Kaunualii Highway	Dr. Bruce Getzan: (808) 635-0047
8 Participants			Lihue, Hawaii 96766	Jennifer Defuntorum: (808) 652-0983
(Final 8/25/2014)			Phone No. (808) 245-8318	Police, Medical, Fire Emergency - 911
Date/Time	Activity	Transportation	Location	Instructor/Coordinator
Thursday, September 11 : Arrival				
1:07 PM	Arrival in Lihue (HA Flight #)			
2:04 PM	Arrival in Lihue (HA Flight #)			
2:30 PM	Depart Lihue Airport to Plantation Hale	Akita Bus	Lihue Airport	
3:00 - 4:00 PM	Orientation Session - Sign Risk & Release, SEVIS, Photo Release, Review Rules, Distribute packets, Name tags, and determine students' needs for shopping		Plantation Hale	
4:00 - 5:00 PM	Tour of the area and Walk to the Foodland Supermarket (Bus Stop, then to Foodland)			
6:30 - 8:30 AM	Program Orientation / Dinner			
Friday, September 12 : Kauai Museum, Talk-Story Event, Walking Historical Tour of Hanapepe				
9:20 AM	Depart Plantation Hale for Kauai Museum (With Oshima and Toyama student groups)	Akita Bus		
10:00 - 12:00 PM	Kauai Museum Tour		Kauai Museum	Chris Faye
12:00 PM	Depart Kauai Museum for Hanapepe Library (With Oshima and Toyama student groups)	Akita Bus	Kauai Museum Parking lot	Kyoko Ikeda
12:30 - 1:30 PM	Networking Lunch at Hanapepe Library (Lunch Provided)		Hanapepe Library	Kyoko Ikeda, Karen Ikemoto
1:30 - 3:30 PM	Stories from Mr. and Mrs. Hashisaka (Founder of Kauai Kookie)		Hanapepe Library	
3:30 - 5:00 PM	Walking Tour of Hanapepe Town			Kyoko Ikeda
5:30 - 7:45 PM	Hanapepe Art Night			
8:00 PM	Depart Hanapepe for Plantation Hale (With Toyama student groups)	Akita Bus	Hanapepe Library ----> Plantation Hale	
Saturday, September 13: National Tropical Botanical Garden (NTBG)				
9:00 AM	Depart Plantation Hale for National Tropical Botanical Garden (Drop off inside the garden)	Akita Bus	Plantation Hale Lobby	Brian Yamamoto
10:00 - 2:30 PM	National Tropical Botanical Garden (Lunch provided, Foodland sandwich)			Lunch and water pick up by Kaori Shibata
2:30 PM	Depart NTBG for Kauai Coffee (Pick-up inside the garden)	Akita Bus	NTBG Inside the Garden	Brian Yamamoto
3:00 - 4:00 PM	Kauai Coffee			
4:00 PM	Depart Kauai Coffee for Plantation Hale	Akita Bus	Kauai Coffee ----> Plantation Hale	

Sunday, September 14: Free				
Monday, September 15: Class Observation, 1st Presentation, English (A)				
6:45, 7:45, 8:15, 8:45 AM	Depart Plantation Hale for the Bus Stop			
7:10, 8:10, 8:40, 9:10 AM	Take the Kauai Bus (#400 - Lihue)	Kauai Bus	Wailua Brick Oven Pizza -----> KCC	
8:00 - 12:00 PM	Class Observation			
12:00 - 1:30 PM	Presentation (with Toyama and Oshima Groups) (Lunch provided Costco Pizza)		LRC 124	
1:45 - 3:30 PM	English (A) Review: today's presentations, and identify areas of improvement		OCET 103	Jeff Mexia
3:25 PM	Depart for Plantation Hale		KCC bus stop ----> Coconut Market Place	
Tuesday, September 16: Introduction to Hawaiian History, Kawaikini Visit, English (B)				
7:45 or 8:15 AM	Depart Plantation Hale for the Bus Stop			
8:10 or 8:40 AM	Take the Kauai Bus (#400 - Lihue)	Kauai Bus	Wailua Brick Oven Pizza ---->	
9:30 - 10:30 AM	Class: Introduction to History of Hawaii		OCET 103	Dennis Chun
10:45 - 12:00 PM	Visit: Kawaikini School	Walk	Kawaikini School	Dennis Chun
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC Cafeteria (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (B):		OCET 103	Brian Cronwall
3:25 PM	Depart for Plantation Hale		KCC bus stop ----> Coconut Market Place	
Wednesday, September 17: Heritage Tour of Japanese Immigrants in Hawaii				
9:20 AM	Depart Plantation Hale for Grove Farm Plantation Museum in Lihue	Akita Bus	Plantation Hale Lobby	
10:00 - 12:00	Guided Tour: Grove Farm Sugar Plantation Museum	Akita Bus	Grove Farm Museum --> Tip Top	Gerald Hirata
12:10 PM	Depart Grove Farm Museum to Tip Top Cafe	Akita Bus		Gerald Hirata
12:20 - 1:30 PM	Lunch at Tip Top Café (Lunch Provided) (Stories from Mr. Ota, Tip Top Owner)			Gerald Hirata, Jonathan Ota
1:30 AM	Depart Tip Top Café to First Sugar Mill Monument, Koloa Sugar Mill	Akita Bus	Tip Top ----> Koloa	Gerald Hirata
1:45 - 2:30 PM	Short Visit: First Sugar Mill Monument / Grove Farm Sugar Plantation	Akita Bus	Short visits to these sites	Gerald Hirata
2:30 PM	Depart for Kauai Coffee & McBryde Wahiawa Camps 2 & 3	Akita Bus	Koloa to Kauai Coffee	Gerald Hirata
3:00 - 3:45 PM	Visit: Kauai Coffee Visitor Center, McBryde Wahiawa Camps 2 & 3 (Numila Plantation Camp, Gerald's Old Family Home)	Akita Bus	Shot Visit to these sites	Gerald Hirata
3:45 PM	Depart for Port Allen	Akita Bus	to Port Allen	Gerald Hirata
4:00 - 4:45 PM	Visit Glass Beach Cemetery, Port Allen	Akita Bus	Short visits to these sites	
5:00 - 6:00 PM	Walking Tour of Waimea Town			Gerald Hirata
6:00 - 8:00 PM	Dinner in Waimea at Wrangler's (at participants' own expense)			Gerald Hirata
8:00 PM	Depart Waimea for Plantation Hale	Akita Bus		Gerald Hirata
Thursday, September 18: Class Observation, English (A)				
6:45, 7:45, 8:15, 8:45 AM	Depart Plantation Hale for the Bus Stop			
7:10, 8:10, 8:40, 9:10 AM	Take the Kauai Bus (#400 - Lihue)	Kauai Bus	Wailua Brick Oven Pizza	
8:00 - 12:00 PM	Class Observation			
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC Cafeteria (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (A):		OCET 103	Brian Cronwall
3:25 PM	Depart for Plantation Hale		KCC bus stop ----> Coconut Market Place	

Friday, September 19: Speech/Public Speaking Workshop, English (A)				
8:15 or 8:45 AM	Depart Plantation Hale for the Bus Stop			
8:40 or 9:10 AM	Take the Kauai Bus (#400 - Lihue)	Kauai Bus	Wailua Brick Oven Pizza	
10:00 - 12:00 AM	Class: Speech/Public Speaking Workshop		OCET 103	Greg Shepherd
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC Cafeteria (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (B)		OCET 103	Jeff Mexia
3:25 PM	Depart for Plantation Hale		KCC bus stop ----> Coconut Market Place	
Saturday, September 20: Optional: Namahoe Double-Hull Canoe Construction				
Sunday, September 21: Free				
Monday, September 22: Speech / Presentation Workshop, English (A)				
8:15 or 8:45 AM	Depart Plantation Hale for the Bus Stop			
8:40 or 9:10AM	Take the Kauai Bus (#400 - Lihue)	Kauai Bus	Wailua Brick Oven Pizza	
10:00 - 12:00 PM	Class: Speech & Presentation Workshop		OCET 103	Dallas McCurley
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC Cafeteria (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (A)		OCET 103	Jeff Mexia
3:25 PM	Depart for Plantation Hale		KCC bus stop ----> Coconut Market Place	

Tuesday, September 23: Individual Appointment Preparation, English (B)				
8:15 or 8:45 AM	Depart Plantation Hale for the Bus Stop			
8:40 or 9:10AM	Take the Kauai Bus (#400 - Lihue)	Kauai Bus	Wailua Brick Oven Pizza	
10:00 - 12:00 PM	Individual Appointment, Preparation		OCET 103	
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC Cafeteria (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (B)		OCET 103	Brian Cronwall
3:25 PM	Depart for Plantation Hale		KCC bus stop ----> Coconut Market Place	
Wednesday, September 24: Prepare for Presentation, Presentation				
7:45 or 8:15 AM	Depart Plantation Hale for the Bus Stop			
8:10 or 8:40 AM	Take the Kauai Bus (#400 - Lihue)	Kauai Bus	Wailua Brick Oven Pizza	
9:30 - 10:30 AM	Prepare for Presentation		OCET 103	
10:45 - 12:00 PM	Prepare for Presentation			
12:00 - 1:30 PM	Lunch & Presentation (refreshment provided, Mark's Place)		LRC 124	
Thursday, September 25: Free, Final Event				
6:00 - 9:00 PM	Final and Farewell Event			
Friday: Depart for Japan				
5:00 AM	Check-out			
5:20 AM	Depart Plantation Hale for Lihue Airport	Akita Bus	Plantation Hale Lobby	
7:06 AM	Depart for Honolulu			
8:30 AM	Depart for Honolulu			

平成 26 年度 研修写真集



KCC ブックストア前



ホクレア



授業風景



史跡見学



ハワイ語学校見学



研修風景



KCC 実習工場



参加教員



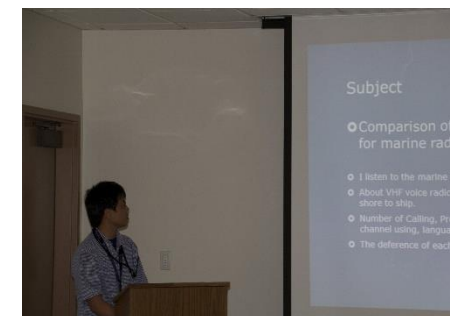
プレゼン練習風景



ボタニックガーデン



カウアイミュージアム



英語による発表

氏 名	山本 桂一郎
所属等	富山高等専門学校 専攻科
1. 研修の目的	
ハワイ州立大学カウアイコミュニティカレッジ (KCC) で行われる「教員英語外地研修」は、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科・専門教員の英語外地研修として、国立商船系高専の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムである。本研修を通じて専門科目における英語の利用と英語による授業展開という目的に応える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。 この研修では、英語研修を行うとともに、各自テーマ別に研究を行い、最後に研究発表会で成果を発表する。この研修に参加することにより、自身の英語力の向上や学生へのフィードバックが期待される。 海事人材育成プロジェクトの目的のひとつである「新たな海事技術者に必要な資質の涵養」の「英語力向上プログラムの開発」につながる事が考えられる。また、今回の研修のリーダーの役割を与えられた。	
2. 研修の概要	
研修は、現地の歴史的な背景や地理的要因による重要な場所を、ガイドの説明を受けながらめぐるツアー、KCC における授業参観、プレゼンテーションに関する授業、最終のプレゼンテーション、現地の方と交流を深めるイベントとに分かれている。 ・ ツアーにおいては、長時間にわたって英語でのガイドを聞くため、リスニングマラソンの効果があり耳が開いてくる。質問についてもいつでもできるような状態であり、疑問をその場で解決できるが、英語による質問を即座に考える必要があり、リスニングとスピーキングの強化が図れる。 ・ 授業参観においては、現地の授業スタイルを見ることにより、我々の教え方や学生の状況など多くの比較ができる。日ごろの授業に反映できるような方法や教材、授業の進め方など異文化の学校を見ることの効果は大きい。 ・ プレゼンテーションに関する授業においては、英語の授業であるが、日本語でのプレゼンテーションにも活用できるような内容である。どのようにして構成を組み立てるか。どのようにして聴講者の興味を引くか。限られた時間でポイントをどこまで明確にするかなど、大変参考になるものであった。随所で3分間のショートスピーチなど、準備なくスピーキングをする機会も多く、英語に対するハードルを下げるためにも効果のある授業であった。 ・ イベントにおいては、現地の方と自由に交流できるため、いろいろな質問や話を聞くことができた。英語を活用するという目的に照らし合わせれば、きわめて重要な練習の機会であった。 ・ 最終プレゼンについては、ある程度準備をした後、卒業式のため帰国した。後日、KCC の先生に内容を送付し確認してもらったことにした。	
3. 研修成果	
概要にも述べたとおりであるが、英語に必要な能力をバランスよく学ぶことができる。今回の研修で自身の英語力が向上したかどうかは自分自身ではわからない。しかし、この研修を受講した大きな成果は、英語に対するハードルを下げられたことであろう。カウアイの先生方は日本人の学生との交流も多く経験されているので、こちらの話を聴いてくれて理解しようとしてくれる。文法がまずくとも発音が悪くとも、何とかコミュニケーションを取ってくれようとして努力してもらえる。したがって、私自身も英語で話す努力をすることができた。ここでのコミュニケーションがどこでも通用するとは思っていないが、わからなければ聞きなおすスキルは得られたように感じている。 ・ リスニングについては、長時間にわたっていろいろな解説者の話を聞いて理解しようとしたことによって慣れることができた。 ・ スピーキングについては、積極的に話すことで話せるセンテンスを増やした。しかし、正しいかどうかの検証は不明。 ・ ライティングについては、授業でプレゼンテーション資料を作成することにより練習を行うことができた。 その他、今回の研修のリーダーとして、参加者の英語に対するハードルを下げるために、一生懸命積極的な姿勢を見せたつもりである。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
この研修の成果については、専攻科の授業において一部英語を取り入れてみることをトライする。 例えば、 ・ 英語のテキスト資料を、試行的で学生にコピーして配布し、講義に活用する。 ・ 英語テキストを参考に英語による授業資料を作成し、講義に活用する。 ・ 定期試験問題の一部を英語にする。 などである。この取り組みについては、学生からのフィードバックを、アンケート、感想などで収集することによってさらに今後に生かしていければと考えている。	

My report of “The Japanese Maritime College Professional Development 2014”

-Over the wall of English to the joy of English Staying on Kauai, HI for 3 weeks-

NIT, Toyama college. Keiichiro Yamamoto

◆ Introduction

- This poster presents my impressions of “The Japanese Maritime College Professional Development 2014”.
- The aim of this three-week internship program is the improvement of English skill and teaching skill for faculty staff.

◆ Presentation at KCC

My motives

- Some students asked me “I want to transfer to KCC from my college. How can I do it?”
- I couldn't answer this question clearly.

First, I thought, It was a hard task for the students to start a new school life abroad and finish it, especially when it is their first experience.

Second, my knowledge was only the outline of K-12 system and the kinds of the academic degree. I was not confident. And so, I couldn't answer clearly.

Third, to be honest, If they can not finish it, it will damage the relationship between the two colleges and the students' career. In addition, I wanted them to know and understand the long history and relation between our schools.

And last, if the students' motivation is only English ability, it is not good enough. They have to have something professional and expertise knowledge and skills as their objectives.

- With these objectives in mind, if they want to transfer from NIT,T to KCC, I think, KCC can conduct them kindly and properly.
- Therefore, I have chosen “Why do you want to transfer to KCC?” as the themes of this presentation.

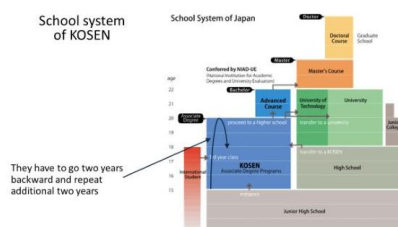
Contents of Slides

Why do you want to transfer to KCC?

- Three things they have to consider before transferring to KCC-

NIT, Toyama college.
Keiichiro Yamamoto

School system of KOSEN



Conclusion

- Are you ready to repeat additional two years?-
- Students must have clear aims and purposes.
- Only a strong longing is not enough.

- We need to start to discuss the possibility of KCC students transferring to NIT,T

Introduction

- This presentation discuss our college students' possibility of transferring to KCC

- (1) To compare the outline of KOSEN education system and UH education system
- (2) To have to repeat additional two years
- (3) To have to live alone away from their families and complete programs by themselves

Four necessary documents they must complete and submit

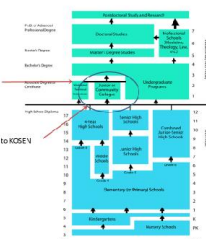


K-12 System

This line is the graduation year of KCCSEN

Junior or Community Colleges are equal to KCCSEN

Diagram of education in the United States



How to enroll

- Four main documents required for admission-

- To complete and submit application form
- To get more than 450 scores(PBT), TOEFL
- To meet examination and immunization requirements
- To have adequate financial support

Thank you for your attention

◆ Conclusion

- I tried TOEIC before and after participating in this internship program.
- As the result, the internship program improved my score by 50 points.
- I thought that I could get a higher score, but I couldn't. I need to study harder and harder.
- Overall, this internship program is very good opportunity for us, because we have no chance of using English on a regular basis.
- During this program, we need to hear, speak and write English the whole day.

氏 名	経田 僚昭
所属等	富山高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
今回の教員向け外地研修の目的は以下 2 点を目的として設定した。 - 英語圏での生活による英語力の向上 英語を使ったコミュニケーションについて自分の現状の能力の把握とさらなる向上 - カウアイコミュニティカレッジ (KCC) での授業見学による授業の向上 日本においても他の教員の授業を見学する機会は少なく、KCC の授業を見学することで自身の授業向上に向けたヒントをつかむ。また、英語での授業実施を意識したとき、50 分もしくは 90 分の授業時間の使い方や言い回し等がどのようなものかを把握する。	
2. 研修の概要	
9 月 11 日 (木) 富山発→羽田→ホノルル→リフエ 9 月 11 日 (木) ホテルチェックイン、研修概要説明、ウェルカムパーティー 9 月 12 日 (金) カウアイ島ミュージアム見学、HASHIKAWA 夫妻からのハワイ移民日本人の講話 9 月 13 日 (土) NTBG (国立植物園) 見学 9 月 14 日 (日) 休日 9 月 15 日 (月) KCC 授業見学 一日目 (午前：概要説明、午後：英語授業受講、1830～ “Energy”) 9 月 16 日 (火) KCC 授業見学 二日目 (午前：ハワイ語学校 KAWAKINI 見学、午後：英語授業受講) 1800～ 富山高専工学系 6 学科学生の国際インターンシップ フェアウェルパーティー 9 月 17 日 (水) 0800～ “Science”、 その後、Wilcox ミュージアム、プランテーション工場、移民日本人の集落、Waimea 見学 9 月 18 日 (木) KCC 授業見学 三日目 (0830～ “HWST”、午後：英語授業受講) 9 月 19 日 (金) 午前：発音レッスン、午後：英語授業受講 9 月 20 日 (土) 午前：ナマホエ製作、午後：休暇 9 月 21 日 (日) 休日 (山本先生 帰国) 9 月 22 日 (月) 午前：スピーチレッスン、午後：英語授業受講 9 月 23 日 (火) 午前：スピーチレッスン、午後：英語授業受講 9 月 24 日 (水) ファイナルプレゼンテーション 9 月 25 日 (木) PMRF (アメリカ軍基地) 見学、1800～フェアウェルパーティー 9 月 26 日 (金) 0500～帰国 リフエ→ホノルル→成田 9 月 27 日 (土) 羽田→富山着	
3. 研修成果	
9 月 11 日から 27 日までの研修のなかで、英語圏での生活はもとより、KCC で実施されている授業の見学、ハワイ文化の学びの場などのプログラムが用意されており、英語コミュニケーション能力の向上だけでなく、授業の向上や異文化理解に通じる研修であった。また、大島商船高専が実施している学生国際インターンシップと富山高専工学系 4 学科の学生を対象とした国際インターンシップも同時期に実施され、一部合同で用意されたプログラムもあったことから学校・学科を越えた学生との交流の機会が得られた。研修最後の KCC スタッフに向けて行った Final Presentation において、研修参加者各自が取り組んだテーマを発表し、質疑応答も含めて、有意義で活発な成果の公表の機会が与えられた。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
これら研修を通じた今後の取り組みとして、英語でのプレゼン力の向上をはじめとし、KCC 授業見学によるディスカッション主体の教授方法、特に日本における一般的な授業との相違 (生徒数、黒板・スクリーンの使い方、テキストの使い方など) から得られた知見を、各研修参加教員が担当授業や学生プレゼン指導で活かすことで商船学科学生へのフィードバックが期待できる。	

Three Good Points in KCC Classes to Improve My Classes

- My Report from Hawaii -

Tomoaki KYODEN

National Institute of Technology,
Toyama college, Japan

1. My Self-introduction

Subjects Heat Transfer「伝熱学」
 Thermal Dynamics「熱力学」
 Engineering Training「工作実習」
 Information Processing「情報処理」

In Japan

KCC Program

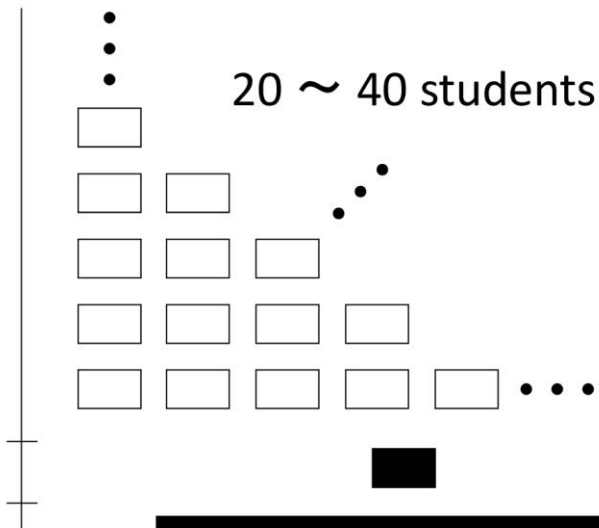
11～26, Sep., 2014

* I observed 3-KCC classes,
and I got some hints to help improve how I teach my subjects

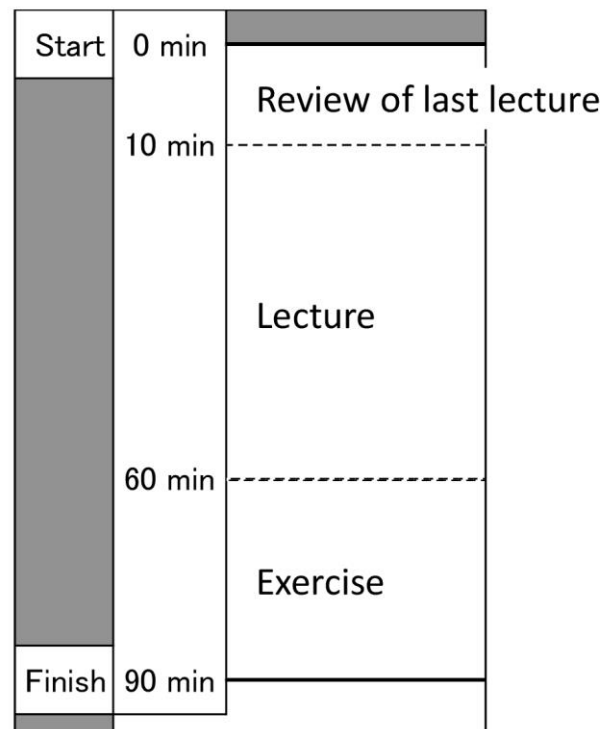
Aim : To share my experiences in Hawaii

2. Introduction of My Classes

About my classes . . .



- I always use the white board

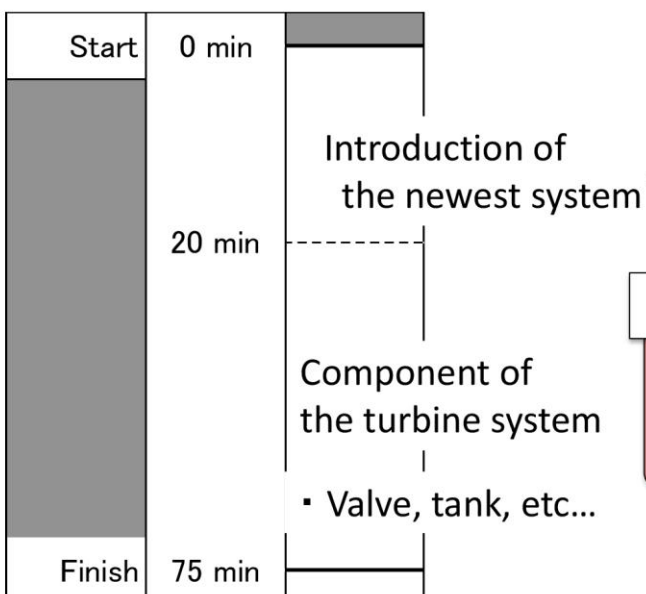


- More students and longer class hours than KCC classes

3. The First Class I Observed

(1) Energy , Erickson

- 3 students
- 75 min



http://www.kyocera.co.jp/topics/2013/1102_muri.html

“Introduction” is very important

Newest information
make use of audio-visuals.

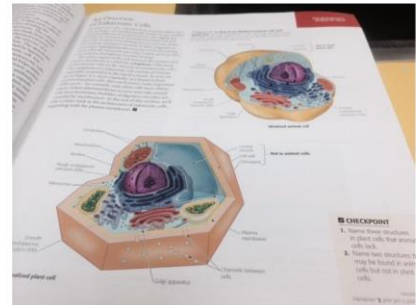
4. The Second Class I Observed

(2) Science , Yamamoto

- about 15 students
- 50 min



Start	0 min	
	10 min	“ Why “ “ What “ to students
Finish	50 min	



“The more they do, the more they remember”

5. The Third Class I Observed

(3) HWST , Chun

- 20 students
- 75 min

- Screen

- Discussion

- Motivation



6. Conclusion

3 useful points to improve my classes

- Audio visuals
Screen, Black (white) board
- Student-centered
(Discussion etc.)
- Curiosity-based

We hear, we forget
We see, we understand
We do, we remember

聞いたただけなら忘れ、
見ることができれば理解でき、
やると、覚える

氏 名	鈴木 治
所属等	鳥羽商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
9月11日～26日のKCC（カウアイ島、ハワイ州）で実施された「教員英語外地研修」に参加した。これは、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科・専門教員の英語外地研修として、国立商船系高専の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムである。本研修を通じて専門科目における英語の利用と英語による授業展開という目的に応える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指している。 上記目的に対して、16年前に非英語圏での外地留学の経験後、英語を使う機会がなかったこと、また、英語圏への短期滞在という機会を生かして、普段利用しない英会話の向上と、自身が行う授業での英語の利用を増やすものであった。また、学生の英語学習上でのつまづきやすい点を自ら、英語をネイティブの環境で学ぶことで自覚する。	
2. 研修の概要	
大きく分けて3期に分かれていた 前半：学外での見学等を行い、見ること、聴くことを中心にした体験学習 中盤：聴くことに慣れたところに、体験したことを自ら話すことを中心にした発表型学習 後半：滞在中に得た経験、英語を話すことに躊躇しなくなったところに「プレゼンテーション作成を」中心とする、総合型の学習 今回の研修は、大きく分けると、屋外研修、屋内研修、授業参観とに分かれており、前半に野外研修をし、現地の様子を確認しながら、徐々に耳を英語にならし、数日後から屋内での授業参観および屋内研修をしながら、英語を学ぶこと以上に、自分自身の力で学術目的だけのプレゼンテーションではない、スピーチおよび表現力を重視した授業および実習を受講後、短時間の間で、自らが設定したテーマ、結論に基づくプレゼンテーションを行うものであった。 各研修は英語そのものの授業・講義・演習ではなく、それぞれの能力にプラスする形のものであったので、それぞれのレベルの違いがあるにも関わらず、それぞれが能力を伸ばすことができた。	
3. 研修成果	
英語で考えることを積極的に促されたので、その場その場で、専門知識のない人に説明し、時には笑いを得ることのできる英語によるプレゼンテーションを作成できるようになった。 この他、今研修で得られた成果を、以下に示す。 ・メモなしでの短時間の挨拶をこなせるようになった。 ・技術的な説明を聞き返すことなしに聞けるようになった。 ・英語でされている説明の中、聴きたいことを質問できるようになった。 ・プレゼンテーションに対する質問の意味がわかった。 ・質問に対する応答を、完全でないものの答えることができた。 その他、研修後半に設定されていた個々のプレゼンテーションを全員で参加することができた。また、グループのリーダーとして、メンバーを無事に帰国できるよう調査および、助言を行い、結果として無事に帰国させることができ、当初の目的を達成することができた。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
帰国後、さっそく、「船舶通信概論」の授業で、研修最終日のプレゼンテーションで作成したスライドを使って授業を行った。 きっかけを作るため、前半は英語で、後半は日本語で解説をつけて行ったところ、学生には好評であり、英語を勉強することは手段であって、最終的な目標ではないことを学生に理解させることができた。 その他、下記の事柄がわかった。 外国と日本とでは、プレゼンのスタイルが違う。 内容は日本と同じであっても、構成を変えることで、日本人以外に伝えられる。 引率教員の活動を見ることで、外国研修行事への学生引率のノウハウ、また、今後、参加する教員への助言するために必要な情報を得ることができた。 総じて「英語研修」という英語の勉強のみならず、英語を使った外地での生活全般における研修かつ、教員としてどのようにスキルアップできるかという点を問われた研修であった様に感じている。 現時点での高専では、学生保護者共、日本語ですら通じない場合もあるので、英語の日々での利用は困難ではあるが、経験を生かし、前向きに取り組むことで、現状を打破したいと考える。	

What are the differences of radio communication between Hawaii and Japan?

Osamu SUZUKI, Maritime Tech. National Institute of Technology, Toba College

Summary This subject of presentation includes some comparison of radio communication Japan and Kauai. At first, each country use same role of the calling channel. However, sometimes the communication exists on calling channel. The U.S. Coast guard always uses calling channel for some broadcasting a message.

VHF Radio



One of VHF radio Telephony Instrument, Toba, JAPAN

- VHF 156-161MHz
- OUTPUT Power 25W
- In Steering room
- Should be equipped, more than 100 gross ton (by law)
- Purpose
 - Ship to ship (collision avoidance)
 - Ship to shore (Informing docking arrangement)

Handy receiver

- In Toba college, we made a long time radio communication recording system. It keeps the voice communication for a week.
- I had also the handheld receiver.

A receiver for marine Radio. (VHF band, FM)



Calling

Typical calling broadcasting from Coast Guard

Calling Channel CH 16

PANPAN PANPAN PANPAN
this is Coast Guard radio.
Over board
change to channel 13.

Communication Channel CH 13

PANPAN PANPAN PANPAN
Hello all stations. This is
Coast Guard radio.
Overboard.
One crew is overboard.
at 24-14N, 150-14W,
Ships in the vicinity keep
sharp lookout, if you have
any information, you should
call the Coast Guard radio.

Ship to ship

VHF calling channel for ship to ship

Calling Channel

Golden star Golden star this
is Silver start Silver star.
Silver star this is Golden
star over.
Golden star this is silver
start, please change to
channel 06 over.
Roger 06.

Communication Channel

Golden star this is silver star.
Silver star this is Golden
star over.
What is your intension?
We are passing your ship.
OK?
Roger, You should keep a
distance. out
Roger, Out

Result

using calling channel for message broadcast

Kauai, U.S.

- U.S. Coast guard,
Honolulu always uses
calling channel for some
broadcasting message.
- English
- Fluently speech
- Message is only once

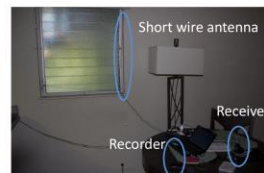
Toba, Japan

- Japanese Coast Guard
always uses calling and
communication channel
- Japanese and English
- Slow and unclear speech
- Message is repeated
each language

Photos



Some Antennas for satellite at KCC



Recorded in Kappa for 13/Sep. -20/Sep.



Some devices on a desk



My presentation at KCC.

Conclusions

Who is listen to your voice on Radio. Native? Or Non-native or not good professional?

Speaker

Native speaker can speak fluently, not repeated
Non-native speaker could not be fluently broadcasted a
message twice

English (language) is a part of culture.

U.S. :easy to learn the English
Japan: not enough communication skill,

References



- "A introduction onboard radio communications" (Left)
- "A system of Radio communication" (Right)



Acknowledgements

Thank you so much for all persons concerned of Japanese maritime colleges and shipping companies. Finally, I would like to say thank you for KCC faculty, staff and students.

氏 名	鎌田 功一
所属等	鳥羽商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
1. 商船学科専門科目における英語の利用及び英語による授業展開を目標とした、実践的な英語コミュニケーション能力の向上。 2. 英語によるプレゼンテーション能力の向上。 3. KCC における授業の見学。 4. ハワイ文化の理解。	
2. 研修の概要	
9月11日（木） 午後 Lihue着 ホテルロビーにてオリエンテーション 9月12日（金） 午前 Kauai Museum 見学、午後 HanapepeにてHASHISAKA夫妻の講話を聴講 9月13日（土） 通日 National Tropical Botanical Garden見学 9月14日（日） 休日 9月15日（月） 午前 授業見学 Carpentry /J Carvalho、午後 授業English(A) /Jeff Maxia 9月16日（火） 午前 授業Introduction to History of Hawaii /Dennis Chun, Kawaikini School見学 午後 授業English(B) /Brian Cronwall 9月17日（水） 午前 授業見学 Science /B Yamamoto 引き続き [Heritage Tour of Japanese Immigrants in Hawaii] Grove Farm Sugar Plantation Museum → Tip Top Café → First Sugar Mill Monument → McBryde Wahiawa Camps 2&3 → Glass Beach Cemetery Port Allen 9月18日（木） 午前 授業見学 HWST /Dennis Chun, Japanese /Merritt、午後 授業English(A) /Brian Cronwall 9月19日（金） 午前 授業Speech/Public Speaking Workshop /Greg Shepherd、午後 授業English(A) /Jeff Maxia 9月20日（土） 午前 カヌーNamahoeの建造見学 9月21日（日） 休日 9月22日（月） 午前 授業Speech & Presentation Workshop /Dallas McCurley、午後 授業English(A) /Jeff Maxia 9月23日（火） 午前 発表準備、午後 授業English(B) / Brian Cronwall 9月24日（水） 午前 発表準備、午後 各自テーマの発表「Learn from Mistake / KAMADA」 9月25日（木） 夕方 Final and Farewell Event 9月26日（金） 午前 Lihue発 1. 英語の授業はプレゼンテーションに関するテーマが主であった。どの先生もユーモアを交え丁寧に授業をして頂き大変分かり易かった。宿題が出るのが時々あった。また、授業では電子黒板や巨大なポストイトの使用があり興味深かった。 2. 授業見学では、学生がしっかりと予習（教科書を読む等）をしているのが印象的であった。 3. 発表テーマは「カウアイ（KCC）と日本（商船高専）の比較」と大枠が決められており、具体的な内容は各自が設定した。報告者は「ものづくり」での失敗から学んだことをテーマとし、カヌーNamahoeを建造されているDennis Chun先生にインタビューを行い発表資料を作成し、発表した。	
3. 研修成果	
1. 報告者自らの英語能力を知ることができた。 2. 日常的に英語を使うことによる英会話能力の向上。 3. 英語によるプレゼンテーション能力の向上。 英語による効果的なプレゼンテーション手法を学ぶことができた。 4. KCC における双方向授業の理解。 ディスカッション等を用いた双方向授業の手法を学ぶことができた。 5. ハワイ文化の理解。 ハワイ文化や日系ハワイアンについての理解を深めることができた。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
1. 学生に英会話の重要性や異文化体験を自らの経験をもとに話すことができる。 2. ディスカッション等を用いた双方向授業により学生の積極的な授業参加を促したい。 3. 授業において簡単な英語のセンテンスを挿入するなど、積極的に英語を取り入れていきたい。	

Learn From Mistakes

Koichi KAMADA, Maritime Tech.
National Institute of Technology, Toba College

Summary

This presentation shows things which learned from mistakes at TOBA and KAUAI.

When making something new. We make mistakes sometimes. Collected mistakes at KCC shows there are many things to learn from mistakes.

Self-introduction

In my college I'm making human powered boat with students. Human powered boat moves by using only human power. The world record speed of human powered boat is about 20 mph. M.I.T. has this record.



Photo1 human powered boat (made by FRP)

About Mistakes

When we make something such as boat or canoe. We make mistakes sometimes. But there are many things to learn from mistakes. It's important not to make the same mistake twice. So, I collected mistakes of Toba and Kauai by interviewed Mr. Dennis Chun who built a canoe Namahoe, and consider them.



interviewed
Mr. Dennis Chun

Photo2 Canoe Namahoe

My Mistakes

- Mistakes
- Things learned from mistake

1. We were unable to release the mold from the master model.
 - We found there is a relationship mold release wax and mold releasing.
2. When my second boat was launched for the first time, the boat went backwards. because we thought about only detail and didn't watch overall well.
 - it's necessary to consider more overall.
3. When we injected urethane for reinforcement of the hull, urethane continued bulge.
 - From this mistake, we found when using a new material, it's necessary to use the try once.

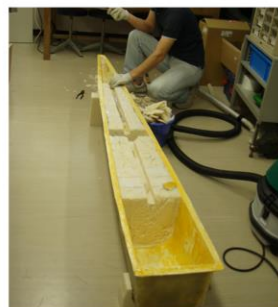


Photo3 Stacking model



Photo4 Bulged urethane

Mr. Dennis Chun's mistakes

- Mistakes
- Things learned from mistake

1. The number of volunteers is fewer than he had expected.
 - We need to accurately estimate the number of people who are interested.
2. When assembling the frame, he had found that the hull is too short and fat.
 - when we design, it's necessary to consider using a model not only the drawings.
3. He didn't start with smaller canoe than Namahoe.
 - If they build a small canoe, it's possible to make the canoe well and smoothly.

Conclusion

There are many mistakes when we made something new. But we had learned many things from mistakes.
Therefore, **Don't be afraid to make mistakes!**

氏 名	内山 憲子
所属等	広島商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
研修の目的として、英語能力の向上、英語によるプレゼンテーション能力の向上、KCCの授業視察はもちろんのこと、個人的には、ハワイ文化や生活、日系移民の歴史についての知識を得て、カウアイへの興味を深めることである。併せて、トレーニングプログラムを終えた後には、専門科目についての英語による授業展開を目標に、コミュニケーション能力の向上を図る目的がある。 また、商船学科学生が国際交流での学びが多い環境であるのかについての視察も兼ねている。	
2. 研修の概要	
プログラム内容を大きく分けて2つ用意されていた。 1つは、ハワイの歴史を学ぶ研修内容であり、もう1つは、プレゼン発表に向けての英語での授業である。 1.ハワイの歴史を学ぶ研修内容 ● Kauai Museum では、カウアイの文化や歴史について学んだ。ハワイ島がどのように形成されたか、かつてのハワイアンがハワイ島でどのように生活していたかなどの知見を得ることができた。 ● Hanapepe Library では、Kauai Kookie の創始者で、日系2世のハシサカゴ夫婦にお話を伺い、交流を持った。日系移民の生活や苦勞、葛藤などについて、海王丸や日本丸がポートアレンに入港する時をととても楽しみにしていたことについて話してくださった。 ● National Botanical Garden では、ブライアン先生からハワイの植物の魅力について深く学ぶことができた。参加者に質問して考えさせる講義が印象的であった。 ● Kauai Coffee では、味わい深いコーヒーを試飲し、広大なコーヒー農園を見学した。 ● サトウキビ・プランテーション栽培企業を起こした旧ウィルコックス邸でのプランテーション時代の生活を展示している Grove Farm Plantation Museum では、サトウキビ・プランテーションがハワイの歴史に与えた影響について理解を深めた。ハワイらしい住居を見ることができた。 ● 日系2世の Mr.Hirata から、以前に生活をしていたプランテーション・キャンプ (Mcbryde Wahiawa Camp 2&3) を案内してもらい、質素だが温かい住居を見学させてもらい、ゆかりのある場所への案内ももらった。 ● ハワイの伝統的航海術を実践しているカヌーの Namahoe を見学し、作業の手伝いをさせてもらうことができた。KCC のデニス先生が中心になって少人数のボランティアスタッフで作っているため、製作を始めてから 17 年経っている。来年には進水できる予定とのこと。 2.プレゼン発表に向けての英語での授業 Class Observation では、自分の希望する授業を見学することができた。 専門分野の授業から生涯学習まで、様々なカリキュラムがあり、目的に合わせて講義形式や演習形式をとっている。授業後、多くの学生が意欲的に質問をしているのがとても印象的であった。 英語の授業では、プレゼンテーションに向けての表現方法や伝達方法を学び、プレゼンがより良いものになるようにしていくものであった。 プレゼンでは、日本とカウアイ(ハワイ)との比較を求められ、研修で得た知識での比較、授業の比較、専門分野の比較など、様々な発表がされた。 私は、日系移民の生活と当時の日本人の生活との比較として、「Consideration about the life of the Japanese-immigrant」の発表を行った。	
3. 研修成果	
今回、日系の歴史を中心とした Hawaii や Kauai の歴史や文化を知りたいからこそ、英語で理解し、学びを深めたいということが最大の研修目的であった。 しかしながら、英語で理解し、会話することの難しさをあらためて知った。 最近、長期に英語に触れ続ける機会が無かったため、英会話に関しては、あまり必要に迫られていなかった部分があった。「聞くこと」は困難でなくても、自分の気持ちを表現できる言葉を「話すこと」はとても難しく、歯がゆさを感じると同時に、最後には、英語を学んでいくことの楽しさをおぼえた。 これを機会に英会話のスキル向上を目指していきたいと考えている。 まずは、商船学科が遠洋航海へ出向く Hawaii を知るきっかけとして、日系移民の生活について、英語で授業を行うことを目標にしたい。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
まず、教員の使命として『学生が英語を身近に感じる工夫』が必要であると感じた。 本校では、教員研究室や教室、実験室などに英語表記を加えている。また、専門科目や英語以外の授業の中でも英語の授業を取り入れることや、試験の際に英語の問題を必ず出題することが義務付けられているが、それだけでは身近に感じることは不可能である。 実際にコミュニケーションがうまく取れた時の喜びが、よりうまく表現したい気持ちに繋がり、英語を身近に感じるきっかけに繋がっていくと思われる。 現在、本校では、英会話中心の授業は殆ど行われていないようである。今後は、コミュニケーション表現の英会話を中心とした授業展開ができることを目指していきたい。	

Consideration about the life of the Japanese-immigrant

National Institute of Technology, Hiroshima College. Noriko UCHIYAMA



Summary

I had a chance to listen to the story of "Nisei" during this training program. Mr. and Mrs. Hashisaka are "Nisei" and Mrs. Hashisaka was the founder of "Kauai Kookie". I compare "the life of Japanese-immigrant (in Hawaii)" with "the life of Japanese (in Japan)" between 1885 and 1960.

The history of the Japanese-immigrant

- ✧ The history of Japanese Americans starts with their immigration at the end of the 19th century (The Meiji Period).
- ✧ In the 10 years (1885-1894) until it was abolished, 26 ships with about 29,000 Japanese emigrants (About 20% are women) made the crossing by ship.
- ✧ In the first year, I occupied 68% only in people from Yamaguchi and Hiroshima.
- ✧ Because the farm village of Japan was a bad crop nationwide, there was much application from the whole country.
- ✧ They worked mainly in the plantation of the sugar cane farm and they lived in a simple house called "the plantation camping".



Mr. and Mrs. Hashisaka

Life comparison between Japanese-immigrant and Japanese (1885-1900)

Life of Japanese-immigrant (in Hawaii)	Life of Japanese(in Japan)
✧ Purpose is to make 400 Yen in three years. ✧ A day laborer is necessary for seven years to accumulate the same sum in Japan. ✧ The wage of the worker of 1 months is 17.65 yen. (195)	✧ Annual income of the farmer of Hiroshima. ✧ 14.48 yen in 1884 ✧ 9.98 yen in 1885 ✧ The Meiji government imposed a heavy tax on a farmer to make up for a fund necessary for the rapid modernization. ✧ There was a problem of recession, unemployment, famine, the political confusion.

Life comparison between Japanese-immigrant and Japanese (1901-1915)

Life of Japanese-immigrant (in Hawaii)	Life of Japanese(in Japan)
✧ They remitted 1,500,000 dollars a year to Japan in total. ✧ Personal business development and advance to the city ✧ Strike of the wage increase ✧ call family members from Japan ✧ Settle in Hawaii	✧ The immigrant applicants increased by being able to get large sum of money. ✧ The transformation from an agricultural to an industrial nation. ✧ The Japanese National Railways opening to traffic. (Tokyo - Yokohama interval) ✧ Western culture (building, furniture, clothes, food) ✧ The Taisho period(1912)

Life comparison between Japanese-immigrant and Japanese (1916-1930)

Life of Japanese-immigrant (in Hawaii)	Life of Japanese(in Japan)
✧ organize a labor union ✧ The community formation of "the person from prefecture". ✧ Education of "Nisei" ✧ Importance of the learning ✧ Higher education	✧ The poor relationship with Japan and United States. ✧ Development of the traditional manual industry. ✧ The general family is a simple living, and it is difficult to receive higher education. ✧ The Showa Period(1926)

Life comparison between Japanese-immigrant and Japanese (1941-1960)

Life of Japanese-immigrant (in Hawaii)	Life of Japanese(in Japan)
✧ During war, many people work in the military and are endowed economically. ✧ Activity of "Nisei" ✧ Loyalty to the United States ✧ Advance to the world of politics and the world of economy ✧ Influence of "Sansei" ✧ confer nationality on "Issei"(1949) ✧ Japanese education starts (1960)	✧ Attack on Pearl Harbor (1941) ✧ Bring a war to an end (1945) ✧ Postwar recession ✧ An extremely poor life ✧ Deterioration of food circumstances ✧ Ten years were the hard times after the war. ✧ high growth period (1958)

The impressive words that I heard from "Nisei"

- ✧ Teaching from parents
 - ✧ "It is modest, and be always serious".
- ✧ The favor that was able to receive higher education
- ✧ "Fight as an American proudly".
- ✧ Connection with the Japanese-emigrant and Japanese
 - ✧ "Nippon-maru" and "Kaiou-maru" looked forward to entering port to port Allen.
- ✧ We must not go to war again.
- ✧ They visited Japan for search for one's origin.



Together with Mr. and Mrs. Hashisaka



After Presentations, with KCC staff member

Consideration

- ✧ The serious performance of the Japanese-immigrant played a big role to raise social status.
- ✧ By a large amount of allowance, I did great contribution for modernization development of the Meiji period.
- ✧ They were covered with sweat and continued working. They had much trouble, but I was serious and was impressed by the way of life with the pride modestly.
- ✧ In Japan, there may be the situation to accept an emigrant by declining birthrate in the near future. There are many things learning from the history of the Japanese-emigrant in Hawaii.
- ✧ By the contribution of the Japanese-emigrant in Hawaii, I receive a kindness now. I thank you very much.

Participation in training

- ✧ It was the greatest training purpose that I deepened learning in English in wanting to know the history and the culture of Hawaii and Kauai mainly on the history of the Japanese-emigrant. The purpose was able to be accomplished.



氏 名	久保田 崇
所属等	大島商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
本研修の目的は、我々商船学科の教員の授業・実習における英語の利用促進、英語による授業展開を目指し、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指すものである。	
2. 研修の概要	
5月11日（日）に参加者による事前打ち合わせ会議が開催された。 9月11日（木）から9月26日（金）までKCC教員英語外地研修に参加した。以下、詳細を述べる。 9月11日（木） 1930 成田集合、2130 成田発、1000 ホノルル着、1300 リフエ着。1530 頃ホテル plantation hale 着後、夕刻 1800 頃より、研修中である富山（本郷キャンパス）、大島の学生および引率教員、KCC スタッフ参加のもとウェルカムディナーで饗された。なお本研修ではリーダーの下、夜必ずミーティングを開き、翌日の行動確認を行った。 9月12日（金）0920 にホテルロビー集合後、大島、富山学生と共にカウアイミュージアムに向かった。ミュージアムにはカウアイ王族の歴史やミクロネシアを行き来したカヌーや当時の人々が生活に使用していた食器などが展示されており、また別コーナーでは移民の歴史そして当時の移民の部屋を再現した展示があった。午後にはアレン港側のハナペペ図書館に移動し、日系2世である Hashisaka 夫妻の公演を聴講した。公演では第2次世界大戦時における日系人の立場や状況などを知ることが出来た。 9月13日（土）は0900 にホテルを出発し、国立植物園を見学した。植物園の規模は巨大でバスでの移動であったが、半日動き回ったが全てを見て回ることは出来なかった。 9月14日（日）休日（ワイメア溪谷） 9月15日（月）0800 頃に KCC の OCET105 に集合し、各人の KCC のクラス視察について、プレゼンテーションの発表内容についての打ち合わせを行った。その後午前中は個人でのクラス訪問となった。控室として OCET103 が与えられた。1200 より KCC 図書館2階にて富山の学生のプレゼンテーションそして大島学生の自己紹介を見た後、午後から英語 A（講師：J.Mexia）の講義が始まった。講義は自己紹介から始まり、早い段階でプレゼンテーションの構成の手順の話となった。講義は予定通り 1515 には終了した。（以後の講義もほぼ予定通りの時間で終了している。） 9月16日（火）0930 よりホクレア号の船長である Denis 氏によるハワイ文化歴史の講義を1時間程度受けた後、KCC 構内に併設された Kawaikini 学校を訪れた。同校はハワイ語で授業を行う学校で、小学生から上は 25 歳まで在校しており、ハワイ式の歌とハグで出迎えてくれた。算数と音楽の教室を見学した。午後は英語 B（講師：B.Cronwall）の授業があり、英語 A 同様、自己紹介の後、英語 A 同様、プレゼンテーション手法の講義がなされた。 9月17日（水）はハワイの名門である WILCOX 家の生家を開放したグルーブ農園博物館に見学を訪れた。日系3世である hirata 氏が終日アテンドしてくれた。午後はカウアイコーヒーセンター側のマクブライド WahiawaCamp を訪れ、hirata 氏の祖父母が生活していた Camp 跡地を見学した。またその後アレン湾側の日本人移民が祀られた墓を訪れ、池田恭子さんもホームステイしていた higashi-honganji を訪れた。ワイメアの街（isihara マーケットなど）を散策し、夕食を取った後、2200 頃ホテルへと帰った。 9月18日（木）午前中は各々の希望したクラスの見学を行い、午後は英語 B の授業があった。 9月19日（金）午前中はスピーチと公衆の面前で話す際の技術を学んだ。講師の Shepherd 氏は鎌倉で在日経験もある方で、演劇の先生であった。また午後は英語 A の授業であった。 9月20日（土）建造中であるカヌー「ナマホエ」の見学および作業（ブーム磨き、ニス塗り）を行った。 9月21日（日）休日（キラウエア灯台） 9月22日（月）午前中は Dallas 氏のスピーチの授業であった。前回の授業と異なり、聴衆の引きつけ方（視線・話し方）など具体的に教わった。午後の英語 A の授業ではプレゼンテーション要旨について個人レッスンを受けた。 9月23日（火）はプレゼンテーションの予行練習をしながら、スライドの修正を行い、発表を詰めていった。一人あたりの発表にかかる時間が 30－45 分を要したため、午後の英語 B も引き続き予行演習となった。 9月24日（水）午前中は各人プレゼンテーションの準備を行い、1200 より KCC OCET104 にて最終プレゼンテーションが行われた。一人当たりの持ち時間は5分であったが、大幅にオーバーし、最終的にプレゼン終了時間は30分ほど延長した。 9月25日（木）自由（ポリハレミサイル基地見学） 9月26日（金）0500 ホテル発、0730 リフエ発、1300 ホノルル発、1630 成田着、1745 各自解散。	

3. 研修成果

本研修は17日間の日程のうちKCCでの研修は2週間程度であるため、英語の講義はプレゼンテーションの表現のみに留まったが、そのアプローチは非常にユニークであった。KCCの講義は、質問（昨日何をして、どのような事が印象に残っていましたか？等）から始まり、長い時間を費やす。質問は全員に当たるため、答えが重複しないようにその回答者の英語に注意を注がなければならず、同時に自分の回答を考えるため常に頭をフル回転させていた。またメインの部分では、今まで習うことが出来なかった英語プレゼンの作成や言葉の使い方などをマンツーマンで習うことができた。講師は二人いたため多少教え方が異なっていたものの、アメリカ人がどのような表現を好むのかを知ることができた。またスピーチの講義を演劇の先生がおこなったり、どれも新鮮であった。本研修では、英語の理解というよりは、コミュニケーション（話し手目線ではなく聞き手目線で、惹きつけるような手法）のノウハウを多く学ぶことが出来た。またKCC内での研修以外の活動でも常に英語で話すチャンスを与えられた。例えば、スタッフの家に招かれたときでも、今まで遠慮しがちで話しかけることが難しかったような場面で、話せるようになったと感じることが出来た。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

KCCで大いに教育研究に活かそうと思ったことが2つある。一つ目は先の項目で述べた授業導入部分（質問形式）である。早速、小職の授業の導入部分で試してみたが、結果として授業の本題に身が入った気がするが、今後の実践で検証していきたい。もうひとつは、PBL（Problem Based Learning）である。近年、日本でも、大学・高専で取り入れられているが、ファイナルプレゼンテーション時に、「PBLについて知っているか？」とスタッフに聞いたときに「知っている」とのことであったので、KCCはPBLが出来ていると感じた。実際に授業訪問をした際にも、KCC学生の自己問題解決能力は目を見張るものがあったので、小職も学生に考えさせるだけの時間猶予と課題（材料）を与えるような授業構成にしたいと考えている。本題の英語であるが、本研修を受けて、学生のための教育活用というよりは、自分にとっての英語の必要性が高まったと感じた。あと何回かこのような経験を経て、自分自身、英語コミュニケーションへの自信を得て、学生へと還元していきたいと考えている。

Comparison of education style with KCC and Oshima

Takashi KUBOTA National Institute of Technology, JAPAN , Oshima College

Introduction

Why did we come to Kauai ?

【2014 JMC professional Development Program】

1. Education for global society (Need Communication in English)
2. Education for developed technology (officer/engineer 's skill and knowledge)
3. High grade Education system to grow global and developed maritime technical experts

The program is developed to improve the ability of teaching in English.



the lesson In ENGLISH



communication In ENGLISH

Observation in KCC

These were some observation to visit KCC class, and it was very interest things to communicate with teachers and study , interview them.

【MY VISIT CLASS】

15th Sep.
08:00-11:50 Carpentry, J
Carvalho
17th sep.
08:00-09:15 Hawaiian Study,
Denis
09:25-10:40 Zoology, Bruns
11:30-12:00 Culinary ,Oyama



Zoology

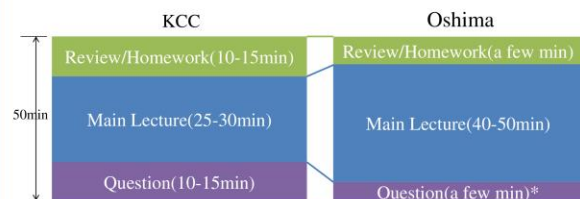
Comparison

The comparison KCC lesson with our college lesson were showed.

Quality/College	KCC	Oshima
Number of student	Varies(Less than 20 – 25)	40 student (navigation 20, engineer 20)
Age of student	Varies	15-20 years old
Classroom	unsigh	sign
Layout		

Main Point

From some comparison, the construction of the lesson was focused on



Observation:

1. KCC teachers often ask question to student, also students respond well.
2. KCC students are strongly motivated, because they always have inquisitive mind.
3. KCC student does not slack off.

Conclusion

Finally, some conclusion was clarified from Main points.

Conclusion:

1. From the construction, Lecture speed in Oshima is faster than KCC.
→ Japanese education is centered on teaching. but student is passive due to less thinking time.(no make sense time)
2. From the observation, almost KCC student is more proactive than Oshima.
→ KCC student is active, also they know **problem-solving way by themselves.**

How to improve the lesson?

In National Technical College, the education changes from passive to problem-solving(PBL).

What is PBL(problem Based Learning)?

1. growing creativeness and spontaneity/continual learning ability
2. growing communication ability

Discuss problem Lesson(Basic knowledge) Solving by oneself



The education of KCC including PBL, therefore I learned to KCC lesson;

1. Discussion time
2. make sense time
3. make student proactive(no passive)

氏 名	二村 彰
所属等	弓削商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
本研修「教員英語外地研修」は、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科の専門教員の英語外地研修として、国立商船系高専の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムである。私は、この研修を受講するに当たり、次の目的を持って研修に臨んだ。 1. 英語による授業能力の向上 2. KCC と弓削における授業方法の比較	
2. 研修の概要	
(1) 研修の日程 9月11日(木) 午後 リフエ着、オリエンテーション(Kyoko Ikedaコーディネータ)、歓迎ディナー 9月12日(金) 午前 カウアイミュージアム見学、午後 Hashisaka夫妻の講演、Hanapepe町散策 9月13日(土) 午前・午後 National Tropical Botanical Garden見学(Brian T. Yamamoto先生) 9月14日(日) 休日 9月15日(月) 午前 校内見学、午後 英語研修(Jeff Mexia先生) 9月16日(火) 午前 ハワイ歴史紹介およびKawaiikini School見学(Dennis Chun先生) 午後 英語研修(Brian Cronwall先生)、授業参観①(Oceanography: Stephen Taylor先生) 9月17日(水) 午前 授業参観②(Science: Brian先生)、Grove Farm Sugar Plantation Museum見学 午後 Tip Top CaféオーナーMr.Otaの講演、First Sugar Mill Monument見学、Mr.Gerald Hirata生家見学、Port Allen日系移民墓地見学(Mr. Gerald Hirata) 9月18日(木) 午前 授業参観③(Hospitality Management: Dirk N.Soma先生)、授業参観④(Botany: Brian先生、Marahatta先生) 午後 英語研修(Brian Cronwall先生) 9月19日(金) 午前 スピーチ研修(Public Speaking: Greg Shepherd先生) 午後 英語研修(Jeff Mexia先生) 9月20日(土) 午前 双胴船ナマホエ見学(Dennis Chun先生) 午後 自由行動 9月21日(日) 休日 9月22日(月) 午前 スピーチ研修(Presentation: Dallas McCurley先生) 午後 英語研修(Jeff Mexia先生) 9月23日(火) 午前 個別プレゼンテーション準備(Kyoko Ikedaコーディネーター) 午後 英語研修(Brian Cronwall)、英語授業実施(Oceanography: Stephen Taylor先生) 9月24日(水) 午前 個別プレゼンテーション準備(Kyoko Ikedaコーディネーター) 午後 プレゼンテーション実施(多数KCC教員聴講) 9月25日(木) 午前・午後 自由行動 夕刻 Final and Farewell Event(Brian先生、Cronwall先生、Jeff先生、Dennis先生、Ikedaコーディネータ) (2) 研修内容 研修内容を大別すると、①KCC授業体験、②英語プレゼンテーション研修、③カウアイ島の歴史、の3つに分けることができる。 ① KCC授業体験 KCC授業体験では、各教員が希望するKCC授業を受講することができた。私は4クラスを受講することができた。 ② 英語プレゼンテーション研修 英語プレゼンテーション研修では、発表内容の基本的様式、発表に対する精神的・肉体的な心構えとその練習方法を受講することができた。最後に、本番としてKCC講師陣の前で最終プレゼンテーションを実施することができた。 ③ カウアイ島の歴史 カウアイ島の歴史については、カウアイ島博物館、サトウキビ産業と日系移民の足跡について関係者の声を聞きながら見学することができた。	

3. 研修成果

私は、次の2つの目的（1.英語による授業能力の向上、2.KCCと弓削における授業方法の比較）を持って、本研修に臨んだ。ここでは、それらの目的の達成度について述べる。

1. 英語による授業能力の向上

結論として、この目的は達成された。理由として、KCC授業 Oceanography(Taylor 先生)および最終プレゼンテーションの中で、私が10分間程度の英語授業をKCC学生およびKCC講師に対して実施することができたためである。加えて、私の英語授業の終了後に、KCC学生から質問があったことも、KCC学生が私の授業を少なからず理解していると感じた。課題点として、私は学生の質問を半分程度しか理解できなかった。このことは、私のリスニングの力量不足を痛感し、同時に、私の語彙力と文法能力の向上の必要性を感じたことは、今後の課題となった。また、授業当日に Ikeda コーディネータより、私の英語授業の内容や言い回し等について多数のアドバイスを受けることができたことも、私の英語授業能力の向上につながったと実感している。

2. KCCと弓削における授業方法の比較

この目的の成果として、私の弓削における授業とKCC授業の比較によって得られた成果を挙げることができる。私は弓削商船高専で気象学を教えているが、学生の理解が進まないことに大きな悩みがあった。当初の理由として授業時間数や学生人数の問題と考えていたが、これらはKCC授業でも大きな違いはなく、むしろ、異なっていた点は、（1）学生に考えさせる機会を多く与える授業方法、（2）学生の想像を促進させる道具、に違いが見られたことが、今回の成果であった。

(1) 学生に考えさせる機会を多く与える授業方法

学生に積極的に発言させて、学生自身に考えさせる方法として以下のことが見られた。

- ・ 常に学生に「Why?」と問いかける。(Brian 先生)
- ・ 代表学生がホテルのプール管理の指導員となり他学生を指導する方法を考えさせる。(Soma 先生)

(2) 学生の想像を促進させる方法

- ・ 細胞や天体の図解を学生グループに板書させる。(Brian 先生、Taylor 先生)
- ・ 図、表が豊富な教科書を利用する。(Brian 先生、Taylor 先生)
- ・ コンピュータによる天体や地球のシミュレーションを利用する。(Taylor 先生)

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

この研修成果は、1.英語による授業能力の向上、2.KCCと弓削における授業方法の比較、の2点である。

1. 英語による授業能力の向上

今回、英語で授業を実施してみて、弓削の授業でも専門用語は英語で授業する必要があると感じた。したがって、今後は、専門用語は英語を使用していきたいと思う。また、研究発表では、英語で発表する機会を作っていきたいと思う。

2. KCCと弓削における授業方法の比較

弓削における授業では、知識偏重な授業を実施していた。今後は、シミュレーションなどを使用した学生の理解を手助けする方法を積極的に取り入れ、且つ、学生が自ら考える機会を多く与えていきたいと思う。

Compare Teaching Science Between YUGE and KCC.

Akira FUTAMURA, National Institute of Technology, Yuge College

Summary This presentation was undertaken in order to seek my problems for teaching science classes. I compared 4 qualities between YUGE and KCC classes. Consequently, length of time and number of students were very similar. But, tools of teaching and number of questions were different.

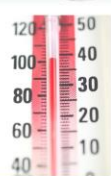
Problem of Teaching Science

To teach science classes (weather and oceanography)

Step1 : Measuring instruments



Ex. Wind
Air Temperature



Step2 : Make graphs



But, it takes ...

- (1) Long time.
- (2) Small class
- (3) Many Tools.
- (4) Other ?

Compare above qualities between YUGE and KCC.

Observation classes in KCC

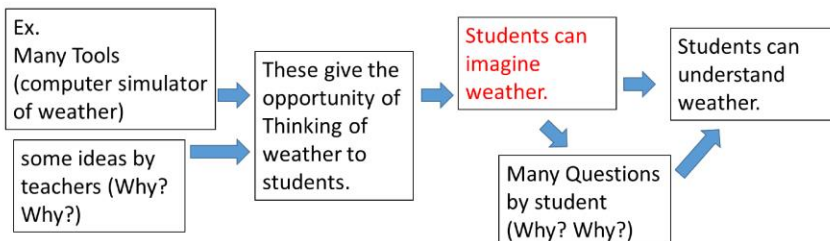
Result

Class	Teacher	Qualities	Subject1 YUGE	Subject2 KAUAI	Likeness or Difference
<u>Science</u>	:Dr. Brian Yamamoto	(1) Time schedule	30 to 60 hours Outside: twice	40 to 60? Hours Outside: twice	Very similar
<u>Oceanography</u>	:Dr. Stephen Taylor	(2) Number of students	10 to 20 persons	10 to 20 persons	similar
<u>Hospitality management</u>	:Dr. Dirk N. Soma	(3) Tools of Teaching	Mainly book and papers, some pictures	Many pictures, computer simulator	Different
<u>Botany</u>	:Dr. Brian Yamamoto and Dr. S.Hrahatta	(4) other	Few questions	Many questions of students Teacher's idea	Different

Discussion

Main Point

1. Firstly, I thought (1)time schedule and (2)Number of students are important factors.
But, YUGE and KAUAI were very similar in these areas.
2. I found different qualities in (3)Tools of Teaching and (4)others(in particular number of questions.



Conclusion

- ✓ I feel teachers have to help imagination of students.
- ✓ I will improve teaching of my class by many tools and ideas.

Acknowledgements

Thank you so much for all persons concerned of Japanese maritime colleges and shipping companies. Finally, I would like to say thank you for KCC faculty, staff and students.

氏 名	秋葉 貞洋
所属等	弓削商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科・専門教員の英語外地研修プログラムを通じて教員の英語能力および英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかり、それらの成果を学生へフィードバックしていくことで高専商船学科に求められている学生の英語能力を含めた船員教育の質の向上を目指す。	
2. 研修の概要	
9月11日(木)～9月14日(日) (1週目) 内容: カウアイ博物館見学、ハシサカ夫妻による日系人の歴史、生活についての講話、National Tropical Botanical Garden 見学。 1週目では見学、講話を聞く、解説を受けることで英会話に慣れることを目的としていた。特に植物園見学ではカウアイコミュニティカレッジ(以降 KCC)のブライアン山本先生による植物園の解説が行われた。見学はただ、植物園の解説がなされるのではなく、先生から“なぜこのような形態がとられるか?”などの質問が行われ、それに我々が答えてくという見学形態が取られ、一方的な聞きとりにならないよう配慮が感じられた(図1)。また、ハシサカ夫妻の講話についても午後からの講話であったため、その前に会食をとる形態となっていた。これも同様の配慮が働いていたと思われる。 9月15日(月)～9月21日(日) (2週目) 内容: 英語授業(A, B)、授業参観、ハワイ史概論、カワイキニ学校見学、パブリックスピーキングについての講義、グローブファームシュガープランテーション博物館見学、砂糖プランテーション発祥地史跡見学、コロアシュガーミル跡地見学、プランテーションキャンプ跡地見学、アレン港付近及びワイメア地区見学、ナマホエ(カヌー)建造現場見学。 英語授業はKCCのジェフ先生とブライアン先生によって行われた。授業は最初自己紹介から始まり、先週体験したこと、授業参観を受けKCCと日本で同じ所、異なる所は?という質問に即興で回答を求められるようなコミュニケーション能力を求めるものへ移り、3週目のプレゼンテーションについてどう進めるか?という内容へ移行した。この授業は講義が中心ではなく、対話(コミュニケーション)をメインに置いたものであった。 授業参観は、事前にKCCで行われている授業の中から希望したものを各教員個別で参観しに行く個別プログラムとなった。実際に行われている授業を参観し、日本の講義型授業とは異なる様々な形態の授業に接することで今後の講義の在り方について大変参考となるものであった。私はハワイ学、自動車関連授業、エネルギーを選択した。またエネルギー担当エリクソン先生より、先生が手掛けているバイオマス(バイオディーゼル燃料(BDF))製造装置を見学させていただいた(図2)。 見学は1週目と同じように行われた。ヒラタ氏にはプランテーションで働いた日系人の生活等について現地で解説していただき、質疑応答が行われた(図3)。 9月22日(月)～9月27日(土) (第3週目) 内容: 英語授業(A,B)、プレゼンテーションスキルについて、プレゼン準備、最終プレゼンテーション。 3週目はプレゼンテーションのまとめが中心となった。発表内題目は「Is Bio-Mass Effective Solution?」とし、日米のBio-Mass燃料に関するバックグラウンドの違いなどについてまとめた。まとめるにあたり英語授業等でアドバイスをうけながらパワーポイントを完成させた。また、プレゼンテーションスキルの授業では欧米方式のプレゼンテーションスキルについての指導を受け、最終プレゼンテーションに臨んだ(図4)。 今まで何度か国際シンポジウム等のため何度か英文パワーポイントを作成したが、欧米人に対しては日本語で作成したパワーポイントを英訳するだけでは効果的でないことを指摘され、大変参考になった。	
 図1 Botanical Garden 見学	
 図2 BDF 製造装置とエリクソン先生	
 図3 解説中のヒラタ氏	
 図4 最終プレゼン風景	

3. 研修成果

・プレゼンテーション能力の向上

これまでの経験からパワーポイントを作成するにあたり重要なポイントを簡潔に記述、または強調することで聴衆に要点を伝えることを心がけてきた。しかし、日本語話者と英語話者の感覚の違いがプレゼンを行うに当たり重要になることが今回の研修で得られた最大の成果である。特に指摘を受けた箇所は英語話者が動詞を重要視しており“is”を多用せず力のある他の動詞に置き換えるということであった。論文を読むときもまず主語、動詞、目的語を探して文意をつかむので、はっきり“～が（は）～した。”の方がわかりやすい。これはあたりまえすぎて誰も指摘しない点なのであろうが、特に私のように英語が苦手な者にとってコミュニケーションを取るうえで最も重要な情報であると考えられる。また、研修プログラム中のパブリックスピーキングやプレゼンテーションスキルの講義中に指摘された話し方や間の取り方、アイコンタクトの取り方の重要性である。我々も講義等を通じてそれらを駆使しているが、研修を通じてそれらの重要性について再認識した。

・英会話能力の向上

研修を通じ何度も自己紹介をし、話を傾聴し、つたないながら会話を繰り返した結果、英会話能力が向上したと思われる。特に研修初期はかなりの確率で話を聞き取れないことが多かった。また、話したい単語が思い出せないことも多かった。しかし繰り返し聴き、話す機会が増えることで研修終了時にはほんの少しであるが改善されたように感じられた。これは英語授業にあった出題に即興で答える課題や見学等で会話せざる得ない状況を作っていた研修プログラムの効果であると考えられる。

・日本と異なる授業形態を体験したこと。

授業参観または英語授業を通じて感じたのは、KCCでの授業は日本の講義(1方向)型とは異なり対話(双方向)型であることが大きな違いであった。講義型は短期間で大量の知識を伝えるには合理的であると考えられるが、KCCの様な活発な質疑応答を講義の中に取り入れることができれば学生の理解度のさらなる向上を図れる可能性があると思われる。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

私が担当している科目は本科で内燃機関学、専攻科で熱機関工学である。これらの講義をいきなり英語ですることは私の英語レベルおよび学生のレベル、カリキュラム内容に余裕がないことから、かなり難易度が高いと考えられる。今回の研修の経験を踏まえ、英語力アップに重要なのは英語に普段から接することであると考えている。研修概要、成果には書いていないが自動車関連の授業参観において、自分の専門分野にかなり近いため、なじみのある聞き取れる単語等が多く他の授業に比べればまだ内容が理解できた。まず、手始めとして本科の卒業研究と専攻科の特別研究の文献調査において学生の負担増にならない範囲で英語資料の読み合わせを行い、技術英語に接する機会を増やすことから手を付けていきたいと考えている。また、授業においても参考資料等を英文のものを探し、授業にとり入れることも検討したいと考えている。ただし、学生の人数の多い授業では、いままで通りの1方向の講義方式では学生はそのまま流してしまうと思われる。そのためKCCで行われていたような双方向の授業を行うなど、授業方法、教材、内容等の精査を行う必要があると思われる。

Is Bio-Mass Effective Solution?

Comparison of Japanese and the Kauai Community College

Department of Maritime Technology, National Institute of Technology, Yuge College,

Sadahiro AKIBA

Summary

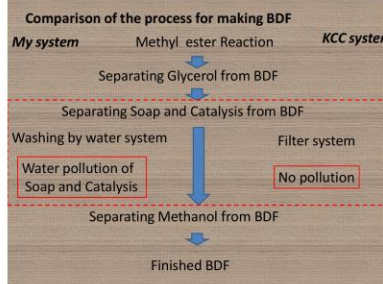
In this program, I investigated Bio-Mass Fuel of Japan and compared Japan with United State. When I made slides, KCC Staffs gave me wholesome advice. I showed points of modification and attention on the right side of the slide.

Is Bio-Mass Effective Solution?

Comparison of Japanese and the Kauai Community College

Sadahiro AKIBA
Department of Maritime Technology
National Institute of Technology, Yuge College
Ehime Prefecture, Japan

* I changed the title into "Is Bio-Mass Effective Solution ? "from "Is Bio-Mass Fuel effective for Green House Gas?". Because the simple title invites the interest of audiences.



* The difference between My system and KCC system was visually accentuated.

What is Bio-Mass?

For Example

Bio-Mass are Wood, Cooking Oil, Plant etc.

- BDF(Bio Diesel Fuel) is produced by Plant's(Rape Seed, Soibeam, etc) Oil
- ETBE (Ethyl Tert-Butyl Ether) is produced from Isobutene and Ethanol. Ethanol is fermented Corn, Sugar Cane, etc.
- Other Fuels are chip of wood, Gas of Plant, etc.

Characteristics of Bio-Mass

- Bio-Mass absorbs CO₂ during the growth.
- We can grow Bio-Mass again.

- * Examples of Bio-Mass were itemized in the slide.
- * Keywords were emphasized by the color.

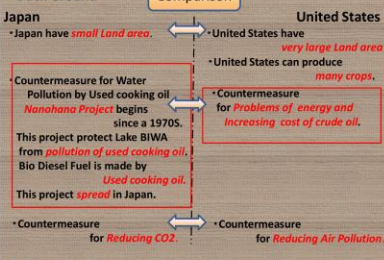
Use of Bio-Mass Fuel in Japan – Is it really effective?

Many motor vehicles uses Gasoline. As for Bio Gasoline, sale began in 2007. Bio Gasoline includes 1% to 10% of ETBE. Most ETBE is imported to Japan

Diesel car is minority in Japan. BDF is made by the using cooking oil which is collected by the garbage track. In Same Local Governments, A small number of Diesel cars use BDF.

* Key points of Gasoline and Diesel cars were itemized in the slide.

Back Ground



- * I changed the sentence into "Japan have small Land area "from "Japan is a Minor power. ?". Because audiences attach importance to verb.
- * Contents for comparison were positioned symmetrically on the slide.

Conclusion

Importing Bio-Mass to Japan use more Energy.

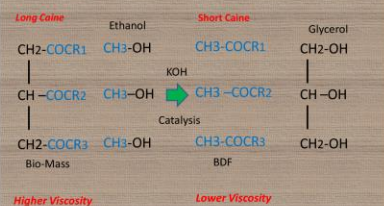
Bio-Mass just one of countermeasure and we must combine Bio-Mass with some other techniques together.

Bio-Mass is not perfect solution.

It is most important that we try not to produce CO₂ in our everyday life.

* Key points of Conclusion were itemized in the slide.

Methyl-Ester Reaction (Very important process for wide use)



* The chemical reaction was visually accentuated by the color.

Conclusion

In this program, My English ability was improved. Because I realized that English speakers attach importance to verb. This is something that can't really be experienced easily in Japan. I am grateful that you have given me this kind of opportunity.

6-5 平成 27 年度教員英語外地研修報告集

平成 27 年度 英語外地研修参加者

高専名	職 名	氏 名
富山高専	教授	保前 友高
鳥羽商船	教授	窪田 祥朗
広島商船	教授	大山 博史
大島商船	助教	本木 久也
弓削商船	教授	湯田 紀男

KCC Visit 29th August ~ 16th September, 2015 について

(1) 目的

8月29日~9月16日のKCC（リフエ、ハワイ州）で実施される「教員英語外地研修」は、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科・専門教員の英語外地研修として、国立商船系高専の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムです。本研修を通じて専門科目における英語の利用と英語による授業展開という目的に応える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

(2) 参加者一覧

教員英語研修（5名）の参加者一覧及び緊急連絡用に連絡表を資料1に示します。

(3) 旅程

旅程は以下のとおりです。

- ・事前打ち合わせ

8月28日（金） 17:00~

成田菊水ホテル会議室（扇の間・小）にて事前打ち合わせを行います。

- ・成田出発

8月29日（土）成田 → ホノルル → リフエ

19:30 搭乗手続き、ドル換金、出国審査

21:05 成田発 → JL784 → 09:45 ホノルル着

- ・入国審査において、滞在目的は観光(Sightseeing)とご回答願います。

12:28 ホノルル発 → HA343 → 13:07 リフエ着

- ・ハワイ航空は預ける荷物の重量により、お金の支払いが求められます可能性があります。

8月29日（土） ~ 9月16日（水） カウアイ島

カウアイ島の詳細なスケジュールは資料2のプログラム日程を参照して下さい。

- ・成田帰国

9月16日（水）リフエ → ホノルル

11:13 リフエ発 → HA346 → 11:46 ホノルル着

ホノルル到着後搭乗手続き、出国

13:10 ホノルル発 → JL783 → 17日（木）16:20 成田着

(4) ハワイの滞在環境

4.1 電話・インターネット

- ・電話

オアフ島とカウアイ島、ともに、国際ローミングで日本と通話できます。

i モードによるメールも可能です。

- ・インターネット

カウアイ島宿泊先：Plantation Hale は有線・無線のインターネット環境が整備されています。

4.2 ホテル

8月29日（土）～9月16日（水）カウアイ島 プランテーション・ハレ(Plantation Hale)

- ・Check-in（8月29日夕方）／Check-out（9月16日朝）
- ・カウアイ島東海岸にあるコンドミニウム形式（自炊設備付）のホテルで、食事は付いていません。リフエ空港より車で10分。
- ・宿泊費はチェックイン時にカード決済にて支払います。
- ・現地でかかる食費等はすべて個人負担となります。
- ・ホテルの詳細は <http://www.plantation-hale.com/> を参照してください。

(5) その他

5.1 航空券の半券について

経費処理上、航空券の半券が必要となりますので、後日各校の旅費担当に提出願います。

5.2 空港－ホテルの移動について

8月29日、9月16日の空港－ホテルの移動はKCC側に送迎いただくので、1/2日当となります。

5.3ESTAについて

参加者はESTAが必要になりますので、取得及び有効期限の確認をお願いいたします。

(6) 添付資料

- 資料1 参加者一覧及び連絡表
- 資料2 プログラム日程
- 資料3 緊急連絡網

以上

JMC Professional Development Program Weekly Schedule (As of 6/30/15)

Week 1	(Mon)	(Tue)	(Wed)	(Thu)	(Fri)	Aug 29 (Sat)	Aug 30 (Sun)
Bus Departs Morning							
Lunch Afternoon						13:07 Arrival in Lihue General Orientation Tour of the Area Welcome Dinner	
Bus Departs							

Week 2	Aug 31 (Mon)	Sep 1 (Tue)	Sep 2 (Wed)	Sep 3 (Thu)	Sep 4 (Fri)	Sep 5 (Sat)	Sep 6 (Sun)
Bus Departs Morning	8:40	8:40			8:40		
	9:30 – 11:00 Check-in Program Orientation 11:15 – 12:00 Campus Orientation	9:30 – 12:00 Film and Discussion “Great Grandfather’s Drum” G. Hirata	[Field Study] 10:00 – 12:00 Grove Farm Plantation Museum G. Hirata	Class Observation (please select from the list)	9:30 – 10:30 Pronunciation Clinic K. Ikeda 10:45 – 12:00 Intro to History of Hawaii D. Chun	[Field Study] National Tropical Botanical Garden (NTBG)	FREE
Lunch	Lunch at KCC	* Networking Meeting	@ Tip Top Cafe	Lunch at KCC	Lunch at KCC		
Afternoon	1:00 – 3:00 English (A) J. Mexia	1:30 – 3:30 English (B) B. Cronwall	[Field Study] 1:00 – 6:00 Heritage Tour of Plantation History G. Hirata	1:00 – 3:00 English (B) B. Cronwall	1:00 – 3:00 English (A) J. Mexia	National Tropical Botanical Garden (NTBG)	FREE
Bus Departs							

Week 3	Sep 7 (Mon)	Sep 8 (Tue)	Sep 9 (Wed)	Sep 10 (Thu)	Sep 11 (Fri)	Sep 12 (Sat)	Sep 13 (Sun)
Bus Departs	HOLIDAY	8:40, 9:10		8:40, 9:10	8:10		
Morning	Optional Activities on their own	10:30 – 12:00 Speech / Public Speaking Workshop D. McCurley	Directed Research/ Class Observation/ Interview	10:30 – 12:00 Speech / Public Speaking Workshop McCurley / Shepard	9:00 – 9:50 Hawaiian Tradition - Taro 10:30 – 12:00 Speech / Public Speaking Workshop McCurley / Shepard	Optional: Visit Voyaging Canoe Namahoe	
Lunch							
Afternoon	Optional Activities on their own	1:00 – 3:00 English (B) B. Cronwall	Directed Research/ Class Observation/ Interview	1:00 – 3:00 English (B) B. Cronwall	1:00 – 3:00 English (A) J. Mexia		
Bus Departs							

Week 4	Sep 14 (Mon)	Sep 15 (Tue)	Sep 16 (Wed)	Sep 17 (Thu)	Sep 18 (Fri)	Sep 19 (Sat)	Sep 1320Sun)
Bus Departs	9:10				5:20		
Morning	10:00 – 12:00 Presentation Rehearsal	FREE	Check-out by 8:30 Depart Plantation Hale by 9:00 11:13 Depart for Japan				
Lunch							
Afternoon	12:15 – 1:30 * Final Presentation	5:30 – 8:30 Farewell/ Final Event					
Bus Departs							

Japan Maritime College 2015 JMC Professional Development Program August 25 - September 16, 2015			Kaua'i Community College Continuing Education & Training 3-1901 Kaunualii Highway Lihue, Hawaii 96766 Phone No. (808) 245-8318	IMPORTANT PHONE NUMBERS Kyoko Ikeda: (808) 393-3914 Dr. Bruce Getzan: (808) 635-0047 Jennifer Defuntorum: (808) 652-0983 Police, Medical, Fire Emergency - 911
(Draft As of July 16)				
Date/Time	Activity	Transportation	Location	Instructor/Coordinator
Saturday, August 29: Arrival				
13:07 PM	Arrive in Lihue on HA			
13:30 PM	Depart Lihue Airport to Plantation Hale by Akita Bus	Akita Bus	Lihue Airport Baggage Claim	Kyoko Ikeda
2:00 - 3:00 PM	General Orientation Sessions (SEVIS, Model Release, Risk and Release, distribute packet, etc.)		Plantation Hale Lobby	Kyoko Ikeda
3:00 - 3:30 PM	Plantation Hale Orientation			Kyoko Ikeda
Free Time				
6:30 - 8:30 PM	Welcome Dinner			
Sunday, August 30: Free day				
Monday, August 31: Program Orientation, Campus Orientation, English (A)				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 11:00 AM	Check-in, Program Orientation		OCET 103	Kyoko Ikeda
11:15 - 12:00 PM	Campus Orientation			Georgianne Purvinis???
12:00 - 1:00 PM	Lunch at Cafeteria (at participants' own expense)		KCC Cafeteria	
1:00 - 3:00 PM	English (A)		OCET 103	Jeff Mexia
3:00 PM	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			
Tuesday, September 1: Film & Discussion, Networking Meeting, English (B)				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 12:00 PM	Filme and Discussion "Great Grandfather's Drum"		OCET103	Gerald Hirata
12:00 - 1:15 PM	Networking Meeting (Food provided Mark's Place)		????	
1:30 - 3:30 PM	English (B)			Brian Cronwall
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			
Wednesday, September 2: Grove Farm Sugar Plantation Museum, Heritage Tour of Plantation History				
9:20 AM	Depart Plantation Hale to Grove Farm Plantation Museum by Akita Bus	Akita Bus		
10:00 - 12:00 PM	Guided Tour of Grove Farm Plantation Museum			Gerald Hirata
12:10 PM	Depart Grover Farm Plantation Museum to Tip Top Café by Akita Bus	Akita Bus		Gerald Hirata
12:20 - 1:20 PM	Lunch at Tip Top (history of the restaurant by Mr. Ota, owner of Tip Top)			Gerald Hirata
1:30 PM	Depart Tip Top for Heritage Tour of Plantation History by Akita Bus	Akita Bus		
1:30 - 5:30 PM	Koloa - Wahiawa/Kauai Coffee - Port Allen - Hanapepe - Waimea	Akita Bus		
5:30 - 7:00 PM	Dinner at Wranglers (at participants' own expense)			Gerald Hirata
7:00 PM	Depart Waimea for Plantation Hale by Akita Bus	Akita Bus		

Thursday, September 3: Class Observation, English (B)				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 12:00 PM	Class Observation			
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC (at participants own expense)		????	
1:00 - 3:00 PM	English (B)		OCET 103	Brian Cronwall
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			
Friday, September 4: Pronunciation Clinic, Intro to History of Hawaii				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 10:30 AM	Pronunciation Clinic		OCET 103	Kyoko Ikeda
10:45 - 12:00 PM	Introduction to History of Hawaii		OCET 103	Dennis Chun
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (A)		OCET 103	Jeff Mexia
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			
Saturday, September 5: National Tropical Botanical Garden				
9:00 AM	Depart Plantation Hale for National Tropical Botanical Garden by Akita Bus (Please go inside the garden)	Akita Bus		
10:00 - 2:00 PM	Guided Tour of National Tropical Botanical Garden (NTBG)			Brian Yamamoto
2:10 PM	Depart NTBG for Kauai Coffee by Akita Bus	Akita Bus		
2:30 - 3:30 PM	Guided Tour of Kauai Coffee			Brian Yamamoto
3:30 PM	Depart Kauai Coffee for Plantation Hale by Akita Bus	Akita Bus		
Sunday, September 6: Free				
Monday, September 7: Holiday (Optional Activities on their own)				
Tuesday, September 8: Presentaion by KCC Faculty, Speech/Public Speaking Workshop, English				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 10:20 AM	Presenation by KCC Faculty on their research		OCET 103	TBD
10:30 - 12:00 PM	Speech / Public Speaking Workshop		OCET 103	Dallas McCurley
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (B)		OCET 103	Brian Cronwall
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			

Wednesday, September 9: Directed Research / Class Observation / Interview				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 3:00 PM	Directed Research / Class Observation / Interview			
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			
Thursday, September 10: Presentation by KCC Faculty, Speech / Public Speaking Workshop, English				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 10:20 AM	Presentation by KCC Faculty on their research		OCET 103	TBD
10:30 - 12:00 PM	Speech / Public Speaking Workshop		OCET 103	Dallas McCurley
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (B)		OCET 103	Brian Cronwall
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			
Friday, September 11: Hawaiian Tradition - Taro, Speech / Public Speaking Workshop, English				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
9:30 - 9:50 AM	Hawaiian Tradition - Taro (please come dressed to go into taro patch)			Dennis Chun
10:30 - 12:00 PM	Speech / Public Speaking Workshop		OCET 103	Dallas McCurley
12:00 - 1:00 PM	Lunch at KCC (at participants' own expense)			
1:00 - 3:00 PM	English (A)		OCET 103	Jeff Mexia
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
	Free time (dinner prepared by participants)			
Saturday, September 12: Optional - Visit Voyaging Canoe "Namahoe"				
9:00 - 12:00 PM	Optional : Visit Voyaging Canoe Namahoe		Nawiliwili Harbor	Dennis Chun
Sunday, September 13: Free				
Monday, September 14: Presentation Rehearsal, Final Presentation				
9:00 AM	Depart Plantation Hale to KCC by car	Own Car		
10:00 - 12:00 PM	Presentation Rehearsal		OCET 103	
12:00 - 1:30 PM	Final Presentation (lunch provided)		???	
	Depart KCC for Plantation Hale by car	Own Car		
Tuesday, September 15: Packing / Free , Final Event / Farewell Dinner				
5:30 - 8:30 PM	Final Event / Farewell Dinner at Hukilau Lanai			

Wednesday, September 16: Departure				
8:30 AM	Check-out of Plantation Hale			
9:00 AM	Depart Plantation Hale to Lihue Airport by Akita Bus	Akita Bus		
11:13 AM	Depart Lihue for Honolulu on Hawaiian Airlines			

平成 27 年度 研修写真集



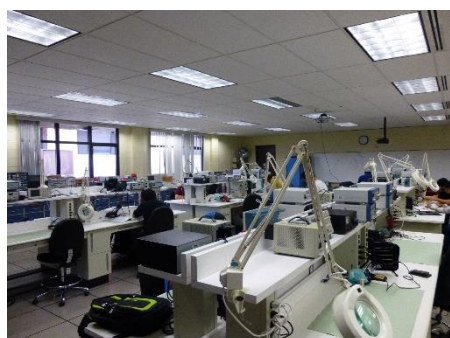
KCC Performing Arts Center



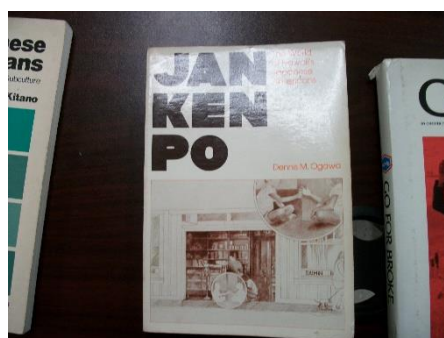
KCC 講義棟



授業見学



電子工学実験室



移民に関する資料



移民に関する資料



移民に関する資料



プレゼンの練習



英語による発表



英語による発表



英語による発表



英語による発表

氏 名	保前 友高
所属等	富山高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
「教員英語外地研修」は、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ（KCC）で行われた。本研修は、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目的とし、商船系高専の教員の能力向上のために準備されたプログラムであった。本研修への参加を通じ、実践的な英語プレゼンテーション能力の向上を目指した。	
2. 研修の概要	
本研修は、英語によるプレゼンテーション能力の向上に主眼が置かれていた。研修は、プレゼンテーションに関する授業、プレゼンテーション（自己紹介、最終プレゼンテーションの2回）、KCCの学生向けに行われている授業の参観、ハワイの歴史、文化等に関する授業、校外研修に大別できた。 プレゼンテーションに関しては、「多数の人の前で行う英語プレゼンテーションをいかに行うべきか」という点について、KCCの5名の教員により授業が行われ、時間的に本研修の大部分を占めた。米国では、上記の内容を学ぶために“Public Speaking”という授業があるそうで、本研修の授業もこの内容に準じて行われた。プレゼンテーションの構成、発表中の声や動作、パワーポイントの作成などについて、指導を受けた。 プレゼンテーションを実際に行う機会が2回用意されていた。研修期間の序盤に、自己紹介のプレゼンテーションを行った。昼休みの時間を利用して主にKCCの教職員向けに行われ、約30名の聴衆が集まった。1名5分の持ち時間で、参加した5名の教員が順次自己紹介を行い、その後、KCCの教職員を交えて懇談する形式で行われた。最終プレゼンテーションは、1名15分の持ち時間で、参加した5名の教員が順次発表する形式で行われた。内容は、各自が研修期間を通じて準備したものであり、リハーサル等を通じてKCCの教員の指導を受けた。こちらも昼休みの時間を利用して主にKCCの教員向けに行われ、約20名の聴衆が集まった。 授業の参観は、用意された時間に数学、天文学の授業を各1回参観するとともに、毎朝、デニス・チャン教員のハワイ学に関する授業を連続して合計9回参観した。 ハワイの歴史、文化等に関する授業では、日系移民の歴史についての授業、ハワイの主食であるタロイモを栽培する畑での実習が行われた。 校外研修は、日系移民の歴史を学ぶ上で重要な場所の見学、国立熱帯植物園の見学、カウアイ島で建造中のポリネシアの伝統的な航海カヌー「ナマホエ」の見学が行われた。	
3. 研修成果	
プレゼンテーションに関する授業を受け、米国のプレゼンテーションの流儀を知ることができた。まず、構成を重視していることがわかった。プレゼンテーションでは、自己紹介、トピックの紹介、なぜこのトピックを選んだのか、本題（ポイント）を3-5点程度、まとめ、という構成を守るように複数の教員から指導があった。また、話す際には、スピード（120-150語/分）、声の大きさ、流暢さ、聴衆を引き込む技術が必要であるとの説明があり、それぞれ、具体的な方法についての説明があった。例えば、聴衆を引き込むには、アイコンタクトや適切な身振り、ユーモア、質問などの方法があるとの指摘があった。また、はじめの言葉と結論の最後の言葉が重要であるとの指摘もあった。 実際に2回のプレゼンテーションを行い、英語で話さするという経験をする事ができた。特に最終プレゼンテーションでは、授業で習ったことを参考にし、リハーサル等で指導を受け、構成、身振り、視線などにも気を配りながらプレゼンテーションを行うことができた。なお、タイトルは、“Two Programs for “KOSEN” Students in KCC”（KCCで行う高専学生向けの2つのプログラム）とし、KCCで行っている商船学科向け国際インターンシッププログラムなどの説明を行った。KCCの教職員と言えども、必ずしも多くの方が同プログラムについてご存知であるとは言えない状況であったので、ご理解いただく上で、よい機会となった。 授業の参観では、富山高専の授業に比べて比較的少人数（10-20名）で授業が行われていることが印象に残った。また、学生が発言する機会が多く、教員と対話しながら進められていた。数学では小テストが行われており、富山高専と似た様子であった。ただ、取り扱っている内容のレベルに関しては、高専と比較して高いとは言えず、米国の教育システムの問題を垣間見たように思われた。 ハワイの歴史、文化に関する授業、校外研修では、カウアイ島のかつての産業としてのサトウキビ栽培の重要性、そこに関わった日系人の苦労と成功について知ることができた。特に、現存するプランテーションハウス（プランテーション労働者のいわゆる社宅）の見学が印象に残った。熱帯植物園、伝統的航海カヌーの見学を含め、カウアイ島の景色や気候を表面的に楽しむだけではなく、背景を深く知ることができた。	
4. 研修成果の教育研究への活用に向けて	
私は、今年度から専攻科の授業「衝撃工学」において、英語の教科書を取り入れたが、授業は日本語のみで行っていた。本研修を通じて、英語によるプレゼンテーションの基礎的な構成や留意点のある程度習得することができたため、今後、この知見を活かし、英語による授業展開につなげていきたい。	

2015 Professional Development Program at KCC

NIT, Toyama College
Tomotaka Homae

Object

- Requirement of giving lectures in English.
- Needs for development of ability for that.
- This program for development of the ability by
 - Taking classes of "Public Speaking", and
 - Observing classes for KCC students.

Public speaking class

- Structure
 - Self introduction
 - Introduction of the topic
 - Why this topic?
 - Main body
 - 3-5 points
 - Summary
- Speed
 - 120-150 words/min
- Volume, Fluency...
- Attractiveness
 - Eye contact, Humor, Gesture, Question...
- Beginning and Ending



Presentation Opportunities

- Self introduction for 5 minutes.
 - Beginning of the program.



Public speaking class
Class observation

- Final presentation for 15 minutes.
 - At the end of the program.
 - Focused on own specific topic.
 - As an outcome of the program

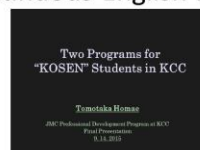
Class observation

- Math, astronomy, Hawaiian studies...
 - Small number of students.
 - 15-20 students.
 - Bidirectional
 - Dialogue, Quiz, Discussion...



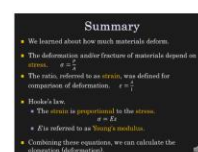
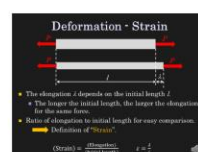
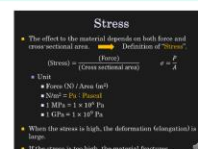
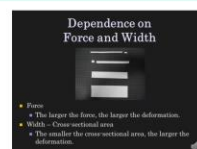
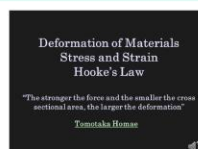
Final Presentation

- Two Programs for "KOSEN" Students in KCC
 - Introduction of two programs held in March.
- Advised and modified through the public speaking class.
- Experience of continuous English lecture for 15 minutes.



Results

- Improvement of TOEIC score.
 - +35 points.
- Giving a lecture in English.
 - Review of strength of materials, 40 minutes.
 - For 3rd year students.



氏 名	窪田 祥朗
所属等	鳥羽商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
「KCC 教員英語外地研修」は、商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指した商船学科・専門教員の英語外地研修として、国立商船系高専の教員向けに特別にデザインされた英語研修プログラムである。研修は、8月29日～9月17日まで、ハワイ州立大学カウアイコミュニティカレッジ (KCC) で行われた。本研修を通じて、専門科目における英語の利用と英語による授業展開という目的に応える、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。 この研修では、英語の語学研修だけでなく、プレゼン方法、技術の習得、ハワイ文化への理解を深めることを目的とする。最終的に、各自でテーマを選定し、研究発表会で成果を発表する。 この研修に参加することにより、自身の英語力の向上とともに、英語の必要性、英語による授業など、学生へ還元することを目的とする。	
2. 研修の概要	
8月29日(土) カウアイ到着。コーディネーターの池田さんが出迎え。ホテル到着後、協約書にサインしてチェックイン。夜は、池田さん、Dennis 先生による Welcome Dinner。 8月30日(日) 休日。 8月31日(月) 授業初日。 池田さんのチェックインから始まる。ここから、すべてが英語になる。その後、キャンパス案内があり、昼食。 午後からは、Jeff 先生の English (A)。自己紹介の仕方を学ぶ。全員が前に出て、紹介と質疑応答。次の日のネットワークミーティングに向けて、自己紹介のスライドを作成。 9月1日(火) 午前中は、日系移民の歴史の話。Hirata 先生。 資料がたくさん展示されていた。すべてプライベートで収集したとのこと。 昼食は、Networking Meeting のため、ピザや巻き寿司が用意され、多くの人が聴きにきた。3分間の自己紹介を行う。その後、フリーディスカッションになる。 午後は、Brian C.先生の English (B)。簡単な自己紹介をし、ブライアン先生に質問する形式。最後に、何を最終プレゼンテーションのテーマにするか聞かれる。次回、どのテーマにしたか発表する。 9月2日(水) Field Study 午前中は、プランテーションの歴史ツアー。Hirata 先生。 昼食は、Tip Top レストラン。日系人がオーナーの店。 午後は、Hirata 先生の生家がプランテーション会社の社宅だったので見学。次に、ハナペペを見学し、最後は、カウアイコーヒーカンパニーでコーヒーを試飲。 9月3日(木) 午前中は、授業参観。Georgianne 先生の Electronics を見学。授業は、講義と実験を並行して行う。学生数は10～15名程度。講義は先生が行い、並行する実験は、学生自身がテキストを見ながら各自で行う。実験では、計測器を用いて抵抗を測ったり、カラーコードを読ませたりしていた。各自のペースで進められるようになっている。 午後は、Brian C.先生の English (B)。まず、夏期休暇に日本で何をしたか聞かれる。その後、プレゼンテーションのテーマを発表。 9月4日(金) 午前中は、8:00 から Dennis 先生のハワイの歴史の授業を任意で見学。その後、正規の Dennis 先生の授業。45分間、ハワイのカヌーに関するビデオを見て、その後、ビデオ内容に関する質問に答える。 午後は、Jeff 先生の English (A)。今までの習ったことやカウアイで経験したことを答える。その後、プレゼンテーションの流れを講義。 9月5日(土) Field Study ボタニカルガーデンの見学。次に、カウアイコーヒーカンパニーで農園見学。最後に、潮吹き岩を見学。 9月6日(日) 休日。 9月7日(月) 勤労感謝の日で祝日。 9月8日(火) 午前の前半は、Joyce 先生の Coffee talk。アメリカでの社会問題について講義、午後の後半は、Collene Kaiminauao 先生による Public Speaking Workshop。プレゼン技術について学ぶ。 午後は、Brian C.先生の English (B)。休日に何をしたか一人一人答える。その後、プレゼンテーションの内容を発表。 9月9日(水) 8:00 から Mark Oyama 先生の Culinary Arts の授業を任意で見学させてもらう。Continental Cuisine、Asian Pacific Cuisine の調理実習。	

午前の正規授業は、Georgeanne 先生の Coffee talk。いままでの研究成果について説明を受ける。特に、NASA との共同研究について説明があった。

午後は、最終プレゼンを作成。

9月10日(木) 午前の前半は、池田さんによる Pronunciation Clinic。日本人が分かりにくい発音やリズム、イントネーションなどを講義。

午後の後半は、Collene Kaiminauao 先生による Public Speaking Workshop。学生のプレゼンからプロによるプレゼンの例をビデオ鑑賞し、真似すべき良い点や改善点についてディスカッション。

午後は、Brian C.先生の English (B)。2名が最終プレゼンテーションのリハーサルを行い、その講評を先生から聞いた。

9月11日(金) 午前の前半は、タロイモ畑の作業体験。草引きを行う。

午後の後半は、Greg 先生の Public Speaking Workshop。演劇の先生らしく、発表前の深呼吸や発声練習などを講義。各自に、テーマがその場で与えられ、即興でスピーチをする。

午後は、Jeff 先生の English (A)。Brian C.先生も来てくれる。3名の最終プレゼンテーションのリハーサルを行い、両先生から講評を受けた。

9月12日(土) Voyaging Canoe Namahoe の建設作業を手伝う。

9月13日(日) 休日

9月14日(月) 午前は、最終プレゼンテーションのリハーサル。昼休みに、最終プレゼンテーション。

午後、KCC を自由見学。

9月15日(火) 帰国準備。夕刻、Farewell Dinner。

9月16日(水) 早朝、カウアイ出発。

9月17日(木) 夜、東京着。

3. 研修成果

第一に、英語に慣れ親しむことができたことが、大きな成果と考える。英語を話すには、文法など間違えていないか、間違った英語を話していないかを心配し、いままでは話すことに躊躇することが多かった。研修を受け、間違いを気にして何も話さないよりも、間違っている話でもしようとする姿勢が重要ということを理解した。自分の思いを、相手にいかにして伝えるかを考え、時には単語だけでも良いから意思を伝える必要があると感じた。これは、英語のできない私の話を、KCC スタッフが親身に一生懸命に聞いてくださったからこそ、私自身が理解でき、成長できたと考えている。

次に、生活環境が全て英語だったため、英語で相手に用件を伝えなければならず、常に勉強する環境が整っていたと感じる。このような経験は今までになく、必要に迫られると必然的に勉強するものだと、身をもって感じることができた。この体験は非常に貴重であり、学生にも当てはまることと考える。できる限り、この経験を学生に伝えていきたいと考えている。

最後に、ハワイ文化について授業や校外学習を通して理解した。特に、日系移民の影響が色濃く出ていると感じた。そのためか、ハワイには、非常に親近感を持つことができた。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

まず、英語による授業に至らないにしても、専門用語の英語による表記などから、徐々に英語に慣れていく授業を展開したいと考える。

また、英語によるプレゼン方法、プレゼン技術について学んだので、国際会議などで研究発表する際に活かしたいと考える。特に、相手をいかに引きつけ、興味を持ってもらえるかを念頭に、一人でも多くの聴衆に研究内容を伝えられよう発表していきたい。

さらに、プレゼン技術は、日本語によるプレゼンや授業方法に活かせると思っている。この技術は、学生にも教授できればと考えている。ただし、アメリカの手法をそのまま利用すると、日本ではかなり違和感があるので、日本流にアレンジし、良い面を引き出せるよう教えていきたいと考える。

The Comparison of the Culinary Culture in Hawaii and Japan

National Institute of Technology, Toba College
Sachio KUBOTA

Introduction

- What are Hawaiian local dishes?
 - What are features of Hawaiian dishes?
 - What is the difference between Japanese dishes and Hawaiian dishes?
- I have investigated such culinary culture.

Different dishes from Japanese dishes

Dishes	Origin
Kalua pig	Polynesia (Hawaii)
Poi	
Lau lau	
Lomi-lomi salmon	Portugal
Portuguese Sausage	



Features of Hawaiian dishes

- The Hawaiian dishes are based on Polynesian traditional dishes.
- The culinary culture from Japan, Portugal, and the United States is evolved in Hawaii.

Considerations

Why do many Hawaiian dishes resemble Japanese one?

1. Rice is the staple food.
→Price of rice was cheaper than that of flour.
2. Many Japanese immigrants lived in Hawaii.

Why are there any little differences?

1. Culinary culture is changed through the time.
2. It changed to the dish suitable for a climate.
3. It changed to use the foods made in Hawaii.

Conclusion

- Hawaiian dishes are similar to Japanese dishes.
- These dishes evolve day by day and the taste is improved deliciously.
- I feel everyone in Kauai is kind.

Aren't Japanese dishes similar to Hawaiian dishes?

Hawaiian	Japanese
Poke bowl 	Duke Don 
Saimin 	Ramen 
	Soki soba (Okinawa) 
Sushi 	Sushi 
Musubi 	Omusubi 
Loco moco 	Hamburg steak teishoku 

Hawaiian	Japanese
Poke	Duke



Contents

- Tuna
- Seaweed
- Sesame
- Hawaiian salt

- Tuna
- Seaweed
- Sesame
- Soy sauce
- Sweet cooking rice wine

Main seasoning

Japanese people will feel familiarity in Kauai.

氏 名	大山 博史		
所属等	広島商船高等専門学校 商船学科		
1. 研修の目的			
参加教員の英語力向上、授業への英語利用促進、英語による授業展開を実施し、商船学科学生の英語力を向上させることを目標としている。プレゼンテーション能力向上のための授業を受け、得た知識を参加教員が活用することはもとより、他の教員に知識、経験を伝える事により、学科全体の英語教育能力の向上を目的としている。また、研修を通じて、ハワイの文化への理解、日本からの移民の歴史を理解し、今後の国際交流の在り方を考えられる人材となることも目的としている。			
2. 研修の概要			
8月31日(月) 午前 チェックインプログラム Kyoko Ikeda 先生から今後の予定について説明をうけた。また円形に座り、床に置いた石を拾った人から順番に現在のエナジーレベルやその理由など英語に慣れるためのスピーチを簡単に順番に実施した。その後学内見学を行ったが雨のため、あまり細かくは行えなかった。午後は JEFF Mexia 先生による English A の授業 自己紹介方法を習い順番に自己紹介を行った。			
9月1日(火)			
午前 Gerald Hirata 先生による日本移民の話が行われた。貧しいサトウキビ畑で働いていたこと、盆踊りの話、二次大戦中の迫害、アメリカ軍での日系人の活躍、日系人が議員になるまでの話と、ビデオでの説明であった。日系人が日本文化を守っていることが大変印象的であった。また、ハワイでは日本民謡や太鼓のテンポが速くなっていることも印象的であった。現在では、サトウキビ工場は1つしかハワイに残っていないそうである。カウワイ島でもお盆フェスティバルが行われているそうである。また、ハワイと米国本土の日系人では文化や考え方の違いがあり衝突もあったそうである。昼休みには Networking Meeting が行われ、参加教員が自己紹介を兼ねたプレゼンテーションを5分程度実施した。午後 Brian Cronwell 先生による英語の授業 B であった。			
簡単な自己紹介に始まり、先生の質問に答えた後、こちらから先生に質問を行い、そのフォロー質問などを実施した。その後発表の形式として Comparison/contrast clear and focused subjects evaluation or judgement などの説明があり、比較の方法として必ず Quality をそろえる(同じテーマで比較すること)話があった。			
9月2日(水)			
午前中 GroveFarm an Historical site of plantation Life on Kauai に行った。入植してきたアメリカ人が、水の少ない地域で灌漑用水をひき貯水池を作りサトウキビ畑を築いた話を聞いた。とりわけ川も周りになかった地域で平地に水を引き、雨の時期に水をため降らない時期に水を流すことが重要であった。またモリワキさんという日系人のサトウキビ畑労働所の生活を見た。御主人の死後奥さんは家政婦のような仕事で雇われ、子供の学費を出してもらった話を聞いた。また、サトウキビ畑労働所の創業者が病院などの設立のための寄付をした話を聞いた。午後は、サトウキビ工場跡地、日系移民の建立した寺院、日系人墓地、発電所等を視察した。			
9月3日(木) 授業参観			
Electronics	Georgianne Purvinis	9:25 – 10:40	DKITEC 101
Astronomy	Michael Hannawald	10:50- 12:05	NSCI 101
を参観した。エレクトロニクスは、内容的にはオームの法則など本科の2年程度の内容であった。教え方も日本とさして変わらない講義形式であり、テキストは分厚いものであった。黒板は全く使わず PC 画面の投影が主であった。驚いたのは、20分程度で engineering の学生と Electro technician の学生に分かれ前者は授業を続け、後者は実験を始めた。抵抗を三つにつないで電圧を計る簡単なものであるが、誰もいなくても自主的に実験を続け、テキストに答えを書き込んでいた。一人でどんどんやる学生、遅い学生、人に教えてもらう学生などの様子は日本の学生に似ていた。次に Astronomy を見学した。天球の話からはじまり、見た目の角度と距離から星の大きさを計算する問題が何問か出され、学生が解いていた。日本の授業とあまり変わらない姿であった。PC 画面の投影、PC のパッドに書き込みが主であったが、定数などは黒板に書いていた。午後は Brian Cronwall 先生の英語であった。昨日の視察の感想に始まり、最終日の発表の内容について話し合った。			
9月4日(金)			
8時~8時50分 DENIS CHUN 先生の HAWAII 学の講義を聞いた。(臨時で追加)			
9時30分~昼 DENIS Chun 先生のホクレア号のビデオを見たあと、質疑応答を行った。午後は JEFF MEXIA 先生の英語授業であった。ここでは、これまでの過ごし方を英語でスピーチした後プレゼンテーションの内容について話し合った。Introduction yourself, Introduction your topic, Why did you chose your topic? Share main ideas or points with audience. Leave some time for questions.			
等の項目を入れるように言われた。			
9月5日(土)			
一日 Braian Yamamoto 先生と植物園に行った。ユーカリの殺菌作用やオジギソウのような(sensitive plant) 塩分濃度の差を使ったポンピングによる仕組み、ほかの木の枝にぶら下がるための hook などについて聞いた。植物の能力の高さと、それを人工的な機械に応用できることを学んだ。			

9月8日(火)

9時から10時 coffee talk with Joyce Nakahara 先生に参加した。黒人差別についての話が主であった。

10時30分から Collen Kaiminaauao 先生からスピーチの仕方を習った。途中 Michel Hannawald 先生の Astronomy の授業に最終プレゼンテーションに使うためのアンケートを取りに行った。

午後からは、Brian 先生の英語授業で昨日の過ごし方、プレゼンの進捗状況、プレゼンの作り方などを習った。

9月9日(水)

Georgian 先生の話 9~10時 彼女の教育について特に NASA のロケットにのせた UV 測定器の話は面白かった。次の打ち上げには浜松ホトニクス社製のマイクロ PMT を使った中性子測定器を載せる予定であると同った。その後 Michel Hannawald 先生の化学の時間にアンケートを取りに行った。

その後再び Georgian 先生に授業方法やカリキュラムについてのインタビューを行った。昼は鹿児島高専の学生のプレゼンテーションを見た。午後はプレゼンテーションファイルを作成する時間にあてた。

9月10日(木)

午前 Kyoko Ikeda 先生と話し合いをした。

Collen Kaiminaauao にプレゼンテーションの下手な例2例とうまい例 (TED) 2例を見せてもらい、プレゼンの仕方を学んだ。

午後は作成した最終発表を Brian Cronwall 先生に見てもらい修正を施した。

9月11日(金)

午前 タロイモ畑で作業を実施。ハワイの仕事の大変さのほんの一端ではあるが感じる事ができた。

10時から Gregory Shepherd 先生にプレゼンテーションの方法を習った。演劇の先生で呼吸の仕方や話し方など、大変参考となった。

午後は JEFF 先生にプレゼンを見てもらった。

9月12日(土)

雨のためナマホエ見学は中止。視察、発表練習を個人的に実施した。

9月13日(日)

ナマホエ見学を行い、制作を手伝った。

9月14日(月)

最終発表を実施し、無事終了した。DVD に録画していただいた。

9月15日(火)

8時から DENIS 先生のハワイ学の授業を見学。ハワイの神話についてであった。9時20分から大島商船の学生の発表を見学。夕刻よりお別れ会。

3. 研修成果

到着した日から英語漬けの毎日であり成果は大きいように思う。英会話に関しては、学生向けの授業とは違い、通訳なしですべての授業が行われた。また自らの英会話力向上のため、店員やホテルのロビーでは必ず話すように心がけ、町で出会った人やバスで隣に座った人等とも会話をしよう心掛けた。その成果もあり、聞き取り能力、会話能力を向上させることができた。昼休みには KCC の教授と話すことを心掛けるとともに、授業終了後には学校の仕組みや単位の出し方等についてのインタビューを行った。また、学生から直接意見を聞くためにアンケートを作成し、2クラスでアンケートを実施した。アンケートの結果は最終発表の内容として使用した。ホテルにいる時間は持参した TOEIC の参考書を習った内容を取り入れながら発音し、最終発表のための発音練習を行った。授業の多くがプレゼンテーション技術に関するものであり、そこから得たものを最終発表に数多く用いることができた。ハワイ文化、日系移民についても多くを学び、日系人の先生からは、日系人の労働の厳しさを描いた歌やハワイ語の歌を教えていただき、一緒にウクレレを弾きながら歌う機会も持つことができた。

最終発表は、授業で得た知識を全て取り入れることができ、今まで自分がやってきたものとは全く違うスタイルの発表をすることができた。発表後ビデオ録画した自分の発表を見たが、発音、滑舌の悪さや同じ単語ばかりを使っている点、落ち着きのなさなど修正すべき点が多々あったが、今後の教育に生かすという意味でも大変有意義であった。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

現在海事英語及び TOEIC リスニングの授業を担当しており、今回の研修で得た成果は、学生の会話力、リスニング力の向上は直接役立てることができる。生の英語を短い期間ではあったが活用したことは、今後の授業展開に説得力を持たすことができるとともに、授業への自信にもつながると思う。また他の教員にも自分の経験を伝え、学科全体の語学能力が向上することにつなげたい。

プレゼンテーションに関しては、枠組みや構成などをまず学んだ。これは直接自らの発表に活かせるとともに、プレゼンテーション方法を教える授業は日本ではあまり行われていないが、今後学生指導に活かせるものである。また日本とハワイとは発表に対する考え方が少し異なっているが、呼吸法、身のこなし、声の出し方等学んだことは数多く、学生指導に可能な限り取り入れていきたい。

ハワイ文化、日系移民の歴史、黒人差別についての内容は学生指導のバックグラウンドとして取り入れていきたい。

Study in KCC

National Institute of Technology,
Hiroshima College
Hiroshi Ohyama

Observation of classes

- We **observed** classes.
- I observed the astronomy
and the electric circuit classes.
- After that I talked two **professors** about
the education system of KCC.

I started to think “I want to know what the KCC’s students are **thinking**”.

- I made a questionnaire.
- It has only four questions.
- 1, Write what you are **interested** about in this lecture.
- 2, Write what you are **NOT interested** about in this lecture.
- 3, Write what you think **difficult** in this lecture.
- 4, Write what you think **easy** in this lecture.



**Astronomy : 17 students
Began two weeks ago
and
Chemistry : 24 students
They studied it last year.**

Typical Answers

Interesting

planets, stars

elements, experiments, chemical reactions

Not interesting

homework,

unit conversion, making graphs

Difficult

mathematics

computer, unit conversion

Easy

Solar system,

professor

I made lists.

Interesting

1. elements on the periodic table, how they apply to us
2. science, chemicals, elements. What we are made from, used for
3. examples, (homogeneous, heterogeneous)
4. chemicals, (fertilizer based nutrients)
5. what stuff are made of, how chemical reactions take place, how chemical reactions are used to make materials
6. elements come together to create new and more substances, how to create substances

How to apply myself outside with my knowledge

7. periodic table elements, all the conversions, lab explosions
8. entire concept, chemical reaction
9. chemical reactions of different substances, lab experiments
10. chemistry
11. half-life, radioactivity, periodic table
12. chemical react
13. To maintain my high GPA, The more you know, the better you know, knowledge to help future chemistry classes
14. experiments, exposure to chemicals, uses of chemicals, states of matter
15. math, new things
16. physical and chemical changes, chemicals react with each other
17. physical changes in some stuff
18. different labs, different things react
19. DNA, biological systems, applications of chemistry
20. chemical reactions, lab experiments, Professor Hattiswald (Style of teaching)
21. learning about chemical bonding, acid base reaction
22. elements, mixing things
23. credit, science, Teacher is enthusiastic
24. experiments, chemical reactions

NOT interesting

1. math problems, converting units
- 2.
3. nothing
4. Radioactive, nuclear
5. Memorizing trivial thing
6. making Graphs, writing reports reading large amount of information, memorize

I could read the lists.

I have to analyze the lists scientifically.

I applied a formula that I learned from Professor Fujimoto.

He belongs to Nagasaki University.

Vector Method

- The answers are categorized for filling in.
- Count the number of answers filled in each category
- Make tables

Table for astronomy

	interesting	NOT interesting	difficult	easy
star	14			1
universe	11			
teacher	3			2
Relation between stars	5	1		5
Science aspects	2	1		3
room condition	2	2	1	1
homework		2		
mathematics		9	9	3
calculation			5	
unit conversion			3	1
Terms		1	3	
imaging the universe			1	
Taking notes				1

Table for chemistry

	interesting	NOT interesting	Difficult	Easy
Elements	5			2
Chemical reactions	11			
Experiments	6	2		2
Chemicals	3			1
Materials	5		1	3
Application of chemistry	5			1
GPA	2			
Teacher	2		2	3
Learning Chemistry	7		2	
periodic table	2			
math	1	4	5	3
unit conversions	1	6	9	1
biology	2			
atomic physics	2	3		1
Making graphs		5		
Homework		2	2	
Memorizing		3	1	
Reading books		2	2	1
Writing reports		2		1
organic chemistry		1		
calculations		1	5	
computer			5	
redox reaction			1	
room condition			1	2
Taking notes				1
significant figures				2

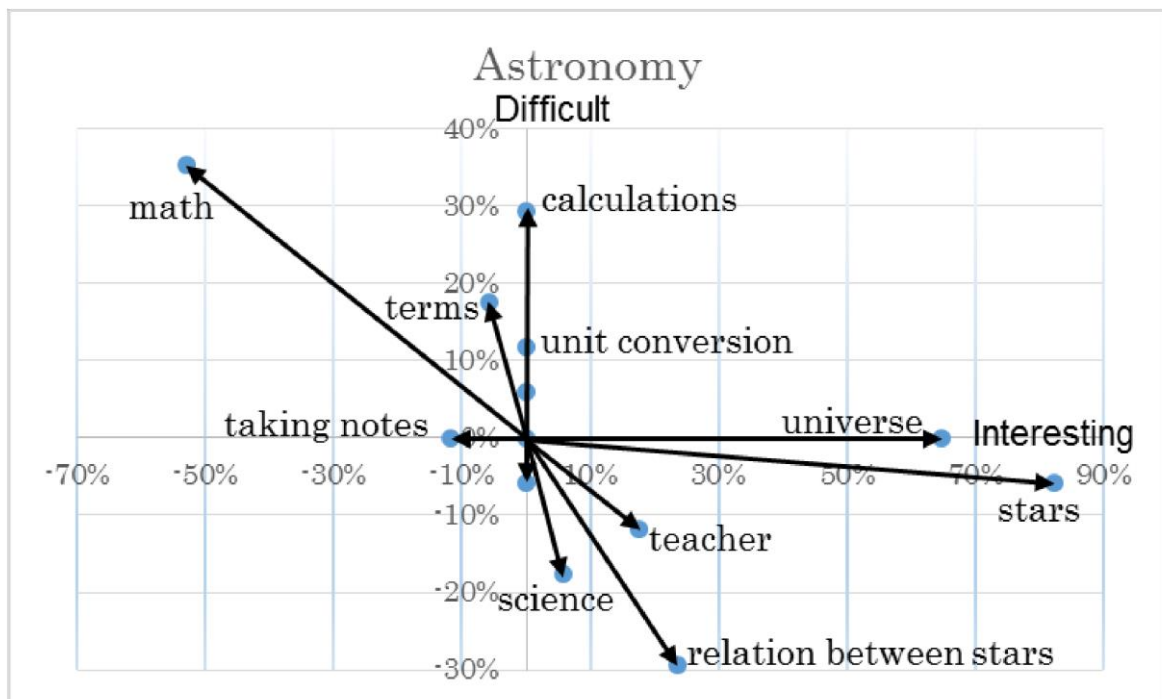
Example

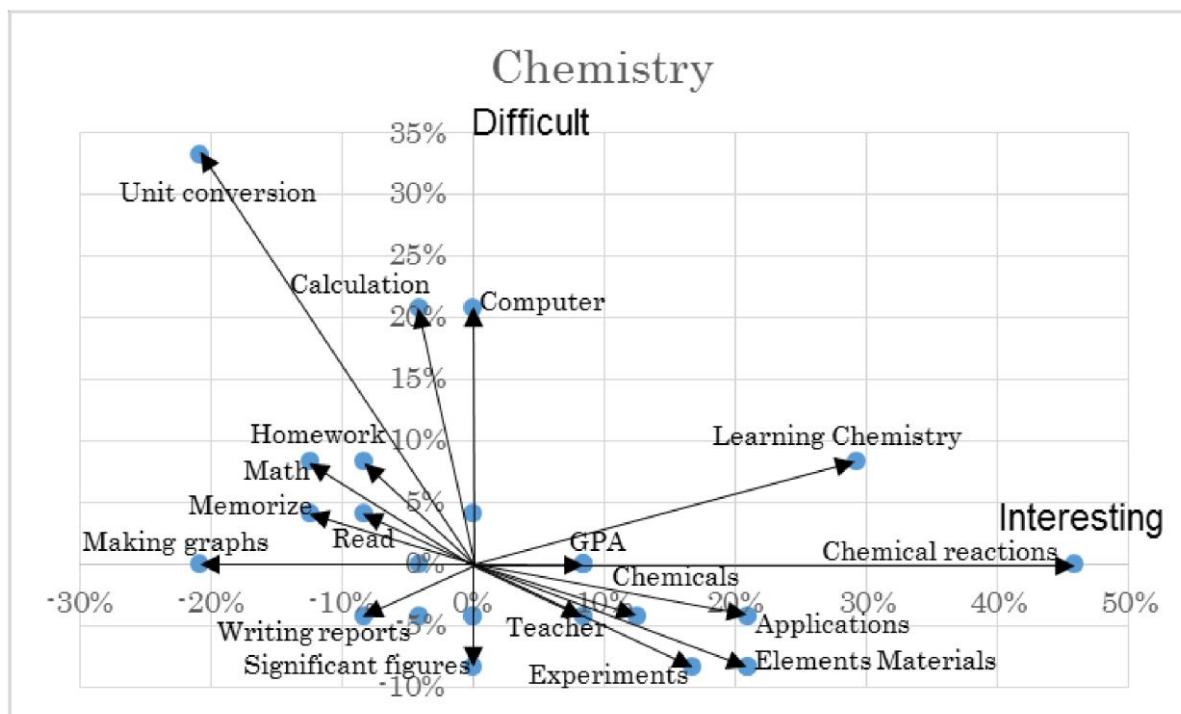
	Interesting	Not Interesting	Difficult	Easy
Japan	10	2	12	12
Kauai	19	5	2	18

	Interesting(X)	Difficult(Y)
Japan	8	0
Kauai	14	-16

For Making Vectors

- The numbers in the tables are **divided** by the total number of students for **normalization**.
- **Plot** them on graphs





Conclusions

I gave a questionnaire to students and applied the vector method to their answers

I could know what the students thought.

Furthermore

- If I made this analysis at the end of semester, I could get more improved answer.

氏 名	本木 久也
所属等	大島商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
私が計画した教員英語外地研修の目的は、 1. 商船学科の授業につき英語の利用の促進をするために英会話能力を向上させる。 2. 校内練習船実習を行う際に英語を取り入れ、作業指示や船内コミュニケーションを英語で行うために、教員の英会話能力を向上させる。 3. 英語圏の実習生が本校練習船に研修で乗船する際に、研修成果向上のために教員の英会話能力を向上させる。 4. KCC の教員と更なる情報交換を行うきっかけとする。	
2. 研修の概要	
(1) 研修日程 8 月 28 日(金) 午前:成田へ移動 岩国空港～羽田空港 航空機利用、午後:1700 より成田菊水ホテルにて事前打ち合わせ。 8 月 29 日(土) 午前:空港で待機、午後:2105 時発ホノルル行き搭乗、1300 時(ハワイ時)リフエ空港到着、宿泊場所へ移動し宿泊場所で KCC 担当者と受講に関する契約を行った。 8 月 30 日(日) 午前、午後:食料品店の場所確認、食品、生活用品の購入。 8 月 31 日(月) 午前:Check in program(池田さん)、午後:English class(J. Mexia 先生)英語のプレゼンテーションの構成 9 月 1 日(火) 午前:Great grandfather's drum(Hirata 先生)日系 3 世の Hirata 先生が農耕道具、古書を持参し授業を行った。福島からの移民の方が太鼓や盆踊りで交流されているのが印象的であった。午後:Network Meeting 自己紹介を兼ねてショートプレゼンテーションを行った。 9 月 2 日(水) 午前、午後:Hirata 先生のガイドの下、Field Study “Grove Farm Plantation Museum”の見学、砂糖工場跡地の見学、砂糖工場の労働者宅跡の見学、日本人墓地へのお参り、旧 Japanese Town の見学。 9 月 3 日(木) 午前:Class observation 各授業を回り受講オブザーバーとして受講した。本木は Astronomy を受講、午後:English Class(B)(B. Cronwall 先生)様々な質問を行う質疑応答の授業を受けた。待ち時間が長いように感じられた。最後は、プレゼンテーション関係授業。 9 月 4 日(金) 午前:Intro History of Hawaii(D.Chun 先生)2007 年のホクレア号の公開を題材とした授業、午後:English Class(A)プレゼンテーション関連。 9 月 5 日(土) 午前、午後:National Tropical Botanical Garden 見学(B.Yamamoto 先生 日系 3 世) ハワイの植物の紹介、植物の習性を触って、「何故こんな形をしているのか考えて」が繰り返され、興味引くのが上手く、実習で船を説明する際の学生の興味を引く手法に活用できる授業方法であった。 9 月 6 日(日) 島内西、北西岸の観光、ワイメア市街、ワイメア溪谷へ観光。 9 月 7 日(月) 労働感謝の日につき休日、島内北岸の観光。 9 月 8 日(火) 午前:Speaking Work Shop(Colleen Kaiminaauao 先生) プレゼンテーションのリズム、間の取り方についての講義、午後: English Class(B)(B. Cronwall 先生)、休日に何を行ったか質疑応答を行った。 9 月 9 日(水) 午前、午後:Directed Research/Class Observation Interview 教室でプレゼンテーションの準備を行った。本木は午後から Kauai Museum を訪問しプレゼンテーションのための移民に関する資料収集を行った。 9 月 10 日(木) 午前:Coffee Talk(Joice Nakahara 先生)米国の社会についての講話、Speaking Work Shop(Colleen Kaiminaauao 先生)プレゼンテーションのリズム、間の取り方についての講義、午後:プレゼンテーションの準備。 9 月 11 日(金) 午前:Hawaiian Tradition Taro(D.Chun 先生)にてタロイモ畑の除草作業を行いハワイの伝統文化、午後:English Class(A)(J. Mexia 先生)&(B. Cronwal 先生) プレゼンテーションの予行(Dry Run)を行った。 9 月 12 日(土) 午前:雨天のため Namahoe オーシャンカヌーの作業は中止。 9 月 13 日(日) 午前:Namahoe オーシャンカヌーの建造の加勢を行いハワイ原住民とポリネシアの繋がりについて講話(D.Chun 先生)があった。午後:プレゼンテーションの準備。 9 月 14 日(月) 午前:プレゼンテーション会場の設定と Dry Run を行った。午後:プレゼンテーションを行い。研修を完了した。本木は周防大島からハワイへの移民が何故多いのかを題目とした。 9 月 15 日(火) 午前:D.Chun 先生のハワイ学の授業を見学、大島商船高専の学生のプレゼンテーションを見学し学生の情報交換へ参加した。午後:帰国準備、夕刻:KCC から送別会の招待を受け、受講修了証書の授与があった。 9 月 16 日(水) 午前:Lihue 空港発、成田行き帰路に着いた。成田空港より羽田空港へ陸路移動。羽田空港発、岩国空港着。帰宅。 (2) 研修内容 ① 英語コミュニケーションの実践的な習得。 ② 英語を利用したプレゼンテーションの方法。 ③ カウアイ島の歴史、ポリネシアよりハワイ原住民が移住した歴史、日系人移民の製糖工場での歴史と先の大戦中の生活状況。 ④ タロイモを中心とした食文化の紹介。	

3. 研修成果

この度の英語研修は上記1項の目的をもち参加したが、どちらかと言うと話を聞くという授業が多く、自分で会話を求められる機会が少ない状況であったのは心残りであった。

英語圏の中での研修であったので、自分が平素から行っている英語の学習がどれだけ効果があるのか試す事ができ、現在の状況では英語授業を行うにはまだまだ力量不足だということを肌身を通じて、実感することができた。

KCCの教員が英語で行う授業を受け又は、見学し授業の組み立て興味の引き方等を見る事ができた。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

1. 現在担当している海事英語について授業の進め方について今回体験できた授業方法を実践していきたい。
2. 今回の英語圏での研修成果を校内練習船での実習時に英語を使用した作業指示、並びに、英語を利用した船内コミュニケーションに発揮させたい。



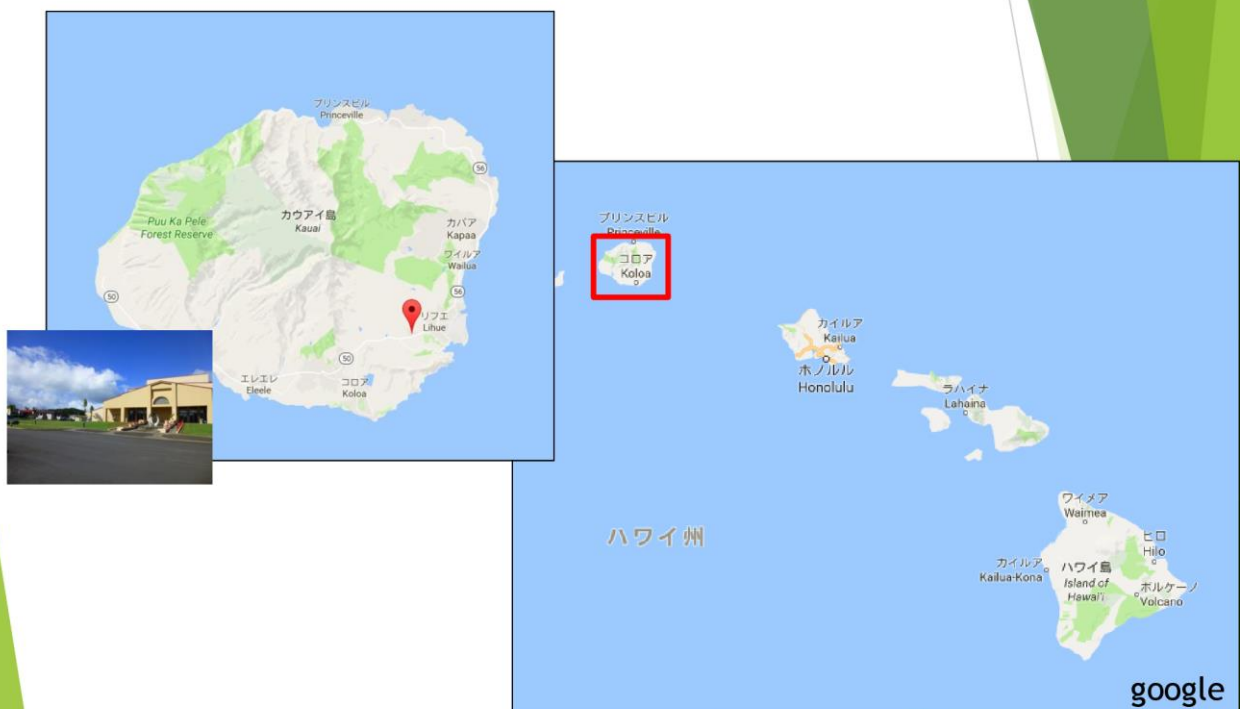
2015 JMC Professional Development Program in Kauai Community College (KCC) (English Training)

August 29th - September 16th, 2016

National Institute of Technology, Oshima College

Hisaya Motogi

The Location of Kauai Community College (KCC)



Participants



KCC English Training

Studies

- English Study
- Pronunciation Clinic
- Speech / Public Speaking Workshop
- Way of Presentation
- Hawaiian History
- Class Visitation and Interview
- Film : Hokulea's Passing the Torch
- Film and Discussion
- Final Presentation

Fieldwork

- Grove Farm Plantation Museum
- Heritage Tour of Plantation History
- National Tropical Botanical Garden
- Hawaiian Tradition Taro
- Visit to Voyaging Canoe Namahoe
- Sightseeing

English Final Presentation

Schedule <1st week>

	A.M.	P.M.
Aug. 29(Sat)		Arrival in Kauai
30(Sun)	Pick-up rental car	Purchase of household goods
31(Mon)	Orientation	English(A)
Sep. 1(Tue)	Film and Discussion Japanese Immigrants Great Grandfather's Drum	At noon : Network Meeting English(B)
2(Wed)	[Fieldwork] (Grove Farm Plantation Museum)	[Fieldwork] (Heritage Tour of Plantation Museum)
3(Thu)	Class Visitation	English(B)
4(Fri)	Film : Hokulea' Passing the Torch	English(A)
5(Sat)	[Fieldwork] (National Tropical Botanical Garden)	[Fieldwork] Kauai Coffee

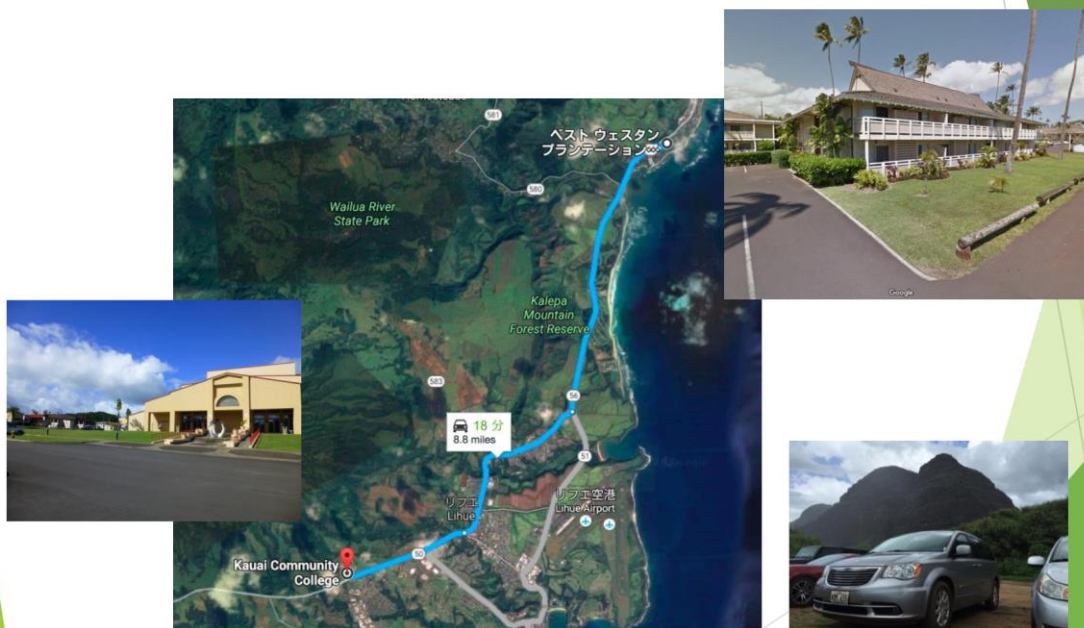
Schedule <2nd week>

	A.M.	P.M.
6(Sun)	Free	Free
7(Mon) Labor Day	Optical Activates their own	Optical Activates their own
8(Tue)	>Coffee Talk >Speech/Public Speaking Workshop	English(B)
9(Wed)	Directed Research/Class Visitation Interview	Directed Research/Class Visitation Interview
10(Thu)	>Pronunciation Clinic >Speech/Public Speaking Workshop	English(B)
Sep. 11(Fri)	>Hawaiian Tradition Taro >Speech/Public Speaking Workshop	English(A)
12(Sat)	Free	

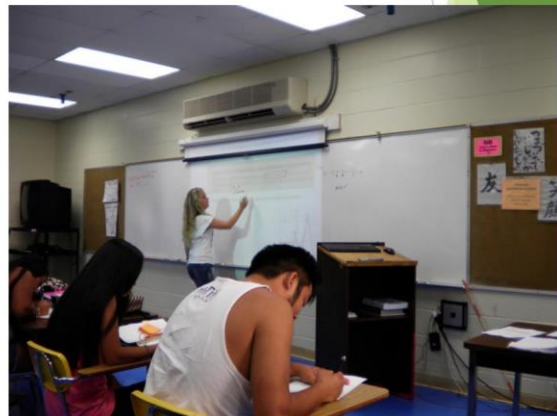
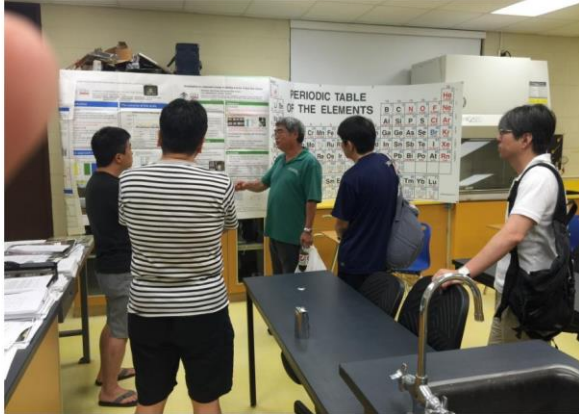
Schedule <3rd week>

	A.M.	P.M.
Sep. 13(Sun)	Visit Voyaging Canoe Namahoe	Free
14(Mon)	Presentation Rehearsal	Final Presentation
15(Tue)	Free	Farewell / Final Event
16(Wen)	Depart for Japan	

Moving from Hotel to KCC by Rental Car (One way, about 14km)



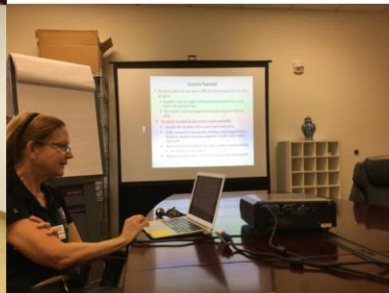
Class Visitation



Study



- ▶ Network Meeting (Self presentation)
 - ▶ Self-introduction
 - ▶ Workplace
 - ▶ Specialized field
 - ▶ Contents of the lesson



Filedwork



- ▶ Sugar Plant
- ▶ Grove Farm Plantation Museum
- ▶ Immigrant's Buddhist temple
- ▶ Japanese Immigrants' Graveyard
- ▶ Kauai community MARKET
- ▶ Kauai Coffee Plantation
- ▶ National Tropical Botanical Garden

Filedwork



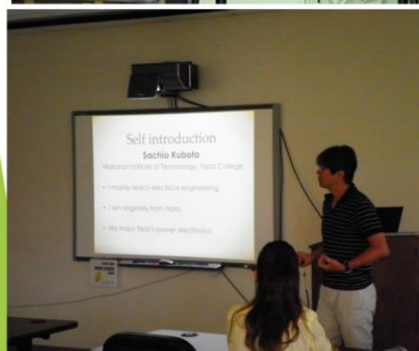
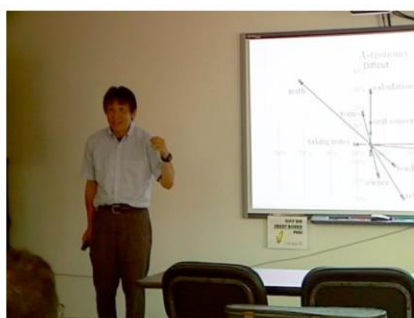
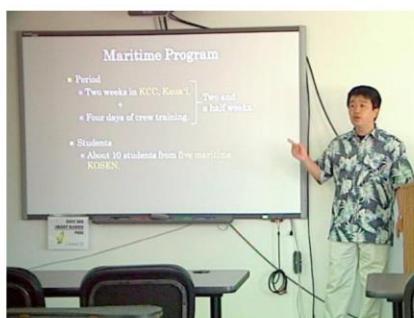
- ▶ Kauai community MARKET
- ▶ Kauai Coffee Plantation
- ▶ National Tropical Botanical Garden

Filedwork

- Farm work at KCC Taro Patch



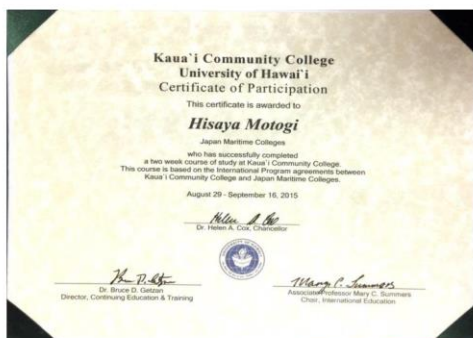
Final Presentation

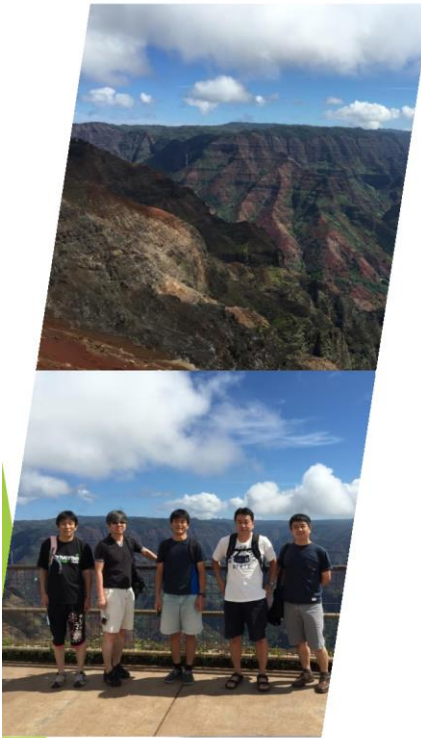


Optional Study Ocean Canoe “Namahoe”



Graduation ceremony





Thank you very much for your attention.

氏 名	湯田 紀男
所属等	弓削商船高等専門学校 商船学科
1. 研修の目的	
私の研修の目的は、ヒアリングの向上、英語で話す時の表現力の向上である。相手の話が聞き取れなければ会話は成立せず、また、表現力無しには上手く伝わらないからである。この二つの目的を持ってこの研修に参加した。加えて、これらの向上が今後、語学力が必要とされる商船学科の学生教育に活かされるものと考えている。	
2. 研修の概要	
研修日程 8月28日（金）事前打ち合わせ（成田菊水ホテル会議室） 8月29日（土）午後 リフエ到着、プランテーション・ハルにチェックイン、ウエルカムパーティー 8月30日（日）休日 8月31日（月）午前 オリエンテーション（KCC）Ikeda先生 午後 English（A）Jeff先生 9月 1日（火）午前 Film and Discussion Hirata先生 昼 Networking Meeting 午後 English（B）Brian先生 9月 2日（水）午前 Guided Tour of Grove Farm Plantation Museum Hirata 先生 午後 Heritage Tour of Plantation History Hirata 先生 9月 3日（木）午前 Class Observation (Math 103, 二次関数) 午後 English（B）Brian先生 9月 4日（金）午前 Film ; Hokule'a Passing the Torch, Introduction to History Hawaii Dennis先生 午後 English（A）Jeff先生 9月 5日（土）午前 Guided Tour of National Tropical Garden Yamamoto先生 午後 Guided Tour of Kauai Coffee Yamamoto 先生 9月 6日（日）休日 9月 7日（月）休日 9月 8日（火）午前 Coffee talk, Public Speaking Workshop Colleen先生 午後 English（B）Brian先生 9月 9日（水）午前 Coffee Talk Georgeanne 先生 9月10日（木）午前 Pronunciation Clinic Ikeda先生、Public Speaking Workshop Colleen先生 午後 English（B）Brian先生 9月11日（金）午前 Hawaiian Tradition Dennis先生、Public Speaking Workshop Greg先生 午後 English（A）Jeff先生 9月12日（土）休日 9月13日（日）Visit Voyaging Canoe Namahoe 9月14日（月）午前 Presentation Rehearsal 午後 Final Presentation 9月15日（火）夕方 Farewell Dinner 9月16日（水）Check out Plantation Hale, Depart Lihue for Honolulu 9月17日（木）成田着17時頃 9月18日（金）帰宅（広島）	
3. 研修成果	
ヒアリング向上については、熱心な授業や日常生活において、リアルな英会話に触れ以前より会話の内容が聞き取れるようになった。日本においては、発音やアクセントや抑揚がなかなか身に付かない。しかし、英語だけの環境に加え、授業で真剣かつ集中して聞き取ろうとする事で、ヒアリング力が向上したと考える。 会話における表現力については、アイコンタクト及びジェスチャー（ボディーランゲイジ）を会話に取り入れ、理解しやすい表現力を身に着けるよう指導があり、多少なりとも身に付いたと考える。 Coffee Talk において、授業から離れて、アメリカの人種問題等について会話がなされた。日本にはあまり馴染みのない内容ではあったが、人種問題の深い問題点等、歴史も含めて理解する事ができた。	

ハワイの移民の歴史についての授業では、日系の移民の苦勞と活躍に触れる事ができ、現在に至るハワイの歴史を学ぶ事ができた。また、文字や講義のみではなく、現場をバスで巡る事ができ、より深く学ぶ事ができた。

授業見学については、数学の基礎（二次関数）を見学した。講義の下準備（テキスト）が分かりやすく、時間配分（講義、質疑、小テスト、解説、宿題）が良くできていて感心した。これについては、今後、自己の講義の参考としたい。意義のある授業見学となった。

今回の講義の中心的な内容は、プレゼンテーションに関するものであった。構成、スピード、音量、抑揚、アイコンタクト、質問、そしてジョーク。これらを如何に効率よくまとめて発表するかについての熱心な講義を受け、日頃の自己の講義や、学会における発表との違いを知り、分野が異なり、初めて会う人達に対するプレゼンテーションの仕方を学んだ。発表の練習においては、沢山のKCC教員からアドバイスを受け、英語によるプレゼンテーションをするための自信が付いた。

今まで英語だけの環境下で、英語だけを学ぶ機会は無かった。この研修において、集中して語学力の大切さを知り、今度後の学生指導に活かしたいと考える。

4. 研修成果の教育研究への活用に向けて

現状として弓削商船の学生の英語力はとても低い。これには様々な問題があると考ええる。一つは、日本の英語教育が不十分であった事によると考える。中学校における英語の授業は、読み書きが中心であり、英会話教育に時間を十分に使用していない点があると考ええる。英語の授業以外で英語に触れる環境にあまりない日本では、読み書きだけによる指導では不十分であり、外国人と話す機会を多く持つためには、会話力を向上させる指導があるべきであると考ええる。多少なりとも外国人と会話が成り立てば、英語に対する興味もより深まり、学ぼうとする気力が湧き、必要性を理解できるものと考ええる。外国語の基礎、基本は会話であると考えるが、外国人教師の数が少なく、会話指導があまりされず、他の教科と同様に、授業時間内でしか使用しない語学であった事が、語学力の低迷の原因の一つであろう。

二つ目には、外国語の必要性を知る機会があまりに少ない事ではないかと考える。日本においては、日本語で十分生活できる。外国語を必要と感じる時は、海外旅行に行ったとき、海外と取引のある会社に就職して初めてその必要を知る。必要性を感じない学生は、語学を勉強しようと思わないのは当たり前である。特に、大学入試を経験しない高専生は語学を学ぶ必要性を感じない。

昨年、社船研修において、31日間、飯野海運の外航船に乗船した。今年は、英語研修でKCCにおいて、集中的に英語研修を経験した。この経験を活かして、自己の講義に少しずつ英語を取り入れ、また、英会話の必要性を説き、学生の英語力向上に貢献したいと考える。

My instructing method of the Graduate Study —Making an Propeller—

National Institute of Technology, Yuge College Maritime Technology Department

Norio YUDA

Problems in the presentation in English

At the Kauai Community college, I learned about a method of the presentation. I am required a publisher, an intonation, an accent, a tempo, eye contact and some jokes in a presentation. However it was difficult for me to practice these factors.

Three days ago of the presentation, My title of the presentation was announced to me. This title was about education. It is very difficult for me to announce my education theory in English. In addition, there are some problems. For instance, there are not a photograph and a document.

On this poster, I introduce the document of the announcement which I used and comment on my announcement content.

Self-Introduction

My Special Field: Naval Architecture

Teaching Subjects: Hydrodynamics, Ship-Movement Dynamics, and so on

Staff Advisor to A Club: Baseball



My team took second place in Shikoku division in only 9 members except a manager. That result was brilliant feat in 14 years.

Congratulations!

Volunteer activity: Experience-Based Voyage for Children






In this process, it takes much time. Students can not cut it along a corner and a curve.



After several hours passed, I gather my students and discuss it together.

Discussion:

I: I did not say you cut. Save time more. You must work thinking about the next stage. Do you have the method to shorten time? Do you have the method to cut it along a corner and a curve?

I: Can you adopt a process to make a hole in it. To Make a hole in the plate is easy and immediately, additionally I have drilling machines.

I: If you can make a little bigger hole, the band saw can turn in the hole. As a result, you can easily cut it along a corner and a curve.




I: Do you understand? You start it again from the first process.

*At first I introduced my collage introduction, self-introduction, and a volunteer.

The Graduate Study

What is the Graduate Study?

- The Graduate Study means to perform a technical investigation or research in a laboratory.
- At my collage, the Graduate Study is a required subject.
- Students can graduate after they pass the presentation and the thesis on the Graduate Study.
- The period is for half a year.

*KCC does not have the Graduate study. So, I easily explained the study.

*After several hours passed, I gather my students and discuss it together. After arguing with the students, and having let them think, I let them catch the next process. The education takes time. In addition, I let students experience failure and let them think, and it is necessary to let them start it again. Education needs patience and costs the money, too.

My Instructing Method for The Graduate Study:

- My style is to make a thing such as a tool for experiment and perform an experiment and a measurement.
- All the students wrestle with manufacturing and the experimental measurement.
- My concept of the instruction is

"To teach is not to teach."

- I always try not to teach as much as possible.

Reason not to teach:

- It is important that letting a student experience, think, and have a process to think about.
- It is especially important that students have a failure.
- Thinking simply is bad, foreseeing a former and former point is so good.
- Students must have an ability to simulate failure and success in their head.

My target of instruction:

I want to bring up a person who thinks by oneself and advance forward.

Right process:



Process to make a hole in



Process to cut through between one hole and the other hole.

The second process:

I: You add an angle to the wings of propeller.



NC Milling Machine

A problem occur in this process.

Problem: Students move an END MILL to the opposite side wing and plane the surface of the wing in the state not to change the angle of the stage.

*The second process is to add an angle to the stage and plane the surface of the wings. In this process, the propeller becomes one side is 8 degree, the other side is -8 degree. But students move an END MILL to the opposite side wing and plane the surface of the wing in the state not to change the angle of the stage. After that, I say, "You start it again from the first process."

*I introduced about my instructing method. I emphasized **"To teach is not to teach."** In Japan, children of the passiveness that cannot think about are increasing recently. When they are not supported, they do nothing. Therefore I explained my instruction method.

An Example

-Making an Propeller-

The first process:

I: You make a propeller from an aluminum plate.



S: I only cut the plate.



After that, all the members go at a cutting machine. They cannot think about various things. They can not cut it effectively or neatly.



BAND SAW

The band saw can only cut it linearly. Students do not think about the next stage.

S: "What should we do next?"

I: "Think by yourself."



*With propeller production as an example, I explained the instruction that I practiced. In the first process, I let students think about how you clip out the form of the propeller from one piece of board. Students can think about only cutting it. Therefore, I make a line in front of a BAND SAW. The person behind the line begins to talk and spends time idly.

The final process:



Process to fix the form with a grinder.

After that



Students advance to the stage of the experiment and the measurement. Students measure the torque and the thrust with this propeller.

*Up to completion, time and patience are really necessary. I have taking great pains in educating my students.

Conclusion

In this program, My English ability was improved. Because the class at KCC was enriched. The visit of the lecture at KCC was possible, too. I make use of experience in this training and want to contribute to the education of my students.

6-6 英語外地研修に参加した 商船学科教員による 英語教育事例集

授業科目：航海計測論、船用制御システム

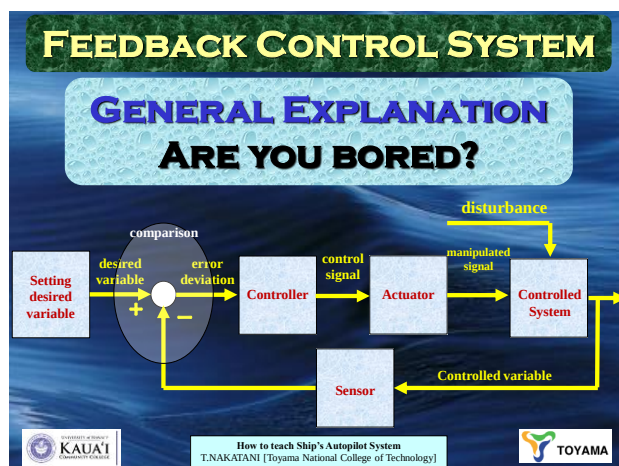
富山高等専門学校 中谷 俊彦（平成 25 年度参加）

活用の方針

船用自動操舵装置（オートパイロット）は、航海系にとって重要な航海計器の一つである。この装置を理解するためには、一般的なフィードバック制御系の知識が必要となる。しかし、一般的であるがゆえに、どこか陳腐な説明にならざるを得ず、興味を示さない学生も多かった。そこで、身近な話題として、恋愛問題を題材として説明を試行することにした。

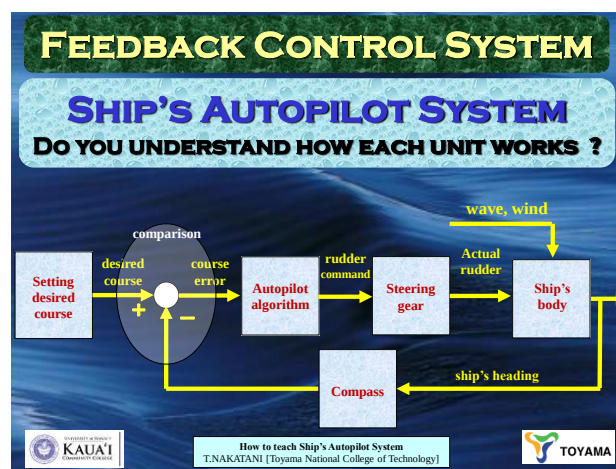
一般的なフィードバック制御系

この図は、制御工学では極めて一般的なフィードバック制御系の説明に用いたブロック線図である。

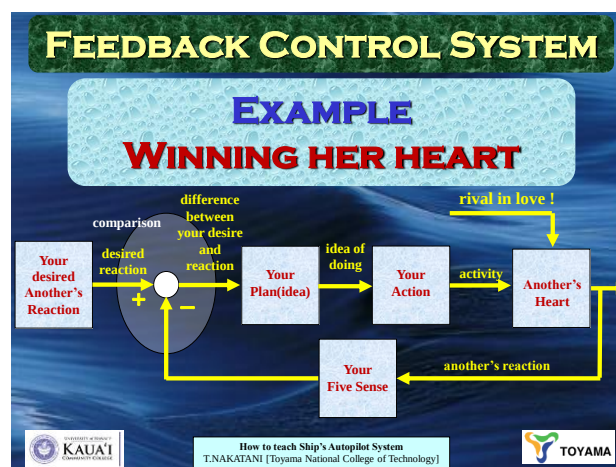


船用自動操舵装置（オートパイロット）のブロック線図

線図



恋愛問題のフィードバックブロック線図



学生さんからは、「この図によって、各要素（センサ、コントローラ、操作等）と全体バランスの重要性について認識した」との意見が多かった。

授業科目：海運論 I

富山高等専門学校 笹谷 敬二（平成 25 年度参加）

活用の方針

海運論 I（航海コース 4 年対象）では、ハワイへの移民について簡単に触れている。

日本の客船のルーツが当初は移民船であったことから説き起こし、日本の明治期最初期の移民事業であったハワイへの移民の歴史についてハワイ KCC で収集した資料などを基に説明している。

戦争という不幸な時代を経て、日本の練習船が戦後初めてカウアイ島を訪れた歴史と多くの日系人に歓待されたことについても触れ、国際間の人の移動と友好について触れるようにしている。

授業のポイント

授業は日本語で行っているが、配布している資料はカウアイ島で発行された新聞記事（日本丸、海王丸入港記事）を使用し、それを読み込むことにより遠洋航海実習で、ハワイを訪れる学生への日本とハワイの長い歴史についての理解が深まるように努めている。

学生の反応

戦前から続く日本とハワイの関係について知らない学生がほとんどであり、興味を示す学生が多い。

Oral History of Training ships in Kauai
National Institute of Technology, Toyama college. Kaiji SASAYA

●Introduction
2013 JAC professional Development program brought me to KCC for improving English skill and teaching skill for students.

●Presentation at KCC
We had community event remembering Kaiwo-maru and Nippon-maru at Hanapepe Soto Zen temple.
I researched History of merchant training ship visiting to Kauai.

First visiting Kauai in July 1954


Nippon maru visited Kauai in 9th July 1954, first Japanese merchant training ship to visit Hawaii since before the war.
Over 400 people attended Reception for visiting officers and Men of Nippon maru.


The newspaper clipping shows a headline: "Man Dies In Crash Of Former Governor's Plane" and another: "Kauai Say Man Lost in Plane Also".

Transported Historical monument by Training ship in 1961

Pagoda and Lantern in civic center was gifted in 1961 for memorial of 100 years of immigration from Family temple Naosuke Iii, famous Chief retainer of Tokugawa government.

Meeting on Soto Zen Temple on 14th Sept. 2013

Many old people attended remembering meeting of Training ship Nippon maru and Kaiwo maru at Soto Zen temple.

●Conclusion
• Volunteer to welcome Training ship.
• Historical importance of Japanese immigration to Hawaii over 100 years and 1940s difficulty.
• Remaining Old Japanese good affection in Hawaiian society.
Okagesamade(おかげさまで), Thanks to you and fortunately.
• Generation had changed, so it is important to remain record of communication with not only training ship but also other activities.

結論

若い学生にとってハワイへの日系移民の歴史を知ることや、戦後の商船系教育の中で練習船が日系移民との交流に果たした役割を理解することは大切であると感じる。

授業科目：実験実習Ⅱ（航海計器）

鳥羽商船高等専門学校 吉田南穂子（平成 25 年度参加）

方針

学生が英語の授業というよりは専門の授業として違和感なく英語に触れられるようにする。

活用方法

授業の始めに、実験の概要を 3 分程度で説明した。教員が説明する際に気を付けたことは下記の通りである。

- ・ 学生が別の講義でできるだけ理解している内容について説明する。

⇒英語の理解ができない部分も彼らの事前知識で補完することができる。

- ・ 教員が英語で概要を説明した後に、学生に実験実習の内容について日本語で説明させる。

⇒教員が英語で説明するのは概要程度とし、詳細な説明は日本語で補足することで、英語というものが学生にとって意外と難しくないという意識を植え付ける。

学生の反応

英語で概要を説明した後に、学生に理解できたところだけ日本語で説明させることで、彼らにも簡単に理解できる内容であったと反応を示す。

⇒しかし、内容が簡単でも英語を文として話すと、最初から拒絶反応を示す学生は存在する。



今後に向けて

学生の反応を見ていると、単語のみならば専門用語として教えれば、意外と拒否反応が少ないことから、英単語を身近にさせるという点では有効であると思う。

授業科目：地文航法、海事实務

大島商船高等専門学校 前畑 航平（平成 25 年度参加）

懸案

商船学科・専門科目における専門用語のうち、英語表記されるものの多くは海事英語であり、また略語表記や意識の採用が少なくない。教科書として採用している専門書では、略語のみの表記や一般的な英和辞書では掲載されていない意識が採用される場合があり、学生自身で理解しようとしても困難な場面がある。そこで、授業では、マリタイムカレッジシリーズ、実習ノート、専門用語集等を参考資料として持参させ、活用している。

手法

語彙の確認時に、一般的な英和辞書では、海事上で相当する和訳が見当たらない場合、その語彙が使用されるシチュエーション等を想像させたいので、専門用語集等から索引させるようにしている。また、略語等については、安易に略語のみを丸暗記させないため、可能な限り、省略しない表記、原語等の確認を逐一させるようにしている。

学生の反応

航海計器や航海日誌においては略記が多く、また、各種実習においては英語における号令が多いため、定期試験等に「カタカナ表記」による回答をしがちな学生が見受けられたが、設問等において正式名称等をも問うようにしたところ、専門用語を単なる記号として見ていた学生が、英語として捉え、綴り・発声についてきちんと覚えようとしている場面が増えつつある。

結論

専門用語について、最初から略号のみを覚えろといった習性の改善、意味が曖昧なまま記憶した語彙の逐次確認する習慣付けなど効果が考えられる。

誤認等している語彙の例

マイル →△Sea mile →◎Nautical Mile → NM

正確な綴りが書けない

Lat. →◎Latitude 、 Long. →◎Longitude

正確な発声ができない（勘違いしたまま）

N'ly →△ノースタリー(発声)→◎Northerly

授業科目：航海英語 I

弓削商船高等専門学校 向瀬 紀一郎（平成25年度参加）

活用方法

本科目は、商船学科の2年生を対象として、外航船員に必要な英会話力の基礎的な素養を涵養するものである。船内で使用される専門的な用語やフレーズなどを、具体的な業務の場面例の紹介とともに教授するものとなっている。

本報告者は、英語外地研修への参加によって、英語話者の思考様式やその文化的背景などを学び、それらがコミュニケーションの基礎として重要であることを認識した。その知見を本科目の講義に活かし、単に英語と日本語を対応付けるだけの知識に限らず、多面的な知識の教授に取り組んでいる。

本科目の講義の中で専門用語やフレーズを教授する際には、その単語や表現が船で使われるようになった歴史的背景なども紹介し、英語話者の視点における類語との相違点や、文法を別の場面に応用する際の注意点についても説明するよう工夫している。これによって、状況に応じて適した単語や表現を柔軟に選択するための応用力の育成を図っている。

問 1

次の会話文①～④は、様々な場面での、船橋 (B) と船首 (F) の会話である。それぞれの空白に適切な文を、(ア) ～ (オ) から選べ。

① (出航の場面)
B: Let go all forward. F:

② (入港の場面)
B: Send the head line ashore. F:

③ (抜錨の場面)
B: How is the cable growing? F:

④ (投錨の場面)
B: How many shackles are out? F:

(ア) 5 shackles, sir.
(イ) Let go all, sir
(ウ) The cable is coming tight, sir.
(エ) We will send the head line, sir.
(オ) Dismiss the station.

問 2

次の文は、当直士官が船長に対して、次の変針の予定を報告しているものである。下の図の中で、変針後の針路を正しく表している線を、(ア) ～ (ウ) から1つ選べ。

When I observe Rokkousaki Light House two point abaft the port beam, I will alter the course to <270>.

試験問題例

学生の反応

様々な専門用語やフレーズについての多面的な知識の紹介は、学生たちの興味を惹起することができている。単に試験に合格するためだけの知識に限らず、異文化コミュニケーションに有用な幅広い知識の修得への意欲を喚起することができている。

授業科目：海運経済特論

弓削商船高等専門学校 野々山 和宏（平成 25 年度参加）

活用方法

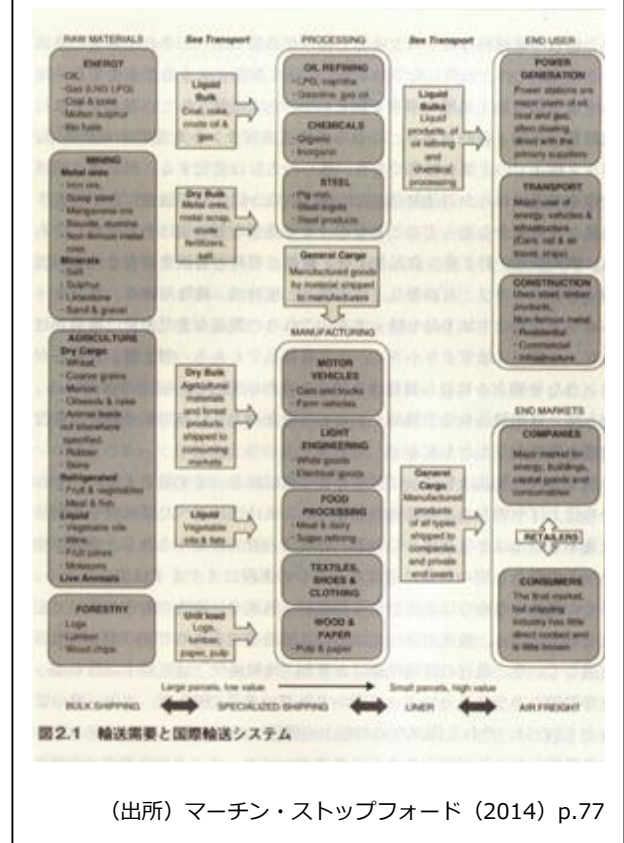
KCC における英語研修では、図書館での資料検索やインターネットでの資料収集を行い、その内容を“Final Presentation”にて発表した。その際、英語資料等の読み込みには文章理解のみならず図表の解釈が重要であることを改めて実感した。この経験から、専攻科における授業において和訳本の輪読を行う際に、英語表記の図表のみを用いた内容理解を試みた。

授業では、図表が英語表記（原著本のまま）になっている訳本を選び、本文を読み込む前に図表のみからその内容を考えるようにした。通常の授業では本文を読み進めながら図表でその内容を確認するが、今回は逆の手順にて授業を進めた。

学生の反応

最初は 1 単語ずつ辞書で意味を確認して内容を理解しようとしていた学生も、授業の途中から意味の分かっている単語を基に図表の意味する全体像を考えるようになっていった。また、通常の授業では受動的な授業態度が多いが、学生同士の会話が増え

授業で用いた図表例



て積極的な発言につながった。また、学生の授業理解も通常より進んだように感じられた。今後もこのような取組を継続的に行いたい。

※ 授業で使用した和訳本

マーチン・ストップフォード（日本海事センター編訳）
『マリタイム・エコノミクス（上巻）』日本海運集会所,2014.

授業科目：生産開発システム

富山高等専門学校 山本 桂一郎（平成 26 年度参加）

活用方法

専攻科全専攻に対する講義である。講義内容は、エンジニアとして必要な生産開発システムの基礎について説明を行っている。授業を進めていく中で、学生が能動的に取り組めるよう、各自が異なるモノの生産方法をまとめ、それを発表することによって受講者全体で共有する手法をとっている。学生とのやり取りが多い講義であるため、なるべく専門用語を日本語と英語で説明していくようにしている。特に、私自身の経験も踏まえて苦労した用語を、聞き取りの難しさと発音の大切さを説明するようにしている。また、英語での授業内容のプレゼンテーションを作成し、授業で活用するようにしている（図 1）。この講義では、期末試験問題を英語として実施している（図 2）。

学生の反応

英語でのプレゼンテーションを、学生に対して予備知識なく英語で実施することを試みたが、私のプレゼン能力の問題もさることながら、専門用語等で

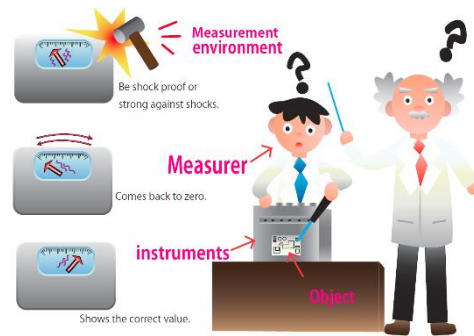


図 1 プレゼンテーション内容一部抜粋

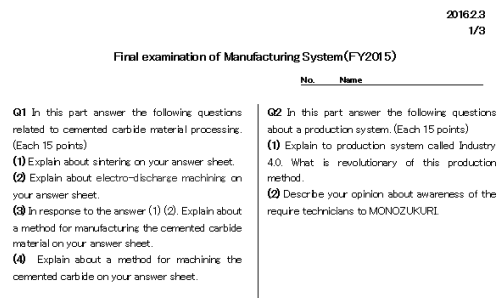


図 2 試験問題例

つまづいたようであった。そこで、プレゼン内容を日本語で説明してから、英語での説明とすることにした。試験については問題を理解することに時間が割かれて苦労するとの意見であったが、試験時間を長く取るなどの工夫をしている。

今後に向けて

引き続き改善をしながら、英語の重要性を伝えていきたいと考えている。

授業科目：工業熱力学，伝熱工学特論

富山高等専門学校 経田 僚昭（平成 26 年度参加）

活用方法

本科 3 年生の工業熱力学ならびに専攻科 1 年生が受講する伝熱工学特論において、英語で作成したパワーポイント資料で講義をする時間を設けている。内容は平易なものとしている。

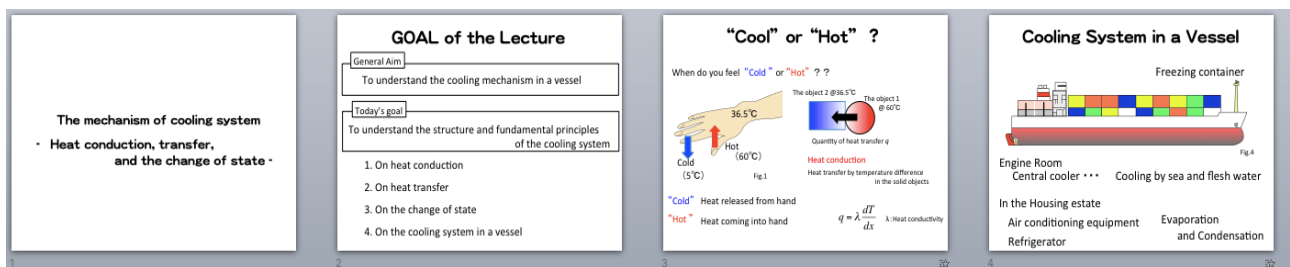
KCC 教員研修では、教員が学生に疑問を投げかけながら講義を進めていることが印象に残った。疑問を投げかけられた学生は積極的に答える一方でわからないことは分からないと素直に答える姿勢は授業を円滑に進める上で役立つ。これまで、学生への問いかけを意識はしていたが、KCC での授業では予想以上に問いかけの回数は多かった。小テストやレポートで学生の理解度を測っていた中で、授業中、随時、理解度を確認することの大切さを学ぶことができた。

学生の反応

シンプルな英語で構成した結果、学生の反応は良かった。また、海事人材育成プロジェクトで雇用している海木特任助教にパワーポイントの構成と英文チェックがあったおかげで、難解な内容とならなかったことも良かった点である。英語でのプレゼン資料を作る際にはついつい困難な内容や英語での言い回しを使ってしまいがちであったので、第三者の目から事前にチェックを受けることができたことこそ、平易で質問形式の多いプレゼン資料を作ることができた。

今後に向けて

引き続き改善をしながら、英語の重要性を伝えていきたいと考えている。



授業科目：操船論、貿易物流概論

鳥羽商船高等専門学校 鈴木 治（平成 26 年度参加）

方針

- 1) 授業で教える専門用語は英単語で教える。
ただし、英語と日本語の 2 言語
- 2) 試験等では英語のみの表記とする。

手法

英語の授業ではないので、あくまでも専門用語の一つとして扱って授業。テストでは、英語としてではなく、専門用語として取り扱って問題を提示。

例) Bill of lading と Letter of credit の関係について説明しなさい（「貿易物流概論」）

例) 着岸時 Tug と Thruster を利用する制限について説明しなさい。（「操船」）

ポイント

- A) 英語そのものの意味や文法は問わない。
- B) 英文和訳、和文英訳はさせない。
- C) 単語の訳を書かせることもしない。

学生の反応

特に難しい、大変という反応なし。

→学生に受けいれられている。

研修に参加する前との比較

授業で取り上げていた科目で、板書中での英単語数を比較すると以下の通りである。

参加前

・商船学科 3 年 「操船」（半期科目）

Pier, Propeller, Thruster 等

・・・ 31 words

参加後、新たに教え始めた科目

・商船学科 4 年 「貿易物流概論」（半期科目）

Bill of Lading, Letter of Credit 等

・・・ 51 words

結論

科目は違うものの、極力、専門用語を英語で表記することで単語数が増えた。

50 程度の専門用語としての単語数は授業で対応可能である。さらに、私の担当科目では同様になっているので、担当科目 5 科目 $\times$ 50 words = 250

words は、学生が英単語を覚える勘定になる。

授業科目：材料力学

鳥羽商船高等専門学校 鎌田 功一（平成26年度参加）

活用方法

授業を受ける学生が英語に少しでも触れられるように、材料力学における専門用語を英語と併記し、日本語で書かれている専門用語も英語読みをするなど工夫をしている。

専門用語例としては、荷重「**load**」、引っ張り荷重「**tension**」、圧縮荷重「**compression**」、応力「**stress**」、ひずみ「**strain**」などがあげられる。これらの専門用語は、簡単な英語であり一度は聞いたことがあるため新しく習う専門用語の理解を促していると思われる。例えば「応力」は「単位面積当たりに発生する物体内部の抵抗力」を意味するが、ストレス「**stress**」という英訳を知り理解が進んでいる様子がある。

また、授業の息抜きで外地研修での体験を話すと学生は興味を持って話を聞き、英語研修に興味を持ってきているようである。主な体験談としては以下のようなものがある、「海の話（休日にサーフィンに行ったら波が15フィートあり沖に出るのをあきらめた。海岸や沖ではいろいろな人に声をかけら

れ、現地の人はとてもフレンドリーであった）」、「生活の話（車が左ハンドルで、赤信号でも右折することができる。タコが美味しかった。物価が日本より高い）」、「学校の話（単位ごとにお金を払って勉強している場合もある）」、「英語の話（カウアイ島は日本語がほとんど通じない。日常会話の内容はどここの国も同じ。）」

学生の反応

前述したが、専門用語の英語は難しくないため学生にとって抵抗はないようである。ただ、文章を英訳するとなると、抵抗は大きく授業内容の理解は進まないと思われる。外地の体験談を学生は楽しそうに聞いてくれており、学生の英語研修に興味を持ってきている。

今後に向けて

外地研修の経験を生かし、専門用語を英語にするなど学生が英語に少しでも触れられるように今後も授業で工夫をしていきたい。

授業科目：海事マネジメント論・海事ビジネス論・応用数学

広島商船高等専門学校 内山 憲子（平成 26 年度参加）

活用方法

本校の学生は、一般教科での英語や専門英語など、低学年から英語を学ぶ機会が多く、英語の必要性は理解しているが、英語学習や国際交流に興味を持っている学生が少ないようである。

そのため、授業内容には直結しないが、英語外地研修後は、海外や国際交流への興味を持たせるきっかけを作ることが大切だと考え、現地で学んだハワイ文化や生活、日系移民の歴史などについて、英語と日本語での説明を行い、ハワイの素晴らしさと語学研修の楽しさについて伝えている。

それ以外にも、授業で使用する専門用語は、日本語と英語を併記し、同時に英語の発音も学んでいる。また、試験では、授業で学んだ専門用語の単語の英訳と和訳の問題を出している。

学生の反応

学生の中には、カウアイコミュニティカレッジでの国際交流の楽しさを知り、前向きな反応を示している学生も少なくない。

苦手意識の強い学生が多いので、その環境に身を置くことで「話をしたい」という気持ちが芽生え、実際にコミュニケーションがうまく取れた時の喜びが、よりうまく表現したい気持ちに繋がると伝え、「これこそが英語学習の一番の近道であるから参加してほしい」と伝えている。

本校では、全科目において、年間で数回の英語を使用した授業の実施と、毎試験での英語の出題が必須となっているため、それに対しての抵抗は少ない。

しかし、それは英語に触れる機会が多いので英語の理解が進むというよりも、英語が苦手な学生にとっては、毎試験に英語の出題があることが専門教科の試験点が低くなることを懸念する学生も多い。

今後に向けて

英語の授業では、一方向での授業になってしまっているため、英会話でのコミュニケーションを取り入れて、双方向で授業展開ができることを目指していきたい。

授業科目：海事実務（商船学科 3-4 年）BRM 訓練

大島商船高等専門学校 久保田 崇（平成 26 年度参加）

活用方法

海事実務（船舶運航を目的とした実践的な科目）の BRM 訓練内の VHF による他船とのコミュニケーションに英会話を取り入れている。



概要

元来から IMO 船上英会話集による他船とのコミュニケーションは机上、およびロールプレイ方式で教授してきたが、ある状況下において、習得した船上英会話を応用する場面に乏しかった。また兼ねてから本校で実施されていた内航 BRM 訓練のリクエストでも VHF による英語でのコミュニケーションを取り入れることが望まれたので試作的に BRM 訓練の基礎訓練に取り入れた。

手順

基本的な VHF の英会話は（一社）全日本船舶職員協

会で発行している「VHF による避航操船用簡易英文例集」を配布し、参考とさせる。

VHF による避航操船用通信簡易英文例集 ①				
○最も簡単に本船の意を相手船に伝える文例です。 ○交信は、お互いに船名若しくは船位を確認した上で法令に従い行うのが原則です。				
No.	状 況	日 本 語	英 語	
1	行き会	右舷 対 右舷	①	グリーン トゥ グリーン Green to green.
			②	スターボード サイド トゥ スターボード サイド Starboard side to starboard side.
2	左舷 対 左舷	左舷 対 左舷	①	レッド トゥ レッド Red to red.
			②	ポート サイド トゥ ポート サイド Port side to port side.
3	追い越すな	追い越すな	ドゥ ノット オーバーテイク ミー Do not overtake me.	
4	追い越し	右舷を 追い越せ	ユー メイ オーバーテイク オン マイ スターボード サイド You may overtake on my starboard side.	

次にシミュレーター訓練において、相手船と意思疎通しなければ操船困難なシチュエーションを作る。

現状

訓練は、セーフティーファーストで行っているの
で、呼び出しでは例文に従い、英会話を使用しても、咄嗟の場面で英会話が出ることは難しい。

今後

咄嗟の場面でも、英語が出るのは慣れもあると考えるため、反復的に英会話を使用させることが重要であるとする。そのため、机上とシミュレーションの中間に当たる、「シミュレーション下（時系列的に周囲の状況が変わる）におけるロールプレイ」を取り入れ、咄嗟の英会話を浸透させる。

授業科目：海洋気象学

弓削商船高等専門学校 二村 彰（平成 26 年度参加）

活用方法

船舶内外における英語の必要性を認識するため、専門科目でもなるべく英語に触れる時間を増やすようにしている。本科目では船橋における専門英語に着目して、船舶気象観測、航海日誌および船舶向け天気図に関連した専門英語単語の理解および習得を目指している。取組み例として、（１）船舶気象観測の観測項目の理解時に、例えば風向・風力では黒板に日本語と英語を併記しており、説明時に憶えてもらうように努めている。（２）船舶向け天気図の理解時に、天気図に記載されている英語記号の意味を説明する。例えば、「H」という記号は高気圧（High Pressure）を H と省略して記載している等。（３）航海日誌の気象状況等の説明では、例えば、風力階級表の英語表記を資料や黒板に記載して憶えてもらうように努めている。（４）試験時には、専門用語の単語について、英訳と和訳の問題を導入している。

学生の反応



授業風景

4 年 航海コース 海洋気象学試験問題例

問題 1 語群を用いて熱帯低気圧の分類を完成させよ。解答は記号で答えよ。

国際分類	日本の分類	風速
い	ほ	< 17.2m/s (34kt)
ろ		17.2~24.5 (34~47)
は	へ	24.6~32.6 (48~63)
に		≧ 34.7 (64)

語群
a-冷風 b-弱い熱帯低気圧 c-Tropical Storm d-Typhoon/Hurricane/Cyclone
e-Tropical Depression f-Severe Tropical Storm

問題 2 風に関する問題である。下の気象庁風力階級表の英語名の欄を埋めなさい。

風力階級	英語名	風力階級	英語名
0		7	
1		8	
2		9	
3		10	
4		11	
5		12	
6			

試験問題例

試験時において、授業中の小テスト等により事前に繰り返し表記させているため、英単語の和訳および英訳についてはスペルミスがあったが概ね答えられる学生が多かった。

今後に向けて

日本語と英語表記で意味の定義が異なってしまう専門用語があるため、さらに説明工夫を重ねたい。

授業科目：材料力学

富山高等専門学校 保前 友高（平成 27 年度参加）

活用方法

材料力学（3年生：機関コース）の授業において、復習の時間に英語で授業（45分1回）を行った。これまでに2度試行した。

英語で専門科目の授業を受ける経験は、学生にとって、ある程度のハードルとなると思われる。このため、通常通り日本語で授業を行い、試験範囲として試験を受けた後の**復習の授業で試行**した。英語外地研修で得たプレゼンテーションに関するノウハウをもとに、授業の準備を行った。基本的に、英語のみで授業を行ったが、専門用語については、**日本語訳**を交えた。

学生の反応

1度目の試行では、学生にとっては、ただ聞くだけとなる形式であったため、集中力の維持が難しかったようであった。このため、2度目の試行では**ワークシート**を作成し、これを授業時間中に埋め、授業終了時に提出することとしたところ、熱心に取り

授業風景



ワークシート

823 Strength of Materials: Special Exercise (2016) House

Number _____ Name _____

Object

• Review of the important points studied in 1st semester in English.

1. Translate the words into Japanese.

1. deformation	1. stress
2. stress	2. elongation
3. strain	3. ultimate strength
4. yield	4. elongation
5. force	5. tensile
6. ultimate	6. yield
7. material	7. strength
8. fracture	8. comparison
9. shape	9. ratio
10. load	10. proportional
11. weight	11. constant
12. cross-sectional	12. Young's modulus

2. Fill in the blanks. Translate the sentences to Japanese.

(1) The larger the _____, the larger the deformation.

(2) _____ is the ratio of the change in length to the original length.

(3) The stress is _____ in the elastic.

3. A metal bar, whose cross-sectional area, length and Young's modulus is 0.01 m², 2.0 m, and 80 GPa, respectively, is fixed to a wall. A weight of 1000 N is hung on the bar.

(1) Calculate the stress on the bar.

(2) Calculate the elongation of the bar.

組む姿が見られた。回収したワークシートを添削したところ、ある程度、理解できたようであった。

今後に向けて

現時点では、英語での授業の雰囲気を経験するレベルとなっている。授業時間の制約はあるが、少しずつ内容を増やし、学生の英語への抵抗感が少なくなるように取り組んでいきたい。

授業科目：電気機器学

鳥羽商船高等専門学校 窪田 祥朗（平成 27 年度参加）

活用方法

英語の必要性を認識するため、また、英語の苦手意識をなくすため、なるべく英語に触れる時間を増やすようにしている。英語で説明を聞いても理解できないが、日本語の説明の中に専門用語だけ英語が入っていても、意味が通じるので違和感がない。そこで、専門用語については、黒板に専門用語を書く際に日本語と英語を併記するようにした。また、学生に教科書を音読させるとき、専門用語の英語表記についても発音してもらうようにした。

試験時には、専門用語の単語のみ英訳と和訳の問題を導入し、英語を語学という学問ではなく、コミュニケーションツールとして認識してもらうよう心がけている。

学生の反応

教科書の英語表記を読むことで、英語の専門用語を意識するようになった。試験時には、和訳は答えられるが、英訳は難しく、かなり抵抗があるという。英訳する際に、日本語読みそのまま表記する



授業風景（実機操作）

機関科5年生電気機器学 中間試験2016

番号() 氏名()

- 1 以下の単語を英訳せよ。(1点×5=5点)
- | | | |
|--------|--------|-------|
| 1) 界磁 | 2) 回転子 | 3) 乱調 |
| 4) 電機子 | 5) 固定子 | |
- 2 以下の単語を和訳せよ。(1点×5=5点)
- | | | |
|----------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 1) Effective Cross Current | 2) Demagnetizing Effect | 3) Reactive Cross Current |
| 4) Revolving-armature type | 5) Armature Reaction Reactance | |
- 3 同期発電機に関する以下の問いに答えよ。(4点×4=16点)
- | |
|--|
| 1) 大型の発電機を用いず、小型の発電機を複数台使用し、並列運転する理由を簡潔に答えよ。 |
| 2) 船舶において、並列運転するのはどのようなときか、2つの場面を答えよ。 |
| 3) 同期発電機の同期速度とは何か説明せよ。 |
| 4) 12極の同期発電機を、60 Hz で出力させるときの同期速度を求めよ。 |

試験問題例

ため、スペルミスが目立つ。しかし、専門用語の単語テストなので、英語の試験とは感じず、点数が取りやすいという学生もあり、評判は悪くない。

今後に向けて

英語の授業ではないので、スペルミスを気にしないで、学生が英語を気軽に使えるようにする工夫が必要と考える。そのため、英訳問題は口頭試問にするなど、コミュニケーション能力育成に注力し、英語による意思伝達に、嫌悪感を示さなくなることを目指したいと考える。

授業科目：実験実習（TOEIC リスニング）

広島商船高等専門学校 大山 博史（平成 27 年度参加）

活用方法

低学年の英語力向上及びリスニングに対する拒否反応をなくすために商船学科 2 年生全員 TOEIC リスニングの授業を実施した。

実施方法

商船学科 2 年生を 4 グループ（約 10 名）に分けそれぞれ 4 時間のリスニング実習を実施した。初学者にわかりやすいようにまず単語を発音しながら説明をおこなう。その際聞き取りにくい単語をゆっくりと発音することが重要となる。単語テストを実施し、理解度を確認した後、教材である TOEIC 公式問題集のリスニングを実施する。CD 音源は 1 文ずつ停止、再生の繰り返しができるように加工されており、聞き取った学生にプリントへ書き込ませる。この作業を全学生が終了するまで 1 文ずつ繰り返す。聞き取りができない学生には講師がゆっくりと発音し聞き取りの補助を行う。この作業を数問繰り返し行う。



授業風景

5、交通、車 (traffic)	動いている (moving)	街 (city)
(車などの) 乗り物 (vehicle)	入って行く (entering)	トンネル (tunnel)
駐車させる (park)	一列に (in a row)	ビル (building(s))
(A)		
(B)		
(C)		
(D)		

配布プリントの例

研修に参加する前との比較

自信を持って英語を発音し、学生が聞き取れるまでゆっくりと発音できるようになった。TOEIC リスニングを初学者が行う点での問題点は、単語の発音がわからないこと、教材の英語のスピードが速いことに有り、この 2 点を克服するための授業が行えるようになったことが研修による大きな成果であると考えている。

授業科目：海事工学基礎Ⅱ、電気電子工学

広島商船高等専門学校 大山 博史（平成 27 年度参加）

活用方法

それぞれの科目で英語を使用した授業を年 1 回程度実施し、定期テストでは毎回英語の問題を出題した。

実施方法

年に 1 時間英語で授業を実施した。授業をできるだけ英語のみで実施するため、学生にはあらかじめ授業に必要となる単語をプリントにして配った。また発音についてもゆっくりとわかりやすく行うようにした。

研修に参加する前との比較

英語のみで授業を実施することだけを目的にせず、いかに学生に分かるように英語で伝えるかを考えるようになった。研修では日本語の全く話せない KCC の講師と期間を通じてコミュニケーションを行った。その際に英語力の低い私に対して丁寧にわかるまで説明をしていただき、英語でコミュニケーションをとる方法を数多く学んだ。またプレゼンテーシ

必要英単語	
半導体 (semiconductor)	導体 (conductor)
絶縁体 (insulator)	原子 (atom) 原子核 (nucleus)
電子 (electron)	元素 (element)
1 価元素 (a monad)	元素記号 (atomic symbol) 結合 (bond)
周期律 (the periodic law of the elements)	4 族元素 (group 4 element)
価電子 (valence electron)	共有結合 (covalent bond) 結晶 (crystal)
4 価元素 (tetravalent)	3 価元素 (trivalent) 5 価元素 (pentavalent)
原子量 (atomic weight)	真性半導体 (intrinsic semiconductor)
不純物半導体 (impurity semiconductor)	
必要英単語	

ョンの技法なども学び、一方的な英語による授業ではなく学生の反応を見ながら英語で話せるようになった。

学生の反応

学生は少し難しく感じていたようであったが、英語教員ではない私が英語で授業を行えることを知り、自分たちも英語を勉強すればできるようになると感じたようである。実際に学生に見せることの重要性を強く感じる結果となった。

授業科目：海事英語基礎Ⅱ、専門英語Ⅰ

広島商船高等専門学校 大山 博史（平成 27 年度参加）

活用方法

教員英語外地研修に参加したことにより、学内の英語力に対する評価が上がり、英語の授業を担当することになった。

実施方法

海事英語基礎Ⅱ、TOEIC リスニング、専門英語Ⅰの授業を行うようになった。海事英語基礎Ⅱ及び TOEIC リスニングは商船学科 2 年生向けの授業及び実習である。海事英語基礎Ⅱでは船橋または機関制御室での英語が主であるが、英語そのものの理解に加え、船橋と機関室とのコミュニケーションが多く含まれ、誤解のないコミュニケーションを実施する方法など、語学研修で学んだことを生かしながら授業を展開している。専門英語Ⅰは商船学科学生向けの授業ではなく流通情報工学科 4 年生向けの授業である。主として TOEIC リーディング及びリスニングの授業であり、これにコンピュータに関する英語、物流ビジネスに関する英語などを混ぜながら授業を展開している。海事教育そのものではないが、こ

れも英語外地研修の一つの成果であると考えてお

り、授業経験自体もいずれ海事教育に生かせるものであると考えている。

海事英語基礎Ⅱ 後期中間試験	商船 2 年 番 名 前
次の日本語を英語にせよ	26. 潮流は北東にながれています。 (Current is setting to NE.)
1. 電源投入 (turn on)	27. 風向は北から北東に変わりました。 (Wind direction changed from N to NE.)
2. への準備ができています (ready for ~)	28. 風力は風力階級で 2 から 3 に上がりました。 (Wind force increased from 2 to 3 in Beaufort scale.)
3. 成し遂げる、実行する (carry out)	29. 視程は 10 マイルです。 (Visibility is 10 miles.)
4. 温度計 (thermometer)	30. 気象報告を行います (I will report the weather condition.)
5. 全機組のテスト終了。機作用意よろし。 (ALL equipment tested and ready for operation)	31. 気圧は 1010.2hPa です (Atmospheric pressure is 1010.2hPa.)
6. 距離 (distance)	32. 船 航行機 容器 (vessel)
7. クロス方位法 (くらすほういほう) Cross Bearing	33. 行き合い船 (meeting vessel)
8. 見合い関係 (approach situations)	34. 横切り船 (crossing vessel)
9. 方位変化 (change in bearing)	35. 追い越し船 (overtaking vessel)
10. 相対的動き (relative movement)	36. 反対船があります。 (There is a vessel on the opposite course.)
11. こちらとも、主機駆運転異常ありません。 (This is aft station. Main engine trial, good condition, sir)	37. 危険なターゲットはレーダー上にはいません。 (There are no dangerous targets on the radar.)
12. 知らせる (inform)	38. 4 分の 1 船尾方向 (quarter)
13. 増加、増速 (increase)	39. はしご (ladder)
14. 回転 (革命) (revolution)	40. 曇り (cloudy)
15. 減少、減速 (decrease)	41. 一般貨物船 (general cargo ship)
16. 主機の増速を終りました。 (Completed increasing main engine revolutions.)	42. ばら積み貨物船 (bulk carrier)
17. 命令する、指令する (order)	43. コンテナ船 (container ship)
18. 主機増速の用意ができました。 (We are ready for increasing main engine revolutions.)	44. 自動車運搬船 (pure car carrier)
19. 機関使用可 (stand by engine)	45. 油タンカー (oil tanker)
20. 乾球温度 (dry temperature)	46. 気象 天気 (weather)
21. 左舷 (Port)	47. おだやかな 緩のようになめらか (calm)
22. 右舷 (Starboard)	48. わずかな やや荒がある (slight)
23. 風速計 (anemometer)	49. 適度の 普通の かなり荒がある (moderate)
24. 進路 082 度に保ちました (Steady on zero eight two)	50. 荒々しい 波が高い (rough)
25. 対地速力は 17.8 ノットです。 (Speed over the ground is 17.8 knots)	

試験問題

研修に参加する前との比較

自信を持って英語を発音できることが最も大きな成果である。特に海事英語基礎Ⅱの授業では、船橋と機関室でのコミュニケーションが多くあり、発音して見せることが大変重要である。また外地研修で学んだことや経験したことを授業に織り交ぜることにより授業の説得力が向上したと考えている。

カテゴリー：授業科目での英語活用

授業科目：海事英語、船舶整備論、航路論、海事实務、校内練習船実習

大島商船高等専門学校 本木 久也（平成 27 年度参加）

活用方法

KCC では全て英語を使用した授業を初めて受けました。英語授業の進め方の状況が把握できました。授業の始まり、授業中には英語を利用する様になっています。校内練習船実習・海事实務につきまして、この 2 つは実習が中心とした授業となっておりま

すので、機器の運転操作、出入港作業、報告などは英語を活用して行なっています。

実習時の活用例

出港部署に就け Stand by station For. and Aft, Station
for Leaving port.

配置につきました Manned and ready sir.

聞き取り状況(感度)の確認 How do you read me?

報告します Reporting-.

電源投入 Turn on- .

クラッチの嵌合 Engage the clutch!

ブレーキを締める Apply the brake!

活用結果

英語を頻繁に利用する様に変更した結果、以前は、英語について嫌がる「拒否反応」を示す学生が多くなりましたが、英語を覚えなくてはならないと感じている学生を多く見る様になりました。また、出港、航海、入港までの一連の作業の中で、英語のフレーズを言わなければならない状態となりますので、学生も実習前に英語で言える様、努力するようになりました。

今後の活用計画

この度の研修にて、教員も積極的に英語を利用しなければならないと背中を押されました。そして、教員が英語を利用しているのを見て、学生も英語で言えるように努力してる状態になりつつあります。今後は更に、英語で実習前の打ち合わせなどもできるように、教員側も努力する所存です。KCC の研修により英語を積極的に使わなければならないと感じております。

方針

目的

手法

学生の反応

研修に参加する前との比較

参加前

- 参加後

- ## 結論

6-205

英語でのプレゼン方法を指導

鳥羽商船高等専門学校 小田 真輝（平成 25 年度参加）

活用方法

本校には複数の国際交流事業があり、参加した学生がその内容や成果を発表する報告会を年に数回開催している。報告会はプレゼンテーション形式で行うが、参加したプログラムおよび学年によっては英語にて発表する。そこで、教員外地研修中に学んだ英語でのプレゼンテーションの方法や、言い回し、フレーズなどを学生たちに指導している。

学生の反応

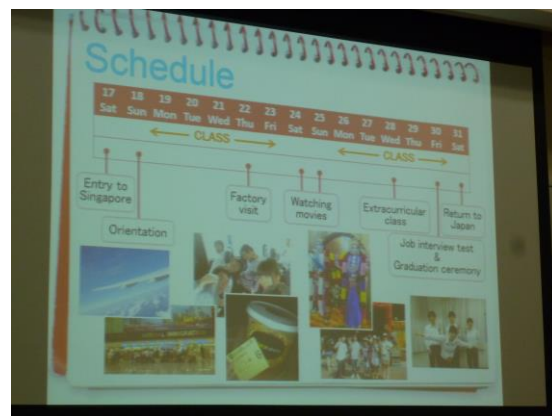
準備に時間を要するが、作りこまれたユーモアのある発表を行っている。最近の報告会では、低学年の学生でも英語で発表している。なかには原稿を作り、読むだけになっている学生もみられるが、多くの学生に、学んだ英語を積極的に使おうとする姿勢が見られる。

今後の課題

学生たちが作るプレゼンテーションには難しい文法が多くみられ、それに伴い口語での説明も長くな



発表の様子



発表スライドの一部

りがちであると感じられる。報告会ではこれから参加しようとしている、興味のある学生たちが聞くため、より簡単でわかりやすい表現を用いるように指導する必要があると考える。

異文化への興味のきっかけとしてハワイを紹介

広島商船高等専門学校 木下 恵介（平成 25 年度参加）

KCC での研修中、現地の人々（特に日系人）との交流を通して、その土地に暮らす人々の歴史や文化を学び価値観を理解することが、コミュニケーションをとる上で重要であるということを実感できた。カウアイには、かつて日本から移民としてハワイに渡った人達の子孫が多く暮らしている。多くの困難があつたにもかかわらず、自らの努力によって現在の生活を手にした人達の子孫であり、ハワイにそういった歴史があることを日系人から直接聞くことができた。これはハワイでの研修でなければ経験できないことであつた。

異なる国の歴史や文化に興味を持ち、お互いを知ろうと努力することがコミュニケーションの第一歩である。英語を話す人々の文化や歴史に目を向け理解しようとすることも英語の勉強に加えて重要であるということを、機会を設けて学生に講話をしている。ハワイの移民について詳しく知る学生はいない

ため、ハワイの日系人の例を教材として話をすると学生の興味を引きやすいと考えられる。こういった異文化への興味を学生に持たせることは、外国へ行ってみたいという気持ちや、英語を勉強するためのモチベーションの向上に繋がっていると考えている。

本校の商船学科及び専攻科（海事システム工学専攻）から、海外での語学研修に参加した実績は、平成 25 年度は 4 名であつたが、平成 26 年度には 8 名、平成 27 年度には 13 名が参加しており、増加傾向にある。また定期的の実施している TOEIC テストの結果についても、平成 25 年度と現在とでは平均スコアが 30 点以上向上しており、海外語学研修の参加者の増加と比例している。このように、教員が外地研修で経験したことを学生に伝え、興味を持たせることが、海外語学研修の参加者の増加および TOEIC スコアの向上に寄与していると考えられる。

商船学科生のための新しい教材の開発

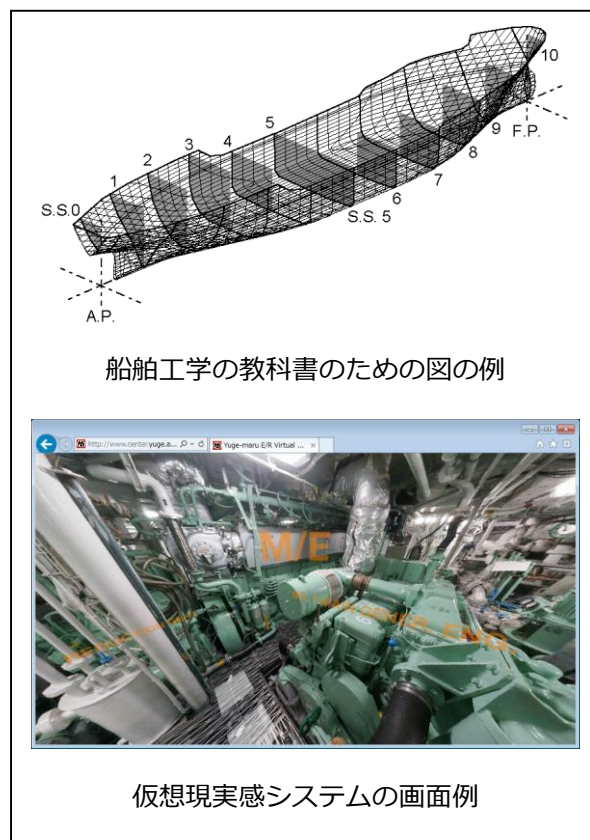
弓削商船高等専門学校 向瀬 紀一郎（平成25年度参加）

活用方法

本報告者は、英語外地研修に参加した際、現地のカウアイコミュニティカレッジ（KCC）で利用されている教材についての調査にも取り組んだ。KCCでは、高価ではあるが内容の充実した、カラーの図表も豊富な大型の書籍が、教科書として利用されていた。またその教科書の内容に対応した電子教材（スライドデータやeラーニングシステム）も、効果的に利用されていた。

本報告者は研修後、得られた知見を活かして、日本の高専の商船学科生のための新しい教材の開発に取り組んでいる。価格を抑えつつも図表の充実した新しい教科書等の執筆や、学生の自学自習に役立つインタラクティブなデジタル教材などの開発に取り組んでいる。

これまでに、5校の教員たちと共同で、船用電気機器分野の教科書と問題集、コンピュータを援用して数学や物理を学ぶことのできる演習書、および船舶工学分野の教科書を執筆した。また、電気工学の



理解に役立つアニメーション教材や、練習船内を歩き回るような体験をコンピュータの画面上に再現する仮想現実感システムを開発した。

学生の反応

これらの新しい教材に対する学生たちの反応は、おおむね肯定的であることが、アンケート調査によって確認できている。

学生に対する英語学習への啓蒙

弓削商船高等専門学校 秋葉 貞洋（平成 26 年度参加）

活用方法

英語外地研修においては、今まで以上に自ら英語を使おうと自覚し、実践する必要性を感じた。そのため、学生に対し、現在放課後に行われているネイティブスピーカーによる英会話教室についての参加等についてホームルーム等の授業において参加するように啓蒙した。また、授業において英語学習に対するアプローチ方法等について英語外地研修で感じたことや、これまで自分が行ってきた勉強で気が付いたこと、または英語論文執筆においての経験について具体的な例を挙げ説明し、英語に対する壁が低くなるよう心掛けた。

学生が英語を嫌がる理由は“語彙が少ない”、“日本語(英語)を英語(日本語)にそのまま訳せない”、“会話が成り立つかわからなくてできれば話したくない”が大きな理由であると考えられる。その為語彙を増やすことに関しては、例えば、機関に関する部品の調速機(governor)についての説明を行うとき、

機関の回転数を調整するものから、調整を行うものである政治家という意味が推測できることを説明した。また、航海訓練所の機関の計測において機関用語からはそのまま実物が想像できるので語彙を増やしやすい場合が多いことを説明した。英(和)訳の場合では、日本語と英語は根本が違うものでありそのまま訳してもつながらないのは当たり前である、そのため日本語を英訳する時はできるだけ簡潔な日本語にして訳すと作文しやすいこと、英文も主語と動詞を見つけ簡潔な内容にすると良いと経験談を交えた。会話に関しては相手が聴こうとしている限り、少々間違えても意味がわからなければ聞き返してくることが多く、会話する姿勢が重要であると体験談を交えて話した。

今後は授業において、上記の内容を話しながら英語に接する機会を増やし、英語に対する壁がさらに低くなるような経験を積ませることを取り入れていきたい。

6-7 航空機の搭乗・乗り継ぎについて (日本～カウアイ島を例に)

【往 路】

国内の空港での手続き

e チケットの出発時間を確かめて、出発の2時間前までには空港に到着します。

空港内の表示を見て、国際線出発ロビーにて利用する航空会社のカウンターでチェックインします。

航空会社のカウンターに行ったら、パスポートとチケットを見せて、スーツケースなどの大きな荷物を預けます。重量オーバーをしないよう注意します(超過手荷物料金は結構高額です)。預ける荷物の受け取りは「リフエ空港」と伝えます。また、このとき座席に余裕があれば、窓際とか通路側などの希望も聞いてくれることもあります。

(参考サイト <http://ta-bi.net/>)

搭乗券をもらって、手荷物だけになったら、搭乗口に集合するまでの時間は軽く食事したり、買い物をしたりして、時間を過ごします。集合時間(出発時刻の30分前くらい)までに搭乗口に集まります。セキュリティチェックのところで手荷物の検査を受けますが、ペットボトルは持ち込めないので注意してください。

ホノルル空港での乗り継ぎ(次のページの図を参照のこと)

ホノルル空港に到着したら、まず入国審査です。一人ずつの審査になりますが、しっかり相手の目を見て話してください。指紋とかのスキャンもされます。

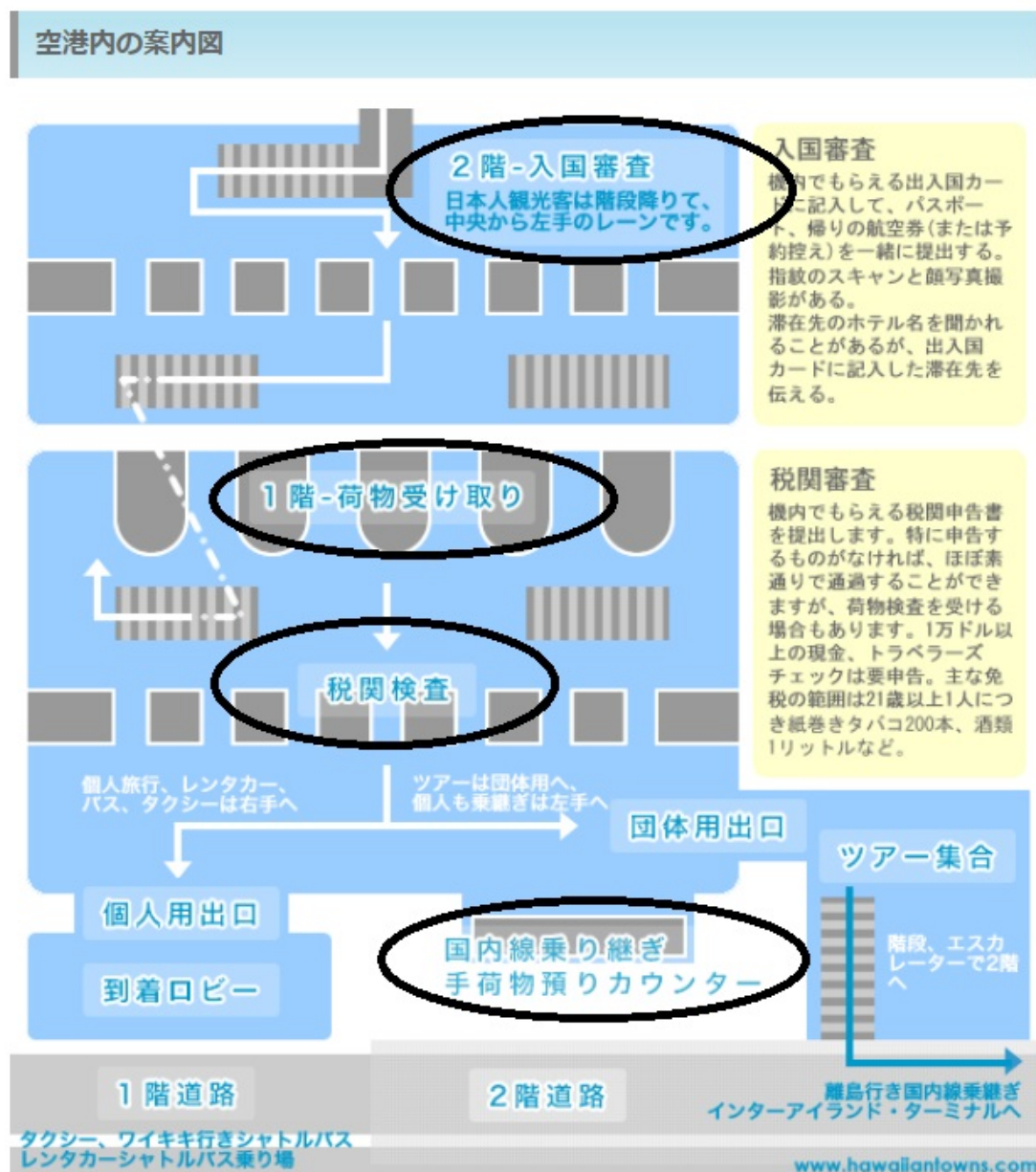
入国審査を終えると、預けたスーツケースなどの荷物をいったん受け取ります。次に税関で、機内でもらって記入した税関申告書を渡します。

- ①姓 ②名 ③ミドルネーム
- ④生年月日(日-月-年【西暦 下2桁】)
- ⑤旅行を共にしている家族の数
- ⑥米国における滞在先(ホテル名/到着地)
- ⑦市 ⑧州 ⑨旅券発行国
- ⑩旅券番号 ⑪居住国
- ⑫今回、米国到着以前に旅行した国
- ⑬航空会社/フライト番号または船名
- ⑭下記の質問項目に(はい/いいえ)でお答え下さい
10. 今回の旅行の主な理由はビジネスである
11. 下記の物品を持ち込んでいる
 - (a) 果物、植物、食物、虫など
 - (b) 肉、動物、動物/野生動物に関わる製品
 - (c) 病原体、細胞培養、カタツムリ
 - (d) 土を持ち込んでいる、農場/飼育場/牧場に滞在
12. 家畜に近い場所に滞在したことがある
13. 1万USD以上もしくは同等額以上の外貨金額を通貨または通貨代替物で持ち込んでいる
14. 商業用商品を持っている
- ⑮米国居住者－海外で購入もしくは得た、そして米国に持ち込んでいる商業用商品を含む物品全ての価値金額:
- ⑯訪問者－商業用商品を含む、米国内に残す予定の物品全ての価値金額:
- ⑰自筆で旅券と同一署名 ⑱日付【日/月/西暦年】

※ESTAの取得で出入国カードは不要になりました。

さて、ここからは注意が必要です。税関を通ったら、すぐに国内線乗り継ぎ手荷物預かりカウンターがあります。スーツケースがいっぱい並んでいて、係員さんが立っているのです、そこにスーツケースを預けてください。

その次に、インターアイランドという表示を頼りに、左の方に出て行くといったん外に出ます。ツアー客やそのガイドさんたちが集まっているところを通り過ぎて、横断歩道を渡り、隣のビルに移動します。



入国審査→荷物受け取り→税関検査→国内線乗り継ぎ手荷物預かりカウンターの流れ

隣のビルのエスカレーターを登ると国内線（ハワイアン航空）のチェックインカウンターがあります。一応、上空からの移動経路をつけておきます。ここでは、カウンターではなく、機械でチェックインをします。eチケットの予約番号とパスポートを用意し、画面の指示に従って搭乗券(BOARDING PASS)を受け取ってください。ただし、この作業は、あまりスムーズに行かないこともあるので、その場合はそばにいる係員（日本語が使えるスタッフがいます）に頼ってください。

(参考サイト <http://www.mo-hawaii.com/lei-moana/442.html>)



国際線の到着ゲートから国内線のあるビルへの移動

チェックインが終わったら、中に入ってもいいですが、飛行機でもらったペットボルトのお水は持ち込めません。みなさん、機内食の朝食を殺風景な建物の中で食べています。でも、手荷物検査を抜けて、中に入るとあらゆるものの値段が一気に高くなりますので、ご注意ください。

ここで受け取った国内線の搭乗券には、座席番号が書いていないことがよくあります。これは搭乗ゲートで名前を呼ばれて、そこで新しい搭乗券をもらうか、ペンで空いている席を書いてくれますので、我慢強く待っててください。



リフエ空港に到着

リフエ空港まで約 40 分のフライトです。パッションフルーツの飲み物が提供されます。

到着後、そのまま到着ロビーに行き、スーツケースが出てくるのを待つだけです。レンタカーを利用する方は、横断歩道を渡って、シャッターの降りたレンタカーカウンターの裏側で待っていると、レンタカー会社のシャトルバスが来ますので、それに乗ってください。レンタカーのオフィスで手続きを行います。ちなみに、JAF の会員の方がいたら、出国前に JAF のホームページから予約しておく、割引が適用されるようです。

レンタカーの利用については、インターネットサイト[ハワイ初心者必見！知れば得する 8 つの基礎情報と使える英語フレーズ 45 選]も参考になるかも？

【復 路】

リフエ空港での手続き

リフエ空港は小さな空港ですので、手続きもコンパクトに行えます。荷物を預ける際は日本の空港で受け取ることを確認してください。その際、重量オーバーとか言われても日本ほど優しくない、超過料金（相場は 3,000 円～2 万円くらい）を納めることになります。しかし、荷物を 2 個まで預けることができるので、スポーツバッグみたいなバッグにかさばる物を入れて、預けてください。スポーツバッグは KCC のブックストアでも購入できます。（KCC のブックストアは「日本から来た！」と言うと、ほとんどの商品を割引してくれます。）

手荷物検査・ボディーチェック（靴や上着も脱ぎます）を終えて、中に入るとお土産を売っているショップやカフェもありますが、ここもとても高いので、お土産は Wal Mart などでもって買っていきましょう。

ホノルル空港での乗り換え

ホノルル空港で降りたら、国内線のビルから外に出ないでも乗り換える方法もあります、いったん出ましょう。

ビルを往路とは逆の方に進んで、国際線の航空会社のカウンターでチェックインをしてください。e チケットとパスポートを提示してください。もうスーツケースは預けてあるので、搭乗券を受け取るだけです。

そのまま、荷物の検査を受けて空港内に入ってください。タイミングが合えば、ハワイアンミュージックとフラダンスのショーを見ることができます。リフエに比べるとお土産物屋さんがたくさんありますが、値段は高いです。やっぱりカウアイの Wal Mart とかでお土産物を買っておけばよかったと思ってしまいます。

帰国

日本の空港に着いたら、入国審査、荷物を受け取って、税関で携帯品申告書を提出してください。時々、スーツケースを開けるよう指示されることがあります。

到着ロビーには宅急便の受け付けもありますので、身軽に帰りたい場合には、ご利用ください。

お疲れ様でした。

6-8 研修参加教員からの情報

1. 加入保険の種類と各種補償金額について

加入会社等	A 社	B 社	C 社
申込み保険料	5,530 円	約 1 万円	11,920 円
傷害死亡後遺障害	2,000 万円	5,000 万円	1,000 万円
治療費用	1,500 万円	300 万円	無制限
疾病死亡	2,000 万円	5,000 万円	500 万円
賠償責任	1 億円	5,000 万円	1 億円
携行品	30 万円	50 万円	
救援者	15,00 万円	500 万円	無制限
緊急歯科治療			10 万円
疾病応急治療・救援費用			300 万円
手荷物遅延	10 万円		
航空機遅延	2 万円		

(平成 26 年度当時)

また、以下のご意見をもらっています。

- ・ 地医療機関と提携している保険会社の旅行保険、できればキャッシュレスサービスのあ
るものを準備することで安心感が増すと思います。
- ・ 保険を利用するに当たり事前手続き等があるため参加者相互で保険に関して情報共有し
たほうがよいのではないかと考えます。
- ・ カード付帯の保険は救援費用や賠償責任など手厚くないです。
- ・ グループで研修に参加する場合は、グループ・リーダーが参加者の加入している保険会社
と保険証書の番号などを把握しておきます。

2. 必需品

① パスポートなど

- ・ e チケット
- ・ ESTA

米国への渡航の場合は、事前の ESTA 申請が必要です（これにより入国審査が簡略化
されました）。申請はそれほど難しくはないですが、渡米 72 時間前までに行う必要があ
ります。申請したら、そのコピーを必ず持参してください。

・ パスポート

パスポートは、コピーを取って、必ず普段持ち歩くところとは異なる場所に保管してお
きます。外出の際は、基本的には身につけておく必要がありますが、決して盗まれない
よう工夫してください。

・ 海外旅行保険

証書は、必ずパスポートと一緒に保管・所持します。必要な個所はコピーして、パス
ポート同様に保管しておきましょう。

② ノートパソコン

- ・ 研修においては、プレゼンテーションや多くのレポート等が課せられます。そのため
にも、インターネットに接続可能な物が必要です。

- ③ ドル
 - ・ 現金で\$500 程度用意しておけば、当座は間に合います（日本で換金していった方がよい）。ただし、研修先の ATM を利用することも出来ますが、海外対応キャッシュ・カードであること、手数料が結構かかること、引き出せる限度額が決まっていることを心得ておきましょう。
- ④ スマートフォン等の通信機器
 - ・ 渡航先での WiFi 利用や設定方法・料金などについては、事前に契約会社に確認しておきます。
 - ・ なお、空港や現地でレンタルなどの契約も可能です。
- ⑤ バッグなど
 - ・ デイバックやショルダーバッグなどの、研修資料を持ち歩くバッグ類が必要です。

3. 持っていった方が良い物

- ① 常備薬（最寄りのスーパーでも薬は売っています）
 - ・ 風邪薬
 - ・ 胃薬
 - ・ 目薬
 - ・ 虫刺され薬
 - ・ 虫除け

＊ 3 週間分の常備薬を持ち込みましたが入国時には特に何も言われませんでした。
- ② 日用品（現地で購入可能）
 - ・ 目覚まし時計（宿泊先に備えてあるものの使い方が分からない場合のために）
 - ・ 電子辞書
 - ・ 洗濯用洗剤
 - ・ 歯磨き粉と歯ブラシ
 - ・ シャンプー（アメニティー・グッズとして常備されている）
 - ・ ボディー・ソープ（アメニティー・グッズとして常備されている）
 - ・ 雨具（現地でも購入可能）
 - ・ 日焼け止め
 - ・ 荷物の重さを量る秤（旅行グッズとしてインターネットから数千円で購入可能です）

＊ 電源は 100V(110V)なので、変圧器の必要はありません。
- ③ 衣料品
 - ・ 基本的にはポロシャツ（T シャツ）とハーフ・パンツで十分ですが、スラックス（ジーンズ）と長袖の上着を 1 セット持って行きましょう。（朝冷え込むことがあります）
 - ・ スーツは必要ありません。（イベントに招待された場合は、襟の付いたシャツであれば OK です。もし無ければ、これを機会にアロハシャツを買きましょう）
 - ・ 履き物は、サンダル（スポーツサンダルがベター）とスニーカー（見学会等がある）を持って行きましょう。（イベントもスニーカーで OK です）
 - ・ 室内用スリッパ（荷物に余裕があれば）
 - ・ 帽子
 - ・ サングラス
- ④ あったら便利な物
 - ・ 旅行用サンダルがあると助かります。特に長時間の飛行機による移動では、スリッパなどの足をリラックスされる物があると仮眠も快適です。
 - ・ 洗濯は、有料の自動洗濯機・乾燥機で出来ますが、簡単な洗濯物干しがあると、浴室等に干せるので便利です。

- ・ 持っていれば COSTCO の会員カード
- * ほとんどの店でクレジットカードが使用できますが、スキミングにご注意ください。
- ④ ホテル及び客室について

以下の HP を参考にしてください（他にもあると思いますが）。

<https://www.expedia.co.jp/Kauai-Island-Hotels-Plantation-Hale-Suites.h6655.Hotel-Information>

<http://www.jtbhawaiitravel.com/hotel/phs/>

https://www.tripadvisor.jp/Hotel_Review-g60616-d262763-Reviews-Plantation_Hale_Suites-Kapaa_Kauai_Hawaii.html
- * コンドミニアムタイプであれば、キッチンを含めて生活する上での物がほとんど揃っているの、自炊を楽しめます。（写真）

4. 準備して行った方が良い事など

- ① これまでの KCC の研修に参加した自分の学校の学生を把握しておけば KCC の先生との会話がはずみます。
- ② 出発前に自分の研修目的をはっきりさせておくこと。
- ③ 参加者による国内での事前研修（カウアイ島での生活など）を実施する。
- ④ 海外旅行（出張）の知識・経験、航空機の乗り方（予約、発券、チェックイン、予定の変更、台風等への対応）について事前研修を実施する。

<https://www.jal.co.jp/tabi/info/apo/ame/um.html>
- ⑤ 海外での携帯電話（スマートフォン）の使い方を熟知しておく。
- ⑥ 参加者間での事前連絡手段（メール等）の情報共有を図っておく。

6-9 カウアイ島での生活情報

1. 日用品のショッピング

① Foodland

ホテルから徒歩5分のスーパーです。Foodland。ハーゲンダッツのアイスの種類に驚きます。お弁当も売っています。近くにマックもあります。メンバーズカード (MAIKAI カード) を入手すると割引がききます。

② Safeway

Foodland から隣に移動するとあるショッピングモールにあるスーパー。Foodland よりやや高級感あり。メンバーズカードを入手すると割引がききます。

③ Longs Drugs

Safeway のあるショッピングモールにあるドラッグストアです。Kauai Cookie が一番安く買えるはず。ちなみに、このモールには、Subway やスタバもあります。このドラッグストアは、カウアイで一番大きなショッピングモールである Kukui Globe Shopping Center にも入っています。メンバーズカードを入手すると割引がききます。

2. ホテル近くで行けるレストラン

① L&L Hawaiian barbecue

Foodland に行くまでにあります。意外といけます。

https://www.splashofkauai.com/j_kauaispot/ll-hawaiian-barbecue/

② Waipouli Deli&restaurant

Foodland のある敷地内にあるレストラン。店先にメニューの写真もあるので、わかりやすいです。

<https://www.yelp.com/biz/waipouli-deli-and-restaurant-kapaa>

③ Kountry Kitchen (ホテルから車で10分程度)

朝の6時から大きなパンケーキやオムレツを食べられます。夜は閉まっています。ぜひ Sampler Special に挑戦してみてください。

https://www.tripadvisor.jp/Restaurant_Review-g60616-d519119-Reviews-Kountry_Kitchen-Kapaa_Kauai_Hawaii.html

④ Kintaro (ホテルから空港の方に車で5分)

入ったことはありませんが、Brian 先生がいつも揚げ餃子を百個単位で買ってきてくれていました。

<https://www.yelp.com/biz/kintaro-japanese-restaurant-kapaa>
<http://blog.livedoor.jp/haycyuu/archives/43438271.html>

⑤ Kauai Pasta

空港のある Lihue と Kapaa の二か所にあります。少し高級なパスタ料理を食べられます。ネットで予約もできます。

<https://www.hawaiiantowns.com/restaurants/typesbyisland/kauai-italian.html>
<http://ameblo.jp/haruurara3/entry-11897278763.html>

⑥ Tip Top Motel Cafe & Bakery

Lihue の街中にあるモーテルの中のレストランです。ロコモコ井なら、ここがお勧め。テールスープもいけますよ。地図を頼りに行ってください。

<https://jp.hotels.com/ho543917/tip-top-motel-cafe-bakery-rifue-amerika/>
<https://www.yelp.co.jp/biz/tip-top-motel-cafe-and-bakery-lihue>

- ⑦ Hamura Saimin
Lihue の街中にあるラーメン屋さん？葉村サイミンって看板もあります。Special がお勧めです。
https://www.splashofkauai.com/j_kauaispot/hamura-saimin/
- ⑧ Eggbert's
プランテーションハレの隣にある。ちょっと高いけど、ここのエッグベネディクトは美味しいです。朝食にどうぞ。
<http://blogs.yahoo.co.jp/wednesdayayoi/13651740.html>
- ⑨ Deli & Bread Connection
Kukui Globe Shopping Center 内にあるサンドイッチのお店です。カウアイ島で一番美味しいサンドイッチが食べられます。Classic Club Sandwich
<http://blog.livedoor.jp/haycyuu/archives/30197748.html>
<https://www.yelp.co.jp/biz/deli-and-bread-connection-lihue>
- ⑩ その他のレストラン情報
https://www.tripadvisor.jp/RestaurantsNear-g60616-d262763-Plantation_Hale_Suites-Kapaa_Kauai_Hawaii.html

3. お土産等のショッピング

- ① Wal Mart
大手デパートで、お土産も安く買えます。
- ② Kukui Globe Shopping Center
カウアイ最大のショッピングモールです。そこからすぐに K-Mart やコストコに移動できます。
- ③ Coconut Market Place
ホテルの隣の小さなショッピングセンターです。コンビニを兼ねたような土産屋さんもあります。スーパーとそんなに値段も変わらないので便利です。この敷地内には、この他にもいろいろなお店があります。
- ④ KCC Farmers' Market
土曜日には、KCC の駐車場でフリマが開かれます。レアなローカルグッズや食品が並びます。面白い物が一杯あります。
- ⑤ Quick Silver (サーファー向けショップ)
ポイプという街に行く手前にあります。ホテルから車で 30 分程度です。
- ⑥ その他のショッピング情報
http://www.passion-island.com/kauai_shopping.htm
<https://www.splashofkauai.com/j/kauaispot/>
http://blog.livedoor.jp/haycyuu/archives/cat_1017063.html

6-10 ハワイ語の挨拶など

現在のハワイ語は、12文字のアルファベット（a、e、i、o、uの5つの母音とh、k、l、m、n、p、wの7つの子音）と、OKINA(ʻ)と呼ばれる吃音を表す記号、そしてKAHAKO(ā)と呼ばれる記号があり、これは音を強調し少し長めに発音する時に使われます。基本的には単純にローマ字読みが出来ます。ただし、OKINAとKAHAKOが付くか否かで、発音だけでなく、意味が変わるので、重要な記号ですが、慣れないと難しいです。

Hello/Goodbye/Greetings (こんにちは、さようなら、 ごきげんよう、元気でね)	<i>aloha</i> (アロハ)
Good morning (おはよう)	<i>aloha kakahiaka</i> (アロハ アカヒアカ)
Good afternoon (midday) (こんにちは)	<i>aloha awakea</i> (アロハ アワケア)
Good afternoon (こんにちは)	<i>aloha 'auinalā</i> (アロハ アウイナラ)
Good evening (night) (こんばんは、おやすみなさい)	<i>aloha ahiahi</i> (アロハ アヒアヒ)
Thank you (ありがとう)	<i>mahalo</i> (マハロ)
Thank you very much (どうもありがとうございます)	<i>mahalo a nui loa</i> (マハロ スイ ロア)
Please (どうぞ)	<i>ke 'olu'olu</i> (ケ オル オル)
You're welcome (no problem) (どういたしまして、だいじょうぶ)	<i>'a'ole pilikia</i> (アロエ ヒ°リキア)
Yes (はい)	<i>'ae</i> (ア-イ)
No (いいえ)	<i>'a'ole</i> (アオレ)
Excuse me (I'm sorry) (すみません)	<i>e kala mai ia 'u</i> (エ カラ マイ イアウ)
How are you (お元気ですか?)	<i>pehea 'oe</i> (ヘ°ヘア オエ)
Fine/Good (元気です、いいね!)	<i>maika 'i</i> (マイカイ)
Very good (すばらしい)	<i>maika 'i loa</i> (マイカイ ロア)
Come in (ようこそ、いらっしゃい)	<i>e komo mai</i> (エ コモ マイ)
See you later (また会いましょう)	<i>a hui hou</i> (ア ヒイ ホウ)
Okey (OK!)	<i>hiki nō</i> (ヒキ ノー)
Take care (気をつけて)	<i>mālama pono</i> (マー ラマ ホ°ノ)
Delicious (美味しい)	<i>'ono</i> (オノ)



- 平成 29 年 1 月発行
- 大学間連携共同教育推進事業（平成 24 年度採択）
- 海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発
「新たな海事技術者に必要な資質の涵養」最終報告書
- 編集・発行：鳥羽商船高等専門学校